

北谷町文化財調査報告書第20集

山川原古墓群(2)

—瑞慶覧(11)倉庫建設に係る文化財発掘調査報告—

2001年3月

北谷町教育委員会

正誤表

山川原古墓群(2)発掘調査報告書

北谷町

頁	訂正前	訂正後	頁	訂正前	訂正後
例言 7.	記入漏れ	我如古 真弓	33頁 36行目(最後の行)	(第64図11)	(第64図9)
報告書抄録	936-7706	936-3490	35頁 第45図2 西暦の欄	1801年	1698年
3頁 18行目	北谷町	北谷城	39頁 第57図5 西暦の欄	—	1766年
3頁 30行目	米国群	米国軍	39頁 第57図7 西暦の欄	1766年	1774年
5頁 34行目	豊里初枝	豊里初江	39頁 第58図4 出土地点の欄	空欄	墓室 シルヒラシ
6頁 5行目	吉本幸正	吉元光清	48頁 6号墓 道光の欄の 明治24年の西暦	1829	1891
11頁 29行目	(概要)型。	(概要)中型。			
13頁 9行目	平冚墓B。	平冚墓A。	49頁 18号墓 乾燥の蔵骨器№の欄	5	1
17頁 3行目	・キセルケース・キセル…	・煙管入れ・煙管…			
18頁 26行目	墓室形態 I 類A。	墓室形態 I 類A1。	49頁 18号墓 成豊の蔵骨器№の欄	6	5
21頁 9行目	平冚墓A	掘込墓A	49頁 18号墓 光緒の蔵骨器№の欄	3	6
21頁 24行目	掘込墓VI類	掘込墓C類			
24頁 第1表 11号墓の墓室平面形の欄	長方形	方形	58頁 第67図11 出土地点の欄	崩落碑	崩落碑
24頁 第1表 23号墓の墓室平面形の欄	方形	長方形	63頁 第70図8 観察事項	第66図7より	第70図7より
26頁 第2表 10号墓 狭道の高さの欄	1.0	0.98	88頁 第26表 第79図9 観察事項	120番と同様に	第79図8と同様に
29頁 第5図 幅0.9mの線上に ある上の●10	●10	●19	95頁 3行目	(14・16	(16
			95頁 4行目	(5~9・20号墓)	(5~8・10・20号墓)
29頁 第5図 ●9の右横にある №なしの●	●	●2	95頁 5行目	(19号墓)	(14・19号墓)
			96頁 22行目	『伊祖の入め御押領墓	『伊祖の入め御押領墓
29頁 第5図 ●の番号なしの 下にある●12	●12	●18	133頁	第44図…2号墓(3)	第44図…7号墓(3)
			152頁	第63図…沖繩無軸陶器…	第63図…沖繩産無軸陶器…
31頁 14行目	(20号墓)	(9・11~13・15号墓)	174頁 図版2 3段右	石列合	石列切合
31頁 14行目	(5・6・7・15	(5・6・7・20	231頁 図版59	(第79図)帆縄立て…	(第79図)金属製品:帆縄立て…
31頁 15行目	(16・17・21・14号墓)	(16・17・21号墓)	232頁 図版60	器種不明・装飾金具…	金属製品:器種不明・装飾金具…
31頁 15行目	(19号墓)	(14・19号墓)	232頁 図版60	器種不明・眼鏡フレーム…	眼鏡フレーム……

山川原古墓群(2)

—瑞慶覧(11)倉庫建設に係る文化財発掘調査報告—

2001年3月

北谷町教育委員会



巻首図版 上：遺跡遠景（東から）

中：◇（北から）

下：（左）8号墓室内 （右）植栽痕検出状況

はじめに

本報告書は、米軍基地のキャンプ瑞慶覧に所在する「山川原古墓群(2)」の緊急発掘調査の成果を記録したものです。

近年、墓も埋蔵文化財として認識され、県内各地で発掘調査が行われるようになり、文献には記されない歴史・文化の一面が、墓やそれに伴う遺構・さまざまな遺物から近世沖縄の様子を見ることができます。

今回調査を行った山川原古墓群(2)は、北谷三箇と称された字北谷・玉代勢・伝道集落に暮っていた人達の墓で、集落の背後にあたる丘陵に総数23基の古墓が確認されました。外観は亀甲墓・平葺墓・掘込墓等で、墓からは多くの遺物が出土し、さらに、1次葬の状態の人骨2体が検出されております。墓から検出された蔵骨器である厨子甕(方言名:ジージガーム)に記された銘書からみると17世紀中から戦前(昭和)までの約260年の歴史を持つ古墓群で、地方役人層の墓を中心としたものであることが判明しました。

町内には、まだ多くの古墓を含め、貴重な埋蔵文化財が残されております。今後、さらに調査研究を行うことで、私たちの祖先が築き上げてきた歴史や文化を解明することができることと確信しております。

他方、貴重な文化遺産を記録・保存するだけでなく後世に残すことも私たちの使命であります。

本書が多くの方々に活用され、さらなる文化財保護思想の高揚はもとより、諸開発事業における調整・協議、学術研究の一助ともなれば幸いです。

なお、発掘調査・資料整理にあたり御指導、御協力を頂いた関係各位に、深く感謝申し上げます。

平成13年3月

北谷町教育委員会
教育長 瑞慶覧 朝宏

例 言

1. 本報告書は平成11・12年度事業として「瑞慶覧(11)倉庫建設に係る文化財発掘調査」として、那覇防衛施設局と受託契約をおこない「山川原古墓群(2)」の緊急発掘調査報告書として、その成果をまとめたものである。
2. 本報告書に掲載した地形図は国土地理院の承認を得て北谷町役場が複製した25,000分の1の地形図と、500分の1の地形図は、沖縄県の承認を得た北谷町役場都市計画課作成の地形図を借用した。
3. 遺物の同定は下記の先生方による。記して謝意を表します。
陶磁器 手塚直樹(青山学院大学 教授)
人 骨 松下孝幸(土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム館長)
4. 付篇として土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム館長の松下孝幸氏から玉稿を戴いた。記して謝意を申しあげます。
5. 蔵骨器(厨子甕:ジーシガーマ)の銘書(ミガチ)の文字判読は、島尻克美(那覇市歴史資料室)より御教示いただいた。記して感謝申しあげます。
6. 本古墓群や8号墓については字伝導郷友会の方々に御教示を戴いた。記して感謝申しあげます。
7. 本書の編集執筆は山城が行い、遺物洗浄・接合・実測・集計・図面整理・表・トレース・写真撮影・図版等の資料整理は下記の人員で行い、蔵骨器(厨子甕:ジーシ)の銘書(ミガチ)の文字判読は現場・資料整理ともに玉木順彦(北谷町文化課町史編集)・島尻克美氏で行った。
真喜屋 隆 伊波直樹 花田健治 喜友名勇人 前川恵子 成田真理子
上間真寿美 目取間貴子 豊里初江 曾木菊枝 尾木 綾
8. 遺物実測図と写真は基本的には実測図に合わせるが一部の小破片は、俯瞰写真で数図をまとめたものもある。各ページに記した。
9. 発掘調査で得られた出土遺物及び資料は北谷町教育委員会に保管している。

報 告 書 抄 録

ふりがな	やまがーばるこぼぐん							
書名	山川原古墓群(2)							
副書名	瑞慶覧(11)倉庫建設工事に係る文化財発掘調査報告							
巻次								
シリーズ名	北谷町文化財調査報告書							
シリーズ番号	第20集							
編著者名	山城安生・松下孝幸							
編集機関	北谷町教育委員会							
所在地	〒904-0192 沖縄県北谷町字桑江226番地 TEL. 098-936-7706							
発行年月日	西暦2001年3月30日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	〃〃〃	〃〃〃		m ²	
山川原古墓群(2)	北谷町字大村 山川原	473260		26° 18' 16"	127° 46' 21"	1999-07	1,400	那覇防衛施設局のキャンプ瑞慶覧米軍基地内の倉庫建設に係る緊急発掘調査
				26° 18' 19"	127° 46' 25"	2000-03		
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構	主な遺物	特記事項		
山川原古墓群(2)	古墓	17世紀中頃から第二次大戦後(昭和)		古墓 亀甲墓 平背墓 掘込墓	磁片器 転用磁片器 墓誌 沖縄産陶器 中国産陶磁器 本土産陶磁器 銭貨 金属製品 ガラス製品 プラスチック製品 磁片 人骨	1次葬の人骨2体。 11号墓に「池」状の石組遺構が付随する。 墓庭に獣骨頭骸骨を埋穴。 4・18号の墓庭に性格不明のビット・焼痕。		

目 次

はじめに	
例 言	
報告書抄録	
第Ⅰ章 遺跡の位置と環境	1
1. 遺跡の位置と環境	1
第Ⅱ章 調査に至る経緯	5
1. 調査に至る経緯	5
2. 調査体制	5
3. 試掘調査の結果	6
4. 発掘調査の経過	7
第Ⅲ章 遺 構	8
1. 墓	8
2. 植栽痕	32
第Ⅳ章 遺 物	33
1. 蔵骨器	33
2. 沖縄産施釉陶器・円盤状製品	45
3. 沖縄産無釉陶器・陶質土器・灰色瓦	61
4. 本土産陶磁器	64
5. 中国産陶磁器	71
6. 装身具	71
7. 鉄釘・鋸	75
8. 煙管・煙管入れ	76
9. 鍵類	76
10. 金属製品(鉄・燭燭立て・蝶番・ベルト金具・装飾金具・眼鏡フレーム・器種不明)	77
11. ガラス製品・その他(ガラス製品・レンズ・鏡・ボタン・壺・硯・歯ブラシ・ベルト)	78
12. 墓誌	92
13. 銭貨	92
第Ⅴ章 まとめ	94
付 篇 沖縄県北谷町山川原古墓群出土の近世・近代人骨	松下孝幸…239

表 目 次

第1表 各墓の特徴一覧 ……………24	第17表 簪観察一覧 ……………73
第2表 墓庭・墓室の部位別計測……………26	第18表 ガラス小玉計測一覧 ……………74
第3表 納骨された蔵骨器出土状況 ……34	第19表 指輪観察一覧 ……………74
第4表 蔵骨器観察一覧 ……………35	第20表 釘・鉾出土状況 ……………79
第5表 蔵骨器出土状況 ……………46	第21表 蔵骨器内の釘・鉾出土状況 ……80
第6表 出土蔵骨器・墓誌の年号比較…48	第22表 釘・鉾観察一覧 ……………81
第7表 沖繩産施釉陶器出土状況 ……50	第23表 煙管出土状況 ……………86
第8表 沖繩産施釉陶器碗出土状況 ……54	第24表 煙管・煙管入れ観察一覧 ……87
第9表 沖繩産施釉陶器観察一覧 ……55	第25表 鍵類出土状況 ……………88
第10表 沖繩産無釉陶器出土状況 ……62	第26表 鍵類観察一覧 ……………88
第11表 沖繩産無釉陶器観察一覧 ……63	第27表 金属製品出土状況 ……………89
第12表 本土産陶磁器出土状況 ……66	第28表 金属製品観察一覧 ……………90
第13表 本土産陶磁器観察一覧 ……67	第29表 ガラス製品出土状況 ……………91
第14表 中国産陶磁器出土状況 ……70	第30表 ガラス製品観察一覧 ……………91
第15表 中国産陶磁器観察一覧 ……72	第31表 銭貨出土状況 ……………92
第16表 簪出土状況 ……………72	第32表 銭貨観察一覧 ……………93

図 目 次

第1図 北谷町と山川原古墓群(2)……………2	2
第2図 山川原古墓群(2)と周辺遺跡……………2	2
第3図 山川原古墓群(2)の各墓の位置……………9	9
第4図 シルヒラシの面積と1番タナの高さの散布図 ……………29	29
第5図 墓口の高さと幅の散布図……………29	29
第6図 羨道の高さと幅の散布図……………30	30
第7図 1号墓①……………97	97
第8図 1号墓②……………98	98
第9図 2号墓①……………99	99
第10図 2号墓② ……………100	100
第11図 3号墓① ……………101	101
第12図 3号墓② ……………102	102
第13図 4号墓 ……………103	103
第14図 18号墓① ……………104	104
第15図 18号墓② ……………105	105

第16図	5号墓①	106
第17図	5号墓②	107
第18図	6号墓①	108
第19図	6号墓②	109
第20図	7号墓①	110
第21図	7号墓②	111
第22図	8号墓・23号墓①	112
第23図	8号墓・23号墓②	113
第24図	9号墓①	114
第25図	9号墓②	115
第26図	10号墓・22号墓①	116
第27図	10号墓・22号墓②	117
第28図	11号墓	118
第29図	12号墓①	119
第30図	12号墓②	120
第31図	13号墓	121
第32図	14・15号墓	122
第33図	16・17・21号墓	123
第34図	19号墓①	124
第35図	19号墓②	125
第36図	20号墓	127
第37図	植栽痕	129
第38図	8号墓一次葬人骨	131
第39図	17号墓一次葬人骨	131
第40図	21号墓人骨	131
第41図	4号墓のブタ頭骨埋蔵穴	132
第42図	7号墓のブタ頭骨埋蔵穴	132
第43図	18号墓のブタ頭骨埋蔵穴	132
第44図	蔵骨器 5号墓(1)、7号墓(2)、2号墓(3)	133
第45図	蔵骨器 6号墓	134
第46図	蔵骨器 6号墓	135
第47図	蔵骨器 6号墓	136
第48図	蔵骨器 6号墓	137
第49図	蔵骨器 6号墓	138
第50図	蔵骨器 6号墓	139
第51図	蔵骨器 8号墓 No.1	140

第52図	蔵骨器	8号墓	№2	141
第53図	蔵骨器	8号墓	№3 (1・2)、№4 (3・4)、№5 (5・6)、 №6 (7・8)	142
第54図	蔵骨器	8号墓	№7 (1・2)、№8 (3・4)、№9 (5・6)	143
第55図	蔵骨器	8号墓	№10 (1・2)、№11 (3・4)、№12 (5・6)	144
第56図	蔵骨器	8号墓	№13 (1・2)、№14 (3・4)、墓室外 (5~7)	145
第57図	蔵骨器	10号墓	№1 (1・2)、№2 (3・4)、№3 (5・6)、 №4 (7・8)	146
第58図	蔵骨器	10号墓	№5 (1・2)、№6 (3)、№7 (4)、 12・13号墓 (5)、17号墓 (6)	147
第59図	蔵骨器	18号墓	№1 (1・2)、№2 (3・4)	148
第60図	蔵骨器	18号墓	№3 (1・2)、№4 (3・4)	149
第61図	蔵骨器	18号墓	№5 (1・2)、№6 (3・4)、19号墓 №1 (5)	150
第62図	蔵骨器	19号墓	№2 (1・2)、№3 (3・4) №4 (5)	151
第63図	転用蔵骨器、沖繩無釉陶器 (3)、本土産陶器 (2)			152
第64図	蔵骨器の蓋	8号墓 (1)、6号墓 (2~11)		153
第65図	蔵骨器の蓋	6号墓 (1・3~8)、7号墓 (2)、7・6号墓 (9) 19号墓 (10)、13号墓 (11)		154
第66図	沖繩産施釉陶器：碗			155
第67図	沖繩産施釉陶器：小碗・皿・猪口・水注・酒注			156
第68図	沖繩産施釉陶器：瓶・酒注・火取			157
第69図	沖繩産施釉陶器：香炉・壺・鉢・蓋・鍋、円盤状製品			158
第70図	沖繩産無釉陶器：播鉢・不明・皿			159
第71図	沖繩産無釉陶器：壺、陶質土器、灰色瓦			160
第72図	本土産陶磁器：碗			161
第73図	本土産陶磁器：小碗・皿・壺			162
第74図	本土産陶磁器：皿			163
第75図	本土産陶磁器：蓋・急須・壺・花瓶・火取・水注 中国産陶磁器：白磁・染付・褐釉陶器			164
第76図	簪、ガラス小玉			165
第77図	鉄釘①			166
第78図	鉄釘②、鉄			167
第79図	煙管、鉄、蠟燭立て、錠前、蝶番、鍵、バックル			168
第80図	器種不明、装飾金具、眼鏡フレーム、指輪、眼鏡レンズ、ボタン			169
第81図	煙管入れ、櫛、鏡、硯、骨製歯ブラシ			170
第82図	ベルト、墓誌			171

写 真 目 次

図版 1	173
上：遠景（南東から）、中：遠景（北東から）、下：遠景（北東から）	
図版 2	174
1段：11号墓、 2段左：11号墓正面と石組み遺構、2段右：石組遺構、	
3段左：石組み遺構（墓庭は上方向） 3段右：11号と10号墓の石列合	
図版 3	175
1段：1・2・3号墓（右から）、2段左：1号墓正面、2段右：1号墓室正面、	
3段左：1号墓室内、3段右：1号墓室（墓口側）	
図版 4	176
1段左：2号墓室正面、1段右：2号墓室内シルヒラシ、2段左：3号墓	
2段右：3号墓室正面、3段左：4号墓室正面、	
3段右：4号墓庭・焼痕・ブタ頭骨埋穴・ビット、	
4段左：18号墓室床面掘り下げ、4段右：18号屋根造成断面	
図版 5	177
1段：18号墓（左）4号墓（右）、 2段左：18号墓室内、	
3段左：18号墓庭出土ブタ頭骨、 3段右：4号墓庭出土ブタ頭骨	
図版 6	178
1段：5・6号墓（中央右から）、 2段左：6号墓室正面、	
2段右：5号墓室シルヒラシの台石、	
3段左：6号墓室左側、3段右：5号墓から6号墓へ抜ける排水穴	
図版 7	179
1段：7号墓、2段：8号墓（右から7～9号墓）	
図版 8	180
上段：8号墓室内（検出後）、下段：8号墓出土人骨（一次葬）	
図版 9	181
1段左：7号墓室正面、1段右：7号墓庭出土ブタ頭骨、	
2段左：8号墓室左タナ、2段右：8号墓室右タナ（墓誌・鉢）、	
3段左：23号墓室正面、 3段右：8号墓室右タナ、	
4段左：8号墓タナ奥の蔵骨器、 4段右：8号墓室シルヒラシ（花瓶・碗）	
図版10	182
1段：9・10・11号墓（右から）、 2段左：9号墓室シルヒラシの台石、	
2段右：9号墓室正面奥壁の墨書、 3段左：10号墓正面、3段右：10号墓室	

図版11	1段：12・13号墓（右から）、2段左：10号墓室シルヒラシの白石、 2段右：12号墓室正面、3段左：13号墓室正面、 3段右：12・13号墓屋根の石列	183
図版12	上段：16・17・21号墓（右から）、下段：17号墓出土人骨（一次葬）	184
図版13	1段：19・14・15墓（右から）、2段左：14・15号墓正面、 2段右：14号墓室正面、3段左：19号墓室内、3段右：19号墓室右タナ（焼痕）	185
図版14	1段：20号墓、2段左：20号墓室正面、2段右：20号墓室（墓口側）、 3段左：20号墓セメント除去後 3段右：砲弾痕	186
図版15	1段：植栽痕検出状況（墓側より） 2段左：検出状況（西側より）、 2段右：セクション、3段左：断面、3段右：断面	187
図版16（第44図）	蔵骨器①	188
図版17（第45図）	蔵骨器②	189
図版18（第46図）	蔵骨器③	190
図版19（第47図）	蔵骨器④	191
図版20（第48図）	蔵骨器⑤	192
図版21（第49図）	蔵骨器⑥	193
図版22（第50図）	蔵骨器⑦	194
図版23（第51図）	蔵骨器⑧	195
図版24（第52図）	蔵骨器⑨	196
図版25（第53図）	蔵骨器⑩	197
図版26（第54図）	蔵骨器⑪	198
図版27（第55図）	蔵骨器⑫	199
図版28（第56図）	蔵骨器⑬	200
図版29（第57図）	蔵骨器⑭	201
図版30（第57図）	蔵骨器⑮	202
図版31（第58図）	蔵骨器⑯・沖縄産無釉陶器	203
図版32（第59図）	蔵骨器⑰	204
図版33（第60図）	蔵骨器⑱	205
図版34（第61図）	蔵骨器⑲	206
図版35（第62図）	蔵骨器⑳・転用蔵骨器	207
図版36（第63図）	転用蔵骨器・沖縄産無釉陶器・本土産陶器	208

図版37 (第64図) 蔵骨器①: 蓋	209
図版38 (第65図) 蔵骨器②: 蓋	210
図版39 (第66図) 沖繩産施釉陶器: 碗	211
図版40 (第66・67図) 沖繩産施釉陶器: 碗・小碗	212
図版41 (第67・69図) 沖繩産施釉陶器: 小碗・皿・猪口・水注・瓶・酒注、 円盤状製品	213
図版42 (第67図) 沖繩産施釉陶器: 酒注	214
図版43 (第68図) 沖繩産施釉陶器: 瓶	215
図版44 (第68図) 沖繩産施釉陶器: 瓶・火取	216
図版45 (第69図) 沖繩産施釉陶器: 香炉・壺・鉢・蓋	217
図版46 (第69・70図) 沖繩産施釉陶器: 土鍋、沖繩産無釉陶器: 搦鉢、器種不明	218
図版47 (第70・71図) 沖繩産無釉陶器: 搦鉢、陶質土器: 蓋・把手、灰色瓦	219
図版48 (第71図) 沖繩産無釉陶器: 壺	220
図版49 (第63図) 本土産陶磁器: 碗	221
図版50 (第72・73図) 本土産陶磁器: 碗・小碗	222
図版51 (第72・73・75図) 本土産磁器: 碗・皿・壺・器種不明	223
図版52 (第73・74図) 本土産磁器: 皿	224
図版53 (第75図) 本土産磁器: 蓋・急須・花瓶・火取・水注	225
図版54 (第75図) 中国産陶磁器: 白磁・染付・褐釉陶器	226
図版55 (第76図) 簪、ガラス小玉	227
図版56 (第77図) 鉄釘	228
図版57 (第78図) 鉄釘②・器種不明	229
図版58 (第79図) 金属製品: 煙管・鉄	230
図版59 (第79図) 金属製品: 蠟燭立て・錠前・鍵・蝶番・バックル	231
図版60 (第80図) 金属製品: 眼鏡フレーム、指輪、眼鏡レンズ、サングラス、 ボタン	232
図版61 (第81図) 煙管ケース、櫛、鏡、硯、骨製歯ブラシ	233
図版62 (第82図) ベルト、墓誌	234
図版63 (第83図) 銭貨	235
図版64 ブタ頭骨 (4号墓出土)	236
図版65 ブタ頭骨 (7号墓出土)	237
図版66 ブタ頭骨 (18号墓出土)	238

第I章 遺跡の位置と環境

1. 遺跡の位置と環境

山川原古墓群(2)は、北谷町字大村山川原439番地ほか17筆に位置し、町城の南側にある米軍基地のキャンプ瑞慶覧内に所在している。

北谷町は、沖縄本島中部に位置し、県庁所在地の那覇から北に直線距離で約16kmに位置し、東シナ海に面した西海岸側にある(第1図)。本町の北側は嘉手納町、東側は沖縄市、北中城村、南側は宜野湾市と接し、東西に4.31km、南北に5.91kmを測り、総面積13.62km²である。

北谷町は、戦前の集落の大半が基地に接収され町城の約57%が米軍基地である。町城の北側に嘉手納基地、西側の沖積低地にはキャンプ桑江、南側にキャンプ瑞慶覧がある。

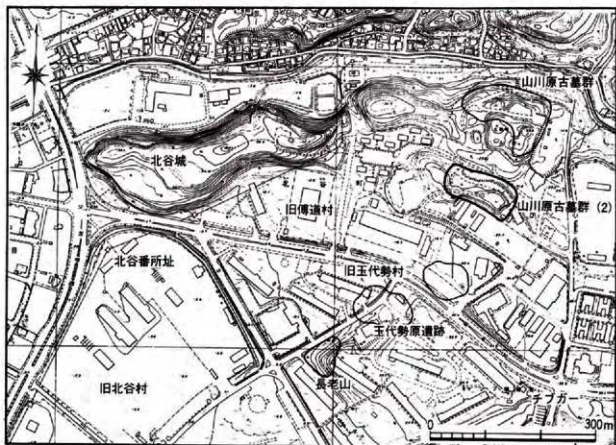
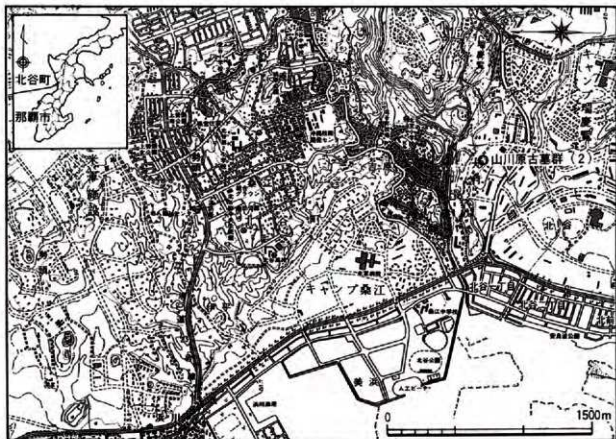
本町は、東高西低の地形で、北側が標高約10~20mの微高地が続き、町城の東側は標高約100mの海成段丘の縁にあたり、しだいに西側へ低くなり海成段丘に囲まれるように沖積平野がひろがる。

地質をみると沖縄本島を形成している2つの地層、北部の国頭礫層と南部の島尻層群の境目にあたり、土質は珊瑚石灰土層、国頭礫層、泥灰岩土層、海成沖積土層から成り立っており、町城の北側の上勢頭では国頭礫層と隆起石灰岩が露頭し、町城のほぼ中央部にあたる謝苜一帯は国頭礫層、台地部や傾斜面では島尻マージが分布し、西海岸の低地部の北谷、字北前一帯は海成沖積土層が分布している。

本古墓群の北側には海成段丘・石灰岩台地・開析谷が形成されている。その北側の深い谷間を流れてくると新川を標高約120mの丘陵の南側低地を流れる佐阿良川の2つの支流が合流して、流路延長約5kmの白比川が流れている。その南側に沿うように標高約40mレベルの丘陵が東から西側に延びる石灰岩堤地形となり、下部にホタテ貝の化石が密集して含まれ中部から上部にかけては堆積した時の葉理や斜交層理が見られる琉球石灰岩層が分布する地域である。本古墓群が形成された丘陵の石灰岩の岩盤にも貝やウニの化石が含まれている。

本古墓群は、白比川の南側に沿って南東から北西方向にのびる丘陵のうちの標高約32m、長さ約230m、幅約30m~60mの石灰岩小丘陵中腹にあり、南側と北側に墓群が形成されている。北谷三箇と称される旧集落の字北谷・字玉代勢・字伝道の北東側にあたり、丘陵上からは集落が広がっていた地域を眺望できる。

丘陵一帯は小字名で「山川原」と称され、戦前は山林、墓地、畑であった。畑は丘陵の周囲に営まれていたが基地接収後の昭和20~22年に米軍施設設置のため造成・整地が行なわれている。現況は丘陵の東側先端部や南側中央部が大きく削平され、丘陵上部、丘陵の縁など部分的な造成が行われている。この造成によっていくつかの墓も



第1図 北谷町と山川原古墓群(2)位置図

第2図 山川原古墓群(2)と周辺遺跡

失われており東側の削平された部分には、36個の厨子甕が納められていた北谷ノロ殿内の墓が位置していた。

白比川沿いの丘陵帯には多くの遺跡があり、古墓や基地接収によって移転した墓も築かれている。本古墓群北側に並列するように位置していた標高約41mの丘陵東側と北側の崖上部の岩陰や中腹部の小段丘には、1987年に調査が行われ、採石によってそのほとんどが失われた山川原古墓群が位置していた。1715～1725年代の銘書が記された厨子甕が納められていた。

その西側には12世紀に始まり15世紀中頃に終焉したと考えられている標高約44mの琉球石灰岩の舌状台地先端に形成された連郭式の北谷城がある。城が形成された丘陵には按司墓・古墓82基など12ヶ所の遺跡がある。

城の南東側、標高約16mの緩やかな斜面地には12世紀、14～16世紀、近世～現代の複合遺跡である玉代勢原遺跡があり、その南東側には豊富な水量を現在も保っているチブガーと称される井泉がある。遺跡の西側には、玉代勢出身で北谷長老として知られる「南陽紹弘禅師」が隠居生活を送った樹昌院が玉代勢村と前城の境に位置していたと伝えられ、遺跡南西側の小丘に樹昌院の墓所である長老山と称される拝所がある。この小丘陵は長老山遺物散布地で、グスク土器や須恵器が採集されたグスク時代の遺跡でもある。

戦前は、北谷町が位置する丘陵から広がる南側斜面とその前面にひろがる沖積平野に区割りの形態を持ち整理された字北谷・字玉代勢・字伝道（傳道）があり、北谷三箇と称される。北谷城のふもとに字伝道があり、南側に隣接して玉代勢、北谷田圃と呼ばれる美田地域であった字北谷は海側にある。

字玉代勢は隣接する北谷村から分割して創設された伝承があり、板原・屋宜・仲山の屋取集落を含み、字伝道は、謝菊・西桃原の屋取集落を含む。字北谷は、さらに古くからあると考えられている前城や石平、北前の屋取集落が含まれており、街道沿いに広がりをもち石橋が築造され、北谷番所が設置されるなど要所となっていたことが窺い知れる地域である。

集落の変遷をみると1609年の島津侵入以前の歌謡集である「おもしろし」に「きたたん」ほか4つの地名が見え、1649年の「絵図郷村帳」では北谷村、17世紀後半から18世紀初期にかけて新たに分かれて増えている。これらの集落は近世琉球から今大戦まで、変化せずに推移してきたが1951年の米国群政府による土地所有権確認事業によって字伝道・玉代勢が字大村として統合された。

戦後基地に接収され、集落と肥沃な耕地は基地施設に様変わりしているこの地域であるが、グスク時代の遺跡、拝所、近世の集落址、伝承などが多くこの地域である。

〈参考文献〉

- 『北谷村誌』北谷町役場 1961年9月
『北谷町史 第二巻 資料編1 前近代・近代文献資料』昭和61年12月
『北谷町史 第三巻 資料編2 民俗 上』平成4年10月
『北谷町史 第三巻 資料編2 民俗 下』平成6年2月
『北谷町史 第六巻 資料編5 北谷の戦後』昭和63年11月
『北谷町史 別巻 近代統計資料』昭和60年12月
『北谷町海岸・海城地名一調査報告書』北谷町役場 昭和60年3月
『北谷町の自然・歴史・文化』北谷町教育委員会 平成8年3月
『北谷町の遺跡一詳細分布調査報告書一』北谷町教育委員会 1994年3月
『玉代勢原遺跡』北谷町教育委員会 1993年3月
『北谷町の植生』北谷町 1986年3月

第Ⅱ章 調査に至る経緯

1. 調査に至る経緯

山川原古墓群（2）発掘調査は、那覇防衛施設局の委託事業である。調査期間は平成11年11月1日から平成12年3月31日の5ヶ月間であった。

平成8年度に那覇防衛施設局から倉庫建設工事に伴う地域についての埋蔵文化財の有無について照会があり、倉庫本体建設部分の試掘調査を行った結果、埋蔵文化財は存在しなかったが、平成10年度に那覇防衛施設局の事業変更で丘陵部分が計画範囲となり、当該丘陵の約半分を削平し、倉庫に隣接する屋外資材集積場が計画された。

現場立ち会いで墓5基が確認され、北側に多数埋蔵している可能性が考えられたことから、平成11年度に試掘調査を行うこととなった。

試掘調査は平成11年8月18日から20日の3日間で行った。その結果12基の古墓が発見され、合計17基が確認された。那覇防衛施設局と協議の結果、記録保存をすることとなり、緊急発掘調査を行った。

2. 調査体制

今回の調査体制は、発掘調査から資料整理、報告書の刊行まで含めて下記のとおりであった。

調査組織

調査主体	北谷町教育委員会
調査責任者	教育長 當山 憲一（平成11年度） 瑞慶寛 朝宏（平成12年度）
	文化課長 嘉手納 昇（平成11～12年度）
調査総括	文化係長 中村 愿（平成11～12年度）
調査事務	我那覇 智美（平成11～12年度） 並里 美奈子（平成11年度） 比嘉 ゆかり（平成12年度）
調査担当者	主任主事 山城 安生
調査補助員	
嘱託職員	真喜屋 隆 手登根 浩喜 豊里 初枝
臨時職員	伊波 直樹 花田 健治

松田 勇 治
 喜友名 勇 人
 宮里 きみこ
 宇根 美智子
 吉本 幸 正
 前川 恵 子
 上間 真寿美

発掘調査作業員

田里友信	宮城文義	普天間直純	高江洲昌吉
照屋繁	森屋正一	大村泉一	仲真良吉
島袋盛厚	比嘉憲栄	比嘉勇	仲田哲
比嘉幸吉	津嘉山栄	中島原栄	伊志嶺正男
石原昌俊	奥間政栄	具志堅用徹	東江清次郎
新垣盛吉	宮城吉廣	安村文男	宮里武
桑江良善	玉城清忠	比嘉盛繁	安慶名栄吉
仲間良雄	仲田吉光	山城栄春	比嘉正雄
稲嶺盛勝	川満恵清	仲西勇光	照屋寛光
當山清守	大城幸三	根間平任	仲本潤一
比嘉政雄	中村渠清三郎	比嘉眞忠	玉城達雄
新城賢志	高江洲義雄	崎山源盛	名嘉正文
普久原朝栄	比嘉 勇		

3. 試掘調査の結果

試掘調査は、丘陵の調査範囲地域を那覇防衛施設局側による伐採作業終了後に行った。那覇防衛施設局側で磁気探査・重機を用意し、丘陵北側で18ポイント（トレンチ掘り1ヶ所を含む）、南側9ポイントの合計27ポイントを設定して行った。その結果、丘陵中腹部で12基の墓を発見した。墓は北側で11基、南側で1基が発見され合計17基であった。

北側の試掘ポイント（磁気探査番号も同じ）No10・11・13～17・19・21・22（No19は袖墓1基を伴っており2基確認された）。南側はNo3である。

北側の試掘ポイントNo13を北側に延長して設定したNo27ポイントのトレンチ東壁で石灰岩小礫が集中する堆積が丘陵中腹の縁辺部で確認された。この集中部は墓に伴う造成であった。

4. 発掘調査の経過

本遺跡の北側には周知の遺跡「山川原古墓群」があり、発掘調査の対象地域を遺跡名「山川原古墓群（2）」とし、平成11年11月1日より開始した。発掘調査は重機（バックホー）による表土剥と作業員による発掘作業を同時並行で行った。

墓は、丘陵南側では東側から順に番号を付し、つづいて北側を西側から連続させた。更に、表土剥ぎ・発掘調査中に検出した順で番号を付した。

当初は17基であったが、表土剥ぎ・検出作業中に新たに6基が確認された。調査は北側から行き、南側に移動した。墓室内には、納骨された蔵骨器（厨子甕）や一次葬の状態の人骨検出された。そのため、人骨については土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアムに依頼し、発掘現場での鑑定・取り上げを行った。また、実測作業は手作業と画像解析による作業を併用した。そのうち4基（5・6・19・20号）についてはバックホーで屋根部を半裁し、断面観察を行い、記録写真撮影で終了した。6号墓の墓庭外の検出作業中にピット1基を検出したことから範囲を拡大した。その結果、北側に緩やかに下る斜面に植栽痕と考えられる規則的な配列の円形のピット群を検出した。この遺構については、範囲を確認し、半裁し、実測を行い、完掘して終了した。

調査終了後、丘陵は、20号墓から東側が削平された。20号墓については東側の一部が削平されたが、大部分は埋め戻された。植栽痕の部分についても、ピット完掘状態で埋め戻した。

第Ⅲ章 遺 構

1. 墓

本古墓群は、旧字伝道・玉代勢・北谷の人々の墓で、総数23基検出された。

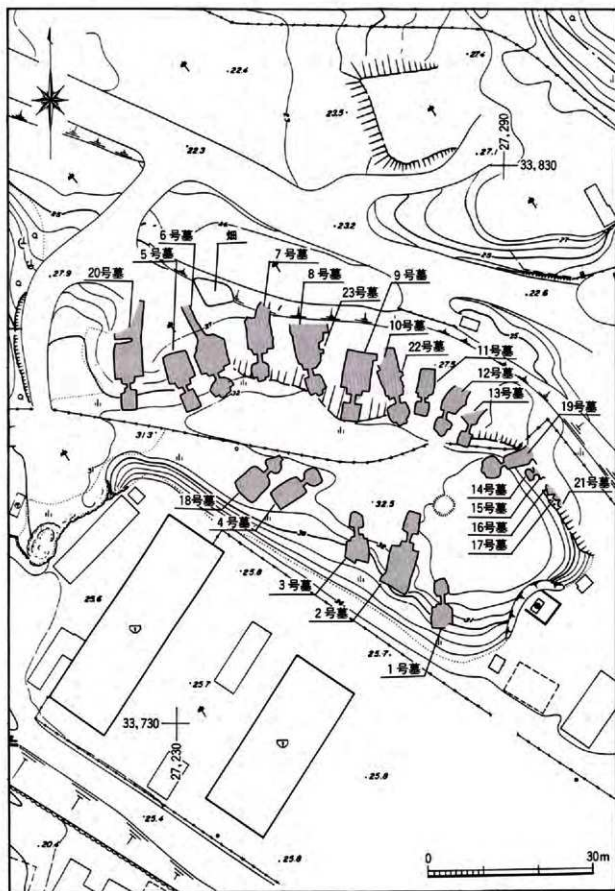
全て琉球石灰岩の岩盤を掘削し、横穴を掘り込んで墓室を造った墓（方言名：フィンチャー）である。丘陵中腹の南側に5基、北側に18基。墓の外観では亀甲墓5基、平葺墓7基、掘込墓11基であった。大きさを大別すると大型墓3基（2・9・20号墓）、中型墓13基（1・3・4～8・10～13・18・19号墓）、小型墓7基（14～17・21～23号墓）であった。これらの墓のうち11号墓の前庭部からは「池」と考えられる配石遺構、4・7・18号墓墓庭で（豚の頭骨）を埋めた穴、4・18号墓墓庭ではピット、4号墓からは縦列に並んだ焼痕などが検出され、納骨された蔵骨器や1次葬人骨2体、墓誌、副葬品など多くの遺物が出土した。

納骨された蔵骨器（厨子甕：ジーシガーミ）は合計31個あり、5基（8・10・18・19・21号墓）の墓室内に納められていた。

8・17号墓では一次葬の状態の人骨が検出された。8号墓は聞き取り調査で、旧字伝道で山工（ヤマグ：きこり）をしていた仲宗根という身寄りのない方が戦前に亡くなり、旧字で葬式を行い、現在まで開けられていない墓であることがわかった。シルヒラシ（墓室の床面にあたる1次葬を行うところ）に横たわった状態の人骨には副葬品（キセル・眼鏡・鏡・ベルト等）が伴い、周辺からは鉄釘も出土した。さらに、赤瓦に「仲宗根 蒲 五拾六才／昭和拾六年巳旧正月二十日死亡」と記された墓誌も右側のタナの上に納められていた。9号墓では墓築造時期が墓室奥壁の漆喰部分に記されていた。

さらに、11号墓の前庭部から方形状に石灰岩礫を配石した「池」と考えられる遺構が検出された。4・7・18号墓の墓庭から豚の頭骨（墓築造時に墓大工の棟梁が人に見られないように行うといわれる）を埋めた遺構が検出された。また、4・18号墓庭については、ピットが検出され、4号墓においては焼痕が縦列で3ヶ所検出された。これらの墓に伴う遺構については各墓の観察で述べる。

本古墓群は、米軍基地接収後の造成によって墓庭を囲む袖垣の上部を失うなど、部分的に壊されているが墓室の残存状況は良好である。これらの墓を外観から大別すると亀甲墓・平葺墓・掘込墓で、以下のように分けられる。墓の各部位の名称については、墓の顔にあたる墓正面を仮に墓面とし、墓室正面（墓室奥壁）と反対側の入口部分の壁面を裏正面と呼称する。墓室内にあるタナのうち正面タナの1段目を1番タナと呼称し、『ナーチャー毛古墓群』（那覇市教育委員会 2000年3月）で、Ⅱ類で分類されている「タナ」が出窓状になるタイプを、仮に出窓状タナ、また、便宜上墓室への入口に当たる部分については入口を塞ぐ蓋石を止める段差から外側を墓口、この段差



第3図 山川原古墓群(2)各墓の位置

から内側を羨道としシルヒラシとの境目までとする。

墓の分類

亀甲墓 A：墓の外観を構成する装飾的な各部位をもつもので、屋根の形態が亀甲状を呈するもの（6・9・20号墓）。

B：墓面の形態は亀甲墓であるが、外観を構成する部位がそろわないもの（7・18号墓）。7号墓は亀甲墓であるが、屋根部分が亀甲状を呈していない。18号墓は、墓面の形態は亀甲墓であるがウーシを持たない。

平葺墓 A：屋根の横断面形が凸状を呈するように、盛土を行い、その縁に石列を施すもので、墓の正面方向のみに傾斜をもつもの。（1・2号墓）。同様な屋根の造りをもつが破損のため全体形が不明なものもここに含める（3・8・10号墓）。

B：屋根の横断面形が凹状を呈し、墓の正面方向のみに傾斜をもつもの（5・11号墓）。墓室部分を失っている11号墓は、屋根の平坦部が確認できるのでここに含める。

掘込墓 A：基盤の岩盤を掘り込んで、羨道・墓室をもつもの（4号墓）。墓の外観を構成する部位のうち、屋根の部分に石列をもつが、破損のため全体形が不明で、墓面の上部の造りが不明なものも掘込墓に含める（12・13・14・19号墓）。

B：基盤の岩盤を掘り込んで造るが、羨道をもたないもの（16・17・21号墓）。墓室の大半を失っている21号墓もここに含めた。

C：本墓に付随して、基盤の岩盤を掘り込んで造り羨道をもたないもの。（15・22・23号墓）。

外観からは以上のように分けられるが、墓室の形態でみると天井の形態には平坦・アーチがあり、墓室床面（シルヒラシ：棺を安置する場所）から蔵骨器等を置く複数のタナ（正面・左右・出窓状タナ）のうち、1番タナの高さが高いものと低いものがあることから、天井の形態と1番タナの高さを基準にして以下のように分類した。第1表に特徴一覧、第2表に部位計測値を示し、第6表に出土した蔵骨器・墓誌年号比較表、第3表に納骨された蔵骨器出土状況を示し、実測図は丘陵南側と北側に分けて第7～36図に示した。なお、墓室の平面形は基本的な空間を捉えるために出窓状タナを除いた形態を見ることとした。

墓室の分類

I類：墓室天井の横断面形が平坦を呈し、1番タナの高さが40cm以上と高いもの。

A 1番タナが高く、出窓状タナをもつもの。

1. 1番タナの高さが60cm以上80cm未満のもの（6・10・19号墓）。

2. 1番タナの高さが40cm以上60cm未満のもの(8号墓)。

B 1番タナが高く、出窓状タナをもたないもの(4号墓)。タナの高さは40cm以上60cm未満。

Ⅱ類：墓室天井の横断面形が平坦を呈し、1番タナの高さが30cm以下と低いもの。

A 出窓状タナをもたないもの(5・9号墓)。

B 墓室側壁の片面が、最も奥のタナで墓口に向いた面(壁)をもつもの(1・3号墓)。本類は、正面の最も奥のタナが出窓状タナに類似するもの。出窓状タナの影響、または墓室の拡張などが考えられる中間的なもの。

Ⅲ類：墓室天井の横断面形がアーチ状を呈し、1番タナが40cm以上と高く、出窓状タナをもつもの(18号墓)。1番タナの高さは、40cm以上60cm未満のもの。

Ⅳ類：墓室天井の横断面形がアーチ状を呈し、1番タナが30cm以下と低いもの。

A 出窓状タナをもつもの(7・12号墓)。

B 出窓状タナをもたないもの(2・11・13・14号墓)。

C 出窓状タナをもたないもので、墓室正面と裏正面の壁の中央が高く、天井がやや三角形になるもの(20号墓)。

Ⅴ類：墓室天井の横断面形がアーチ形を呈し、羨道・タナをもたないもの(16・17・21号墓)。21号墓は、大半を失っているが残存形態から本類に含める。

Ⅵ類：天井の形態が不明なもので、タナ・羨道をもたないもの。いわゆる袖墓である(15・22・23号墓)。

以下、各墓について概要・造営の特徴・屋根・墓庭・サンミデー・墓面・墓口・羨道・墓室の順に記述する。

・1号墓：平葺墓A。墓室形態Ⅱ類B。

〔概要〕型。墓口は閉じていたが納骨はない。墓室内左側タナ上からワンブー4個出土。ワンブーの側からプラスチック製楠出土。墓庭は米軍の造成によって入口部分を失っている。墓の左側に米軍が埋設した管(鉄製パイプ)がある。(第7・8図)

〔造営の特徴〕岩盤を掘削して横穴を掘り込み、墓室を造った墓(フィンチャー)。基盤の石灰岩を掘削して墓庭・墓室をつくる。墓面・袖石・袖垣は岩盤を成形する。基盤の石灰岩岩盤は袖垣下部ではやわらかいようで岩盤はもろく凹みが多い。

〔屋根〕 平面形は変形の長方形で、盛土を行い縁に石灰岩礫を施している。表面は約5cm程度の石灰岩の小礫が多い。屋根部分の両側は、石灰岩の掘削土と思われる石灰岩の粉状の土と石灰岩礫で造成している。この造成は2号墓の右側袖垣の上まで達しており、前後関係として、1号墓の築造は2号墓より新しいと考えられる。右側の縁石中央部に電柱穴があり切断された木材が残っている。

〔墓庭〕 右側袖垣は残存部でみるとほとんど石灰岩の岩盤で、ウーシ(白)を石積でつくる。左右の袖垣の一部を失っている。右側残存部で見ると袖垣高さは約2.50mである。

〔サンミデー〕 石灰岩の切石を袖石正面に合せて並べ、内側に土を入れて平坦面をつくる。カピアンジ(紙銭を焼く穴)を持たない。

〔墓面〕 袖石の上面の高さよりも上位で石灰岩切石を積む。布積みである。ウーシ・袖石をもつ。

〔墓口〕 南南東を向く。墓口と墓室の向きは異なっており、墓口は南からわずかに東にずらす。墓室をタナの向きで見ると南南東に向く。

〔羨道〕 蓋石を止める段差部分は切石を埋め込んでいる。墓口と羨道を合せた奥行が1.78mと本古墓群のなかでもっともある。

〔墓室〕 一番奥のタナの左側が出窓状タナに類似する壁をもつもので、墓室形態をⅡ類Bとしたものである。天井は平坦で、石灰岩岩盤の堆積の境目を利用していると考えられる。墓室の平面形は方形。タナは、岩盤を成形しているが、1番タナに石灰岩切石をはめ込んでおり低い。正面の1番タナは左右と連続し、段差を持たない。シルヒラシには棺箱を置く台石はないが、墓室から出土した鉢(方言名: ワンプー)がその用途と考えられる。壁面には成形時のノミ痕が残る。

・2号墓: 平背墓A。墓室形態Ⅳ類B。

〔概要〕 大型。墓口は閉じられていたが納骨は無い。墓の造りは丁寧である。屋根にはヤジョウマイにあたる部分を持ち、僅かに遺物が出土した。米軍の造成によって墓の左側と墓庭入口部分を失っている。(第9・10図)

〔造営の特徴〕 岩盤を掘削して横穴を掘り込み、墓室を造った墓(フィンチャー)。基盤の石灰岩を掘削して墓庭・墓室をつくる。部分的に漆喰を施す。

〔屋根〕 平面形は長方形。土で造成し縁に石灰岩切石を施す。屋根のヤジョウマイにあたる部分は、石灰岩の掘削土と思われる粉状土と石灰岩礫で造成している。

〔墓庭〕 床面は岩盤。袖垣上部に石積がある。

〔サンミデー〕 サンミデーは、袖石の正面に合わせて石灰岩礫を並べ、内側は土を入れて整えている。カピアンジがある。

〔墓面〕 石灰岩切石を中央部の上部に一段積み、その左右は土で整形し、漆喰を施す。袖石をもつ。

〔墓口〕 南南西に向く。羨道・墓室もほぼ同じ向きである。

〔羨道〕 蓋石を止める段差は岩盤を成形して造る。壁面の一部に漆喰を施す。

〔墓室〕 平面形は長方形を呈する。天井は平坦で、タナは石灰岩岩盤の削り出で、1番タナは低く、左右のタナと段差を持ち、奥行があり、最も広い。シルヒラシには、棺箱をのせる2個の台石が入口から奥に向かって並列している。台石は床面に埋込まれている部分は荒削りで、床面から上に出る部分を細長い長方形に成形している。壁面には成形時のノミ痕が明瞭に残る。

・ 3号墓：平葺墓B。墓室形態Ⅱ類B。

〔概要〕 中型。墓口は閉じていたが納骨はない。屋根は米軍による造成をうけ攪乱されている。(第11・12図)

〔造営の特徴〕 岩盤を掘削して横穴を掘り込み、墓室を造った墓(方言名：フインチャー)。基盤の石灰岩を掘削して墓庭・墓室をつくる。基盤の岩盤には貝殻化石(二枚貝)が多く含まれる。

〔屋根〕 右側の石列の一部が残るのみである。中央部には約10cm大の石灰岩礫の集中しており石灰岩礫や土で造成したことが伺える。

〔墓庭〕 平面形は方形。墓庭の入口は左側にある。左側袖垣は削られており電柱用の穴があり、造成後の新しい石積があった。(写真資料のみ残し除去した)。右袖垣は樹根の間に鉄板が挟まっており、本来の形態を失っている。

〔サンミデー〕 サンミデーは岩盤を成形して造る。カビアンジを持たない。

〔墓面〕 袖石の上面の高さより上位に石灰岩切石を積む。布積みである。

〔墓口〕 南南東。墓室・羨道の向きもほぼ同じである。

〔羨道〕 蓋石を止める段差は石灰岩の切石を成形してつくる。この切石は墓口の床面にもなっている。

〔墓室〕 一番奥のタナが出窓状タナに類似する壁をもつもので、墓室形態をⅡ類Bとしたものである。平面形は方形。天井は平坦で、石灰岩岩盤の堆積の境目を利用してと考えられる。壁のびび割れ部分をモルタルで補修している。壁の仕上げは丁寧である。タナは岩盤を成形し、1番タナは、正面と左右が連続し段差はない。壁面には成形時のノミ痕が僅かに残る。

・ 4号墓：掘込墓A。墓室形態Ⅰ類B。

〔概要〕 中型。墓口は開いており納骨は無い。墓庭から円形のピット・豚の頭骸骨を埋めた穴・焼痕が検出された。袖垣上部は米軍の削平を受けている。(第13図)

〔造営の特徴〕 岩盤を掘削して横穴を掘り込み、墓室を造った墓(フインチャー)。基盤の石灰岩を掘削して墓庭・墓室をつくる。

〔屋根〕 屋根の遺構は確認されなかったが、堆積断面の状況から整地されたことが伺える。

〔墓庭〕 平面形が隅丸長方形を呈し、掘り窪めた状態である。墓庭入口は墓面に対して正面の位置にあり、墓外から下りて入る造りである。墓口側の左隅に、岩盤を掘り窪めた長方形の竪穴（縦約0.42m、横約0.18m、深さ0.18m）から、ブタの頭骨が右袖垣方向（南南東）に向けた状態で検出された（第41図）。この遺構は墓を造る際に大工の棟梁が人に見られないように埋めるといわれるものではないかと考えられる。さらに、墓口付近で岩盤を掘った4基の円形のピットが検出された。このピットのNo.3から墓庭入口方向に縦に等間隔に並んだ状態で焼痕が検出された。右側袖垣の一部に窪みを塞ぐように、石灰岩礫の野面積みが施された部分があるが、石積内部から遺物の出土は無い。

（ピット）

		(口径)	(深さ)			(口径)	(深さ)
No.1	A-A'	0.34m	0.05m	No.2	A-A'	0.30m	0.12m
	B-B'	0.52m	0.08m		B-B'	0.22m	0.13m
	C-C'	0.16m	0.06m				
No.3	A-A'	0.28m	0.06m	No.4	A-A'	0.22m	0.08m
	B-B'	0.24m	0.06m		B-B'	0.22m	0.06m

〔サンミデー〕 サンミデーとカピアンジをもたない。

〔墓面〕 上部の右側に石灰岩切石が積まれている。袖石をもたない。

〔墓口〕 南西に向く。羨道・墓室の向きも同じである。

〔羨道〕 蓋石を止める段差は石灰岩切石を埋設している。

〔墓室〕 墓室形態をⅠ類Bとしたものである。天井は平坦であるが1・3号とは異なり岩盤に割れ目や凹凸が多く、隙間を土で塞いでいる。これは基盤の石灰岩の性質が異なるためと考えられ、18号墓も同様である。墓室はシルヒラシが広く、タナは正面の1番タナが左右と連続し段差を持たない。左タナの一部に切石がはめ込まれている。壁面の加工痕は不明瞭である。

・5号墓：平葺墓B。墓室形態Ⅱ類A。

〔概要〕 中型。墓口が開いており納骨は無い。他の墓より天井が高い。5・6号は親戚関係にあることが、聞き取り調査で確認された。（第16・17図）

〔造営の特徴〕 岩盤を掘削して横穴を掘り込み、墓室を造った墓（フィンチャー）。基盤の石灰岩を掘削して墓庭・墓室をつくる。東隣の6号墓と袖石上面の高さや、墓面の石積み高さを施す高さがほぼ同じであることから岩盤の性質を両者と

もに利用していることが伺える。

〔墓庭〕 平面形は長方形を呈し、石灰岩の岩盤を掘り窪めている。墓庭入口は正面中央にあり墓外から下りて入る造りである。墓庭入口側の左隅には東隣にある6号墓に抜ける状態で岩盤を掘りこんだ排水穴が石灰岩礫を詰めた状態で検出された。この排水溝の造りは隣の墓の了解があることで可能な造りであることから5・6号墓の関係を示している。

〔屋根〕 平面形は長方形を呈する。屋根は横断面形を凹状にし、縁石を施す。屋根は造成しており、墓面頂部のマユ（眉）部分は石灰岩の切石をのせ土を被せ、屋根に施したセメントで固定している。この造り方から比較的新しいと考えられる。

〔サンミデー〕 岩盤を成形している。カビアンジを持つ。

〔墓面〕 凹みや亀裂部分、石積みの隙間を粘土で塞いでおり、その後に漆喰やセメントが施されている。袖石をもち、墓面上部は袖石上面より上位に石灰岩切石を積む。布積みである。

〔墓口〕 北北西を向く。羨道・墓室ともに同じ向きである。

〔羨道〕 奥行がある。蓋石を止める段差は切石を成形して埋設する。

〔墓室〕 墓室形態をⅡ類Aとしたものである。平面形は長方形である。天井は平坦で他の墓より高い。正面のタナは5段あり、1番タナと左右のタナに段差は無い。シルヒラシに棺箱をのせる方形の台石が2個ある。左右のタナは石灰岩切石を縁の部分にはめ込む。壁面には成形時のノミ痕が残る。

・6号墓：亀甲墓A。墓室形態Ⅰ類A1。

〔概要〕 中型。墓口は開いており納骨は無い。墓庭から移転の際に打ち割られた蔵骨器が一括して出土した。本古墓群のうち唯一墓庭に至る墓道がある。（第18・19図）

〔造営の特徴〕 岩盤を掘削して横穴を掘り込み、墓室を造った墓（フィンチャー）。墓庭の袖垣は岩盤であるが正面部分は石積みである。墓庭の床面は土である。

〔屋根〕 造成して盛り上げる。石灰岩切石でヤジョーマーイを造る。

〔墓庭〕 平面形は方形を呈し、墓庭に至る墓道がある。墓道は両側に石垣が築かれておりその下部が残る。墓道の中央部から墓外に向けて石灰岩礫が縦方向に直線的に並んでおり、暗渠と考えられる。墓庭左側の入口付近から、移転の際に打ち割られた厨子甕が一括して大量に出土した。

〔サンミデー〕 袖石の正面に合せて石灰岩礫を並べる。内側は土である。

〔墓面〕 5号と同様に、袖石上面の高さから上位に石積みを施す。あいかた積みである。石積み部分に漆喰が施される。

〔墓口〕 北北西を向く。羨道・墓室ともに同じ方向である。

〔羨道〕 蓋石を止める段差は石灰岩切石で造り、墓室側の床面も切石を敷く。

〔墓室〕 墓室形態をⅠ類A1としたもので、出窓状タナを除いて見た墓室の平面形が五角形を呈し、天井は平坦で1番タナが高い。1番タナと右側タナは連続して段差をもたないが、左タナは一段下る。この特徴は18号墓と同様である。出窓状タナは正面と左側の2ヶ所にある。成形時のノミ痕が見られる。

・7号墓：亀甲墓B。墓室形態Ⅳ類A。

〔概要〕 墓口は開いていおり納骨なし。墓庭奥の右側に豚の頭骨を埋めた穴が検出された。平葺墓の墓面の部分を亀甲墓にした印象を受けるものである。墓検出時に墓室内には投棄されたタール状の液体が溜まっていた。(第20・21図)

〔造営の特徴〕 岩盤を掘削して横穴を掘り込み、墓室を造った墓(フィンチャー)。墓庭・墓室ともに掘削してつくる。平葺墓と亀甲墓の折衷タイプと考えられ、改修した可能性も考えられる。聞き取り調査ができた墓であるが、築造年については不明であった。

〔屋根〕 屋根中央部は隅丸形状を呈し、約5cm大の石灰岩礫を多く含む盛土を行い、縁に石灰岩礫を施す。ヤジョウマーイは野面積みである。マユ(眉)の後ろにつく筋りの突起部分は漆喰で成形している。

〔墓庭〕 平面形は方形。墓庭の右側に岩盤を掘り下げて豚の頭骸骨を埋めた遺構が検出された。縦(X-X')0.60m横(Y-Y')0.70mこの遺構は穴の平面形が不定形である(第42図)。頭位は北北西を向く。墓庭入口はほぼ正面の位置にあり、墓庭正面の庭囲は石積みである。この部分に基盤の岩盤と土の境目がある。墓の外に石灰岩の切石があり墓道の可能性も考えられるが判然としない。

〔サンミデー〕 サンミデーとカピアンジを持たない。

〔墓面〕 岩盤を成形してマユ(眉)やウーシ(臼)を造り漆喰を施す。袖石をもつ。

〔墓口〕 北北西を向く。羨道・墓室も同じである。

〔羨道〕 奥行が1.14mある。墓口と羨道を合せた奥行は1.72m。蓋石を止める段差は切石を埋設する。

〔墓室〕 墓室形態分類でⅣ類Aとしたもので、天井がアーチ形を呈しているが、1番タナが低く出窓状タナをもつ。1番タナは左右のタナと連続し段差を持たない。成形時のノミ痕は不明瞭。

・8号墓：平葺墓A。墓室形態Ⅰ類A2。

〔概要〕 中型。戦前(昭和15・6年頃)に身寄りのない仲宗根家の方が亡くなったので、字で葬式を行ったことが聞き取り調査で確認された墓である。その

後、墓は開けられておらず蓋石の周囲は部分的に漆喰が施されていた。墓室内部には一次葬の人骨が副葬品と共に検出され、納骨された蔵骨器（14点）・墓誌・香炉・キセルケース・キセル・きざみ煙草を入れた壺・小碗・花瓶・鉢・鏡・ベルト・眼鏡・鍋・把釜・タライ等多様な遺物が出土した。しかし、投棄されたタール状の液体がシルヒラシに溜まっており、一次葬の人骨やそれに伴う副葬品はタールで覆われていた。（第22・23図）

〔造営の特徴〕 岩盤を掘削して横穴を掘り込み、墓室を造った墓（フィンチャー）。墓庭の部分は岩盤ではなく土である。墓庭前庭部の縁は造成されている。袖垣は岩盤である。

〔屋根〕 平面形は隅丸長方形を呈していたと思われる。屋根は約5cm大の石灰岩礫を多く含む土で盛土を行い、縁に石灰岩礫を施す。左側を9号墓の掘削によって失っている。9号が新しいことがわかる。

〔墓庭〕 平面形は判然としない。左側袖垣に袖墓（23号墓）を持つ。この中からの出土遺物はない。墓庭で厨子甕破片が出土。右側袖垣の端に見られる造成の石灰岩礫の部分から、本土産磁器や沖繩産陶器などが集中して出土した。字で葬式を行った際に、箆筒や道具もすべて墓に運んだということなので、その時のものと考えられる。

〔サンミデー〕 石灰岩切石を袖石の正面に合わせて施している。内側は土である。カビアンジを持たない。

〔墓面〕 岩盤を成形する。袖石をもつ。上部の形態は不明。

〔墓口〕 北北西に向く。羨道・墓室もほぼ同じ向きである。入口部分に偏平な石灰岩切石を敷いている。

〔羨道〕 蓋石を止める段差は岩盤を成形する。

〔墓室〕 墓室形態をⅠ類A2としたものである。天井が平坦で1番タナが高く出窓状タナをもつ。出窓状タナを除いて見た墓室の平面形は方形で、シルヒラシが広い。成形時の鑿痕が見られる。

シルヒラシで検出された1次葬の人骨には、大腿骨と両肩の位置にやや大き目の石灰岩礫があり、鉄釘が出土していることから、棺箱に納め石灰岩礫を台石にして葬られていることがわかる。さらに、聞き取りの結果と墓室内右タナから検出された赤瓦に「仲宗根 蒲 五拾六才ノ昭和拾六年巳旧正月二十日死亡」と墨筆された墓誌（第82図）が出土したことから、この人骨が最後に葬られた方であることが判明した。頭位は西北西。

墓室内に納められていた蔵骨器の配置は（第23図）、一番奥の出窓状タナに本墓の銘書に記された年代の2番目に古い乾隆10年（1745年）のものがあり、2段目のタナの左端が最も古く雍正11年（1733年）である。右側のタナに置かれた蔵骨器には銘書が記されていない。蔵骨器の銘書をみると母親と子供、子供のみ、叔母など

もみられる。銘書には「傳道村」と記されている。蔵骨器No.10から簪2点が出土。遺物については、それぞれの項目で記す。

・9号墓：亀甲墓A。墓室形態Ⅱ類A。

〔概要〕 大型。墓口は開いており納骨はない。墓室奥壁に墨書で築造月日が残る。墓庭外に排水用の石灰岩礫を埋めた暗渠と考えられる遺構がある。墓室には台石がある。(第24・25図)

〔造営の特徴〕 岩盤を掘削して横穴を掘り込み、墓室を造った墓(フィンチャー)。墓庭・墓室・屋根部分ともに掘削し、ヤジョウマーイ等は石灰岩切石を積み、屋根や墓面も石灰岩の岩盤を成形し、仕上げに漆喰を施す。

〔屋根〕 ヤジョウマーイ等を石灰岩礫で積み、仕上げに漆喰を施す。マユ(眉)は3個の大形の石灰岩切石をのせている。

〔墓庭〕 石灰岩の岩盤を掘削して墓庭と袖垣をつくるが、墓庭正面は石積みである。墓庭左側に墓外への排水穴があり、その延長上に暗渠または石垣の根石と考えられる遺構が検出された。

〔サンミデー〕 石灰岩切石を敷いてつくる。カピアンジを持つ。

〔墓面〕 石灰岩の岩盤を成形している。ウーシを持つ。袖石を持つ。

〔墓口〕 北北東。墓口は大形で厚みのある石灰岩切石をはめ込み隙間を小礫と土を詰め、仕上げに漆喰を施す。

〔羨道〕 羨道の奥行は1.72mと長い。羨道外側部分と蓋石を止める段差部分は石灰岩切石でつくる。

〔墓室〕 墓室形態Ⅱ類Aとしたもので、平面形は方形。正面奥壁の中央部に施された漆喰部分の左側(第25図の□印部分)に「卯…八月十月十二日…仕立」と記されている。成形時のノミ痕は不明瞭。

・10号墓：平葺墓A。墓室形態Ⅰ類A。

〔概要〕 中型。墓口は開いていたが納骨された蔵骨器が出土。左側袖に袖墓(22号墓)もつ。棺箱をのせる台石を持つ。納骨された蔵骨器6点出土。うち1点は転用蔵骨器。本土産磁器出土。(第26・27図)

〔造営の特徴〕 岩盤を掘削して横穴を掘り込み、墓室を造った墓(フィンチャー)。8号墓に類似する。墓庭・墓室共に掘削してつくる。

〔屋根〕 屋根は約5cm大の石灰岩小礫を多く含む土で盛土を行い、縁に石灰岩礫を施す。この縁石に11号の石列が縁石の上に積まれている。

〔墓庭〕 入口は不明。右側袖垣に袖墓(22号墓)がある。庭床面は岩盤。

〔サンミデー〕 サンミデー・カピアンジを持たない。

〔墓面〕 墓庭と墓面の向きを調整していると考えられる。墓庭は北を向くが墓

面は北北西に向く。

〔墓口〕北北西を向く。羨道の向きも同様であるが、墓室は北西に向く。墓口床面には石灰岩切石を敷く。

〔羨道〕奥行が長い。蓋石を止める段差は石灰岩礫を埋設する。墓室と羨道の床面には段差がなく連続する。

〔墓室〕墓室形態Ⅰ類Aとしたもので、出窓状タナをもつ。出窓状タナを除いて見た平面形は方形。シルヒラシが広く1番タナが高い。タナの段の造り方が他の墓と異なり、左右のタナが墓室奥壁まで続き、正面の1番タナは出窓状タナの幅よりやや広く、左右のタナより僅かに高くなっている。墓室には棺箱を置く台石があり、小型の石灰岩切石を長方形に配石して造る。

蔵骨器の配置は(第27図)、出窓状タナに本墓室内で最も古い雍正2年の銘書が記された蔵骨器(No.1)と銘書の無いもの(No.2)があり、3番目の乾隆39年が1番タナの右側にあり、2番目に古い乾隆39年が1番タナから1段下がった左側隅にある。

蔵骨器No.1から鉄製雁首・吸口出土。蔵骨器No.2からガラス小玉10点出土。壁面にはノミ痕が見られる。銘書には「傳道村」、役職名の「にや」が記されている。

・11号墓：平葺墓B。墓室形態Ⅳ類B。

〔概要〕墓庭前庭部があり、墓口の中央軸線上からやや西側の位置に「池」と考えられる石組遺構が検出された。墓面・墓室・屋根を大きく失い、1番タナも削られている。屋根は一部が残るのみで石灰岩礫を縁石にまわした平葺墓であることがわかる。納骨は無い。(第28図)

〔造営の特徴〕岩盤を掘削して横穴を掘り込み、墓室を造った墓(フィンチャー)。墓庭・墓室ともに掘削して造る。仕上げにセメントを施す。

〔屋根〕屋根はほとんどを失っている。石灰岩礫を縁石に施す。この石列が10号墓のヤジョウマーイの石列上に積まれており11号墓は10号墓より新しいことがわかる。

〔墓庭〕平面形は長方形。墓庭・墓室ともに掘削して造る。前庭部がある。岩盤を整形するが、左側袖垣の入口側角の部分と正面の石垣は石積みで、後者は左側のみで右側に石積みは見られない。左側隅に排水穴がある。前庭の中央部、墓口の軸線上からやや西側に「池」と考えられる石組遺構が検出された。偏平な石灰岩礫を配石し、隙間をシックイで埋めている。

(石組遺構)

	幅(外寸)	幅(内寸)	深さ
E-E'	0.62m	0.26m	0.24m
F-F'	0.66m	0.29m	

〔サンミデー〕 岩盤を成形している。カビアンジをもつ。

〔墓面〕 不明。

〔墓口〕 墓口の両脇は石灰岩の切石を立ててはめ込む。床面は石灰岩切石を施す。

〔羨道〕 床面は岩盤。

〔墓室〕 墓室形態Ⅳ類Bとしたもので、平面形は方形。正面のタナは3段で、1番タナは左右のタナと段差を持たず連続する。壁面のノミ痕は不明瞭。

・12号墓：掘込墓A。墓室形態Ⅳ類A。

〔概要〕 墓口は開いており納骨は無い。羨道・墓室と墓面の向きが異なる。出窓状タナをもつ。墓庭の有無は不明。(第29・30図)

〔造営の特徴〕 岩盤を掘削して横穴を掘り込み、墓室を造った墓(フィンチャー)。墓庭・墓室ともに掘削して造る。

〔屋根〕 本古墓群の平葺墓の屋根に見られる石灰岩礫の縁石状の石列があるが、その内側で盛土は確認されていない。13号墓と類似する。

〔墓庭〕 右側の袖垣は僅かに残るが範囲は不明。

〔サンミデー〕 持たない。

〔墓面〕 袖石を持たない。

〔墓口〕 北北東を向く。奥行がもっとも短い。墓口は墓面と同じ向きで、羨道とは異なる。

〔羨道〕 奥行が有り、方位はほぼ北を向いており墓室も同様である。墓の向きを墓口で調整したことが考えられる。風水では4方位(東西南北)に向けるのは良くないといわれていることから、墓室掘削後に墓口の向きを修正したことが推察される。

〔墓室〕 墓室形態Ⅳ類Aとしたもので、墓室の平面形は隅丸方形。1番タナが低いタイプ。2番タナの床面からの出窓状タナの高さが高い。壁面のノミ痕は不明瞭。

・13号墓：掘込墓A。墓室形態Ⅳ類B。

〔概要〕 墓口は開いており納骨はない。袖石をもたない。きれいに成形された大形の石灰岩製香炉が墓口で出土した。(第31図)

〔造営の特徴〕 岩盤を掘削して横穴を掘り込み、墓室を造った墓(フィンチャー)。墓庭・墓室ともに掘削して造る。

〔屋根〕 屋根には石列が検出された。この石列は12号の石列と同レベルにあり、12号の石列に突き当たる。平面で見た石列の向きは、墓面よりも西側に向く。墓面と平行ではない。

〔墓庭〕 床面は岩盤。範囲は不明。左側は岩盤を成形した袖垣の一部が残る。

〔サンミデー〕 サンミデー・カピアンジを持たない。

〔墓面〕 墓面上部の造りは不明。残存状況から袖石を持たない。

〔墓口〕 北北東に向く。石灰岩切石を敷く。

〔羨道〕 羨道が墓室に向かって下る。

〔墓室〕 墓室形態Ⅳ類Bとしたもので、平面形は方形。1番タナは低く、出窓状タナを持たない。墓の外観は12号墓と類似するが墓室の形態は異なる。壁面のノミ痕は不明瞭。

・14号墓：平葺墓A。墓室形態Ⅳ類B。

〔概要〕 墓口は開いており納骨は無い。左側に袖墓と考えられる15号墓を伴っていると考えられる。「短期間の利用を目的とした墓」(註3)と考えられる。(第32図)

〔造営の特徴〕 岩盤を掘削して横穴を掘り込み、墓室を造った墓(フィンチャー)。簡素な造りである。本古墓群でタナをもつ墓のなかでは最も小さい。

〔屋根〕 成形されていない。

〔墓庭〕 不明。墓の規模や造りから墓庭や袖垣をもたないものと考えられる。

〔サンミデー〕 サンミデー・カピアンジを持たない。

〔墓面〕 墓面に装飾的な部分を持たない。

〔墓口〕 東北東を向く。規模は小さいが蓋石を止める段をもっている。

〔羨道〕 蓋石を止める段差と床面を兼ねる。平面形が長方形の石灰岩切石を敷く。

〔墓室〕 墓室形態Ⅳ類Bとしたもので、平面形は不定形。タナは正面と左側にあり段差を持たない。壁面のノミ痕は不明瞭。

・15号墓：掘込墓Ⅵ類。墓室形態Ⅵ類。

〔概要〕 袖墓と考えられ、位置関係から14号に伴うものと考えられる。墓口は開いていたが納骨は無い。(第32図)

〔造営の特徴〕 岩盤を掘削して横穴を掘り込み、墓室を造った墓(フィンチャー)。墓庭・サンミデー・墓口・羨道・タナをもたない。

〔屋根〕 成形されていない。

〔墓面〕 墓面に装飾的な部分を持たない。

〔墓口〕 蓋石を止める段差から外側の墓口とした部分を持たない。

〔墓室〕 小さい。小型の蔵骨器が収まる程度である。壁面のノミ痕は不明瞭。

・16号墓：掘込墓B。墓室形態Ⅴ類。

〔概要〕 岩陰状に岩盤を掘り込んだもの。(第33図)

〔造営の特徴〕 岩盤を掘削して横穴を掘り込み、墓室を造った墓(フィン

チャー)。本古墓群のなかでは簡素な造りである。

〔墓口〕 蓋石を止める段差から外側の墓口とした部分を持たない。

〔墓室〕 北東に向く。平面形は不定形。横長である。壁面のノミ痕は不明瞭。

・17号墓：掘込墓B。墓室形態V類。

〔概要〕 岩陰状に岩盤を掘り込んだもの。1次葬人骨が1体出土した。人骨の周囲から鉄釘が検出されたことから。棺箱に納めて葬っていたと考えられる。

(第33図)

〔造営の特徴〕 岩盤を掘削して横穴を掘り込み、墓室を造った墓(フィンチャー)。1体が収まる程度の大きさである。

〔墓口〕 蓋石を止める段差から外側の墓口とした部分を持たない。

〔墓室〕 北東に向く。平面形は不定形。壁面のノミ痕は不明瞭。1次葬の状態の人骨出土。人骨の周囲からは鉄製釘出土。頭位は北北西に向く。

・18号墓：亀甲墓B。墓室形態Ⅲ類。

〔概要〕 4号墓に類似した墓庭の造りをもつ。ブタの頭骨を埋めた遺構がある。

納骨された蔵骨器6点が出土した。タナの上には鉄製容器の蓋が出土し、戦時中または戦後人がはいったと思われるが、蔵骨器に動かされた様子は見受けられない。(第14・15図)

〔造営の特徴〕 岩盤を掘削して横穴を掘り込み、墓室を造った墓(フィンチャー)。墓盤の石灰岩岩盤を掘り下げて、墓庭・墓室をつくる。4号墓と同様に亀裂が多く隙間を土で塞いで整える。墓面や袖垣には石積が施される。

〔屋根〕 墓面左側から後方に直線的にのびる石列が一部残っているが形態は不明。墓面上部の石積み裏側は、傾斜する地形を利用して石灰岩小礫を入れ、その上に土をかぶせて造成している。この造成は墓の右側面で確認できた。屋根の部分は、米軍の削平の際に失われたと考えられる。

〔墓庭〕 4号墓と類似点が多く、墓庭の平面形は隅丸長方形で、墓庭入口は墓口のほぼ正面にあり、石灰岩礫を並べ階段になっており、墓外から下りて入る造りである。右側袖垣には岩盤の窪みに石積みを施しているが、内部から遺物の出土は無い。

4号墓と同様に墓口側の左隅で、岩盤を掘り窪めた長方形の竪穴(縦約0.54m、横約0.24m、深さ0.58m)から、豚の頭骨が墓庭入口側(南西方向)に向いた状態で検出された(第43図)。この遺構は墓を造る際に大工の棟梁が人に見られないように埋めるといわれるものではないかと考えられる。さらに、ピットが4基検出された。ピットは墓庭の隅に近い位置の4ヶ所(墓口側の左右、左袖垣の前面中央付

近、墓庭入口左側)である。左側袖垣は2段で、1段目はあいかた積みが施される。
(ピット)

	ピット No.	(口径)	(深さ)		ピット No.	(口径)	(深さ)
No 1	A-A'	0.34m	0.09m	No 2	A-A'	0.34m	0.14m
	B-B'	0.52m	0.08m		B-B'	0.50m	0.18m
No 3	A-A'	0.23m	0.10m	No 4	A-A'	0.32m	0.12m
	B-B'	0.22m	0.10m		B-B'	0.26m	0.20m

[サンミデー] サンミデー・カピアンジを持たない。

[墓面] 墓口の上位付近までは岩盤を整形し、墓面上部の袖石上面の高さ付近から上位は、あいかた積みの石積が施されている。亀甲墓であるがマユ(眉)の石が無く、ウーシ(臼)を持たないが墓面とウーシの間にある方形の凹み(アジングラー)を持つ。

[墓口] 南西を向く。墓口は空いた状態で検出された。墓口には微粒砂岩(方言でニービ)製の蓋が割れた状態で検出された。蓋の下部は墓口にあったが、他の部分は墓面右側に立てかけた状態であった。墓口の天井部分と右側壁面にあたる部分は、石灰岩切石をはめ込んでいる。

[羨道] 石灰岩切石で蓋石を止める段差をつくる。

[墓室] 墓室形態をⅢ類としたもので、出窓状タナを除いてみた墓室の平面形は五角形を呈する。正面奥に出窓状タナを有する。1番タナは高く、正面のタナと右側タナは連続するが、左側のタナは1段下がる。右側タナの縁には切石を積んでいる。壁面にはノミ痕が明瞭に残る。

墓室内には納骨された蔵骨器が6個出土した。蔵骨器の配置は(第15図)、出窓状タナに乾隆36年の銘書が記されたものがあり、1番タナの左側から右へ年代順に置かれている。最も新しいものは光緒5年である。蔵骨器No.3から木製簪、蔵骨器No.4から鉄製簪2点出土。蔵骨器に記された銘書には「玉代勢村」が見られ、「築之親雲上」「にや」「親雲上」等の役職名がある。

・19号墓：掘込墓A。墓室形態Ⅰ類A1。

[概要] 本古墓群でもっとも丘陵側に奥まって掘り込まれている。墓室内が煤けている。納骨された蔵骨器3点、転用蔵骨器1点が出土。(第34・35図)

[造営の特徴] 岩盤を掘削して横穴を掘り込み、墓室を造った墓(フィンチャー)。丘陵の岩盤をもっとも奥深いところまで掘り込んで造られている。墓庭部分の掘削は深い所で約5mである。

[屋根] 米軍の廃棄物を埋める穴が掘削されており不明である。この攪乱部分

第1表 各墓の特徴一覧

墓室分類	墓番号	意外観種別	規模	墓室平面形	墓室天井の形態		1番タナ高	1番タナ低	出窓状タナの有無	出窓状タナ中開タイプ	タナ無し	タナの長さ		出窓状タナの長さ		石の付着	ウーシの付着	墓口の向き	位置		
					平用	アーチ						正面	右	左	正面					右	左
I類A1	6号墓	亀甲墓A	中型	五角形	●		●		●			60~80cm未満	1	1	1	1	●	●	北北西	丘陵北側	
I類A1	10号墓	平葺墓A	中型	方形	●		●		●			60~80cm未満	1	1	1	1		●	北北西	丘陵北側	
I類A1	19号墓	掘込墓A	中型	方形	●		●		●			60~80cm未満	1	1	1	1			東北東	丘陵北側	
I類A2	8号墓	平葺墓A	中型	方形	●		●		●			40~60cm未満	2	1	1	1		●	北北西	丘陵北側	
I類B	4号墓	掘込墓A	中型	方形	●		●					40~60cm未満	1	1	1				南西	丘陵南側	
II類A	5号墓	平葺墓B	中型	長方形	●			●				30cm以下	5	1	1			●	●	北北西	丘陵北側
II類A	9号墓	亀甲墓A	大型	方形	●			●				30cm以下	3	1	1			●	●	北北東	丘陵北側
II類B	1号墓	平葺墓A	中型	方形	●			●		●		30cm以下	3	1	1			●	●	南南東	丘陵南側
II類B	3号墓	平葺墓A	中型	方形	●			●		●		30cm以下	3	1	1			●	●	南南東	丘陵南側
III類	18号墓	亀甲墓B	中型	五角形	●	●			●			40~60cm未満	1	1	1	1		●		南西	丘陵南側
IV類A	7号墓	亀甲墓B	中型	方形	●			●				30cm以下	2	1	1	1		●	●	北北西	丘陵北側
IV類A	12号墓	掘込墓A	中型	隅丸方形	●			●	●			30cm以下	1	1	1	1				北北東	丘陵北側
IV類B	2号墓	平葺墓A	大型	長方形	●			●				30cm以下	3	1	1			●	●	南南西	丘陵南側
IV類B	11号墓	平葺墓B	中型	長方形	●			●				30cm以下	3	1	1			●		北北東	丘陵北側
IV類B	13号墓	掘込墓A	中型	方形	●			●				30cm以下	3	1	1					北北東	丘陵北側
IV類B	14号墓	掘込墓A	小型	不定形	●			●				30cm以下	1		1					北東	丘陵北側
IV類C	20号墓	亀甲墓A	大型	不定形	●			●				30cm以下	5	1	1			●	●	北北西	丘陵北側
V類	16号墓	掘込墓B	小型	不定形	●					●										北東	丘陵北側
V類	17号墓	掘込墓B	小型	不定形	●					●										北東	丘陵北側
V類	21号墓	掘込墓B	小型	不定形	●					●										北東	丘陵北側
VI類	15号墓	掘込墓C	小型	方形						●										北北東	丘陵北側
VI類	22号墓	掘込墓C	小型	横円形						●										西北西	丘陵北側
VI類	23号墓	掘込墓C	小型	方形						●										西北西	丘陵北側

例)

- は有するもの。無いものや不明は未記入である。
- 墓室の平面形は、大別して、墓室としての部屋の形を捉えるために、出窓状タナを除いた形態を見ることとする。
- 墓の向きは、蓋石を止める段差部から外側とした墓口の向きである。

からは、骨折時に使う樹脂製の添え木が出土した。

〔墓庭〕床面岩盤を深く掘り下げている。墓庭入口の造りは不明。袖垣に石積みは見られない。

〔サンミデー〕サンミデー・カビアンジを持たない。

〔墓面〕全て岩盤を成形し、袖石をもたない。

〔墓口〕東北東。羨道・墓室ともにほぼ同様な向きである。墓口から羨道で約20cm大の石灰岩礫の集中が検出された。墓口を塞ぐ蓋石を止める段差をもつ造りであることから、墓口を閉じるためのものではないと考えられる。

〔羨道〕蓋石を止める段差は細長い石灰岩切石礫でつくる。

〔墓室〕墓室形態Ⅰ類A1としたもので、シルヒラシの面積が本古墓群で最も広い。1番タナも最も高く、出窓状タナをもつ。右タナの壁面の一部に焼痕が検出された。墓室内で物が焼けて墓室内の壁全面に煤が付着している。鉄製缶詰や鉄製タライ等が墓室内に散乱した状態で検出された。右タナの上には炭や衣類と考えられる炭化した繊維や鉄釘も出土した。

納骨された蔵骨器3点、転用蔵骨器1点出土。蔵骨器の配置は(第35図)、出窓状タナに置かれたものは銘書が無く、1段目タナの左端のもの(蔵骨器No.2)に道光4年が記され、右隣は同治7年である。蔵骨器No.2から陶製の雁首1点出土。壁面のノミ痕は不明瞭。

・20号墓：亀甲墓A。墓室形態Ⅳ類C。

〔概要〕本古墓群のなかでもっとも規模が大きいものである。墓口は開いており納骨は無い。墓庭は内庭と外庭がある。左袖垣の外には、爆弾の破裂痕が検出され破片が出土した。墓口は開いた状態であった。墓室内から1号墓と同様に鉢(方言でワンプー)が4個、2個づつ重ねられて出土した。

墓庭部分は米軍廃棄物処分用のコンクリート製ゴミ溜施設が造られており、その建設時の削平によって袖垣を失っている。墓の右側丘陵上には埋設式の貯油タンクがあり墓を一部壊す形で設置されている。(第36図)

〔造営の特徴〕岩盤を掘削して横穴を掘り込み、墓室を造った墓(フィンチャー)。墓庭・墓室ともに掘り込んでつくる。外庭は自然の岩盤を残して利用していたようである。20号と5号の間には丘陵上から墓に下りるための道があったという。この石列部分の下には大きな石灰岩の大岩がありそれを利用して墓の上部を造成している。伝道郷友会のかたがたからの聞き取り調査で、石列は墓の土地を区画する意味を持つものとのことであった。

〔屋根〕屋根を造成して成形し、セメントを施す。

〔墓庭〕内庭と外庭をもち、石積みで区画する。内庭の入口は墓の正面中央部に位置しているが、外庭は左袖垣を平面で見ると「L」字状に石積みが造られてい

第2表 基礎・基室の部位別計測一（註5を参照）

基 番 号	種 類	基 室 形 態 分 類	基礎 (㎡)					基口 (基面-蓋石段差)			溝道 (蓋石段差-シルヒラシの境目)			基口 十 溝道		基室				シルヒラシ						
			面 積 (㎡)	幅 行	サ ン ミ デ 1	外 廊 (前 庭)	基 室	高 さ	天 井 奥 行	床 面 奥 行	高 さ	天 井 奥 行	床 面 奥 行	溝 行 (床 面)	面 積 (㎡)	幅 行	奥 行	出 発 点 以 下 の 溝 道	出 発 点 以 上 の 溝 道	面 積 (㎡)	幅 行	天 井 高				
																							2.95 (3.37)	9.30	0.48	5.05
1	平	見開B	13.15	3.46	(3.62)	1.21	-	-	1.14	0.76	0.40	0.68	1.14	0.62	1.58	1.10	1.78	5.67	2.48	2.43	-	-	1.57	1.38	1.22	1.64
2	平	見開B	35.46	4.96	(7.28)	1.96	-	-	1.04	0.68	0.44	0.64	0.86	0.68	0.98	0.86	1.50	8.67	2.68	3.54	-	-	2.19	1.48	1.52	1.64
3	平	見開B	14.37	3.85	3.80	1.67	-	-	1.10	0.70	0.40	0.36	0.96	0.66	1.24	0.90	1.26	7.04	2.92	2.71	-	-	2.14	1.70	1.25	1.62
4	掘込	見開B	20.54	3.36	5.70	-	-	-	1.10	0.60	0.37	0.49	0.90	0.62	0.68	0.57	1.06	7.00	3.20	1.76	-	-	3.00	2.08	1.08	1.60
5	平	見開A	23.46	4.72	5.14	2.32	-	-	1.04	0.62	0.43	0.46	1.62	0.66	0.68	0.66	1.12	9.87	2.69	3.34	-	-	1.87	1.35	1.35	2.23
6	掘	見開A	29.00	5.14	5.82	2.12	-	12.7	1.32	0.84	0.30	0.52	1.06	0.77	0.50	0.48	1.00	9.78	3.44	2.95 (3.37)	9.30	0.48	5.05	2.42	2.18	1.62
7	掘	見開A	27.92	4.56	6.3	-	-	-	1.18	0.68	0.22	0.54	1.00	0.70	1.02	1.14	1.68	7.87	3.04	2.56 (3.08)	-	-	3.09	2.02	1.66	1.86
8	平	見開A	26.69	3.92	(4.87)	2.21	-	-	1.28	0.92	0.25	0.60	1.10	0.90	0.62	0.58	1.18	9.19	2.74	2.96 (3.32)	8.72	0.47	3.12	1.90	1.76	1.52
9	掘	見開A	30.48	5.12	6.09	2.42	-	-	1.04	0.66	0.46	0.47	1.10	0.66	0.98	0.96	1.43	9.28	2.67	2.90	-	-	2.86	2.00	1.46	1.90
10	平	見開A	19.37	3.42	(5.58)	-	-	-	1.12	0.90	0.17	0.52	1.0	0.82	0.67	0.80	1.32	11.47	3.62	3.06 (3.62)	10.88	0.59	5.90	2.44	2.54	1.68
11	平	見開B	11.74	2.84	4.3	1.07	-	-	-	0.64	-	0.49	-	0.54	-	0.54	1.03	6.95	2.48	2.72	-	-	2.58	1.90	1.32	1.70
12	掘	見開A	-	2.76	-	-	-	-	1.40	0.70	0.22	0.30	1.10	0.67	1.18	0.80	1.20	6.90	2.64	2.40 (2.80)	6.13	0.47	2.49	1.80	1.40	1.64
13	掘	見開B	-	2.70	-	-	-	-	1.15	0.80	0.42	0.42	1.00	0.76	0.98	0.98	1.40	4.98	2.00	2.35	-	6.13	1.25	1.30	0.99	1.62
14	掘	見開B	-	-	-	-	-	-	1.14	0.72	0.12	0.48	0.85	0.58	0.28	0.28	0.76	3.17	2.18	1.90	-	-	1.97	1.74	1.14	1.16
15	掘	見開	-	-	-	-	-	-	0.56	0.64	-	-	-	-	-	-	-	0.21	0.60	0.48	-	-	-	-	-	
16	掘	見開	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.83	1.35	0.82	-	-	-	-	-	
17	掘	見開	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.60	1.12	0.56	-	-	-	-	-	
18	掘	見開	24.98	4.83	5.53	-	-	-	0.98	0.68	0.48	0.59	0.92	0.68	0.20	0.63	1.22	6.81	3.18	2.56 (3.20)	6.17	0.64	3.38	2.22	1.86	2.02
19	掘	見開A	11.04	2.53	(4.26)	-	-	-	1.26	0.90	0.30	0.48	1.10	0.82	0.56	0.34	1.02	11.30	4.14	3.06 (3.62)	10.86	0.44	6.69	2.78	2.50	1.70
20	掘	見開C	32.04	5.24	6.17	2.09	35.43	-	1.02	0.90	0.42	0.42	1.00	0.62	0.46	0.44	0.86	8.39	3.36	3.53	-	-	2.06	2.56	3.52	1.72
21	掘	見開	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
22	掘	見開	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.23	0.80	0.34	-	-	-	-	-	
23	掘	見開	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.51	0.96	0.80	-	-	-	-	-	

タナ (正面)										出窓状タナ正面 (幅は最大値)			出窓状タナ左			タナ (左右)										
1番タナ		2番タナ		3番タナ		4番タナ		5番タナ								右		左								
高	奥	高	奥	高	奥	高	奥	高	奥	高	奥	天	高	奥	天	高	奥	高	奥							
幅	幅	幅	幅	幅	幅	幅	幅	幅	幅	幅	幅	井	幅	幅	井	幅	幅	幅	幅							
さ	行	さ	行	さ	行	さ	行	さ	行	さ	行	高	さ	行	高	さ	行	さ	行							
0.24	2.42	0.39	0.16	2.38	0.38	0.22	2.04	0.44	-	-	-	-	-	-	-	0.22	1.16	0.54	0.23	1.12	0.56					
0.30	2.60	0.95	0.20	2.47	0.44	0.24	2.32	0.62	-	-	-	-	-	-	-	0.20	1.46	0.60	0.22	1.44	0.60					
0.30	2.82	0.58	0.38	2.42	0.40	0.26	1.82	0.48	-	-	-	-	-	-	-	0.38	1.17	0.70	0.36	1.22	0.52					
0.42	3.0	0.68	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.40	1.60	0.58	0.44	1.64	0.54					
0.26	2.79	0.38	0.29	2.79	0.42	0.22	2.80	0.38	0.24	2.82	0.37	0.28	2.82	0.44	-	0.27	1.35	0.60	0.29	-	0.74					
0.72	3.14	0.77	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.03	1.14	0.42	0.84	0.14	1.28	0.40	0.68	0.06	1.50	0.48	0.58	1.68	0.54	
0.20	2.97	0.48	0.30	2.28	0.42	-	-	-	-	-	-	0.28	1.38	0.52	0.90	-	-	-	-	0.26	1.35	0.50	0.26	1.46	0.52	
0.50	3.00	0.62	0.10	2.84	0.58	-	-	-	-	-	-	0.06	0.86	0.56	0.88	-	-	-	-	0.44	1.59	0.42	0.66	1.59	0.42	
0.30	3.05	0.50	0.29	3.04	0.48	0.30	3.14	0.46	-	-	-	-	-	-	-	0.38	1.36	0.54	0.34	1.40	0.67	-	-	-		
0.64	3.46	0.52	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.07	1.72	0.60	1.02	-	-	-	-	0.52	2.96	0.61	0.52	2.90	0.57	
0.28	2.46	0.52	0.24	2.42	0.46	0.20	2.32	0.42	-	-	-	-	-	-	-	0.30	1.18	0.44	0.26	1.28	0.54	-	-	-		
0.29	2.64	0.52	0.21	2.28	0.48	-	-	-	-	-	-	0.34	1.18	0.40	0.86	-	-	-	-	0.30	1.22	0.52	0.22	1.20	0.52	
0.24	2.16	0.42	0.10	2.16	0.44	0.16	2.14	0.50	-	-	-	-	-	-	-	0.18	0.94	0.39	0.18	0.94	0.36	-	-	-		
0.12	2.22	0.46	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.23	0.90	0.44
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
0.54	2.58	0.70	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.14	1.10	0.64	1.06	-	-	-	-	0.48	1.08	0.50	0.27	1.34	0.46	-
0.68	3.66	0.56	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.06	1.02	0.56	0.72	-	-	-	-	0.78	1.86	0.76	0.74	2.24	0.60	-
0.13	2.61	0.42	0.12	2.62	0.42	0.16	2.62	0.42	0.12	2.62	0.48	0.12	2.58	0.50	-	-	-	-	-	0.14	0.77	0.40	0.12	1.02	0.40	-
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

る。外庭に迫出した状態の岩盤は内庭側は成形されている。

〔サンミデー〕石灰岩切石で造り、カビアンジを持つ。

〔墓面〕岩盤を成形しており、袖石も岩盤を削り出している。上部には石灰岩切石を積んでおりその上にマユ(眉)をのせている。セメントを塗って仕上げている。

〔墓口〕北北西。北からわずかに西側にずれている。9号墓と同様に石灰岩切石を天井部分と左右の壁にはめ込み、隙間を石灰岩小礫と土で塞ぐ。

〔羨道〕蓋石を止める段差は石灰岩切石を使って造る。羨道の部分の壁は岩盤である。

〔墓室〕墓室形態をⅣ類Cとしたもので、他の墓とは異なった特徴を持ち、裏正面の左右に柱状の張り出しをもつ。墓室の裏正面と正面の壁は中央部が高い三角状で、左右2面に分かれる印象をうける形である。タナは高さが低くサイズも規格的な造りである。右側奥の部分は岩盤を成形してつくるが、他は石灰岩の切石を配し、その内側に石灰岩の粉状の土を入れている。墓室内の横壁には亀裂がありセメントで補修されている。壁面は丁寧に仕上げられている。

・21号墓：掘込墓B。墓室形態Ⅴ類。

〔概要〕17号の東隣側にある墓。大半を失っている。岩盤を掘削して横穴を掘り込み、墓室を造った墓。納骨された蔵骨器の底部のみが出土し、幼児骨が納められていた。蔵骨器をは岩盤を掘り窪めて安置している。墓の外観については不明であるが、16・17号と同様な造りの墓と考えられる。(第33図)

・22号墓：掘込墓C。墓室形態Ⅵ類。

〔概要〕10号墓の左袖垣にある。遺物の出土は無い。墓室の平面形は楕円形。(第26・27図)

・23号墓：掘込墓C。墓室形態Ⅵ類。

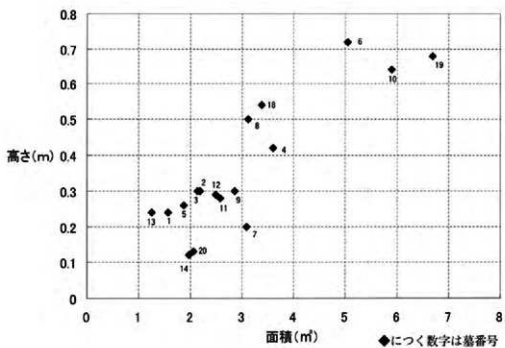
〔概要〕8号墓の左袖垣にある。平面形は長方形。石灰岩礫が詰まった状態であった。(第22・23図)

小 結

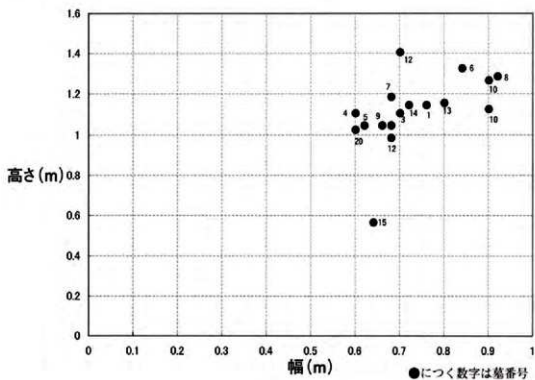
墓室の分類でみると、墓室天井が平坦なⅠ類は、1番タナが高く出窓状タナを持つ。墓室天井がアーチ形を呈するⅣ類は、1番タナが低く出窓状タナを持たない傾向が見られる(第1表)。

タナの高さでは、1番タナの高さが40cm以上のものと30cm以下に分かれ、Ⅰ類A1は1番タナが60cm以上でシルヒラシの面積が5㎡以上と広く、Ⅱ・Ⅳ類は1番タナが

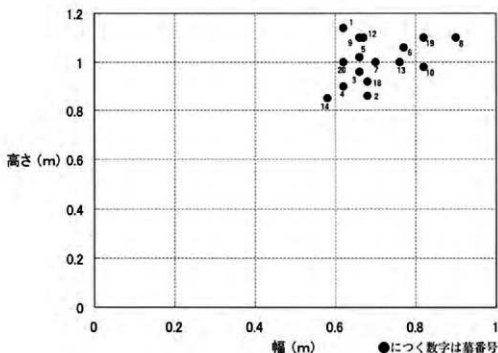
第4図 シルヒラシ面積と1番タナの高さの散布図



第5図 墓口の高さと幅の散布図



第6図 羨道の高さと幅の散布図



30cm以下でシルヒラシの面積は、ほとんどが3㎡未満である。Ⅰ類A2・Ⅰ類B・Ⅲ類は1番タナの高さは40cm以上でシルヒラシ面積は3㎡以上4㎡未満で中間にあり(第4図)、墓室の面積も同様な傾向である(第4図)。しかし、この傾向は墓の種類との関連は見うけられない。亀甲墓はⅠ類A1、Ⅱ類A、Ⅲ類、Ⅳ類A・C、平葺墓はⅠ類A1・A2、Ⅱ類A・B、Ⅳ類B、掘込墓はⅠ類B・Ⅳ類A・B、Ⅴ・Ⅵ類である。

以下、特徴的な部分をまとめてみる。

【墓口と羨道】

墓口と羨道を見ると、墓口は大半が高さ1m以上1.2m未満にあり、幅は60cm以上1m未満である(第5図)。Ⅰ類Aのグループはやや大きい傾向である。羨道は高さが80cm以上120cm未満にあり、幅は60cm以上70cm未満が多い(第6図)。墓口と羨道を合わせた奥行は1m以下のものは2基で、他は1m以上で最大は1.78mである。本古墓群は羨道の奥行が長いようである。

【構造】

構造は墓庭・墓室ともに基盤の石灰岩を掘り込んでいる。基盤の石灰岩の形成過程で生じる堆積の境目を利用し、墓室天井を平坦にしたり、墓面上部に石灰岩切石を積んでいる。

4・18号墓の墓室天井は裂け目が多く凹凸が激しいが、土で塞いで整形している。また、屋根の造りでは、約5cm大の礫を多く含む盛土を行い(1・3・6・7・8・10号墓)、その縁に石灰岩礫を施す。

【外観の特徴】

亀甲墓は、大型の9・20号墓・中型の7・18号墓がある。前者は造りが比較的新しく屋根の部分の形状などもしっかりしているが、中型の7号墓は、屋根の部分が本古墓群の平葺墓と同様な造られ方で、墓面は亀甲墓、岩盤の一部を漆喰で形作って整形していることから、折衷型と考えられるものである。

墓面の部位をみると、平葺墓にはウーシがあり、亀甲墓ではウーシを持つものもたないものがあり、ウーシを持たないものは18号墓である。掘込墓の墓面上部は残りが悪く不明である。また、袖石を持つものと持たないものがあり、持たないものは掘込墓Aに分類され、屋根部分の造り方が袖石をもつ墓と比して小規模のようである。丘陵北側では10号墓より東側にある。

墓面上部の袖石上面から上位に石灰岩切石を積むものがある（1・3・5・6・18号墓）。

【墓の向き】

墓の向きを大まかにみると丘陵北側は北北東（20号墓）、北北西（5・6・7・15・8・10号墓）、北東（16・17・21・14号墓）、西北西（22号墓）東北東（19号墓）の5方向を向き、丘陵南側では、南西（4・18号墓）、南南西（2号墓）、南南東（1・3号墓）の3方向である。羨道の向きはほぼ墓口と同じ方向を向くが、12号墓は羨道の向きと墓口の向きが大きく異なっており、風水などで、東・西・南・北の4方位に向けないほうが良いといわれる墓の向きを墓口の向きで調整したことが考えられる。

【蔵骨器の銘書に記された年号】

23基の墓のうち、6基の墓で銘書が記された蔵骨器があり、墓室内に納められていたのは4基（8・10・18・19号墓）、墓庭で壊された蔵骨器が一括して出土した6号墓、銘書が残る蔵骨器の蓋が出土した7号墓があり、その銘書に記された年号の古いものでみると、最も古い康熙年間の銘書が見られる墓室形態がⅠ類A1の6号墓（亀甲墓）、ついで雍正年間の銘書がみられる墓室形態がⅠ類A1の10号墓（平葺墓）、墓室の形態がⅠ類A2の8号墓（平葺墓）、乾隆36年の銘書が見られる墓室形態Ⅲ類の18号墓（亀甲墓）、道光4年の銘書が見られる墓室形態Ⅰ類A1の19号墓（掘込墓）、光緒13年の銘書が見られる7号墓（亀甲墓）となり、古い年号が見られる墓は、墓室の天井が平坦で1番タナが高く出窓状タナをもつものとなる。5基のうち4基は丘陵の北側に位置し北北西に向いている。

【墓の新旧関係】

切合関係でみると、1号より2号墓が、9号墓より8号墓が、11号より10号墓が古いことが判明した。これについては各墓の観察で述べる。

【銘書にみる村名】

銘書に見える集落名は、6号墓では前城、8号墓は傳道村（伝道村）、18号墓は玉代勢村である。

【役職名】

築登之・築登之親雲上・夫地頭・にや等で地方役人の経験者のようである。

<註>

1. 第2表の基準5)に同じ。
2. 「沖繩の祖先祭祀」1995年 平敷令治。390pで述べられている基本的な構成要素とする。『ヤジョーマーイ（屋形まわり）・ター（甲）・マユ（眉）・ウーシ（白）・ティーマー・スディイシ（袖石）』
3. 名嘉間宜勝先生から、「短期間の利用を目的とした墓ではないか」との助言をいただいた。
5. 〈第1・2表の基準について〉
 - 1). 左右は墓に向った状態である。
 - 2). 墓室のタナは、正面・左右ともにシルヒラシ側から順に数える。
 - 3). 面積の単位は㎡、その他はすべてmである。
 - 4). 計測値について、面積は実測図の下場ライン、奥行や幅は実測図の縦・横断面ラインで測り、上場・下場ラインを計測した。
 - 5). 墓口は、蓋石が墓の内と外を分けることから、蓋石を止める段差部から外側で墓面までとし、この段差の墓口側の面からシルヒラシとの境目の段差までを羨道と呼称した。羨道の墓室側の段差をもたないものは裏正面の壁面下場を結ぶラインとし、奥行の計測もこの基準で行った。羨道の高さ・幅は蓋石を止める段差部分で計測した。
 - 6). タナの高さはシルヒラシ床面の1番タナの下場からとする。幅は、タナに向かった状態で1番タナの上場のラインを基準とし側壁までとする。
 - 7). 墓室の奥行の（ ）内は出窓状タナを含む。

2. 植栽痕（第37図）

植栽痕と考えられるピット群が、丘陵の北側に位置する5・6号墓の墓庭前面から総数107個のピット群が検出された。5・6号墓庭の前面の平坦地から斜面にかけて、規則的に並んでおり、北西方向に長く広がっていたと考えられる。面積は25.17㎡。ピットは深さ3～20cmまであり、深さ6cmのものと10cm前後のものが多い。墓との前後関係は、判然としながNo86で土器の細片が1点出土していることから、グスク時代の可能性もある。

第Ⅳ章 遺 物

1. 蔵骨器

蔵骨器は方言で一般に「ジーシ」と呼ばれ、「ティラ」の呼称もあるもので、木製・石製・陶製などがあり、材質別には「イタジーシ」、「イシジーシ」、「ジーシガミ」があり、形態で「ボージャージーシ」や「ウドウンジーシ」などの呼称がある。死後3年以上の奇数年などに墓をあけて洗骨し、蔵骨器に納め再び墓に葬る。

本古墓群出土の蔵骨器は、陶製家形・甕形、転用品があり、ほとんどが甕形で、有頸甕形が多い。細片も含めて総数1055点得られた。そのうち墓室内に納骨された状態で安置されたものが31点得られ、うち3点は転用蔵骨器である。第3表に納骨蔵骨器出土一覧表、第5表に蔵骨器出土一覧、第6表に銘書の年代比較一覧を示した。

墓室内に安置されていた蔵骨器を中心に図化し、個別の観察については第4表に記した。実測図のないものでも銘書のあるものはすべて掲載した。6号墓墓庭で一括出土した蔵骨器の蓋に残る算用数字は、墓移転の際に記されたと考えられるもので、銘書の年号順に記したものではない。

以下、出土した蔵骨器の分類を示す。蓋の分類では、つまみが貼付けられている蓋頭部の円錐状の部分を「台」と仮称する。また、施釉された入母屋（御殿形）を呈するものにつくとと思われるもので、獅子の装飾の破片が1点出土していることから、A類を2つに分けた。

分類は「銘苅古墓群（Ⅰ）」那覇市教育委員会を参考にした。

A. 蔵骨器 蓋

蓋の分類は、以下のように大別する。

A類：屋根形で、入母屋（御殿形）を呈するもの。

1. 無釉の素焼（方言名：アカムン）である（第45図1、第51図1、第52図1）。身の分類I類の蓋である。
2. 施釉。（11号墓庭で獅子の装飾の破片が1点出土。）

B類：鋳を持たない、笠形を呈するもの。

1. 頭部が平坦なもの（第53図1、第64図1・2）。
2. 頭部から縁までがなだらかなもので、つまみを持つもの（第57図3・第53図3、第59図1など）。
3. 頭部に台とつまみをもち、なだらかに縁に至るもの（第57図1、第58図1、第64図7など）。胴部に貼付けの装飾をもち、内側の3ヶ所に舌状の突起で「き」（蓋が身かずれるのを防ぐもの）に相当するものを持つものがある（第64図11）。

C類：鏝を持たない帽子型を呈するもの。

1. 頭部につまみと台があり、「き」をもつもの（第59図3、第62図3など）。胴部に貼付けの装飾をもつものもある。
2. 頭部につまみと台があり、「き」をもたないもの（第54図5、第55図3）。

B. 蔵骨器 身

I類：陶製家形蔵骨器

蓋の形態がA類の入母屋（御殿形）を呈し、身は箱形で4隅に脚が付く。素焼である。方言で「アカムン」と称される。

II類：陶製無頸甕形蔵骨器

方言で「ボージャーシー」と称されるもので、口縁部が丸く肥厚し、頸部がほとんどないものである。口縁部の肥厚が外側に多いものと、内側に多いものがある。蓋は、B類のみである。

III類：陶製有頸甕形蔵骨器

身は頸部が立ち上がるもので、ほとんどマンガン釉が施されるが、素焼のものもある（第55図2）。

蓋はC類がほとんどであるが、第59図1はB類2である。

IV類：陶製有頸降棟付甕形蔵骨器

基本的にはIII類と同じ有頸で、肩部に瓦屋根の軒の装飾が施されるもの（第60図4）。

V類：転用品

日常生活品である壺を、蔵骨器に転用したものである（第58図3・4、第62図5）。

第3表 納骨された蔵骨器出土状況

出土地点 分類（身）	8号墓	10号墓	18号墓	19号墓	合計
I類A	2	0	0	0	2
II類	3	5	1	0	9
III類	9	0	4	3	16
IV類	0	0	1	0	1
V類	0	2	0	1	3
小計	14	5	6	3	28
合計	14	7	6	4	31

第4表 蔵骨器観察一覧(1)

挿図番号 図版番号	出土地点	蔵骨器 No	蓋/身	器形	法量 (cm)	銘 書	洗骨年 (西暦)	死亡年 (西暦)	西暦	備 考
第44図1 図版16の1	5号墓	墓庭	—	身 Ⅱ類	26.8 65.6 22.5	銘書なし。	—	—	—	窓孔3。底孔13。 蓋なし
第44図2 図版16の2	7号墓	墓庭	—	身 Ⅱ類	20.8 41.3 15.0	明治二十年丁十月一日洗骨	1887年	—	—	窓孔2。底孔2。 蓋なし
第44図3 図版16の3	7号墓	墓庭	—	身 Ⅱ類	29.8 24.5 19.6	銘書なし。	—	—	—	窓孔3。底孔3。 蓋なし
第45図1 図版17の1	6号墓	墓庭	—	蓋 A類	36.7 26.6 50.8 (39.8)	銘書なし。	—	—	—	「き」なし。
第45図2 図版17の2				身 Ⅰ類	49.5 (36.5) 39.1 48.9 (35.1)	妻 □熙三拾七年戊寅七/…□□/ …二月十七日/□□	—	—	1801年	窓孔3。底孔10。
第46図1 図版18の1	6号墓	墓庭	—	身 Ⅱ類	26.3 51.1 22.4	銘書なし。	—	—	—	窓孔3。底孔1。
第46図2 図版18の2	6号墓	墓庭	—	身 Ⅱ類	30.7 57.9 22.1	大清雍正五年丁未【……】/前 城□ かま戸当山男子/【……】	—	—	1727年	窓孔3。底孔4。
第46図3 図版18の3	6号墓	墓庭	—	身 Ⅱ類	27.5 50.6 24.0	銘書なし。窠印がある。	—	—	—	窓孔3。底孔6。
第46図4 図版18の4	6号墓	墓庭	—	身 Ⅱ類	24.8 49.5 18.5	銘書なし。	—	—	—	窓孔3。底孔6。
第47図1 図版19の1	6号墓	墓庭	—	身 Ⅱ類	22.5 49.8 19.1	銘書なし。	—	—	—	窓孔3。底孔6。
第47図2 図版19の2	6号墓	墓庭	—	身 Ⅱ類	21.9 48.2 20.1	銘書なし。	—	—	—	窓孔3。底孔3。
第47図3 図版19の3	6号墓	墓庭	—	身 Ⅱ類	23.5 45.8 19.4	銘書なし。	—	—	—	窓孔5。底孔4。
第47図4 図版19の4	6号墓	墓庭	—	身 Ⅱ類	26.4 45.9 21.8	銘書なし。	—	—	—	窓孔5。底孔5。
第47図5 図版19の5	6号墓	墓庭	—	身 Ⅱ類	20.8 36.9 15.9	銘書なし。	—	—	—	窓孔3。底孔6。窠印がある。
第47図6 図版19の6	6号墓	墓庭	—	身 Ⅱ類	23.0 39.4 18.0	銘書なし。	—	—	—	窓孔3。底孔5。窠印がある。

第4表 蔵骨器観察一覧(2)

挿図番号 図版番号	出土地点	蔵骨器 No.	蓋/身	器形	法量 (cm)	銘書	洗骨年 (西暦)	死亡年 (西暦)	西暦	備考
第48図1 図版20の1	6号墓	墓庭	—	身	Ⅱ類 27.7 55.7 21.4	銘書なし。	—	—	—	窓孔3。底孔5。
第48図2 図版20の2	6号墓	墓庭	—	身	Ⅱ類 27.7 55.7	銘書なし。	—	—	—	窓孔3。底孔5。
第48図3 図版20の3	6号墓	墓庭	—	身	Ⅱ類 27.2 55.1 22.0	□ [……] □ [……] 八月 / □ / [……] 二	—	—	—	窓孔不明。 底孔。
第48図4 図版20の4	6号墓	墓庭	—	身	Ⅱ類 29.2 — —	銘書なし。	—	—	—	窓孔5。 底孔不明。
第49図1 図版21の1	6号墓	墓庭	—	身	Ⅱ類 34.4 61.2 23.9	乾隆二拾四年 [……] / 夫地頭 前津 [……] / 夫婦洗 [……] / [……]	—	—	1759年	窓孔3。底孔13。 銘書は彫り込み。
第49図2 図版21の2	6号墓	墓庭	—	身	Ⅱ類 27.0 49.6 20.2	銘書なし。	—	—	—	窓孔1。底孔5。
第49図3 図版21の3	6号墓	墓庭	—	身	Ⅱ類 32.0 60.0 21.4	銘書なし。	—	—	—	窓孔不明。 底孔6。
第50図1 図版22の1	6号墓	墓庭	—	身	Ⅱ類 24.3 48.5 18.5	銘書なし。	—	—	—	窓孔5。 底孔(4)。
第50図2 図版22の2	6号墓	墓庭	—	身	Ⅱ類 27.0 48.0 21.8	銘書なし。	—	—	—	窓孔不明。 底孔5
第50図3 図版22の3	6号墓	墓庭	—	身	Ⅱ類 27.8 53.9 20.2	藏元之 / 津嘉山築登之親雲上	—	—	—	窓孔1。底孔7。
第50図4 図版22の4	6号墓	墓庭	—	身	Ⅱ類 31.0 61.0 24.5	銘書なし。	—	—	—	窓孔3。 底孔。
第51図1 図版23の1	8号墓	墓室 タナ	No.1	蓋	A類 — 43.5 46.2 (31.0)	大清乾隆十年乙丑八月十四日 / まつ仲宗根より仕立新ふね仕 / 傳道村 / むた新組 / 同人 / 女男 / 同人男子 / とく / 同人女孫 / かま戸 / だ (しめて) 西人	—	—	1745年	「き」なし。
第51図2 図版23の2				身	I類 49.0 (35.0) 43.5	銘書なし。	—	—	—	窓孔3。底孔11。

第4表 蔵骨器観察一覧(3)

押印番号 図版番号	出土地点	蔵骨器 No	蓋/身	器形	法量 (cm)	銘 書	洗骨年 (西暦)	死亡年 (西暦)	西暦	備 考
第52図1 図版24の1	8号墓	墓室 タナ	No.2	蓋	A類	乾隆三十九年甲午	—	—	1774年	「き」なし。
第52図2 図版24の2				身	I類	銘書なし。	—	—	—	窓孔3。底孔
第53図1 図版25の1	8号墓	墓室 タナ	No.3	蓋	B類	乾隆三十九年甲午八月廿八日/ 洗骨五ら/新垣	1774年	—	—	「き」なし。
第53図2 図版25の2				身	II類	銘書なし	—	—	—	窓孔5。底孔 3。
第53図3 図版25の3	8号墓	墓室 タナ	No.4	蓋	B類2	雍正拾壹年癸丑八月五日/傳道 村/むた新垣/女子なべ同人/ 女子こせい/まつ仲宗根/ 女子なへ/メ(しめて)三人	—	—	1733年	「き」なし。
第53図4 図版25の4				身	II類	銘書なし。	—	—	—	窓孔3。底孔 7。
第53図5 図版25の5	8号墓	墓室 タナ	No.5	蓋	B類1	乾隆三十九年甲午八月/廿八日 洗骨まか戸/ 妻/妻	1774年	—	—	「き」なし。
第53図6 図版25の6				身	II類	銘書なし。	—	—	—	窓孔3。底孔 6。
第53図7 図版25の7	8号墓	墓室 タナ	No.6	蓋	C類1	銘書なし。	—	—	—	「き」0.3cm。
第53図8 図版25の8				身	III類	銘書なし。	—	—	—	窓孔3。底孔 5。
第54図1 図版26の1	8号墓	墓室 タナ	No.7	蓋	C類1	仲宗根筑登之親雲上妻	—	—	—	「き」0.3cm
第54図2 図版26の2				身	III類	銘書なし。	—	—	—	窓孔1。底孔 4。
第54図3 図版26の3	8号墓	墓室 タナ	No.8	蓋	C類1	銘書なし。	—	—	—	「き」0.2cm
第54図4 図版26の4				身	III類	銘書なし。	—	—	—	窓孔3。底孔 7。

第4表 蔵骨器観察一覧(4)

神田番号 図版番号	出土地点	蔵骨器 No.	蓋/身	器形	法量 (cm)	銘 書	洗骨年 (西暦)	死亡年 (西暦)	西暦	備 考	
第54図5 図版26の5	8号墓	墓室 タナ	No.9	蓋	C類2	10.4 15.6 22.2	道光二十年甲子正月廿日/洗骨 仲宗根親雲上前妻/座喜味娘殿 親雲上女子かまと	1840年	—	—	「き」なし。
第54図6 図版26の6				身	■類	26.4 52.8 20.5					
第55図1 図版27の1	8号墓	墓室 タナ	No.10	蓋	C類1	20.7 16.7 30.1	咸豊四年甲寅四月十日/洗骨仕 統/ かめ仲根(線をひいて消されて いる)/かめ仲宗根/同人/妻	1854年	—	—	「蓋」0.1cm。 外面に丸い筒 状の形押印? が7個ある。
第55図2 図版27の2				身	■類	26.2 65.3 20.8					
第55図3 図版27の3	8号墓	墓室 タナ	No.11	蓋	C類2	10.0 15.2 28.5	昭和八年酉田九月廿二日/洗骨 /亀仲宗根	1933年	—	—	「き」なし。
第55図4 図版27の4				身	■類	29.6 57.8 19.5					
第55図5 図版27の5	8号墓	墓室 タナ	No.12	蓋	C類2	10.8 14.0 28.9	銘書なし。	—	—	—	「き」なし。
第55図6 図版27の6				身	■類	28.0 56.1 56.1					
第56図1 図版28の1	8号墓	墓室 タナ	No.13	蓋	C類1	9.1 13.0 23.1	No.13 大正道光六年丙戌/症瘵二行死 去/かめ仲宗根女子/かま戸/ かめ仲宗根女子/かま戸	—	1826年	—	「き」0.5cm。
第56図2 図版28の2				身	■類	21.6 38.0 15.4					
第56図3 図版28の3	8号墓	墓室 タナ	No.14	蓋	C類2	9.1 7.8 11.8	昭和八年旧西九月二十二日/亀 仲宗根/ノ叔母/ナリ	—	—	1933年	「き」なし。
第56図4 図版28の4				身	■類	20.6 32.5 11.8					
第56図5 図版28の5	8号墓	北側 土手 斜面	—	身	器種 不明	— —	銘書なし。	—	—	—	—
第56図6 図版28の6	9号墓	横庭 外斜 面	—	身	器種 不明	— 14.8	銘書なし。	—	—	—	—

第4表 蔵骨器観察一覧(5)

押印番号 図版番号	出土地点	蔵骨器 No.	蓋/身	器形	法量 (cm)	銘 書	洗骨年 (西暦)	死亡年 (西暦)	西暦	備 考	
第56図7 図版28の7	6号墓	墓庭	—	身	不明	銘書なし。	—	—	—	底孔5。	
第57図1 図版29の1	10号墓	墓室 タナ	蓋	B類3	6.6 16.2 31.2	雍正二年申辰/傳道村ます/父 儀保/同人/母親/同人/弟/ 八月八日	—	—	1724年	「き」cm。	
第57図2 図版29の2	10号墓	墓室 タナ	No.1 身	II類	27.2 53.4 22.0	銘書なし。	—	—	—	窓孔3。底孔 6。 鉄製頭首1点・ 吸口1点出土。	
第57図3 図版29の3	10号墓	墓室 タナ	No.2	蓋	B類2	4.6 12.0 33.0	先寺□□不□□二面脱/乾隆三 拾壹年儀修此寺二成ル	—	—	1766年	「き」なし。
第57図4 図版29の4				身	III類	27.2 51.4 22.4	銘書なし。	—	—	—	窓孔3。底孔 4。 ガラス小玉10 点出土。
第57図5 図版30の5	10号墓	墓室 タナ	No.3	蓋	C類2	10.9 31.5	乾隆三拾壹年戊七月六日/二ら 比嘉ます	—	—	—	「き」なし。
第57図6 図版30の6				身	III類	25.5 20.0 49.8	窠印あり。	—	—	—	窓孔3。底孔 5。
第57図7 図版30の7	10号墓	墓室 タナ	No.4	蓋	C類1	8.6 11.2 31.3	乾隆三十九年甲午七月七日骨取 伸地にや	—	—	1766年	「き」なし。
第57図8 図版30の8				身	III類	28.5 47.5 22.9	銘書なし。	—	—	—	窓孔3。底孔 5。
第58図1 図版31の1	10号墓	墓室 タナ	No.5	蓋	C類2	9.1 9.6 30.7	癸未八月十二日 / 傳道村伸 地にや / 母親	—	—	—	「き」なし。
第58図2 図版31の2				身	III類	26.9 48.7 23.1	癸未八月十二日 / 傳道村伸 地にや / 母親	—	—	—	窓孔3。 底孔6。
第58図3 図版31の3	10号墓	墓室 タナ	No.6	身	V類	14.0	銘書なし。	—	—	転用蔵骨器。 壺。	
第58図4 図版31の4	10号墓		No.7	身	V類	14.0 49.0 21.5	銘書なし。	—	—	転用された壺 ?	
第58図5 図版31の5	12・13 号墓	墓庭 前	—	身	III類	— — 23.8	銘書なし。	—	—	—	窓孔・底不明。

第4表 蔵骨器観察一覧(6)

棟号番号 図版番号	出土地点	蔵骨器 No.	蓋/身	器形	法量 (cm)	銘書	洗骨年 (西暦)	死亡年 (西暦)	西暦	備考
第58図6 図版31の6	17号墓	左表 様	—	身 日類	24.0 49.0 25.8	銘書なし。	—	—	—	窓孔1。底孔 5。窯印あり。
第59図1 図版32の1	18号墓	墓室 タナ	No.1	蓋	B類2 9.5 19.9 37.5	乾隆三十六年辛卯十月十一日/ 五代勢村新垣筑之親雲上/同人 妻	—	—	1771年	「き」なし。
第59図2 図版32の2				身	日類 37.4 61.0 24.3	五代勢村/新垣築之親/同人妻 /十月十一日	—	—	1771年	窓孔3。底孔 4。
第59図3 図版32の3	18号墓	墓室 タナ	No.2	蓋	C類1 10.2 12.2 27.5	乾隆五十四年己酉十一月十九日 洗骨/カナ新垣	1789年	—	—	「き」0.7cm。
第59図4 図版32の4				身	— 25.9 53.1 24.0	乾隆五十四年己中十一月十九日 /故カナ新垣 男子洗骨	1789年	—	—	窓孔3。底孔 4。
第60図1 図版33の1	18号墓	墓室 タナ	No.3	蓋	B類2 6.5 10.7 34.0	五代勢村新垣筑之親雲上/男子 新垣筑之/己酉 九月十二日	—	—	—	「き」なし。
第60図2 図版33の2				身	日類 33.5 59.5 24.9	五代勢村新垣筑之親雲上/男子 新垣筑之/己酉 九月十二日	—	—	—	窓孔5。底孔 5。窯印あり。
第60図3 図版33の4	18号墓	墓室 タナ	No.4	蓋	C類1 12.2 15.7 30.7	嘉慶三年九月十三日洗骨/新垣 にや/道光十六年七月七日/故 新垣にや妻	1798年	—	—	「き」0.6cm。
第60図4 図版33の5				身	青類 32.6 59.6 23.2	銘書なし。	—	—	—	窓孔3。底孔 6。鉄製髻2点出 土。
第61図1 図版34の1	18号墓	墓室 タナ	No.5	蓋	C類1 10.0 17.4 29.5	咸豐七年丁巳七月八日洗骨/五 ら新垣	1857年	—	—	「き」0.3cm。
第61図2 図版34の2				身	日類 25.2 49.6 21.0	銘書なし。	—	—	—	窓孔3。底孔 5。
第61図3 図版34の3	18号墓	墓室 タナ	No.6	蓋	C類1 — 15.8 29.2	光緒五年卯 八月五日洗骨/伝 道親雲上	—	—	1879年	(明治12年)
第61図4 図版34の4				身	日類 29.3 54.4 19.6	銘書なし。	—	—	—	窓孔1。底孔 9。鉄製髻1点出 土。
第61図5 図版34の5	19号墓	墓室 タナ	No.1	身	日類 33.0 56.0 22.1	銘書なし。	—	—	—	窓孔2。底孔 6。

第4表 蔵骨器観察一覧(7)

神岡番号 図版番号	出土地点	蔵骨器 No.	蓋/身	器形	法量 (cm)	銘書	洗骨年 (西暦)	死亡年 (西暦)	西暦	備考
第62図1 図版35の1	19号墓	墓室 タナ	No.2	蓋	C類1 9.2 17.0 29.4	大清道光四年甲申八月二十三日 新骨ノ照屋ノ母親	1824年	-	-	「き」0.4cm。
第62図2 図版35の2				身	皿類 28.0 56.8 20.4	銘書なし。	-	-	-	窓孔1。底孔 8。 陶製甕首1点 出土。
第62図3 図版35の3	19号墓	墓室 タナ	No.3	蓋	C類1 8.9 16.6 31.0	同治七年辰八月二十五日洗骨仕 申候ノ三良照屋ノたる一比嘉	1868年	-	-	「き」0.4cm。 明治1年
第62図4 図版35の4				身	皿類 28.5 52.2 19.6	銘書なし。	-	-	-	窓孔3。 底孔12。
第62図5 図版35の5	19号墓	墓室 タナ	No.4	身	V類 19.3 37.8 16.5	銘書なし。	-	-	-	転用蔵骨器。 蓋で蓋印あり。
第62図6 図版35の6	19号墓	入口 付近	-	身	器種 不明 - - 17.2	銘書なし。	-	-	-	底部。
第64図1 図版37の1	8号墓	墓外	-	蓋	B類1 - 6.5 21.0	銘書なし。	-	-	-	「き」なし。
第64図2 図版37の2	6号墓	墓庭	-	蓋	B類1 8.1 6.1 23.0	乾隆五拾五年庚戌九月十八日/ かま戸津嘉山男子 <small>むた</small> □洗骨治之 也/ 19 (移転の時の連番と思われ る)	1790年	-	-	「き」なし。
第64図3 図版37の3	6号墓	墓庭	-	蓋	B類2 7.0 9.8 29.8	乾隆五拾五年庚戌九月五日 [...] 仲村渠にや男[...] 仲村 渠洗骨治之也/□七月□日 村渠にや/ 21 (移転の時の連番と思われ る)	1790年	-	-	「き」なし。 竈で消された 銘書がある。
第64図4 図版37の4	6号墓	墓庭	-	蓋	B類3 7.2 10.2 29.7	大清乾隆五 <small>年</small> □庚申七月十一日/ かま戸当山女子かま戸ノ	-	-	-	1740年と考え られる。 「き」なし。
第64図5 図版37の5	6号墓	墓庭	-	蓋	B類3 7.1 11.2 29.5	康熙五年丁未 (年と干支があ わない。康熙六年?)ノ十二月 廿六日死去ノ前城村天久にやノ	-	1666年 または 1667年	-	「き」なし。
第64図6 図版37の6	6号墓	墓庭	-	蓋	B類3 7.0 9.8 28.7	五十五 康熙□□□年丙申ノ一 樽天久 ノ一 女房ノ[.....]ノ	-	-	-	干支から1716 年と考えられ る。「き」なし。
第64図7 図版37の7	6号墓	墓庭	-	蓋	B類3 6.5 11.3 27.1	銘書なし	-	-	-	「き」なし。

第4表 蔵骨器観察一覧(8)

棟号 図版番号	出土地点	蔵骨器 No.	蓋/身	器形	法量 (cm)	銘 書	洗骨年 (西暦)	死亡年 (西暦)	西暦	備 考
第64図8 図版37の8	6号墓	墓庭	—	蓋 B類3	8.0 13.9 14.9	雍正十年□八月七日安□ 真城ノ/□男子ノ	1732年	—	—	「き」なし。
第64図9 図版37の9	6号墓	墓庭	—	蓋 B類3	— — 37.0	大 □正元年子旧七月/二日元ノ年 前城津 ^東 山□ノ墓ヨリ引□[… …]ノ	—	—	—	1912年(大正1年)と考えられる。舌状の「き」に相当する突起が3個ある。
第64図10 図版37の10	6号墓	墓庭	—	蓋 C類1	11.2 14.2 29.9	嘉慶六年辛酉ノ八月廿六年ノ ^東 □津嘉山ノ同人□ノ	1801年	—	—	「き」0.75cm。
第64図11 図版37の11	6号墓	墓庭	—	蓋 C類1	11.1 14.9 30.5	(家人?) 戊九月十八日とく儀間同人□ □□□ノ洗骨治之也ノ	—	—	—	乾隆55年(1790年)と考えられる。 「き」0.7cm。
第65図1 図版38の1	6号墓	墓庭	—	蓋 C類1	11.4 15.9 29.3	嘉慶六 ^東 □辛酉八月廿六日ノ 二らせ喜味ノ	—	—	1801年	「き」0.6cm。
第65図2 図版38の2	7号墓	—	—	蓋 C類1	7.4 — 20.1	亥日十月廿日洗骨四代伊禮樂登 之次男ノ同発亥十月廿六日四代 伊禮樂登之女子うしや当歳五ノ	—	—	—	「き」0.5cm。 銘書の「四代」は線を引いて消されている。
第65図3 図版38の3	6号墓	墓庭	—	蓋 C類1	10.1 13.9 27.4	新 ^東 五 ^東 除 ^東 □五年□戊九月十八日仲 村渠にや同人妻洗骨ノ	1790年 と考え られる。	—	—	「き」1.0cm。
第65図4 図版38の4	6号墓	墓庭	—	蓋 C類1	11.0 15.7 29.0	道光九年丑七月七日洗骨たる上 間妻ノ光緒十一年乙酉八月三日 東ノ墓所より此所へ引移元祖 ノ六男也ノ明治十八年ノ大正元 年子旧七月十二日ノ寛川墓ヨリ 此所へ引移ノ洗骨たる上(間) 妻同□□□四月十日ノ 26(移転の時の連番と思われる)	1829年	—	—	別の墓から2回、移している。 1885年(明治18年)1912年(大正1年)。 「き」0.35cm。
第65図5 図版38の5	6号墓	墓庭	—	蓋 C類1	8.7 14.3 31.6	妻ノ明治三子八月ノ洗骨ノ	1864年	—	—	「き」0.4cm。
第65図6 図版38の6	6号墓	墓庭	—	蓋 C類1	11.3 18.0 32.2	銘書なし。	—	—	—	「き」0.4cm
第65図7 図版38の7	6号墓	墓庭	—	蓋 C類1	11.0 13.7 28.3	咸豊十ノ八月廿日ノ洗骨ノ土 座喜味ノかま座喜味ノ 11(移転の時の連番と思われる)	1860年	—	—	「き」0.2cm。

第4表 蔵骨器観察一覧(9)

種別番号 図版番号	出土地点	蔵骨器 No.	蓋/身	器形	法量 (cm)	銘 書	洗骨年 (西暦)	死亡年 (西暦)	西暦	備 考
第65図8 図版38の8	6号墓	墓庭	—	蓋 C類1	10.1 14.3 27.8	道光二十年/戊三月十一日/洗骨/童子名者/かま戸と言/藏元之/津14 (移転の時の連番と思われる)	1840年	—	—	「き」0.2cm.
第65図9 図版38の9	7・6号	—	—	蓋 C類1	10.0 — 28.1	明治廿八年〔……〕月十二日洗骨伊禮榮登之〔……〕子年全月全□日洗骨全/光緒廿一年/マ□当歳五ツ/	1895年	—	—	明治28年。7・6号墓出土の接合品。「き」0.1cm.
第65図10 図版38の10	19号墓	墓室	—	蓋 C類1	11.1 19.1 31.2	銘書なし	—	—	—	シルヒラン出土。19号墓蔵骨器No.1のものか?。「き」0.1cm.
第65図11 図版38の11	13号	墓庭前	—	蓋 C類1	6.8 9.3 23.2	十九日明治廿四年旧/	1891年	—	—	明治24年。「き」0.2cm.
— —	6号墓	墓庭	—	蓋 B類	— — —	□十三/□月六日洗骨/座喜味男子/当〔……〕/	—	—	—	同一個体と思われる。
— —	6号墓	墓庭	—	蓋 B類	— — 16.8	乾□/	—	—	—	
— —	6号墓	墓庭	—	蓋 B類	— — —	上座喜味/	—	—	—	同一個体と思われる。
— —	6号墓	墓庭	—	蓋 B類2	— — 26.4	ま戸/	—	—	—	
— —	6号墓	墓庭	—	蓋 B類	— — —	〔……〕年□□/七月十二日/此治不二中□城/□城村若座喜味妹/此真加へ/	—	—	—	
— —	6号墓	墓庭	—	蓋 C類1	— — —	〔……〕城津山也明治□□年/光緒□一年/	—	—	—	「き」1.0cm.
— —	6号墓	墓庭	—	蓋	— — —	〔……〕屋洗/	—	—	—	
— —	6号墓	墓庭	—	蓋 C類1	— — —	〔……〕月廿日/	—	—	—	「き」0.4cm.
— —	6号墓	墓庭	—	蓋 C類1	— — 29.7	〔…〕/座喜味榮登之/同人/〔…〕13 (移転の時の連番と思われる)	—	—	—	「き」0.3cm.

第4表 蔵骨器観察一覧 (10)

柳園番号 図版番号	出土地点		蔵骨器 No.	蓋/身	器形	法量 (cm)	銘 書	洗骨年 (西暦)	死亡年 (西暦)	西暦	備 考
— —	6号墓	墓庭	—	蓋		— — —	三十□/十日/ [……] 元/ [……] /□/	—	—	—	
— —	6号墓	墓庭	—	蓋	B類	— — 30.0	乾隆二十/七月廿六日/但座喜 味男/同人男子/ [……] 座 [……] /同人女/ます/四人/ [……] /	—	—	1755年	
— —	6号墓	墓庭	—	蓋	B類2	— — 32.4	□年丁未/かま戸当/□/松/ 故□□土人人/	—	—	—	「土人人」は 線を引いて消 されている。
— —	6号墓	墓庭	—	蓋	B類	— — 34.9	乾隆五拾五年庚戌九月十八日 [……] 下洗□治之/ 12 (移転時の遺骨と思われる)	—	—	1790年	
— —	6号墓	墓庭	—	蓋	C類1	13.0 — 32.2	大正元年/荒川之墓/ 七十 □寿□□/	—	—	1912年	「き」1.0cm.

2. 沖縄産施釉陶器・円盤状製品

沖縄産（壺屋焼）の施釉陶器は、碗・小碗・皿・猪口・水注・湯呑・酒注・瓶・花瓶・火取・香炉・壺・大鉢・蓋・鍋が出土し、総数132点である。この中で碗が57点と最も多く、ついで大鉢15点、酒注、瓶の9点となる。8号墓では副葬品として墓室内に納められたものや、葬式の際に運んだものと思われる遺物が墓庭で集中して出土したことから出土が多い。また、1号墓では墓室タナの上から、20号墓シルヒラシからは、大鉢（方言名：ワンブー）が2個づつ重ねた状態で各4個出土した。遺物は特徴的なものを図化し報告する。第7表に出土状況、第9表に個別の観察を示した。以下、各器種について簡記する。

A. 沖縄産施釉陶器

a. 碗（第66図）

総数57点の出土である。ここでは19点を図示した。

灰釉・白化粧（印花・呉須絵）・鉄釉・掛け分け碗（鉄釉+灰釉・鉄釉+透明釉）がある。第8表に碗の出土一覧を示した。

①灰釉碗（第66図1～8）

灰釉碗は破片のみの出土で全形の伺えるものは無い。釉葉で見ると灰色が強いもの、茶色が強いものと褐色を帯びたものがあり文様は見られない。

口縁部でやや外反するものと直線的なものがある。底部は、ほとんどが高台脇から直線的に立ち上がる器形であるが、第60図5は高台脇から緩やかに膨らみながら立ち上がる。

高台の高いものと低いものがあり、前者は底の厚さが約5mmと比較的薄く後者は約1cmと厚みがある。ほとんど高台の内底面が平坦に整形されるが、第62図8のみ中央部を凸状に残して周辺を削る。

②鉄釉碗（第66図9）

1点のみの出土である。底部資料で、釉は見込みには施さず蛇の目を描く。

③掛け分け碗（第66図10・11）

11は、外面に鉄釉、内面は灰釉が施され、底が厚く高台内底面を平坦に浅く削る。10は外面に鉄釉、内面は透明釉で底が薄く、高台内底面を平坦に深く削る。見込みに釉が円形に施されているが発色していない。

④白化粧碗（第66図12～19）

無文と花文・菊花がある。菊花はやや小振りである。器形は腰部から緩やかに立ち

第5表 蔵骨器出土状況

出土地点		1号墓		2号墓		3号墓		4号墓		5号墓		6号墓		7号墓		8号墓		9号墓		10号墓		11号墓			
		墓室	外明	墓室	外明	墓室	外明	墓室	外明	墓室	外明	墓室	外明	墓室	外明	墓室	外明	墓室	外明	墓室	外明	墓室	外明		
I類(定形)	A(無飾)	頭部										1		2											
		胴部																							
		縁																							
	身	口縁										1		2											
		底																							
B(無飾)	頭部	胴部																							
		縁																					1		
	身	口縁																							
		底	1																						
II類(無須ボージャ)	頭なし	胴部										8		3					5						
		縁										4													
	頭あり	口縁										15	1												
		底										1	23												
	身	口縁										4											1		
		底																							
III類(有用)	頭なし	胴部																							
		縁											1												
	頭あり	口縁																							
		底			1		1	1					12	1									1		
	身	口縁								1		9		2		9									
		底										3					2								
	頭なし	胴部																							
		縁																							
	頭あり	口縁																							
		底											3	2	2		4		2						
	頭なし	胴部																							
		縁																							
	頭あり	口縁																							
		底																							
IV類(転用蔵骨器)	頭なし	胴部																							
		縁																							
	頭あり	口縁																							
		底																							
器種不明	頭なし	胴部																							
		縁																							
	頭あり	口縁																							
		底																							
小計		1		0		8		9	2	5	4	2	853	1	1	17	1	28	12	20	2	5	12	3	3
総合計		1		0		8		16		4		856		19		60		7		12		6			

12号墓	13号墓	14号墓	15号墓	16号墓	17号墓	18号墓	19号墓	20号墓	21号墓	22号墓	23号墓	不 明	小 計
													3
													0
													0
													0
													3
													0
													0
													0
													0
													1
													0
													0
													0
													1
													0
							1						17
													4
						1			2				19
						1							25
													0
													0
													1
								2					6
						1	1						10
													1
													0
													1
							1						1
													0
													0
													1
							4	2					25
													9
													17
													17
							5	3					29
								2					1
	1												1
	1						1	1					2
	1												363
													4
									1				3
													0
													0
													0
													2
4		5				1	1	1	2		3	1	2
		1					1		1				4
4		9				4	13	1	1	2	10	1	8
										7	1		37
4	9	0	0	0	4	17	11	8	0	0	0	13	1055

第6表 出土蔵骨器・墓誌の年号比較

出土地点 年号	6号墓					7号墓					8号墓					蔵骨器No. (西暦) 洗骨年
	蔵骨器No. (西暦) 洗骨年	死亡年 (西暦)	西暦	年号	年号	蔵骨器No. (西暦) 洗骨年	死亡年 (西暦)	西暦	年号	年号	蔵骨器No. (西暦) 洗骨年	死亡年 (西暦)	西暦	年号	年号	
康熙		1666 1667		康熙5・6年												
			1698 1716	康熙37年 康熙55年												
雍正			1727 1732	雍正5年 雍正10年												1
										4			1733	雍正11年		
乾隆			1740	乾隆5年						1			1745	乾隆10年		
			1755 1759	乾隆20年 乾隆24年												2 3
										5	1774			乾隆39年		4
										2			1774	乾隆39年		
										3	1774			乾隆39年		
		1790 1790 1790 1790		乾隆55年 乾隆55年 乾隆55年 乾隆55年												
嘉慶			1801 1801	嘉慶6年 嘉慶6年												
道光		1829		道光9年						13		1826		道光6年		
		1840	1829	明治24年 道光20年						9	1840			道光20年		
咸豐		1860		咸豐10年						10	1854			咸豐4年		
同治			1864	同治3年												
光緒			1885	光緒11年		1887										
						1895										
大正			1912 1912	大正1年 大正1年												
昭和										11	1933			昭和8年		
										14		1933		昭和8年		
										墓誌		1941		昭和16年		
不明										6						5
										7						6
										8						
										12						

10 号 墓			13 号 墓			18 号 墓			19 号 墓		
(死亡年 西曆)	西曆	年号	藏骨器 No.	(洗骨年 西曆)	(死亡年 西曆)	藏骨器 No.	(洗骨年 西曆)	(死亡年 西曆)	藏骨器 No.	(洗骨年 西曆)	(死亡年 西曆)
	1724	雍正 2 年									
	1766	乾隆 31 年									
	1766	乾隆 31 年				5		1771	乾隆 36 年		
		乾隆 39 年				2	1789		乾隆 54 年		
						4	1798		嘉慶 3 年		
									2	1824	道光 4 年
						6	1857			咸豐 7 年	
									3	1868	同治 7 年
						3	1879			光緒 5 年	
					1891	明治 24 年					
									4		
						1			1		

第7表 沖繩産施釉陶器出土状況

出土地点	器種	碗			小碗			皿			小杯			木注			湯呑			酒注			壺				
		定形	口形	胴底	定形	口形	胴底	定形	口形	胴底	定形	口形	胴底	定形	口形	胴底	定形	口形	胴底	定形	口形	胴底	定形	口形	胴底		
1号墓	甕 甕底 甕外 不明		4	1																							
2号墓	甕 甕底 甕外 不明	1				1																	1		1		
3号墓	甕 甕底 甕外 不明		2																1		1						
4号墓	甕 甕底 甕外 不明					1																					
5号墓	甕 甕底 甕外 不明		2																								
6号墓	甕 甕底 甕外 不明					2				1													1				
7号墓	甕 甕底 甕外 不明		6	4	1																						
8号墓	甕 甕底 甕外 不明	2	1	1	1	2	1	1							1					1		1	1	1	1		
9号墓	甕 甕底 甕外 不明							1																			
10号墓	甕 甕底 甕外 不明	3	2																								
11号墓	甕 甕底 甕外 不明					1																					
12号墓	甕 甕底 甕外 不明					1																					
14号墓	甕 甕底 甕外 不明					1																					
17号墓	甕 甕底 甕外 不明																										
18号墓	甕 甕底 甕外 不明		1			1									1									1			
19号墓	甕 甕底 甕外 不明	1				1																					
20号墓	甕 甕底 甕外 不明														1												
No.13 トレンク	甕 甕底 甕外 不明									1																	
地区不明		1	3	3	3			1												1	1	1					
小計		9	22	10	16	3	1	3			1	1		1		1	1			4	1	3	1	2	2	3	2
総合計			57			7			1			1			2					1			9			9	

花瓶			火取			香炉			盆			鉢			器種不明			小計	総合計	
左形	口	胴底	左形	口	胴底	左形	口	胴底	左形	口	胴底	左形	口	胴底	左形	口	胴底			左形
								4										4		9
																		1		5
																		1		5
																		1		5
																	1		2	4
					1								1					2		6
								1	1									13		13
2			2			2			2									10		34
1											1						1	12		
1																		12		
		1							1									3		3
																1		5		6
									1									1		2
																		1		2
									1									2		1
																		1		1
									1								1	3		9
									1							2		2		4
																1		2		6
									4									4		1
																		1		1
1																		1		21
6		3		1	2		2		9	5	1		1		1			1	5	21
	6		4			2		2				1					14			132

上がり口縁部がやや外反する。いわゆる「アラマカイ」と称されるものである。高台内底面を平坦に削るものと、中央部を凸状に削るものがある。

b. 小碗 (第67図1～6)

総数7点の出土である。釉薬は白化粧・掛け分け(鉄+灰・鉄+白化粧)・灰釉である。

器形は3種類である。高台脇から緩やかに立ち上がり口縁部でやや外反するもの(第67図1～3)、胴部側面を縦に面取されたもの(第67図5)、直口碗(第67図6)がある。

c. 皿 (第67図7)

底部破片1点のみの出土である。

d. 猪口 (第67図8)

小破片が1点の出土である。

e. 水注 (第67図9～10)

全形が伺えるものが1点(第67図10)、底部1点である。(第67図9)

f. 酒注 (第67図11～16・第68図11)

鉄釉・白化粧がある。鉄釉には無文(第67図12)と胴部に刻文を施す有文(第67図13・第68図11)があり、白化粧は線彫りの文様を施し釉で彩色するもの(第67図14・15)と、褐釉や呉須で文様を施すもの(第67図6)がある。

g. 瓶 (第68図1～5)

総数5点の出土である。鉄釉・鉄釉+灰釉がある。完形品は1点である。

h. 花瓶 (第68図6～10)

緑釉・白化粧がある。前者は、発色が悪くやや青みがかっている。後者は、呉須で細い圏線を施す。

i. 火取 (第68図12～14)

白化粧+呉須と鉄釉がある。前者は呉須を口縁部に施すものである。第62図12は、ムラが有り、所々釉が剥けている。

香炉 (第69図1・2)

いずれも8号墓室内出土で、緑釉である。検出時は、香炉の中に灰が入っていた(磨き砂と灰が混ざったものと考えられる)。

j. 壺 (第69図3・4)

8号墓室内出土品で、本品の中には、きざみ煙草の葉が納められていた。

k. 蓋 (第69図7)

鉄釉が外面に施されたものである。急須の蓋と考えられる。

l. 大鉢 (第69図5・6)

方言でワンプーと称される。外面は鉄釉、内面は白化粧である。

m. 土鍋 (第69図8)

胴下部まで、鉄釉が施される。器形は陶質土器の鍋と同様であるが焼締められたものである。

B. 円盤状製品 (第69図9)

本古墓群出土の円盤状製品は1点のみである。白化粧の小碗の底部を利用したもので、高台を残して打割成形された製品である。

第8表 沖縄産施釉陶器 碗 出土状況

出土地点	器種	灰釉			鉄釉			鉄+灰			鉄+透明釉			白+透明			印花			具柄絵			小計	總合計				
		完形	口縁部	底面	完形	口縁部	底面	完形	口縁部	底面	完形	口縁部	底面	完形	口縁部	底面	完形	口縁部	底面	完形	口縁部	底面						
1号墓	墓室																					0	5					
	墓庭																					0	0					
	墓外	2	1										2									5	0					
	不明																					0	0					
2号墓	墓室																	1				1	2					
	墓庭																					0	0					
	墓外		1																			1	0					
	不明																					0	0					
3号墓	墓室																					0	3					
	墓庭																					2	0					
	墓外												2					1				1	0					
	不明																					0	0					
4号墓	墓室																					0	3					
	墓庭											1										1	0					
	墓外																					0	0					
	不明																					2	0					
6号墓	墓室																					0	2					
	墓庭																					2	0					
	墓外			1				1														0	0					
	不明																					0	0					
7号墓	墓室																					0	11					
	墓庭																					0	0					
	墓外	6	4	1																		11	0					
	不明																					0	0					
8号墓	墓室																					0	8					
	墓庭	1	1	1														1		1		5	0					
	墓外																					3	0					
	不明			2									1									0	0					
9号墓	墓室																					0	0					
	墓庭																					0	0					
	墓外																					0	0					
	不明																					0	0					
10号墓	墓室																					5	5					
	墓庭																					0	0					
	墓外																					0	0					
	不明																					0	0					
11号墓	墓室																					0	1					
	墓庭																					0	0					
	墓外																					1	0					
	不明																					0	0					
12号墓	墓室																					0	1					
	墓庭																					0	0					
	墓外			1																		1	0					
	不明																					0	0					
14号墓	墓室																					0	1					
	墓庭																					0	0					
	墓外																					0	0					
	不明			1																		1	0					
18号墓	墓室																					0	3					
	墓庭																					0	0					
	墓外	1																				2	0					
	不明			1																		1	0					
19号墓	墓室																					1	2					
	墓庭																					1	0					
	墓外																					0	0					
	不明																					0	0					
地区不明			2	1	1											1	2	1	1	1		10	10					
小計	0	12	8	10	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0	1	4	8	1	2	4	2	1	0	1	0	0	0
總合計			30				1					2				1												57

第9表 沖縄産施釉陶器観察一覽(1)

挿図番号 図版番号	分類	口径 底径 器高 (cm)	素地	釉薬	器形・文様・その他の特徴	出土地点
第66図1 図版39の1	碗	12.6 — —	灰色	灰釉	粒子は細かい。釉は褐色味を帯びている。外面は全て釉がかっているが、内面は露胎部がある。口径部がやや厚く、丸味をもつ。	不明
第66図2 図版39の2	碗	— — —	乳白色	灰釉	粒子は微粒子。釉は淡い灰色。細かい貫入が口径部付近に多い。釉薬は口径部下3cm程度に残る。	8号墓庭床面
第66図3 図版39の3	碗	— 6.4 —	灰色	灰釉	粒子は細かい。釉は淡い灰色。胴部までつけ掛けを施す。素地は釉薬のとぎれた部分が赤茶褐色を呈する。貫入も見られる。腰部と見込み・高台は露胎。腰部に調整痕(ナデ)が帯状にある。その間は、素地がめくれたように荒い状態である。高台には目砂が付着。登付はスレている。器面は雑。	8号墓上部中央覆土
第66図4 図版39の4	碗	— 6.4 —	淡い 灰色	灰釉	粒子は細かい。素地は乳白色を呈す。透明釉状。高台脇にわずかに段をもち口縁部に向けて直線的に立ち上がる。器面調整は丁寧。高台内底面には削り痕がある。登付・高台内面・見込みに目砂が付着。登付はスレている。	不明
第66図5 図版39の5	碗	— 6.2 —	灰色	灰釉	粒子は細かい。やや褐色味を帯びた灰色で、貫入はみられない。高台脇から丸味を持って立ち上がる。高台内底面が平坦である。登付・見込みに目砂が付着。登付はスレている。	18号墓
第66図6 図版39の6	碗	— 6.1 —	淡い 灰色	黒釉 (鉄)	粒子は細かい。内底面に蛇の目輪割ぎを施す。下塗りの鉄釉を施した状態のもの。高台脇から、丸味をもって立ち上がる。高台には、白土が付着。高台内底面は調整時のひび割れが目立つ。	
第66図7 図版39の7	碗	— 7.0 —	乳白色	灰釉	粒子は細かい。見込み近くまでつけ掛けが施されるが、片側が深い。貫入はみられない。高台脇に段を持つ。登付をきれいに仕上げる。高台内底面も平坦である。目砂の付着は高台内面の釉の部分に僅かである。器形は高台脇から丸味を持って立ち上がる。	8号墓庭右隅
第66図8 図版39の8	碗	— 7.2 —	灰色	灰釉	粒子は細かい。貫入はみられない。高台脇にわずかに段を持ち、やや丸味を持って立ち上がる。高台の厚さが薄く、登付に向かって細くなる。目砂が高台内面にわずかに付着。外器にはアバタ状を呈する部分がある。見込みに目砂が僅かに付着する。登付はスレている。	19号墓墓室シルヒラシ覆土

第9表 沖縄産施釉陶器観察一覧(2)

挿図番号 図版番号	分類	口径 底径 器高 (cm)	素地	釉薬	器形・文様・その他の特徴	出土地点
第66図9 図版39の9	碗	— 6.6 —	淡い 灰色	灰釉	粒子は細かい。釉薬は暗い灰色で、高台脇まで釉だれがある。貫入は見られない。高台脇にわずかに段差があり、直線的に立ち上がる器形。高台が低い。器面調整は雑な感じをうける。見込みと高台内面に目砂の付着があり、前者は僅かである。豊付はスレている。	6号墓基庭覆土
第66図10 図版39の10	碗	— 5.8 —	乳白色	外：黒 + 外：灰釉	粒子は細かい。見込みは蛇の目軸刺ぎが施される。内面の灰釉に貫入がある。高台脇にわずかに段があり、丸味をもって立ち上がる器形。その部分に、白土が付着。高台の厚さは不均一である。	18号墓左側袖垣1段 目西端上
第66図11 図版39の11	碗	— 7.0 —	淡い 灰色	外：鉄 + 外：灰釉	粒子は細かい。外面は豊付以外施釉。内面は蛇の目軸刺ぎが施される。内底面に白土が付着。高台脇から丸味を持って立ち上がる器形。底が厚い。	11号墓庭外
第66図12 図版40の1	碗	13.4 6.2 6.5	乳白色	白 + 透明釉	粒子は細かい。見込みは蛇の目軸刺ぎが施される。豊付、見込みの軸刺ぎ以外は総釉。高台脇に段がつかない。豊付・見込みに白土が付着。貫入あり。豊付はスレている。	10号墓シルヒラシ
第66図13 図版40の2	碗	13.6 6.5 6.7	乳白色	白化粧 + 透明釉	粒子は荒い。豊付・見込みの蛇の目刺ぎ以外は総釉。高台脇に段をもたない。見込みに蛇の目刺ぎが施され、白土がわずかに付着。高台にも白土が付着。外・内面ともに、呉須の付着が内面に多い。高台脇に指痕が残る。豊付はスレている。	10号墓シルヒラシ
第66図14 図版40の3	碗	14.5 6.8 6.9	乳白色	白化粧 + 透明釉	粒子は荒い。見込みに蛇の目軸刺ぎを施す。豊付・見込みに蛇の目軸刺ぎ以外は総釉。高台脇に段をもたない。見込みに蛇の目軸刺ぎ部に白土が付着。高台も白土付着。	8号墓北側斜面
第66図15 図版40の4	碗	14.2 6.2 6.7	乳白色	白化粧 + 透明釉	粒子は荒い。豊付と見込みの蛇の目軸刺ぎ以外は総釉。高台脇にわずかに段をもつ。高台外面に指痕がある。豊付と蛇の目軸刺ぎ部分に白土が付着。貫入あり。	10号墓シルヒラシ
第66図16 図版40の5	碗	13.4 6.0 6.7	乳白色	白化粧 + 透明釉	粒子は荒い。呉須(外)とアメ釉(内)の文様。豊付・蛇の目軸刺ぎ部分以外は総釉。高台脇に段をもたない。高台と蛇の目軸刺ぎ部に白土が付着。呉須が文様の間につく。	2号墓灰道部覆土

第9表 沖縄産施釉陶器観察一覧(3)

挿図番号 図版番号	分類	口径 底径 器高 (cm)	素地	釉薬	器形・文様・その他の特徴	出土地点
第66図17 図版40の6	碗	13.4 5.9 7.1	乳白色	白化粧 + 透明釉	粒子は荒い。呉須(外)とアメ釉(内)の文様はととのっている。豊付・蛇の目軸刺ぎ部以外は総釉。高台脇に段を持つ。高台・蛇の目軸刺ぎ部に白土付着。高台外面に指痕がある。	8号墓庭中央部左側
第66図18 図版39の12	碗	13.6 6.8 6.7	乳白色	白化粧 + 透明釉	粒子は荒い。文様は呉須(外)とアメ釉(内)。高台脇に段をもつ。蛇の目軸刺ぎ部分にわずかに白土付着。文様の呉須は発色が悪い。	19号墓入口付近
第66図19 図版39の13	碗	12.8 5.0 6.1	濃い 灰色	白化粧 + 透明釉	粒子は細かい。文様は呉須のみ。呉須を使って外面に口縁部から下に開くように花びらの文様を施し、見込の中央にも呉須で文様を施す。口縁内面にも呉須が盛り、縞状の文様を1条回すものと考えられる。蛇の目軸刺ぎ部分と豊付に白土が付着。	8号墓庭
第67図1 図版40の7	小碗	8.6 3.7 4.5	乳白色	白化粧 外:鉄 + 内:灰	粒子は荒い。口縁部内面に鉄釉がひろがり、内面に貫入がある。見込は蛇の目軸刺ぎを施す。高台外面まで鉄釉。高台脇に段をもつ。高台の厚さは不均一。	8号墓墓室シルヒラシ石前
第67図2 図版40の8	小碗	8.8 3.6 4.5	乳白色	外:鉄 + 内:白化粧 透明釉	粒子は細かい。外面は口唇部下から鉄釉。端反り部は灰釉。内面貫入あり。蛇の目軸刺ぎが施される。高台内底面で1部露胎。高台脇に段をもつ。蛇の目軸刺ぎ部に重ね焼きの痕が残る。	8号墓墓室シルヒラシ石前
第67図3 図版40の9	小碗	9.2 4.2 4.5	灰色	外:鉄 内:白化粧 + 透明釉	粒子は細かい。蛇の目軸刺ぎ部は白化粧を削りきれずにリング状に残る。高台・蛇の目軸刺ぎ部に白土付着。	8号墓庭右壁沿土手斜面規乱部
第67図4 図版41の1	小碗	— 3.6 —	灰色	外:鉄 + 内:白化粧 + 透明釉	粒子は細かい。内面に貫入あり。見込みに蛇の目軸刺ぎが施される。高台内底面は施釉。豊付とその周辺は露胎。蛇の目軸刺ぎ部分と高台に白土付着。	2号墓屋根部右側石横覆土
第67図5 図版41の2	小碗	— 3.8 —	乳白色	白化粧 + 透明	粒子は細かい。蛇の目軸刺ぎ部はスベスベしている。高台に白土付着。	9号墓ヤジョーマーイ上右側

第9表 沖縄産施釉陶器観察一覧(4)

挿図番号 図版番号	分類	口径 底径 器高 (cm)	素地	釉薬	器形・文様・その他の特徴	出土地点
第67図6 図版41の3	小碗	9.4 3.2 4.2	乳白色	灰釉	微粒子。内面に施釉のムラがある。白土や目砂の付着はない。僅かに貫入あり。	8号墓庭右側サンミデー
第67図7 図版41の4	皿	— 4.3 —	乳白色	灰釉	粒子は細かい。外面は腰部付近まで施釉。内面には窯変が見られ、やや青味がかっている。蛇の目軸刺が施され削りが深い。	20号墓屋根
第67図8 図版41の5	猪口	3.6 1.9 1.8	灰白色	白化粧 + 透明釉	微粒子。白土や目砂等の付着はない。	6号墓サンミデー
第67図9 図版41の6	水注	— 6.2 —	灰色	外：黒釉	釉は厚い。内面は無釉で、轆轤痕が残る。	18号墓庭外斜面覆土
第67図10 図版42の1	水注	6.8 8.2 7.8	乳白色	白化粧 + 透明釉	微粒子。口唇部軸刺ぎ。底部・脚の内側は露胎。内面も総釉。注ぎ口の内部は無釉。	20号墓庭正面石垣部 左側掘乱
第67図11 図版41の7	酒注	— 7.1 —	乳白色	外：黒釉	粒子は細かい。高台は露胎。高台内底面に白土付着。	18号墓庭東南より墓 庭右手前隅崩落碑の中
第67図12 図版42の2	酒注	— 7.2 —	淡い 灰色	黒釉	粒子は細かい。下部に釉溜まりがある。	8号墓北側斜面
第67図13 図版42の3	酒注	— 10.5 —	灰色	鉄釉	粒子は細かい。胴部には上面のみと星形の文様を線彫りで施す。	
第67図14 図版42の4	酒注	4.8 8.0 9.2	乳白色	白化粧 + 透明釉	粒子は細かい。呉須を放射状に施し、頸部のつけね・胴部の沈線部にも施す。軸刺ぎが胴部の最大径のところよりやや下側で施される。白化粧は受口の部分で、釉の範囲と同じ。	6号墓庭表採北側
第67図15 図版42の5	酒注	4.8 7.8 9.8	乳白色	白化粧 + 透明釉	微粒子。文様は呉須とアメ釉。受口の外側面に呉須を施す。線彫りの文様に沿って呉須を施すが、頸部つけねから胴部へいたる部分と胴部の網目状沈線の中はアメ釉。胴部の突出した部分の上面に呉須。豊付に白土付着。	不明
第67図16 図版42の6	酒注	— 7.4 —	乳白色	白化粧 + 透明釉	粒子は細かい。放射線状に呉須を施し、その間にアメ釉を施す。胴部最大径の下部は無文。胴部の最大径の部位と頸部のつけねに3条の線彫りを施し巡らす。豊付に白土がわずかに付着。	3号墓庭斜面

第9表 沖縄産施釉陶器観察一覧(5)

神図番号 図版番号	分類	口径 底径 器高 (cm)	素地	釉薬	器形・文様・その他の特徴	出土地点
第68図1 図版43の1	瓶	3.0 5.0 14.1	乳白色	鉄釉	粒子は細かい。胴部と高台に白土がわずかに付着。	8号墓庭右壁沿土手斜面
第68図2 図版43の2	花瓶	— 5.2 —	乳白色	鉄釉	粒子は細かい。底部は赤味がかった。畳付に白土付着。	8号墓庭前面客土
第68図3 図版43の3	瓶	— 5.6 —	乳白色	鉄釉	粒子は細かい。底部は赤味がかかる。高台に白土の付着はない。	8号墓北側土手斜面 部造成礫層出土
第68図4 図版43の4	瓶	— 5.0 —	乳白色	鉄釉	粒子は細かい。高台脇まで施釉。文様は胴部に線彫りを8条巡らす。	8号墓庭右壁沿土手 斜面視乱
第68図5 図版43の5	花瓶	— 4.0 —	灰色	鉄釉 + 灰釉	粒子は細かい。口縁部から頸部にかけて灰釉を施し、胴部に鉄釉を施す。高台は施釉していないが、高台内面と、内底面に施釉。高台内面に目砂が付着。白化粧はみられない。	不明
第68図6 図版43の6	花瓶	7.4 6.0 13.9	乳白色	白化粧 + 緑釉 + 透明釉	粒子は細かい。釉が厚い。青味がかった緑釉が底部近くまで施され、その下位は白化粧+透明釉の状態である。高台内底面は透明釉のみ。全体に貫入あり。内面の白化粧は頸上部まで。畳付は露胎。白化粧なし。	8号墓室シルヒラシ 右前
第68図7 図版43の7	花瓶	7.2 6.0 14.2	乳白色	白化粧 + 緑釉? + 透明釉	粒子は細かい。釉薬が厚い。胴部の2/3が青味がかった緑色が底部近くまで施される。全体に貫入あり。畳付は施釉なし。白化粧は高台外面まで、内面は頸上部まで。	8号墓室シルヒラシ 右前
第68図8 図版41の8	瓶	— — —	乳白色	白化粧 + 透明釉	微粒子。瓶の高台にハカマ状の脚を貼り付けている。高台内面無釉。	2号墓庭前庭表採
第68図9 図版44の1	花瓶	5.6 8.6 17.9	乳白色	白化粧 + 透明釉	粒子は細かい。具須で圏線を巡らす。脚部の内面全面に鉄釉が施されるが、下部は釉剥ぎ。口縁部の白化粧の切れ目に鉄釉が見える。僅かに脚部内面の下位に白化粧がかかる。畳付は露胎。	8号墓庭右壁沿土手 斜面視乱
第68図10 図版44の2	花瓶	— 7.5 —	赤茶色	不明	粒子は細かい。ほぼ全面で発色しておらず。片側は気泡がほじけたアバタ状を呈し、他はやや黒っぽい。施釉は4回にわけて胴部の中位まで行なわれる。	No.13追加トレンチ (試穴・産気探No.1) 斜面の表土より

第9表 沖縄産施釉陶器観察一覧(6)

抽図番号 図版番号	分類	口径 底径 器高 (cm)	素地	釉薬	器形・文様・その他の特徴	出土地点
第68図11 図版41の9	洒注	— 7.2 —	灰色	鉄釉	粒子は細かい。豊付に白土付着。高台内には削り時のヒビ割れが生じている。	6号墓庭左手前隅
第68図12 図版44の3	火取	10.2 6.4 9.6	赤黒茶	白化粧 + 透明釉	粒子は細かい。口縁部の内外面に灰須が施される。口唇部と腰部から高台脇までは釉を剥ぎを施す。高台に白土の付着はない。	9号墓庭外(前庭部) 覆土
第68図13 図版44の4	火取	9.8 6.6 8.7	乳白色	白化粧 + 透明釉	粒子は細かい。灰須を口縁部に施すが、口唇部の内面は削り取っている。透明釉は腰部まで。白化粧は腰部から豊付まで剥ぎ取っている。	8号墓室タナ右側
第68図14 図版44の5	火取	10.4 6.8 8.9	乳白色	黒釉	粒子は細かい。外面の釉境いは褐色を呈す。高台内面に白土の付着が目立ち、豊付に目砂が付着。	8号墓室タナ右側
第69図1 図版45の1	香炉	16.0 11.2 8.1	淡い 灰色	緑釉 + 白化粧	粒子は細かい。外面の施釉は脚のつけ根まで。内面は端反り部分のみ。底部に指痕がのこる。脚の内側と底部中央の窪みの縁に白土付着。	8号墓室タナ右側
第69図2 図版45の2	香炉	16.6 11.8 8.4	淡い 灰色	緑釉 + 白化粧	粒子は細かい。外面の施釉は腰部まで、内面は端反り部分まで。白化粧を内面の頸部まで施す。底部には指痕が残り、白化粧を上塗りしている。底部の窪みの縁に白土付着。	8号墓室タナ右側
第69図3 図版45の3	壺 蓋	10.6 8.8 2.3	赤茶色	アメ釉 + 白化粧	粒子は細かい。釉と白化粧は外面のみ施し、表面と脚の縁は施さない。	8号墓室
第69図4 図版45の4	壺 胴	10.2 8.2 11.3	赤茶色	アメ釉 + 白化粧	粒子は細かい。口唇部は釉剥ぎ。腰部以下は施釉せず白化粧のみ。内面に透明釉が施される。豊付に白土付着。	8号墓室
第69図5 図版45の5	大鉢	25.8 9.2 13.0	赤茶色	外:鉄釉 内:白化粧 + 透明釉	粒子はやや荒い。釉は色調がオリーブ色。口縁付近で発色の良くない部分がある。内面は白化粧+透明釉と思われるが光沢が無い。見込に蛇の目釉あり。豊付に白土が付着。	20号墓室シルヒラシ 手前右隅

第9表 沖縄産施釉陶器観察一覧(7)

挿図番号 図版番号	分類	口径 底径 器高 (cm)	素地	釉薬	器形・文様・その他の特徴	出土地点
第69図6 図版45の6	大鉢	26.2 9.4 13.6	淡赤茶色	外:黒釉 内:白化粧 + 透明釉	粒子は荒い。外面は畳付以外は総釉。口唇部にも部分的に黒釉がかかる。見込に蛇の目釉刺あり。重ね焼きのときに上にのせた物の底部の一部が窯着している。畳付に白土付着。	1号墓室左タナ上
第69図7 図版45の7	蓋	— — —	乳白色	黒釉	粒子は荒い。つまみと鈿の部分を残して釉剥ぎを施す。鈿部裏面は濃灰色、と赤褐色を帯びる。鈿の内面に釉ダレがある。「き」の縁にわずかに釉のかたまりが付着。	8号墓庭外
第69図8 図版46の1	鍋	12.8 — —	乳白色	鉄釉	粒子は細かい。受け口部分から外面のと胴部下まで施釉。器形はサークルの鍋に似る。	6号墓庭左手前隅

3. 沖縄産無釉陶器・陶質土器・灰色瓦

A. 沖縄産無釉陶器

沖縄産(壺屋焼)の「アラヤチ」と称されるもので、播鉢・小皿・壺・徳利・水鉢である。墓室からの出土は僅かである。第10表に出土一覧表、第11表に観察表を示した。水鉢は出土一覧表のみに示した。

a. 播鉢(第70図1～3・7・8)

口縁部が3点(第70図1～3)、全形の伺えるものが2点(第70図7・8)である。後者は瓦質である。

b. 小皿(第70図5)

小皿は1点のみで破片である。

c. 壺(第71図6・8～10)

総数5点である。内、ほぼ完形品のものは1点である。

d. 徳利(第71図7)

底部が1点のみ出土。18号墓出土である。

第10表 沖縄産無釉陶器出土状況

出土地点	器種	壺			徳利			小皿			播鉢			水鉢			小計	総合計
		完形	口	胴	底	完形	口	胴	底	完形	口	胴	底	完形	口	胴		
3号墓	墓室															1	1	1
	墓庭																	
	墓外																	
	不明																	
4号墓	墓室																	1
	墓庭																	
	墓外																	
	不明																	
6号墓	墓室																	2
	墓庭		1		1												2	
	墓外																	
	不明																	
7号墓	墓室																	4
	墓庭	1			2												3	
	墓外																1	
	不明		1															
8号墓	墓室																	1
	墓庭																1	
	墓外																	
	不明																	
9号墓	墓室																	3
	墓庭																	
	墓外																	
	不明																3	
10号墓	墓室	1															1	1
	墓庭																	
	墓外																	
	不明																	
13号墓	墓室																	1
	墓庭																1	
	墓外																	
	不明																	
18号墓	墓室																	1
	墓庭																1	
	墓外																	
	不明																	
3・4号墓の間																1	1	
5・6号墓の間																1	1	
地区不明																1	2	
小計		2	2	3	3			1	1				2	3		1	1	
総合計		10				1			1			5			2			19

第11表 沖縄産無釉陶器観察一覧

挿図番号 図版番号	分類	口径 底径 器高 (cm)	素地	観察事項	出土地点
第70図1 図版46の2	播鉢	22.4 — —	赤茶褐色	粒子は細かい。器壁など全体的に薄い。	5・6号墓ヤジョーマイの間
第70図2 図版46の3	播鉢	— — —	赤茶色	内面は灰色を呈する。	4号墓
第70図3 図版46の4	播鉢	— — —	赤茶褐色	粒子は細かい。	3・4号墓間(残土)
第70図4 図版46の5	器種 不明	— — —	赤褐色	胴部。胎土に微小な白い粒がまじる。表面はザラザラしている。全体が磨滅している。	18号墓階段部覆土
第70図5 図版46の6	皿	10.6 3.3 6.0	赤茶褐色	口唇部付近は褐色を呈している。	不明
第70図6 図版46の7	器種 不明	— 9.8 —	暗褐色	底部。胎土に白い粒が含まれる。磨滅している。	18号墓外斜面
第70図7 図版47の1	播鉢	28.4 11.0 12.0	橙色	スジは直に下りるもの。見込部では、最深中央部を最後に施す。幅広である。胎土に石英粒や赤黒褐色の粒がある。スジ施文は右→左へ	9号墓庭前 9号墓庭石垣右上
第70図8 図版47の2	播鉢	29.2 11.6 12.5	橙色	器面の色調は橙色(やや褐色)。胎土に赤黒い粒が入る。スジ付は右→左へ。第66図7よりは細かい。	9号墓庭石垣右上 9号墓庭前
第71図7 図版46の8	德利	— 7.8 —	赤褐色	内面と外面の一部は暗褐色を呈する。白色の粒が入る。	18号墓庭右隅
第71図8 図版46の9	壺	10.6 — —	赤褐色 褐色	粒子はやや粗い。	7号墓東トレンチ
第71図5 図版48の1	壺	— — 14.8	赤褐色 暗褐色	頸部から肩部にかけては暗褐色を呈しその他は赤褐色で、一部に窯変がある。	10号墓墓室
第71図9 図版48の2	壺	— 9.4 —	赤褐色 暗褐色	粒子は細かい。一部暗褐色を呈するがほとんど赤褐色を呈する。	6号墓庭左手前隅 6号墓庭左手前
第71図10 図版48の3	壺	— 11.0 —	暗褐色	内面は轆轤痕が目立つ。	8号墓庭覆土
第63図1 図版36の1	壺	13.9 68.3 21.1	暗褐色	耳が3個付く。胴下部が変形し歪んでいる。	7号墓庭
第63図3 図版36の3	壺	20.0 — —	褐色 赤褐色	外面は褐色、内面は赤褐色を呈する。肩部に窯印がある。	6号墓庭左手前隅

B. 陶質土器

「アカムヌー」と称されるものである。総数5点の出土である。3点を図示した。小破片のみの出土で、蓋（第71図1）・把手（第71図2・3）である。いずれも出土地不明である。

C. 灰色瓦（第71図4）

灰色瓦は小破片1点のみで、9号墓出土である。裏面に布痕がある。

4. 本土産陶磁器

出土した本土産陶磁器は現代の磁器で、碗・皿・小皿・小碗・花瓶・蓋・急須・壺・水注・火取で、総数69点である。8号墓と19号墓からの出土が目立つ。8号墓では墓室内の副葬品と墓庭から葬式の際に墓に運ばれたものと考えられるものが集中して出土した。8号墓墓室内出土のものとは他は時間の都合上特徴的なものを図化し、一部割愛した。第12表に出土一覧、第13表に観察表を示した。

a. 碗（第72図1～7）

方言で「スンカンマカイ」と称されるもの（第72図1～6）と現代の濃い緑釉のもの（第72図8）がある。前者の器形は口縁部が外反するものとほぼ直口するものがある。型紙染付けで文様が施され、菱形の空白部に花卉状の文様を施すものや花の文様・文字を施すものがある。外面の文様が菱形の空白部に花卉状の文様を施すものには見込みの文様でみると5種類見られる。

b. 小碗（第73図1～7）

直口の小碗は、型紙染付けで文様を施すもの、銅板転写を施すものとスタンプ文を施すものがある。面取された小碗（第73図7）は、8号墓墓室内からの副葬品は2点出土した。1点のみを示した。

c. 皿（第73図8～11、第74図1）

皿は、型紙染付けで文様が施されるもの（第73図8～10・第70図1）、釉薬で文様を描く（第73図11）ものがある。また、銅板転写のものも見られた。大皿・中皿・小皿がある。

d. 壺（第73図12、第75図6、第63図2）

第73図12は外面の釉が細かい粒状になるものである。第63図2は、ガス窯で焼かれたものと思われる。外面は茶色、内面は石灰が付着したように白色を呈し、一部窯変

によるものと思われる透明釉状の付着が見られる。

e. 蓋 (第75図1～4)

蓋は4点の出土である。第75図1～3は、急須の蓋と考えられるもので「き」がつくものにつかないものがある。第73図4は、どんぶりの蓋と考えられる。

f. 急須 (第75図5)

破損品である。本品の蓋は不明である。

g. 花瓶 (第75図7)

同じタイプものが8号墓シルヒラシで4点出土した。1点のみ示した。文様は浮き出しになっておりその部分にも彩色する。

h. 火取 (第75図の8)

型紙染付けで文様を施す。施文部分に釉が掛かっている部分があり、文様は黒色を呈している。施文後の施釉である。

i. 水注 (第75図9)

破損品で、肩部に文様を施す。

第12表 本土産陶磁器出土状況

出土地点	碗			小碗			皿			壺			蓋			急須			花瓶			火取			水注			小計	総合計	
	完形	口縁部	胴部	完形	口縁部	胴部	完形	口縁部	底部	完形	口縁部	底部	完形	口縁部	底部	完形	口縁部	底部	完形	口縁部	底部	完形	口縁部	底部	完形	口縁部	底部			
3号墓		1																									1	2	3	
4号墓			1											1															2	2
5号墓		1																										1	1	
6号墓		1	1		1																							3	3	
7号墓												1																1	2	
8号墓		1			1									2								4						5	14	24
		2	1																			1						4	1	
								1																				1	2	3
9号墓		1											1															2	3	
10号墓											2																	4	4	
13号墓																												1	1	
																												1	1	
17号墓																												1	1	
		1																										1	1	
18号墓																												1	1	
																												1	1	
19号墓		6			2	1			2																			11	11	
		1	1																									3	3	
																												3	14	
																												3	3	
地区不明		4	3	3																								10	10	
小計		14	9	2	5	10	3		11	2		1	3		1		4		1	1	1	1		1						
総合計		30			13				13			1	3		1		4		3		3		1					69	69	

第13表 本土産陶磁器観察一覧(1)

挿図番号 図版番号	分類	口径 底径 器高 (cm)	素地	釉薬	観察事項	出土地点
第72図1 図版49の1	碗	12.8 4.8 6.3	乳白色 微粒子	淡青白色	外面の文様は3ヶ所に合わせめがある。内面文様の重複は1ヶ所見られる。畳付はスレており、釉を削り取っている。高台周辺にわずかに砂が付着。見込に積んだ痕跡はない。	10号墓室シルヒラシ
第72図2 図版49の2	碗	13.4 4.6 5.8	乳白色 微粒子	淡青白色	外面の文様は3ヶ所に合わせめがある。内面の文様の合わせめは2ヶ所に見られる。畳付はスレており、釉を削り取っている。見込に土の痕が5ヶ所ある。	19号墓室シルヒラシ
第72図3 図版49の3	碗	13.2 5.0 5.2	乳白色 微粒子	淡青白色	外面の文様の合わせめは1ヶ所、内面の文様の切れ目は3ヶ所に見られる。見込の上の痕は5ヶ所あり、深くめり込んだ状態。	19号墓室シルヒラシ
第72図4 図版49の4	碗	13.2 5.0 5.3	乳白色 微粒子	白色	外面の文様の合わせめは3ヶ所、内面の文様の重複部は4ヶ所にある。見込に土の痕が5ヶ所ある。畳付はスレており、釉は削られている。	19号墓室シルヒラシ
第72図5 図版50の1	碗	12.2 5.0 6.4	乳白色 微粒子	淡青白色	直口ぎみの碗。外面文様の切れ目が1ヶ所に見られる。文字の文様は2種類の組み合わせを交互にするなすが1ヶ所のみ同じ組み合わせが並ぶ。畳付はスレており、釉は削り取る。見込に土の痕が5ヶ所ある。見込には器面調整痕がリング状に巡る。内面の文様切れ目は4ヶ所。	9号墓室シルヒラシ
第72図6 図版51の1	碗	13.4 4.8 5.6	乳白色 微粒子	淡青白色	外面の文様の重複部が1ヶ所、内面は2ヶ所である。見込に土の痕2ヶ所。畳付はスレており、釉は削られる。	17号墓前斜面左
第72図7 図版51の2	碗	— 5.2 —	乳白色 微粒子	淡青白色	残存部に土の痕はない。畳付細い。スレている。釉は削り取られている。	不明
第72図8 図版50の2	碗	11.2 4.0 5.4	乳黄白色	緑色	粒子は細かい。現代のものと思われる。緑色の碗。畳付以外総釉。見込に土の痕はない。	8号墓庭右壁治土手 斜面視乱部
第73図1 図版50の3	小碗	7.4 3.0 5.0	白色 微粒子	白色	内面は無文。文様は紺色。積み痕はない。直線と波状の線の文様と文字が交互にある。高台部は花びら状の文様。畳付はスレている。高台に土の付着はない。	6号墓庭左手前隅

第13表 本土産陶磁器観察一覽（2）

挿図番号 図版番号	分類	口径 底径 器高 (cm)	素地	釉薬	観察事項	出土地点
第73図2 図版50の4	小碗	8.1 2.9 4.9	白色 微粒子	白色	傘の文様が施される。表面の文様は はげ落ちかかっているが、文様の痕 跡が残っており、3ヶ所に文様が あったことがわかる。その内、2ヶ 所は2個1対であるが、1ヶ所は1 個のみ。腰部に圈線が通る。2個1 対の文様が残っている所は、青と赤 色である。その上に1条の赤色の線 が通る。	不明
第73図3 図版50の5	小碗	4.2 3.0 4.9	白色 微粒子	淡青白色	文様は紺色。円形と菱形の文様が交 互に重なる。円形の文様の内は、唐 草状の文様。外面の文様の合わせめ は3ヶ所。内面：無文。畳付はスレ ているがザラザラつく。高台内底面 にも線が通る。見込に積み痕はな い。	19号墓室シルヒラ シ
第73図4 図版50の6	小碗	8.2 3.2 4.6	白色 微粒子	白色	文様は花・葉で外面の1ヶ所のみ で、紺色。内面は無文。高台内も無 文。畳付はスレている。	8号墓室シルヒラ シ右前
第73図5 図版50の7	小碗	8.4 3.6 4.8	白色 微粒子	白色	外面は赤茶色の花と紺色の葉の文 様。花2個。内面は無文。高台内も 無文。高台に目砂？が付着。見込に 積み痕はない。	不明
第73図6 図版50の8	小碗	7.9 3.1 4.8	白色 微粒子	白色	葉根状の文様が見られる。最も大き な文様の部分ははがれ落ちており不 明。文様は片側のみ。畳付はややザ ラつく。	8号墓室シルヒラ シ右前
第73図7 図版50の9	小碗	6.6 3.6 4.9	乳白色	緑釉	6面取りされる。面取りのうち、境 界の狭の3ヶ所で文様を合わせ花文 が開いた形になる。上下で互いちが にしている。花ピラの間は羽状文と 花文を交互に施す。	8号墓室タナ右側 前方
第73図8 図版52の1	皿	13.4 8.0 3.5	淡灰白色 微粒子	淡青白色	文様は梅の花。内面は文様の継ぎ目 はみあたらない。外面は葉文が3ヶ 所にある。見込に土痕が5ヶ所あ る。高台内底面に土が付着。中央の さらに凹部は施釉。高台外面線1 本。高台脇に1本通る。口縁部の欠 損は意図的か？	10号墓シルヒラシ
第73図9 図版52の2	皿	12.6 7.2 3.0	乳白色 微粒子	淡青白色	見込に土痕はない。外面には花・葉 の文様が3ヶ所。内面の文様のキレ 目は見られない。高台は露胎である が、内底面の中央の凹は施釉。内底 面に砂付着。高台に2本の線。腰部 に1本。	19号墓室シルヒラシ 覆土

第13表 本土産陶磁器観察一覧(3)

挿図番号 図版番号	分類	口径 底径 器高 (cm)	素地	釉薬	観察事項	出土地点
第73図10 図版51の3	皿	12.6 — —	淡灰白色 微粒子	淡青白色	高台外に2本線。腰部に1本。	不明
第73図11 図版52の3	皿	12.9 6.6 2.8	白色 微粒子	白色	微粒子。高台内側の高台……に紺色の線が1本ある。外面は無様なし。内面は葉文があるが、葉根の部分は白色の釉(粘り強いもの?)で描く。	10号墓シルヒラシ
第73図12 図版51の4	壺	8.6 — —	灰色 微粒子	透明釉	口唇部と頸部の内面は施釉しない。外面は口唇部以外はプツツとした状態。釉薬が「タマ」になったような状態である。「サメ肌状」。	9号墓
第74図1 図版52の4	大皿	22.6 12.6 3.1	淡灰白色 微粒子	淡青白色	外面は圓線と唐草文で、内面は花文に扇状や円形の白抜きの中に花・竹・農夫などがある。	10号墓シルヒラシ
第75図1 図版53の1	蓋	5.6 4.2 2.9	乳白色 微粒子	桃色	蓋の底内側と「き」の外面は露胎。「き」の内側と内面は施釉。外面の3個の丸い文様は紺色2個、レモンイエロー1個。孔1個。	8号墓庭右壁沿土手 斜面視乱
第75図2 図版53の2	蓋	6.8 5.8 2.5	淡灰色 微粒子	白色	文様は紺色。底の裏側のみ露胎。内面に文字。「茶菜」か?表面には葉文様。孔1個。	7号墓室シルヒラシ
第75図3 図版53の3	蓋	— 6.6 2.4	乳白色 微粒子	淡青白色	微粒子。文様は紺色。「き」なし。縁部は露胎。他は施釉。表に星形の文様6星。孔1個。	8号墓庭右壁沿土手 斜面視乱部
第75図4 図版53の4	蓋	5.8 12.4 4.0	乳白色 微粒子	淡青白色	外面に圓線と梅の文様。内面は無文。つまみの上端は露胎。つまみの内面も施釉。	8号墓庭沿土手斜面 視乱部
第75図5 図版53の5	急須	6.6 5.2 6.6	淡灰白色 微粒子	灰色	口唇以外の内面は施釉しない。注口に縫がる穴は、小穴を無数にあげたものと思われる。口唇部は鉄釉。文様は暗褐色。底部は露胎。白土付着。	4号墓墓庭
第75図6 図版51の5	壺	— 10.8 —	淡灰白色 微粒子	白色	文様は紺色。内・外施釉。底部は露胎。あげ底になる。	19号墓シルヒラシ
第75図7 図版53の6	花瓶	7.4 5.6 11.0	淡灰色 微粒子	白色 + 緑 + 鉄釉	口縁部上面・頸部外面・胴部・脚部の圓線と耳は鉄釉。頸部、裏面にも鉄釉の文様。頸部の正面の上下に葉状の文様を緑釉で施し、その中の丸文は鉄釉。胴部の葉状文は緑釉でその他は鉄釉。壺付とその周辺は露胎。頸部の内側から無釉。	8号墓墓室シルヒラシ 右前(人骨の頭骸骨近くである。)

第13表 本土産陶磁器観察一覽(4)

挿図番号 図版番号	分類	口径 底径 器高 (cm)	素地	釉薬	観察事項	出土地点
第75図8 図版53の7	火取	10.6 10.6 7.7	淡灰色 微粒子	淡灰白色	内側は口縁下約1.5~2cm以下と豊付・内底面は露胎。内底面白土付着。器面に窯変部あり。貫入あり。胴下部に釉が掛かっていない部分があり、施文後に釉を施していることがわかる。この部分の文様は黒色を呈する。	8号墓庭沿土手斜面 攪乱
第75図9 図版53の8	水注	— 5.4 —	白色 微粒子	白色	施釉は外面のみで高台は露胎。胴部に開けられた注口の穴は1ヶ。底部にはリング状に細い削り痕が残る。	7号墓北側斜面

第14表 中国産陶磁器出土状況

器種 出土地点	白磁			染付			褐釉陶器		青磁		小計	総合計											
	碗		壺	器種不明		碗		皿	器種不明				壺		器種不明								
	完形	口・胴・底	完形	口・胴・底	口・胴・底	完形	口・胴・底	完形	口・胴・底	口・胴・底			完形	口・胴・底	口・胴・底	口・胴・底							
1号墓	墓室											0	1										
	墓庭											0											
	墓外					1						1											
	不明											0											
2号墓	墓室											0	2										
	墓庭							1				1											
	墓外				1							1											
	不明											0											
4号墓	墓室											0	2										
	墓庭			1							1	2											
	墓外											0											
	不明											0											
6号墓	墓室											0	1										
	墓庭											0											
	墓外											1											
	不明											0											
7号墓	墓室											0	1										
	墓庭											0											
	墓外	1										1											
	不明											0											
8号墓	墓室											0	4										
	墓庭											0											
	墓外		1				3					4											
	不明											0											
20号墓	墓室											0	1										
	墓庭						1					1											
	墓外											0											
	不明											0											
3・4号墓の間		1					1					2	2										
地区不明		1	1		1	1	1	1		1		6	6										
小計		0	3	1	1	0	0	2	0	0	2	5	2	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0
総合計		5		1		2		9		1		0		1		1				20			

5. 中国産陶磁器

本古墓群出土の中国産陶磁器は、青磁・白磁・染付・褐釉陶器で総数20点の出土である。いずれも小破片で、17～18世紀の白磁と18世紀の染付である。墓室内からの出土はなく、墓庭・墓周辺や丘陵斜面からの出土である。第14表に出土一覧、第15表に観察表を示した。

A. 白磁 (第75図10～13)

いずれも小破片である。碗 (第75図10・11・12) ・壺 (第75図13) が出土した。

B. 染付 (第75図14～20)

碗 (第75図14～16・18～20) ・皿 (第75図17) が出土した。

C. 褐釉陶器 (第75図21)

壺の胴部で1点のみの出土である。

6. 装身具

出土した装身具は副葬品で、簪・ガラス小玉・指輪である。そのほとんどが墓室内に納められていた蔵骨器からの出土である。

A. 簪 (第76図1～12)

簪 (方言名: ジーフアー) は、総数12点の出土である。金属製と木製があり、前者の形態は花形の飾りが付くものと、耳かき形のもの2種類である。後者は匙形である。花形の飾り部分には、厚手のものと薄手のもの、薄い板を加工して組み合わせたものがある。

ほとんどが蔵骨器からの出土であるが、第76図1・11は、前者が墓室内タナ、後者はシルヒラシからの出土で第76図12が墓庭からの出土である。第16表に出土一覧、第17表に観察表を示した。

B. ガラス小玉 (第76図13～22)

10号墓の蔵骨器Na 2からの出土である。青色と黄色の2色で、青色のものには巻き上げ技法が顕著なものもあり、いずれも外径約4～5mmの小さなものである。蔵骨器Na 2は乾隆31年 (1766年) の年号が銘書に記されている。第18表に計測表を示した。

第15表 中国産陶磁器観察一覽

挿図番号 図版番号	分類	口径 底径 器高 (cm)	素地	釉薬	観察事項	出土地点
第75図10 図版54の1	碗	— —	白色 微粒子	淡白色	口縁は小さく肥厚させる。	不明
第75図11 図版54の2	碗	12.0 —	白色 微粒子	淡白色	外器面に貫入あり。	3・4号墓間残土
第75図12 図版54の3	碗	— 8.2 —	淡灰白色 微粒子	淡白色	畳付と高台内側は露胎。内面は見込中央に凹みがあり、その周囲約1.5cm幅で施釉。他は露胎するがとび釉が立上りの部分に目立つ。	8号墓上部手前右覆土
第75図13 図版54の4	壺	4.2 — —	乳白色 やや微粒 子	淡白色	内外面に貫入あり。	4号墓底覆土
第75図14 図版54の5	碗	11.0 — —	白色 微粒子	淡青白色	口縁部の内外面に圈線を巡らす。外面には葉文。	20号墓庭前面石垣向かって左側覆土
第75図15 図版54の6	碗	— — —	灰白色 やや荒い	淡白色	内外面に貫入あり。	3・4号墓間
第75図16 図版54の7	碗	— — —	白色 微粒子	淡黄白色	見込みには圈線が施される。	不明
第75図17 図版54の8	皿	13.6 — —	白色 微粒子	淡青白色	口縁部の内外面に圈線を巡らす。内面に葉文。	2号墓右袖
第75図18 図版54の9	碗	— 6.8 —	淡灰白色 微粒子	淡青白色	外面に2条の圈線を巡らす。	丘陵南側斜面
第75図19 図版54の10	碗	14.0 — —	淡灰白色 微粒子	淡青白色	内外面に貫入あり。	6号墓屋根
第75図20 図版54の11	碗	— 6.4 —	白色 微粒子	淡青白色	見込みに蛇の目釉刺ぎが施される。高台内面の釉には目砂が付着。	1号墓東袖垣外丘陵斜面部
第75図21 図版54の12	壺	— — —	灰色 荒い	—	外面は淡灰色、内面は淡赤褐色。胎土に黒・白色の粒と石英状の粒が見られる。	4号墓庭

第16表 簪出土状況

種 類		8号墓				10号墓				18号墓				19号墓				20号墓				総 合 計
		墓 室	墓 庭	墓 外	不 明	墓 室	墓 庭	墓 外	不 明	墓 室	墓 庭	墓 外	不 明	墓 室	墓 庭	墓 外	不 明	墓 室	墓 庭	墓 外	不 明	
金 属 製	花 形	3								2				1							6	
	耳かき形	1					1			2								1			5	
木 製	匙 形									1											1	
小計		4				1				5				1				1			12	
総合計		4				1				5				1				1			24	

第17表 箸観察一覧

挿図番号 図版番号	形状	出土地点	蔵骨器 No.	長さ 幅 (cm)	重量 (g)	観察事項
第76図1 図版55の1	花形	8号墓 墓室タナ 右側前方	—	11.7 0.5	11.48	飾りは、つけ根から曲がり破損している。飾りは組み合わせで花の文様がつくと思われる部分を失っている。つけ根部の枝は断面が六角形、胴は断面が四角形である。
第76図2 図版55の2	耳かき形	8号墓 墓室	No.10	17.9 0.4	9.11	全体に青錆がつく。柄の断面は四角形である。
第76図3 図版55の3	花形	8号墓 墓室	No.10	10.5 0.6	16.15	飾り部に文様は見られない。中央には柄の接合部がある。全体に青錆がつく。つけ根部の断面は六角形。胴の部分は四角形。
第76図4 図版55の4	耳かき形	10号墓 墓上部手前 左側覆土	—	15.6 —	7.38	金色の部分が一部に残る。柄の断面は六角形。接合部は円形である。
第76図5 図版55の5	花形	8号墓	No.10	— —	26.7	飾り部のみである。縁を曲げ断面が凹状になる。表面の中央に文様がある。青錆が付く。
第76図6 図版55の6	耳かき形	18号墓 墓室	No.6	— 0.5	5.09	鉄製で錆による膨れとひび割れが生じている。胴の断面は四角形。
第76図7 図版55の7	花形	18号墓 墓室	—	11.4 0.6	26.92	弁先はやや尖る。飾り部の中央に文様がある。厚みがある。つけ根部の断面は六角形。胴の断面は四角形で、その間の部分にらせん状のネジれがある。胴の端に向かって太くなる。柄にはひび割れが生じている。
第76図8 図版55の8	花形	18号墓 墓室	No.4	11.7 0.5	14.33	飾り部の弁先は丸い。中央に柄の接合部がある。つけ根部断面は六角形で、胴の断面は四角形。青錆がつく。
第76図9 図版55の9	耳かき形	18号墓 墓室	No.4	15.5 0.3	6.77	先端は幅広。つけ根部の断面は丸。胴部の断面は六角形である。
第76図10 図版55の10	匙形	18号墓 墓室	No.3	14.0 0.8	3.96	木製。匙状の飾り部のつけねで折損している。
第76図11 図版55の11	花形	19号墓 シルヒラシ	—	11.5 0.6	14.02	飾り部に文様は見られない。中央に柄との接合部がある。つけ根部の断面は六角形。胴部の断面は四角形。つけねと胴部の間では断面は円形である。青錆つく。胴部へ太くなる。
第76図12 図版55の12	耳かき形	20号墓庭 前面石垣 近く客土	—	— 0.3	4.23	折損品。胴部の断面は六角形であるが折損部では断面は円形である。耳かき形と考えられる。

「蔵骨器」の項：「—」は人骨が入っていない蔵骨器か墓室内から出土

第18表 ガラス小玉計測一覧

挿図番号 図版番号	出土地点	色	直径 (cm)	高さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)
第76図13 図版55の13	10号墓 蔵骨器No.2	青色	0.50	0.55	0.25	0.10
第76図14 図版55の14	10号墓 蔵骨器No.2	青色	0.45	0.35	0.20	0.06
第76図15 図版55の15	10号墓 蔵骨器No.2	青色	0.55	0.35	0.20	0.08
第76図16 図版55の16	10号墓 蔵骨器No.2	青色	0.5	0.5	0.16	0.12
第76図17 図版55の17	10号墓 蔵骨器No.2	青色	0.55	0.35	0.30	0.07
第76図18 図版55の18	10号墓 蔵骨器No.2	黄色	0.5	0.26	0.20	0.06
第76図19 図版55の19	10号墓 蔵骨器No.2	黄色	0.5	0.28	0.20	0.11
第76図20 図版55の20	10号墓 蔵骨器No.2	黄色	0.5	0.45	0.20	0.10
第76図21 図版55の21	10号墓 蔵骨器No.2	黄色	0.45	0.35	0.20	0.08
第76図22 図版55の22	10号墓 蔵骨器No.2	黄色	0.4	0.37	0.20	0.10

第19表 指輪観察一覧

挿図番号 図版番号	出土地点	蔵骨器 No.	直径 幅 (cm)	重量 (g)	観察事項
第80図11 図版60の11	8号墓	No.1	2.1 4.0	1.18	青錆・骨粉付着。
第80図12 図版60の12	8号墓	No.1	2.0 4.0	1.05	青錆・骨粉付着。
第80図13 図版60の13	8号墓	No.1	2.0 4.0	1.09	青錆・骨粉付着。
第80図14 図版60の14	8号墓	No.3	1.6 4.0	0.47	青錆・骨粉付着。

C. 指輪 (第80図11~14)

無文の指輪が4個出土した。すべて18号墓の蔵骨器からの出土である。第80図11~13は蔵骨器No.1から、第80図14は蔵骨器No.3からの出土である。蔵骨器No.1は乾隆36年(1771年)、蔵骨器No.3は乾隆31年(1766年)の年号が銘書に記されていた。第19表に観察を示した。

7. 鉄釘・鋏

A. 鉄釘 (第77図1~46・第78図1~44)

出土した鉄釘は総数92点。ほとんどが墓室内からの出土で、蔵骨器内・タナ・シルヒラシから出土しており、蔵骨器内からの出土が最も多く合計42点で、タナは合計25点で19号墓の右タナが18点と多く、このタナからは炭化した布や炭、鍵類・装飾金具なども出土している。シルヒラシ出土は合計23点で、そのうち一次葬人骨に伴うものが合計17点である。墓外からは1点のみである。

形態は角釘・丸釘・不明があり、大きさで見ると、大(4.3~6.9cm)・中(3.0~3.6cm)・小(2.1~2.8cm)に分けられ、角釘は中・小の大きさのみで、丸釘はすべてある。釘には木片が付着しており、その木片の木目から異なる種類の向きの木材を止めていたことが分かる。

図示したものは各墓と形態でまとめており、第77図1~21は8号墓、22~31は10号墓、32~46は17号、第78図1~5は18号墓、6~44は19号墓である。第20表に出土一覧、第21表に蔵骨器内の釘・鋏出土一覧、第22表に観察を示した。

B. 鋏 (第78図45・46)

第78図45は、鍵金具を固定するものと思われ、19号墓蔵骨器No.2からの出土である。第78図46は墓室右タナからの出土で、第79図10には同様な鋏が見られることから、蝶番を固定するものと考えられる。

8. 煙管・煙管入れ

a. 煙管（第79図1～5、第81図4）

出土した煙管は総数6点で、沖縄産無釉陶器製1点・金属製5点の出土である。雁首は陶製1点・鉄製2点、吸口は鉄製2点である。金属製の延べ煙管が1点である。第81図4は、8号墓墓室内の一次葬人骨の副葬品で、タールに埋まっていたために煙管入れに納められた状態である。

第79図3は雁首と吸い口は対で、竹製の羅字が折れている。10号墓蔵骨器No.1からの出土。第79図4は、19号墓の蔵骨器No.2からの出土である。第23表に出土状況、第24表に観察一覧を示した。

b. 煙管入れ（第81図1～3）

プラスチック製の煙管入れで外面には細かい波状文が施される。8・19号墓から出土した。第81図1・2で1対である。紐通を持つ1に2が収まる。第81図3は8号墓の一次葬人骨の副葬品でタールに埋まっており中に鉄製煙管が納められた状態である。

9. 鍵類

19号墓墓室の右タナ上に炭化した布状の遺物や炭が検出された部分から出土しており、衣類を納めた衣装箱が置かれていたものと考えられる。それに使われていたものと考えられる。同位置のタナ側壁は焼け痕がある。第25表に出土状況、第26表に観察一覧を示した。

a. 錠前（第79図8・9）

19号墓シルヒラシ出土である。第79図9は錠前の本体に差し込む部品である。第79図8は左側が欠落しており内部が見え、第79図9と同じ物が差し込まれていることがわかる。本品は欠損品である。

b. 鍵（第79図11～15）

第79図11は板状の金具の穴に凸部を差し込んで回転させて止めるものと考えられる。第79図12は円形の金具に差し込んで鍵にするもので、紐などをつけて戸に取り付けて閉めるものものと考えられる。第79図14・15は材質や固定用の鉋の造り、差込部のサイズが同様であることから、14・15の組み合わせで使われるものと考えられる。

10. 金属製品

出土した金属製品は20種類で総数439点である。ここでは前述した簪・釘・鉄・煙管・鍵類以外の金属製品で、鉄・眼鏡メガネフレーム・蠟燭立て・ベルト金具・装飾金具と器種不明で特徴的なものを図示し、その他については今回の報告では割愛した。8号墓墓室で出土した把釜・鉄鍋・柄杓などは検出状況で示した。第27表にすべての出土状況を示し、第28表に図示したものの観察を示した。

A. 鉄 (第79図6)

8号墓室右タナ出土の副葬品である。完全に広げた状態である。検出状況を図版9に示した。

B. 蠟燭立て (第79図7)

中央の蠟燭の穴に差し込む突起部分が欠損している。1点の出土である。4号墓庭出土。

C. 蝶番 (第79図10)

19号墓墓室右タナで、炭化した布類と炭が散乱したところから出土しており衣装などを納める箱のものではないかと考えられる。

D. ベルト金具 (第79図16)

19号墓出土。細いベルトの止め具と考えられる。

E. 装飾金具 (第80図4)

表面の文様は判然としない。芯の部分は幅約4mmである。19号墓右タナ出土。

F. 眼鏡フレーム (第80図10)

本品は2点検出され、可動部分がのこるものを図示した。8号墓墓室で検出された一次葬の人骨の副葬品である。頭骸骨の下位から出土した。第80図15・16のレンズとセットである。

G. 器種不明 (第80図1～3・5～8)

第80図1～3は先端が凹状になるもので、背に2つの突起をもつものと持たないものがある。第80図6は刃物の可能性がある。

11. ガラス製品・その他

ガラス製品・ボタン・櫛・硯・歯ブラシ・ベルト

A. ガラス製品

出土したガラス製品は4種類で総数10点得られた。ここでは前述したガラスタ玉以外のガラス製品で、レンズ（眼鏡・サングラス）・鏡・ビール瓶・薬瓶・化粧瓶である。副葬品の眼鏡レンズと墓庭出土のサングラス・鏡を図化し報告する。その他の遺物は今回の報告では割愛した。第29表にすべての出土状況を示し、第30表では図示したものの観察一覧を示した。

B. レンズ（第80図15～17）

眼鏡レンズ2点とサングラスのレンズ1点である。

第80図15・16は、8号墓のシルヒラシで検出された1次葬人骨の副葬品である。頭骸骨の下位から出土した。近くから眼鏡フレームの耳掛けの部分（第80図10）も出土した。

C. 鏡（第81図7）

出土した鏡は1点である。8号墓のシルヒラシで検出された人骨の副葬品で、肋骨の上から出土した。裏面の塗膜はすべて剥がれた状態である。極薄の片面が赤い塗膜も検出された。

D. ボタン（第80図18～21、図版60の18～21）

総数33点出土し、28点が19号墓からの出土である。骨製・貝製・プラスチック製があり、それぞれに2孔と4孔がある。骨製5点、貝製21点、プラスチック製7点である。

第80図18・20は骨製で18は厚みがある。20は表側が窪み歪みの多いものである。第80図21は、貝製で表は成長線が文様となっている。このタイプには4孔もある。第80図19はプラスチック製で表は花びら状の文様があるが、裏面に文様はない。緑色。

E. 櫛（第81図5・6、図版61の4・5）

黒色のプラスチック製櫛である。第81図5は、背の部分が弧状になり、背の形に合わせて歯の長さも弧状になるもので中央に「美髪」の文字がある。1号墓墓室左タナの出土で、同位置で検出した4個の沖繩産陶器大鉢（ワンプー）と共伴である。長さ15.5cm、幅3.6cm、厚さ4mm重さ11.58g。

第81図6は、背の部分が直線的になるもので、歯の長さも背の形状に合わせて均一である。表面左端に「SHISEI」の文字がある。7号墓墓庭出土である。長さ15.9cm、

第20表 釘・鉄出土状況

出土地点		種類	鉄釘							鉄				小計	総合計				
			角釘				丸釘			不明	大	中	小			破片			
			大	中	小	破片	大	中	小								破片		
8号墓	墓室内	シルヒラシ					1				1							2	21
		タナ																0	
		蔵骨器内		1	1	1			1				4	10				18	
		その他・不明																0	
		墓庭																0	
墓外					1											1			
10号墓	墓室内	シルヒラシ																0	10
		タナ				1	4					2					7		
		蔵骨器内				2			1									3	
		その他・不明																0	
		墓庭																0	
墓外																0			
17号墓	墓室内	シルヒラシ				7							3	5				15	15
		タナ																0	
		蔵骨器内																0	
		その他・不明																0	
		墓庭																0	
墓外																0			
18号墓	墓室内	シルヒラシ																0	5
		タナ																0	
		蔵骨器内				1	1							3				5	
		その他・不明																0	
		墓庭																0	
墓外																0			
19号墓	墓室内	シルヒラシ					1		2		3							6	41
		タナ		1	3	4			2	1	6		1					18	
		蔵骨器内		5	2	5					3		1					16	
		その他・不明												1				1	
		墓庭																0	
墓外																0			
小計			0	7	6	21	8	1	5	11	31	0	0	2	0			92	
総合計			34				25			31	2								

幅3.0cm、厚さ3mm、重量12.53g。

F. 硯 (第81図8、図版61の6)

側面と裏面を黒色に塗装し、表には施されない。裏面は僅かに上げ底になる。石材は黒色粒を含む灰色である。縦12.2cm、横6.4cm、厚さ2.1cm、重量320g。試掘溝No 26出土。

G. 歯ブラシ (第81図9、図版61の8)

骨製の歯ブラシの柄である。頭部のつけねで折損している。柄の後端には四角い孔がある。柄の中央部の幅は約1.1cm、重量3.38g。20号墓墓庭出土。

H. ベルト (第82図1、図版62の1)

8号墓の一次葬人骨の副葬品で、胸の上で出土した。全面にタールが付着しており、端に石灰岩礫が付着したままである。長さ66.0cm、幅3.8cm、厚さ0.35mm。

第21表 蔵骨器内の釘・鉄出土状況

出土地点 種類		8号墓						10号墓	18号墓	19号墓			小計	合計
		蔵骨器 No 3	蔵骨器 No 5	蔵骨器 No 6	蔵骨器 No 8	蔵骨器 No 11	蔵骨器 No 14	蔵骨器 No 6	蔵骨器 No 6	蔵骨器 No 2	蔵骨器 No 3	蔵骨器 No 4		
角釘	大												0	18
	中						1					5	6	
	小						1					2	3	
	破片						1	2	1			5	9	
丸釘	大												0	8
	中					1			1		1		3	
	小							1					1	
	破片					2	2						4	
不明	大									1			1	15
	中												0	
	小					1							1	
	破片	1	1	1		3	3		3	1			13	
鉄	大												0	1
	中												0	
	小									1			1	
	破片												0	
小計		1	1	1	1	6	8	3	5	3	1	12		42
総合計		18						3	5	16				

第22表 釘・鉄観察一覧(1)

神岡番号 図版番号	出土地点	蔵骨器 NO.	種類	長さ 直径 (cm)	重量 (g)	残存 状況	観察	備考
第77図1 図版56の1	8号墓 墓室	No. 3	不明	— 0.3	0.7	破片	頭部は円形。先端部に木材が 付着。	
第77図2 図版56の2	8号墓 墓室	No. 6	不明	— 0.3	0.97	破片	頭部は楕円形。頭のつけ根 に木材付着。	
第77図3 図版56の3	8号墓 墓室	No. 5	不明	— 0.5	1.08	破片	頭部は楕円形。木片付着。 2種類の別方向の木材を固 定していたと思われる。上 部の木片は厚さ約1cm。 上部の木片方向はヨコ。下 部の木片はタテ。	
第77図4 図版56の4	8号墓 墓室	No. 8	不明	2.8 0.3	0.83	完形	頭部は楕円形。木片付着。 別方向の木材を固定してい たと思われる。蓋の厚さは 約1cm。木片の方向はヨ コ、下はタテ。	
第77図5 図版56の5	8号墓 墓室	No. 11	丸	— 0.3	1.26	破片	頭部は縦にツブされる。木 片付着。胴部に使用?木片 の方向が1種類。	
第77図6 図版56の6	8号墓 墓室	No. 11	丸	3.0 0.2	0.54	完形	頭部は楕円形。身が細か い。	
第77図7 図版56の7	8号墓 墓室	No. 11	丸	— 0.4	0.94	破片	頭部は折損。やや太めの 釘。	
第77図8 図版56の8	8号墓 墓室	No. 11	不明	— 0.3	0.91	破片	頭部は楕円形。木片付着。 木片の方向2種類。材幅約 1.6cm。上はヨコ、下は斜 め。	
第77図9 図版56の9	8号墓 墓室	No. 11	不明	— 0.4	0.5	破片	頭部は楕円形。木片付着。 ヨコ方向。	
第77図10 図版56の10	8号墓 墓室	No. 11	不明	— 0.4	0.83	破片	頭部は楕円形。ヨコ方向の 木片付着。	
第77図11 図版56の11	8号墓 墓室	No. 14	角	3.4 0.3	1.81	完形	頭部は楕円形。ヨコ方向の 木片付着(中央部)。	
第77図12 図版56の12	8号墓 墓室	No. 14	角	— 0.4	0.96	破片	頭部楕円形?。ヨコ方向の 木片付着。上部は厚さ1.1 cm。	
第77図13 図版56の13	8号墓 墓室	No. 14	角	2.6 0.3	0.75	完形	頭部は不明。木片付着。ヨ コ方向。	
第77図14 図版56の14	8号墓 墓室	No. 14	丸	— 0.3	0.65	破片	頭部不明。	
第77図15 図版56の15	8号墓 墓室	No. 14	丸	— 0.2	0.28	破片	頭部は不明。木片付着。ヨ コ方向。	
第77図16 図版56の16	8号墓 墓室	No. 14	不明	— 0.5	2.35	破片	頭部は細い楕円形。木片付 着。サビ付着。上部木材厚 さ約1cm。	
第77図17 図版56の17	8号墓 墓室	No. 14	不明	— 0.4	0.9	破片	頭部は不明。木片付着。ヨ コ方向。	

「蔵骨器」の項：「—」は人骨が入っていない蔵骨器か墓室内から出土

第22表 釘・鉄観察一覧(2)

挿図番号 図版番号	出土地点	蔵骨器 NO.	種類	長さ 直径 (cm)	重量 (g)	残存 状況	観察	備考
第77図18 図版56の18	8号墓 墓室	No. 14	不明	— 0.5	1.37		頭部は不明。木片付着。	
第77図19 図版56の19	8号墓 墓室	—	丸	4.6 0.3	1.52	完形	頭部は楕円形。片側へ曲がる。木片なし。	
第77図20 図版56の20	8号墓墓室 シルヒラン	—	丸	— 0.3	1.08	破片	頭部は不明。腐蝕で細くなっている。	人骨共伴
第77図21 図版56の21	8号墓墓外 土手部 造成分	—	丸	4.5 0.3	1.51	完形	頭部は円形。新しい釘。	
第77図22 図版56の22	10号墓 墓室	No. 6	角	— 0.4	1.26	破片	頭部は楕円形。木片付着。上部は厚さ約9mm。木片はヨコ方向。下部はタテ方向？	
第77図23 図版56の23	10号墓 墓室	No. 6	角	— 0.3	1.09	破片	下部に付着物ある。	
第77図24 図版56の24	10号墓 墓室	No. 6	丸	2.8 0.4	1.05	完形	頭部は楕円形。上部の約5mm下から木片付着。	
第77図25 図版56の25	10号墓 墓室右タナ 上	—	丸	4.8 0.4	1.8	完形	頭部円形。木片付着。ヨコ方向。	
第77図26 図版56の26	10号墓 墓室右タナ 上	—	丸	4.7 0.4	2.01	完形	頭部は円形。木片付着。頭部下約1.3cmに境目あり。木片の方向異なる。2枚の板を止めたもの。	
第77図27 図版56の27	10号墓 墓室右タナ 上	—	丸	4.9 0.4	1.5	完形	頭部は円形。ヨコ方向の木片付着。	
第77図28 図版56の28	10号墓 墓室右タナ 上	—	丸	4.8 0.4	1.68	完形	頭部は円形。木片付着。頭部下約1cmに境目あり。	
第77図29 図版56の29	10号墓 墓室右タナ 上	—	丸	— 0.3	1.25	破片	サビ・木片わずかに付着。	
第77図30 図版56の30	10号墓 墓室右タナ 上	—	丸	— 0.4	0.98	破片	頭部は円形。頭部下約1cmに木片付着。	
第77図31 図版56の31	10号墓 墓室右タナ 上	—	角	— 0.3	0.33	破片	頭部折損。やや細い。	
第77図32 図版56の32	17号墓 墓室	—	角	— 0.3	1.11	完形	頭部は楕円形。頭部下約5mmに境目あり。	
第77図33 図版56の33	17号墓 墓室	—	角	— 0.3	0.62	破片	頭部は不明。ツブレか？サビ付着。	人骨共伴

第22表 釘・紙觀察一覽(3)

挿図番号 図版番号	出土地点	蔵骨器 NO.	種類	長さ 直径 (cm)	重量 (g)	残存 状況	觀察	備考
第77図34 図版56の34	17号墓 墓室	-	角	- 0.3	0.77	破片	頭部不明。ツブレか?木片 付着。ヨコ方向。	人骨共件
第77図35 図版56の35	17号墓 墓室	-	角	- 0.3	0.78	完形	頭部は不明。ツブレか?頭 部下約1.5cmに境目あり。	人骨共件
第77図36 図版56の36	17号墓 墓室	-	角	- 0.3	1.05	破片	頭部不明。サビ付着。	人骨共件
第77図37 図版56の37	17号墓 墓室	-	角	- 0.3	0.79	破片	頭部不明。ツブレか?木片 付着。	人骨共件
第77図38 図版56の38	17号墓 墓室	-	角	-	0.47	破片	頭部折損。木片付着。	人骨共件
第77図39 図版56の39	17号墓 墓室	-	丸	- 0.3	0.83	破片	頭部不明。サビ付着。	人骨共件
第77図40 図版56の40	17号墓 墓室	-	丸	- 0.2	0.22	破片	頭部折損。第12図39と同一 個体か?	人骨共件
第77図41 図版56の41	17号墓 墓室	-	丸	- 0.4	0.98	破片	頭部不明。木片付着。	人骨共件
第77図42 図版56の42	17号墓 墓室	-	不明	- 0.4	1.24	破片	頭部不明。木片付着。	人骨共件
第77図43 図版56の43	17号墓 墓室	-	不明	- 0.3	1.27	破片	頭部不明。サビ付着。	人骨共件
第77図44 図版56の44	17号墓 墓室	-	不明	- 0.3	1.25	破片	頭部不明。サビ・木片付 着。	人骨共件
第77図45 図版56の45	17号墓 墓室	-	不明	- 0.3	0.88	破片	頭部不明。木片付着。ヨコ 方向。	人骨共件
第77図46 図版56の46	17号墓 墓室	-	不明	- 0.3	0.99	破片	頭部不明。木片付着。ヨコ 方向。	人骨共件
第78図1 図版57の1	18号墓 墓室	No. 6	丸	6.9 0.4	3.92	完形	頭部不明。大型の釘。	
第78図2 図版57の2	18号墓 墓室	No. 6	不明	- 0.2	0.48	破片	頭部不明(円形?)。木片付 着。頭部下約0.5cmに木の 境目あり。	
第78図3 図版57の3	18号墓 墓室	No. 6	不明	- 0.2	0.53	破片	頭部不明。	
第78図4 図版57の4	18号墓 墓室	No. 6	角	- 0.2	0.42	破片	頭部不明。木片付着。ヨコ 方向。	
第78図5 図版57の5	18号墓 墓室	No. 6	不明	- 0.4	0.46	破片	頭部不明。木片付着。頭部 下約1cmに境目あり。	

第22表 釘・鉄観察一覧(4)

挿図番号 図版番号	出土地点	蔵骨器 NO.	種類	長さ 直径 (cm)	重量 (g)	残存 状況	観察	備考
第78図6 図版57の6	19号墓 墓室	No. 2	不明	4.3 0.3	0.97	完形	頭部円形。木片付着。上部の木片は厚さ約1cm。木片の方向は異なる。	
第78図7 図版57の7	19号墓 墓室	No. 2	不明	— 0.3	0.75	破片	頭部円形。木片付着。ヨコ方向。	
第78図8 図版57の8	19号墓 墓室	No. 3	不明	3.0 0.3	0.7	完形	頭部円形。木片付着。方向別々。上部の木材の厚さ約1cm。	
第78図9 図版57の9	19号墓 墓室	No. 4	角	3.4 0.3	1.5	完形	頭部不明。木片付着。方向別々。頭部下約1cmで境目あり。	
第78図10 図版57の10	19号墓 墓室	No. 4	角	3.4 0.3	1.62	完形	頭部不明。サビ付着。	
第78図11 図版57の11	19号墓 墓室	No. 4	角	3.0 0.2	1.16	完形	頭部不明。木片付着。方向別々。頭部下約1cmで境目あり。	
第78図12 図版57の12	19号墓 墓室	No. 4	角	— 0.3	1.27	破片	頭部不明。木片付着。方向別々。上部は約8mm。	
第78図13 図版57の13	19号墓 墓室	No. 4	角	— 0.3	0.87	破片	頭部不明。木片先端部に付着。	
第78図14 図版57の14	19号墓 墓室	No. 4	角	3.6 0.4	1.41	完形	頭部円形。木片付着。先端が曲がっている。	
第78図15 図版57の15	19号墓 墓室	No. 4	角	3.2 0.2	1.51	完形	頭部不明。木片付着。頭部下約1cmに境目あり。木片の方向別々。	
第78図16 図版57の16	19号墓 墓室	No. 4	角	2.4 0.2	0.96	完形	頭部不明。木片付着。木片の方向はヨコのみ。	
第78図17 図版57の17	19号墓 墓室	No. 4	角	— 0.4	0.78	破片	頭部不明。木片付着。木片の方向はヨコのみ。	
第78図18 図版57の18	19号墓 墓室	No. 4	角	— 0.2	0.67	破片	頭部不明。木片付着。上部下約0.5cmに境目あり。	
第78図19 図版57の19	19号墓 墓室	No. 4	角	— 0.3	0.86	破片	頭部不明。木片付着。木片の方向はヨコのみ。	
第78図20 図版57の20	19号墓 墓室	No. 4	角	2.7 0.2	1.09	完形	頭部不明。木片付着。木片の方向はヨコのみ。	

第22表 釘・鉄観察一覽(5)

挿図番号 図版番号	出土地点	蔵骨器 NO.	種類	長さ 直径 (cm)	重量 (g)	残存 状況	観察	備考
第78図21 図版57の21	19号墓 墓室右タナ	—	角	3.4 0.2	1.87	完形	頭部楕円形。木片付着。木片の方向は別々。頭部下約1cmに木片の境目あり。	
第78図22 図版57の22	19号墓 墓室右タナ	—	角	2.6 0.2	0.73	完形	頭部楕円形。木片付着。	
第78図23 図版57の23	19号墓 墓室右タナ	—	角	2.1 0.2	0.8	完形	頭部不明(楕円形?)	
第78図24 図版57の24	19号墓 墓室右タナ	—	角	2.5 0.2	0.81	完形	頭部楕円形。片側へ曲げるタイプ。木片付着。頭部下約1cmに境目あり。	
第78図25 図版57の25	19号墓 墓室右タナ	—	角	— 0.3	0.87	破片	頭部不明。サビ付着。	
第78図26 図版57の26	19号墓 墓室右タナ	—	角	— 0.3	0.92	破片	頭部不明。木片付着。頭部下約1.2cmに境目あり。	
第78図27 図版57の27	19号墓 墓室右タナ	—	丸	2.7 0.3	0.77	完形	頭部不明。楕円形の片側タイプか?サビ付着。	
第78図28 図版57の28	19号墓 墓室右タナ	—	丸	— 0.3	1.51	破片	頭部は不明。サビ付着。	
第78図29 図版57の29	19号墓 墓室右タナ	—	丸	2.2 0.2	0.42	完形	頭部円形。小さい釘。サビ付着。他のものと用いる対象が異なるものか?	
第78図30 図版57の30	19号墓墓室 右タナ上 布類散乱跡	—	不明	—	0.67	破片	頭部折損。	
第78図31 図版57の31	19号墓墓室 右タナ上 布類散乱跡	—	不明	— 0.2	0.86	破片	頭部不明。サビ付着。	
第78図32 図版57の32	19号墓 墓室右タナ	—	不明	— 0.3	1.16	破片	頭部不明。サビ付着。	
第78図33 図版57の33	19号墓 墓室右タナ	—	不明	— 0.3	0.69	破片	頭部楕円形。片側タイプ。木片付着。	
第78図34 図版57の34	19号墓墓室 右タナ上 布類散乱跡	—	不明	— 0.3	1.2	破片	頭部折損。サビ付着。	
第78図35 図版57の35	19号墓墓室 右タナ上 布類散乱跡	—	不明	— 0.3	0.86	破片	頭部不明。木片付着。	
第78図36 図版57の36	19号墓 シルヒラシ 付近	—	丸	5.0 0.4	2.5	完形	頭部不明。頭部は円形か?サビ付着。	
第78図37 図版57の37	19号墓 シルヒラシ	—	丸	2.8 0.3	0.67	完形	頭部不明。サビ付着。	
第78図38 図版57の38	19号墓 シルヒラシ	—	丸	2.6 0.3	0.59	完形	頭部楕円形。片側タイプではない。サビ付着。	

第22表 釘・鉄観察一覧(6)

挿入番号 図版番号	出土地点	蔵骨器 NO.	種類	長さ 直径 (cm)	重量 (g)	残存 状況	観察	備考
第78図39 図版57の39	19号墓室	—	不明	3.2 0.2	1.33	完形	頭部楕円形。木片付着。上部の木片は約1cm。木片の方向は別々。	
第78図40 図版57の40	19号墓 墓室右タナ	—	角	— 0.3	0.92	破片	頭部不明。ツブレか？サビ付着。	
第78図41 図版57の41	19号墓 墓室右タナ	—	角	— 0.3	0.67	破片	頭部不明。木片付着。	
第78図42 図版57の42	19号墓 シルヒラシ	—	器種不明	— 0.3	0.34	破片	頭部不明。サビ付着。	
第78図43 図版57の43	19号墓 シルヒラシ	—	器種不明	— 0.2	0.23	破片	頭部不明。サビ付着。細身の釘。用途別か？(厨子甕以外か？)	
第78図44 図版57の44	19号墓 シルヒラシ	—	器種不明	— 0.2	0.24	破片	頭部不明。サビ付着。細身。No.48と同様に用途別か？	
第78図45 図版57の45	19号墓	No. 2	鉄	— 0.2	0.21	完形	頭部円形。青サビが付着。装飾用と思われる。	
第78図46 図版57の46	19号墓 墓室右タナ	—	鉄	1.6 1.1	0.51	完形	頭部円形。鉄製である。身の中央よりやや下で曲がる。頭部と身の接続は二又に別けてつけてある。	

第23表 煙管出土状況

種類	出土地点		6号墓				8号墓				10号墓				19号墓				不明	合計
	墓室		墓室		墓室		墓室		墓室		墓室		墓室							
	蔵骨器内	シルヒラシ	墓庭	墓外	蔵骨器内	シルヒラシ	墓庭	墓外	蔵骨器内	シルヒラシ	墓庭	墓外	蔵骨器内	シルヒラシ	墓庭	墓外				
雁首			1						1										3	
吸口								1	1										2	
延べ煙管																		1	1	
不明																		1	1	
合計			1					1	2					1				2	7	

第24表 煙管・煙管入れ観察一覧

挿図番号 図版番号	種類	出土地点	蔵骨器 No.	長さ 幅 (cm)	重量 (g)	観察事項	備考
第79図1 図版58の1	雁首	6号墓庭	—	4.9 1.4	8.56	広口状にしたもので、首部前方の湾曲が強いもの。青サビがつく。	
第79図2 図版58の2	吸口	8号墓前面 土手側	—	7.8 1.0	12.43	肩がある。ラウ接続部から肩にかけてやや径を大きくし、肩部からすばまり、最後は端部にかけてわずかに径を広げる。竹製のラウを伴っており外径0.6cm、内径0.25cmで、炭化している。	
第79図3 図版58の3	雁首	10号墓 墓室	No. 1	5.8 1.7	7.96	火皿部を碗状にするもの。首部の湾曲が大きいもので、首部から胴が細い。ラウは竹製である。ラウは折れているが中に残っている。	銘書の年号は雍正2年。
	吸口			4.9 0.8		3.81	
第79図4 図版58の4	雁首	19号墓 墓室	No. 2	3.9 1.7	8.3	火皿部。首部ともに断面は円形に整形されている。	銘書の年号は道光4年。
第79図5 図版58の5	延べ煙管	不明	—	21.4 —	49.05	火皿部を欠損している。胴部は直線で、口のすばまりは小さい。首部の湾曲は小さい。	
第81図4 図版61の3	煙管	8号墓 シルヒラシ	—	—	—	煙管入れの中に入っており、全体形は不明。	一次葬人骨の副葬品。
第81図1 図版61の1	煙管入れ 身	8号墓墓室 左タナ上	—	15.8 2.3	7.92	波状の文様が全体に施され、紐通しがつく。	左タナの入口側
第81図1 図版61の1	煙管入れ 蓋			16.3 2.1		7.5	
第81図2 図版61の2	煙管入れ	19号墓墓室 左タナ上	—	16.3 2.1	7.43	細かい波状文様が施されている。摩滅しており使い込まれたものと思われる。	
第81図3 図版61の3	煙管入れ	8号墓 シルヒラシ	—	17.55 2.6	—	波状の文様が表裏面に施されるが、側面には施されない。紐通しがつく。	1次葬人骨副葬品。

「蔵骨器」の項：「—」は人骨が入っていない蔵骨器か墓室内から出土

第25表 鍵類出土状況

種類	出土地点			8号墓			10号墓			19号墓			合計
	墓室	墓庭	墓外	墓室	墓庭	墓外	墓室	墓庭	墓外	墓室	墓庭	墓外	
錠前										2			2
鍵			1	1						3			5
合計			1	1						5			7

第26表 鍵類観察一覧

挿図番号 図版番号	形状	出土地点	長さ 幅 高さ (cm)	重量 (g)	観察事項	備考
第79図8 図版59の2	錠前	19号墓墓室 シルヒラシ	3.9 9.8	170.0	うすい鉄板を曲げて組み合わせる。左側は欠落し、内部が見える。内部には幅約4mmの板バネが2枚1組で2個あり、差込口の反対側が接点となって、第14図9を右側から挿入し、このバネの接点部で固定されて閉じるものである。欠落した左側に鍵穴があったと考えられる。	
第79図9 図版59の3	錠前	19号墓墓室 シルヒラシ	9.3 3.0 2.8	38.72	120番と同様に錠前の部品で右側から挿入するもの。細い板状で先端にかかりを造る部分が板バネの接点に挟まれる部分である。2本あるもののうち1本が折損している。	
第79図11 図版59の5	鍵	19号墓墓室 シルヒラシ	3.0 3.0 2.1	12.72	凸部のつけねに僅かに境目が見られることから、この部分が回転すると考えられる。	
第79図12 図版59の6	鍵	10号墓墓室 シルヒラシ	4.2 1.4 —	5.36	頭部が輪になっており、先端は僅かに垂む。頭部の孔に紐を通すものと考えられる。	
第79図13 図版59の7	鍵	8号墓 土手斜面	6.2 1.5 —	18.33	板状の鉄板を頭部の輪の部分で折り返して作っている。刺の部分は2枚の鉄板が合わさった状態である。	
第79図14 図版59の8	鍵	19号墓墓室 右タナ	3.2 4.0 —	16.65	鉄の芯の部分は曲げられており、この部分の空間から、厚さ約3mmのものに固定されていたと考えられる。鎌部分で曲げた状態である。	
第79図15 図版59の9	鍵	19号墓墓室 右タナ	4.2 6.5 —	37.41	4隅に固定用の孔があり1ヶ所は開いている。鍵を差し込んでまわすと金具が差込口側に出てくるものようである。裏面には細かい板の破片が付着している。第79図14と材質や色調、鉄のサイズが同様である。同一個体の可能性がある。	

第27表 金属製品出土状況（簪・釘・紙・煙管・鍍類以外）

種類 出土地点	種類													小計	総合計			
	鉄	錐	鍍	鉄製	蹄鉄	燐燭立て	羽釜	鉄鍋	柄杓	鎌の刃	鉄皿	裝飾品	弾劔			鉄製リング	器種不明	
2号墓	墓室															0	1	
	墓庭				1											1		
	墓外															0		
	不明															0		
3号墓	墓室															0	3	
	墓庭														1	1		
	墓外													2		2		
	不明															0		
6号墓	墓室															0	1	
	墓庭													1		1		
	墓外															0		
	不明															0		
8号墓	墓室	1	4					1	1	1					1	9	18	
	墓庭															0		
	墓外														9	9		
	不明															0		
9号墓	墓室															0	1	
	墓庭													1		1		
	墓外															0		
	不明															0		
10号墓	墓室										1					72	73	74
	墓庭															0		
	墓外	1														1		
	不明															0		
11号墓	墓室															0	2	
	墓庭				2											2		
	墓外															0		
	不明															0		
18号墓	墓室		5												7	12	13	
	墓庭														1	1		
	墓外															0		
	不明															0		
19号墓	墓室	1	1	1	1						1	1	1		327	334	334	
	墓庭															0		
	墓外															0		
	不明															0		
20号墓	墓室															0	1	
	墓庭	1														1		
	墓外															0		
	不明															0		
10・11号墓間	墓室															0	1	
	墓庭															0		
	墓外														1	1		
	不明															0		
出土地不明															1	1	1	
総合計	1	12	1	1	2	1	1	0	1	1	1	1	1	1	3	420	450	

第28表 金属製品観察一覧

挿図番号 図版番号	形状	出土地点	長さ 幅 (cm)	重量 (g)	観察事項	備考
第79図6 図版58の6	鉄	8号墓 墓室タナ 右側前方	20.9 4.5	77.37	鉄を完全に開いた状態である。	
第79図7 図版59の1	銅錫立て	4号墓 墓庭	2.4 3.65	38.50	高杯状の台に花弁の装飾が付く。中央部は欠損し、芯棒を失っている。	
第79図10 図版59の4	鐙番	19号墓墓室 右タナ	6.7 3.2	20.7	付着物が多い。固定する穴がつくと考えられる4隅を裏面から見ると3ヶ所が円形で白色を呈している。	
第79図16 図版59の10	ベルト金具	19号墓 シルヒラシ	2.9 2.3	2.84	孔の長さは約1.8cm。外側の部分は裏に曲げており断面が凹状になる。	
第80図1 図版60の1	器種不明	10号墓墓室 右タナ上	10.4 0.9	9.07	先端曲がり凹状を呈する。背に突起を持たない。	
第80図2 図版60の2	器種不明	19号墓室 シルヒラシ	11.8 1.1	14.78	先端が曲がり凹状を呈し、湾曲部分が突起状を呈する。	
第80図3 図版60の3	器種不明	19号墓室 シルヒラシ	12.0 1.0	15.59	先端が曲がり凹状を呈し、平坦部の先端の背に2個の突起がつく。	
第80図4 図版60の4	裝飾金具	19号墓墓室 右タナ	2.3 2.3	2.03	内側の突起は幅約4mmの板状を呈する。	
第80図5 図版60の5	器種不明	19号墓墓室 右タナ	5.6 3.0	7.34	五角形を呈する部分は縁を裏側に曲げている。	
第80図6 図版60の6	器種不明	19号墓室 シルヒラシ 覆土	5.3 3.1	14.88	包丁の可能性ある。	
第80図7 図版60の7	器種不明	19号墓墓室 右タナ	6.6 2.5	16.39	薄い鉄板を曲げて板状に成形している。	
第80図8 図版60の8	器種不明	19号墓墓室 右タナ	13.2 2.2	21.93	鉄板をまげて、別の鉄板に被せている。その固定用と考えられる円形の突起が左側に残る。	
第80図9 図版60の9	器種不明	19号墓墓室 右タナ	6.3 2.7	17.52	帯状を呈するものと考えられる。	
第80図10 図版60の10	眼鏡フレーム	8号墓墓室 シルヒラシ	10.7 0.20	3.06	眼鏡フレームの耳にかける部分で柄の中央部から右回転でねじって螺旋状巻き付けている。この部分の内部は逆に左回転でねじって紐を擦るようにならされている。	1次葬人骨の副葬品。レンズも2個出土している。

第29表 ガラス製品出土状況

種類 出土地点		レンズ		ビ		葉		化		小計
		眼鏡 レンズ	サン グラス	1 瓶	瓶	瓶	瓶	瓶	瓶	
8号墓	墓室	2								2
	墓庭									0
	墓外									0
	不明									0
9号墓	墓室									0
	墓庭									0
	墓外			1	2					3
	不明									0
10号墓	墓室			1						1
	墓庭									0
	墓外									0
	不明									0
20号墓	墓室									0
	墓庭	1					2			3
	墓外									0
	不明									0
21号墓	墓室									0
	墓庭									0
	墓外	1								1
	不明									0
合計		3	1	2	2	2	2	10		

第30表 ガラス製品観察一覧

挿図番号 図版番号	形状	出土地点	直径 厚さ (cm)	重量 (g)	観察事項	備考
第80図15 図版60の15	円形	8号墓墓室 シルヒラシ	4.2 0.15	4.75	ほとんど平坦なレンズである。透明度は保たれている。	1次葬人骨副葬品。頭骸骨の低位出土。
第80図16 図版60の16	円形	8号墓墓室 シルヒラシ	4.1 0.20	6.53	やや厚く、内側に内埋するが、レンズ自体が変形したような歪みがある。内側の表面がザラつており、すりガラス状を呈する。	1次葬人骨副葬品。頭骸骨の低位出土。
第80図17 図版60の17	楕円形	20号墓 墓庭 外石垣前	4.55 0.20	6.36	緑の成形が表裏に分ける面取がされている。	

12. 墓誌

第82図2（図版62の2）で、8号墓墓室右タナで1点出土した。図版9に出土状況を示した。赤色の平瓦の表面に「仲宗根 蒲 享年五拾六才／昭和拾六年巳旧正月二十日死亡」と墨書されており、誌版に相当するものである。墓の部分で述べたように聞き取り調査の結果と一致することから、シルヒラシで検出された1次葬人骨のものと考えられる。

13. 銭貨

銭貨は総数15点である。内訳は「寛永通寶」9点、無紋銭1点、一銭2点、十銭3点である。墓室内からは4点出土しており、10号墓の蔵骨器No.2から1点、シルヒラシから3点でその他は墓庭や墓外である。第31表に出土一覧、第32表に観察表を示した。

墓庭出土のうち4点は、6号墓墓庭で墓移転の際に打ち割られて遺棄された蔵骨器破片の集中部からの出土である。そのうち第82図1・2・5はその集中部で検出された粉状になった人骨の中から出土したことから、蔵骨器に納められていたと考えられる。

寛永通寶は新寛永と思われるもので、すべて裏面は無文である。外径は約2.5～2.7cmで、孔径は約6～7mmである。外径2.5cmのもので内径約7mmが3点、その他は約6mmである。

第31表 銭貨出土状況

出土地点 墓番号	墓 室		墓 庭		墓屋根	墓庭外	小計
	シルヒラシ	蔵骨器内	庭	サンミデー			
1号墓						1	1
2号墓			2				2
3号墓			2				2
6号墓			4	1			5
7号墓					1		1
8号墓	2						2
10号墓		1					1
14号墓	1						1
合 計	3	1	8	1	1	1	15

第32表 銭貨観察一覧

挿図番号 図版番号	出土地点	蔵骨器 No.	直径 孔径 厚さ (cm)	重量 (g)	材質	観察事項		備考
						表	裏	
第83図1 図版63の1	6号墓庭 厨子変集中部 人骨残り内	—	2.25 0.70 0.10	2.18	鉄	寛永通寶 文字明瞭	文様とフチの 段なし	完品
第83図2 図版63の2	6号墓墓庭 厨子変集中部 人骨残り内	—	2.25 0.60 0.15	2.54	鉄	「寛永通寶」	赤サビ付着。 段有り。文様 なし。	完品
第83図3 図版63の3	3号墓 墓庭	—	2.28 0.70 0.11	2.65	鉄	「寛永通寶」	フチの段無し。 文様なし。	完品
第83図4 図版63の4	3号墓 墓庭	—	2.30 0.70 0.10	2.43	銅	「寛永通寶」寛・寶 の文字がツツれてみ えにくい。表裏面と もにスベスベしてい る。孔の隅には「バ リ」が残る。	無文	完品
第83図5 図版63の5	6号墓墓庭 厨子変集中部 人骨残り内	—	2.32 0.60 0.10	2.30	鉄	「寛永通寶」	フチ幅広い。 スレているが 段残る。	完品
第83図6 図版63の6	6号墓 墓庭 左手前隅	—	2.37 0.65 0.11	2.70	鉄	「寛永通寶」	青サビ付着。 裏フチ段あ り。無文。	完品
第83図7 図版63の7	1号墓 墓庭外 斜面下部 表土	—	2.43 0.60 0.12	3.36	銅	「寛永通寶」 文字明瞭	文様なし	完形品
第83図8 図版63の8	6号墓 サンミデー	—	2.46 0.55 0.10	2.69	銅	「寛永通寶」	無文	完品
第83図9 図版63の9	7号墓 屋根中央部 表土	—	2.55 0.60 0.14	1.98	銅	寛永通寶である。 「通」「寶」の文字が ある。	無文	欠損品
第83図10 図版63の10	10号墓 墓室	No. 2	2.05 0.60 0.20	1.79	銅	青錆多い。文字不明	青錆多い。文 字不明	完品
第83図11 図版63の11	2号墓 墓庭中央 右覆土	—	2.3 0.45 0.13	3.58	青サビ付着	大日本 大正十年中 央の円孔を8枚の花 弁が囲む。	十銭	完品
第83図12 図版63の12	2号墓 墓庭中央 右側覆土	—	2.20 0.44 0.13	3.61	銅	大日本 大正十五年	十銭	完品
第83図13 図版63の13	8号墓室 シルヒラシ	—	2.30 — 0.13	3.71	銅	大日本 大正十一年	二銭	完品
第83図14 図版63の14	8号墓室 シルヒラシ	—	2.28 — 0.14	3.69	銅	大日本 大正十二年	一銭	完品
第83図15 図版63の15	14号墓庭 シルヒラシ	—	2.18 — 0.14	1.00	アルミ or ジュラルミン	大日本 昭和十八年 中央に桜花文。	十銭 中央に菊花文	完品

「蔵骨器」の項：「—」は人骨が入っていない蔵骨器か墓室内から出土

第V章 まとめ

山川原古墓群(2)は総数23基の墓が確認された。標高約32mの東西に細長くのびる小丘陵中腹の南側に5基、北側に18基であった。集落の背後、北東に位置するこれらの古墓は、北谷町で古い集落である旧字伝道・玉代勢・北谷の人々の墓である。

墓の年代は、出土した蔵骨器に記された銘書の年号で見ると、最も古い年号が康熙5年〔1666年、干支と合わないので康熙6年(1667年)も考えられる。〕で、新しい年号は昭和16年(1924年)である。本古墓群は17世紀中頃から戦前(昭和)までの約260年の歴史を持つと考えられる。

墓は、琉球石灰岩の岩盤を掘削し、横穴を掘り込んで墓室を造った墓(方言名:フインチャー)である。その外観の形態では亀甲墓5基(6・7・9・18・20号墓)・平葺墓9基(1・2・3・5・8・10・11・12・13号)・掘込墓6基(4・14・16・17・19・21号墓)・袖墓3基(15・22・23号墓)である。

本古墓群は、石灰岩丘陵を巧みに利用して造れていることがわかる。それは、壟痕が見られない、平坦な墓室天井(1号墓)では、基盤の石灰岩が形成される過程で生じる境目を利用していることが同え、岩盤に亀裂の多い墓室(4・18号墓)では、この部分を土で塞いでいる。また墓面の上部を石積で補うなど、場所による岩盤の違いが形態に影響していると考えられる。また平葺墓の屋根の造りでは、土や石灰岩礫と石灰岩の粉状のもので造成して盛り上げ、その表面に約5cm程度の石灰岩小礫を敷き周囲に石灰岩礫を施す方法が特徴である。

墓を外観の大きさから、大別すると大型墓5基(2・5・6・9・20号墓)、中型墓11基(1・3・4・7・8・10・11・12・13・18・19号墓)、小型墓7基(14・15・16・17・21・22・23号墓)であった。この大きさを、墓庭の面積でみると大型墓は30㎡以上あり、中型墓は11㎡以上で30㎡以下とやや幅があり、そのなかでも約11~15㎡と約20~26㎡、約27~29㎡である。小型墓は墓庭が検出されていない。

しかし、墓室の面積では、大型墓は約8~9㎡で、中型墓の多くは約5~8㎡であるが、大型墓と同様な約9㎡(5・6・8号墓)やそれ以上の約11㎡(11・19号墓)のものがあり、外観では中型となる墓でも広い墓室をもつものがある。小型墓は10㎡以下であった。

この墓室を第三章で述べたように形態からⅠ~Ⅵ類に分類し、出土した蔵骨器に記された銘書の年号で見ると、Ⅰ類A1の6号墓出土の銘書には康熙・雍正、Ⅰ類A2の8号墓・Ⅰ類A1の10号墓は雍正の年号が記された銘書があることからⅠ類Aが古いタイプの墓室ではないかと推察されるが、他の分類の墓で年号の判る蔵骨器が無いことも含め、更なる比較検証が必要である。尚、墓の造営時期について得られたものは9号墓のみで、墓室奥壁の漆喰部分に墓築造月日の墨書が記されていたが年号は不

明である。

袖墓を除いた墓口の向きでみると、8つの方向があり、丘陵南側の墓では南南東（1・3号墓）、南南西（2号墓）、南西（4・18号墓）で、丘陵北側は北東（14・16・17・21号墓）、北北東（9・11～13・15号墓）、北北西（5～9・20号墓）、東北東（19号墓）がある。そのうち12号墓は、墓室と羨道の向く方角がほぼ真北にあたることから、墓口を塞ぐ蓋石の部分と墓面の向きを東側に調整していることが伺えた。風水でいう墓を真北に向けることは行わないことを反映したものではないかと考えられる。

このように丘陵の南・北側では、数基で墓口の向く方位にまとまりも見られるが、北側にある墓のうち19号墓は、墓室の形態はⅠ類A1で、墓室の面積も約11㎡と大きく、また、墓の外観では、丘陵奥深く掘り込まれて造られており、墓口の向きは東北東と他の墓と異なるなど、この丘陵での墓の造られかたから、今回、調査した中では古いものではないかという印象を受けたが、蔵骨器の銘書は「道光・同治」であった。

個別の墓での新旧関係で、切り合いが確認されたものは、9号墓と8号墓、11号墓と10号墓、1号墓と2号墓で、いずれも後者が古い状態を示していた。

墓に伴う遺構では、11号墓で墓庭の外、前庭部に方形状に石灰岩礫を配石した「池」と考えられる石組遺構が検出された。この遺構も風水を意識した施設ではないかと考えられる。

一次葬の状態の人骨が8・17号墓から各1体が検出された。そのうち8号墓は、唯一、最後の葬者以後、閉じられた状態が保たれ、今回の調査で開けることとなった墓である。

墓室内には、14個の蔵骨器が納められており、シルヒラシには安置された一次葬人骨に伴って、鉄釘や副葬品（煙管、眼鏡、鏡・ベルト等）が検出され、ついで、墓室の右タナからは赤瓦（平瓦）を利用した墓誌が出土した。墓誌には「仲宗根 蒲 五拾六才○昭和拾六年巳旧正月二十日死亡」と記されている。聞き取り調査によると、旧字伝道（傳道）で山工（ヤマグ：きこり）をしていた仲宗根という身寄りのいない方が戦前（昭和15・16年頃）亡くなり、旧字で葬式を行った墓であることと一致した。このことから人骨は、墓誌に記された人物であることを裏付けるものである。

17号墓で検出された一次葬の人骨は小児で、共伴遺物は釘のみであった。

さらに、4・7・18号墓から、墓庭の隅に岩盤を掘り込んでブタの頭骨を埋めた遺構が検出された。この遺構は、築造時に墓大工の棟梁が行うといわれるものではないかと考えられる。そのうち4・18号墓では、直径約30cm前後で深さ約10cmのピットが墓庭の隅を意識したような位置で検出され、4号墓の墓庭ではそれに加えて焼痕が3ヶ所検出された。いずれも性格は不明であるが、築造や拝みに関連する遺構の可能性も考えられるが判然としない。

出土した蔵骨器のうち、二次葬の洗骨後に納骨された状態を保ち、墓室内から出土した蔵骨器は総数31個で、5基の墓（8・10・18・19・21号墓）であった。その他、墓室以外からの出土のほとんどが、6号墓の墓庭から移転の際に打ち割られた状態で一括して出土したものである。

蔵骨器に記された銘書には、死亡・洗骨の年号のほかにも、地方役人の職にあった士族の墓であることを示す夫地頭や、親雲上、築登之など首里王夫府の位階も記されており、その地域の長にあたる人であったことがわかる。さらに、1個の蔵骨器に一人、または複数人を納めたことや、墓の移転について、「…症疹ニ付死去…」(第56図1)の「疹」で死亡したこと、方言で洗骨のことを「シンクチ」と称することによる「新骨」(第62図1)・「新ふね」(第51図1)の当て字と考えられるもの、また、方言で蔵骨器(厨子甕)を「ティラ」とも称することによるものではないかと考えられる「…此寺二成ル」(第57図3)なども見られた。このように墓から多くの成果が得られた。

また、5・6号墓の北側で検出された植栽痕と考えられる遺構については、墓との層位は不明で、時期は判然としないが、遺構面よりも上位のレベルで土器の極小片が1点のみではあるが出土していることや、本古墓群周辺には北谷城やグスク時代の遺跡があることから、それらの遺跡との関連があるのではないかとと思われる。

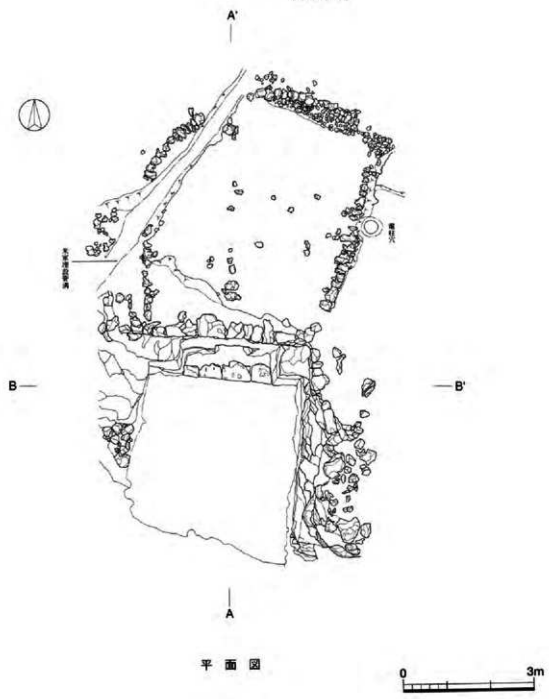
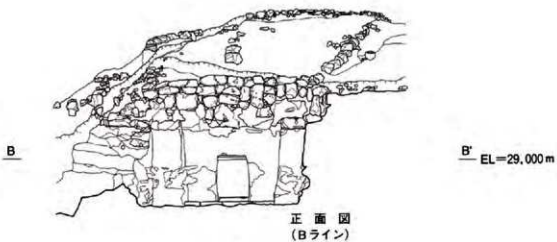
以上、本古墓群の調査で、墓制・葬制、歴史資料には現れない人々の歴史・文化の一端を垣間見ることができた。今後、得られた資料を更に分析・検討を行っていきたい。

〈参考文献〉

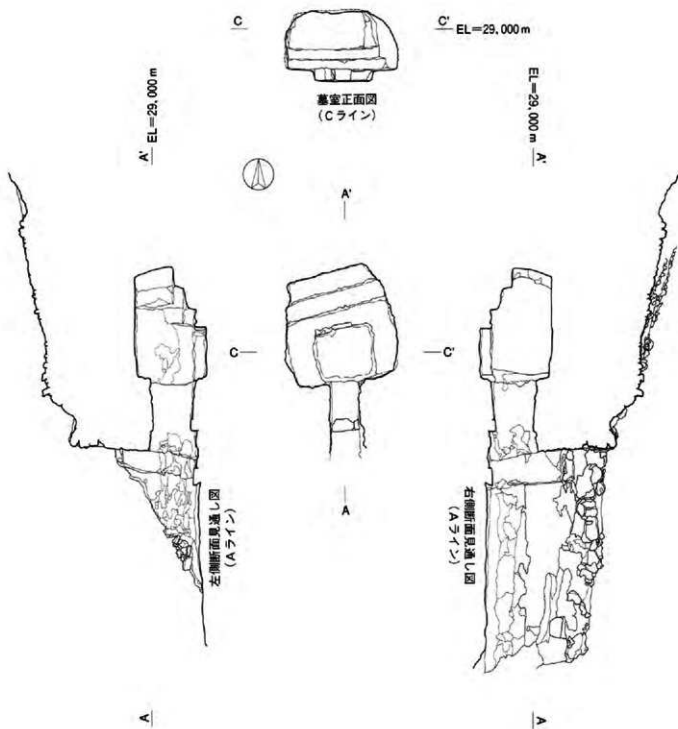
- 『伊祖の入れ御持領墓発掘調査報告書』平成8年 浦添市教育委員会
- 『銘苜古墓群(Ⅰ)』1998年 那覇市教育委員会
- 『銘苜古墓群(Ⅱ)』1999年 那覇市教育委員会
- 『ナーチャー毛古墓群』2002年 那覇市教育委員会

図

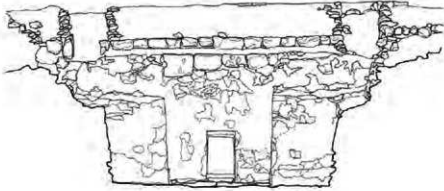
版



第7図 1号墓実測図①



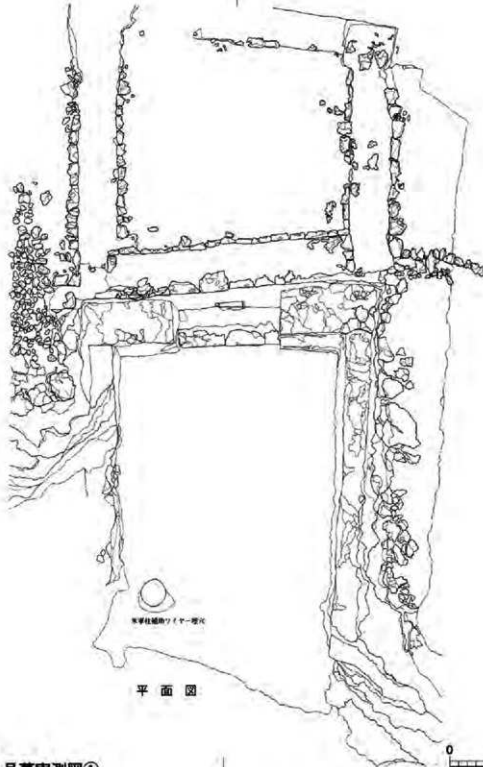
第8図 1号墓実測図②



B' EL=29,000 m

正面図
(Bライン)

A'



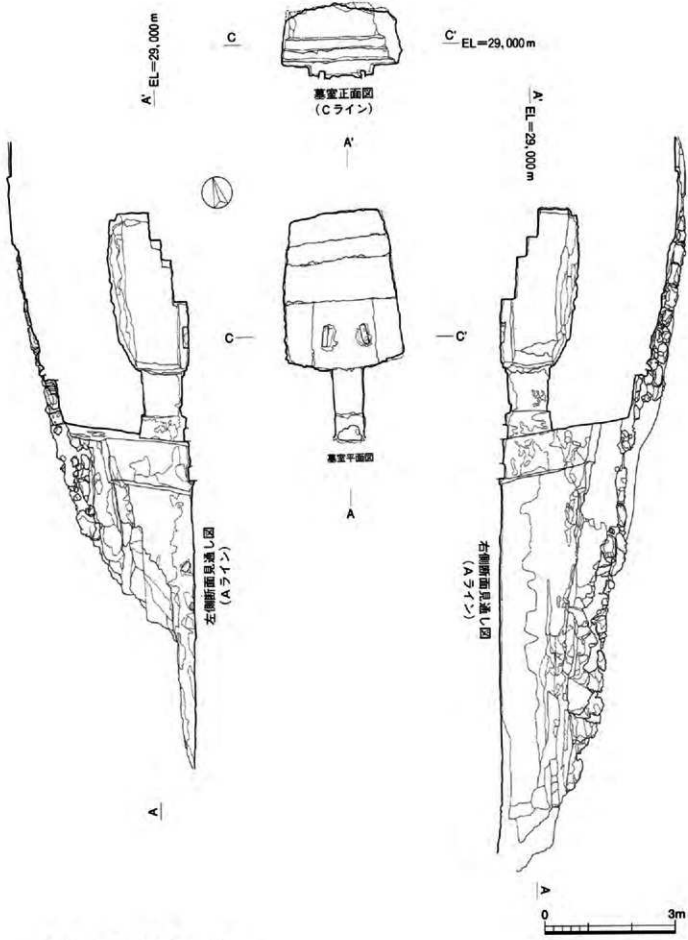
水車柱礎跡(フイヤー塔代)

平面図

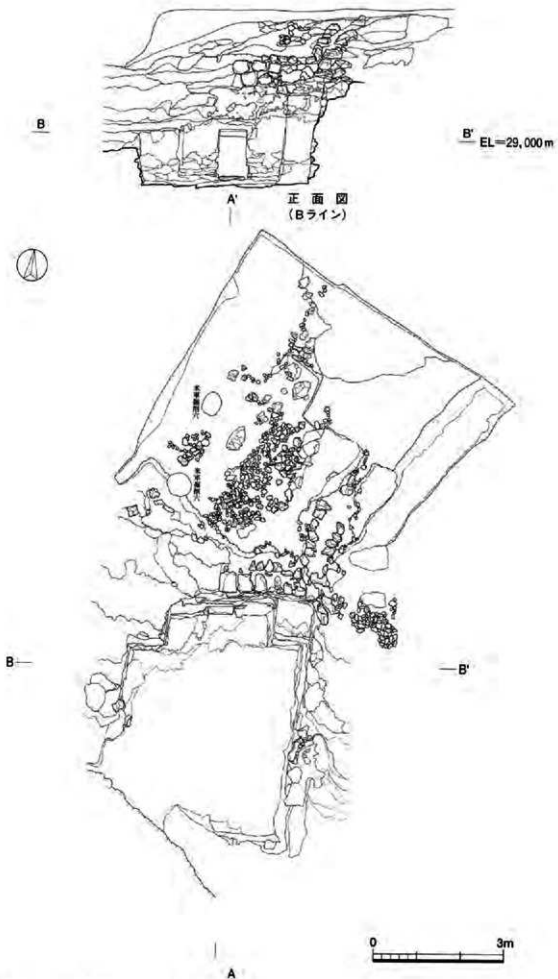
0 3m

A

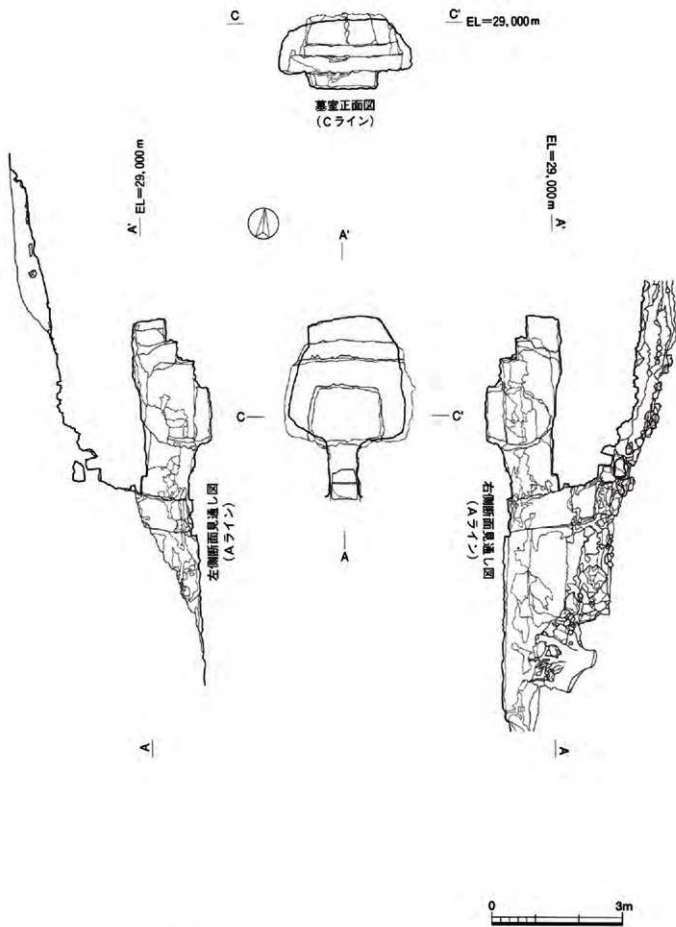
第9図 2号墓実測図①



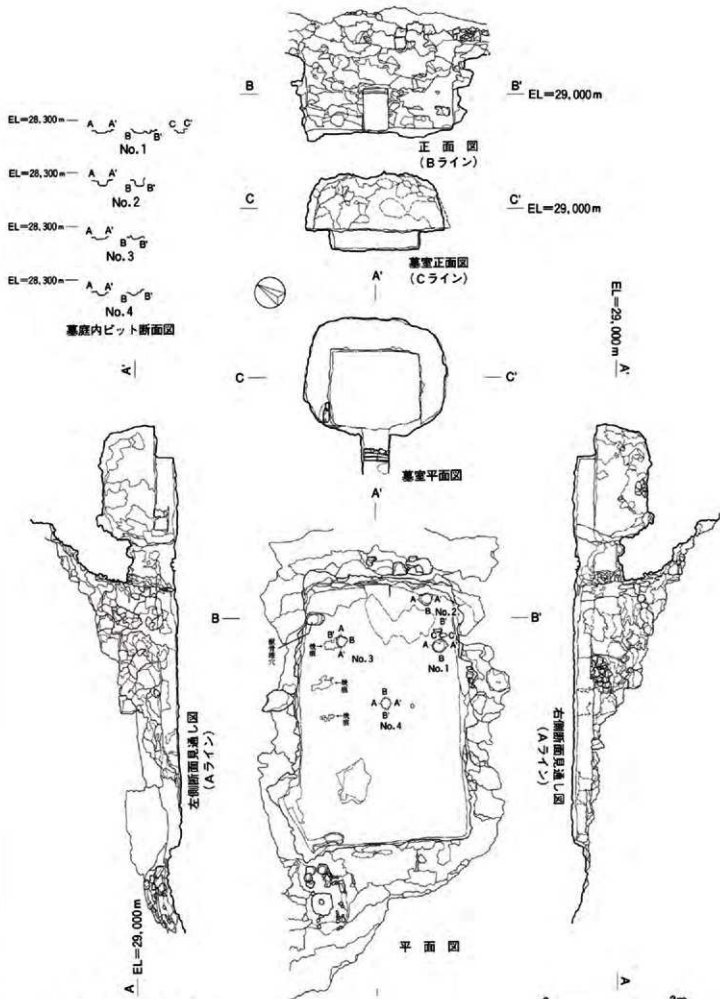
第10図 2号墓実測図②



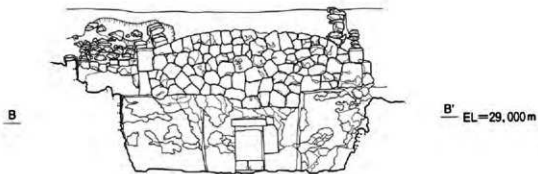
第11図 3号墓実測図①



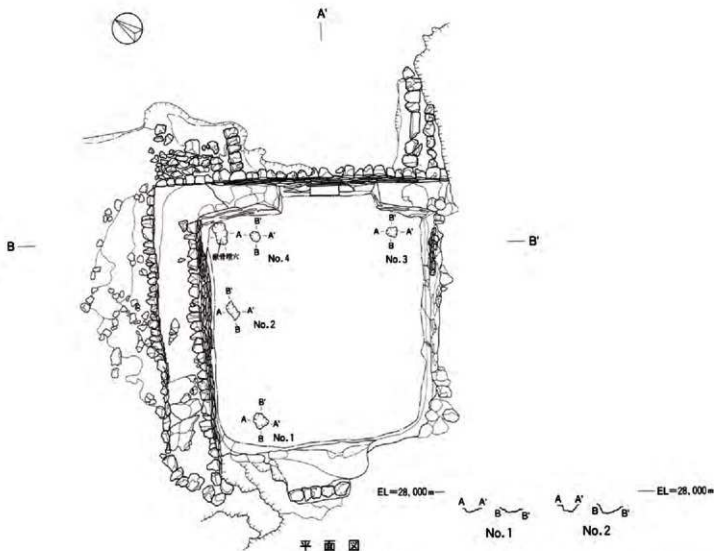
第12図 3号墓実測図②



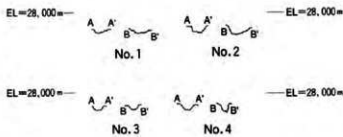
第13図 4号墓実測図



正面図
(Bライン)

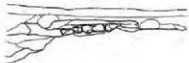


平面図



基庭内ビット断面図

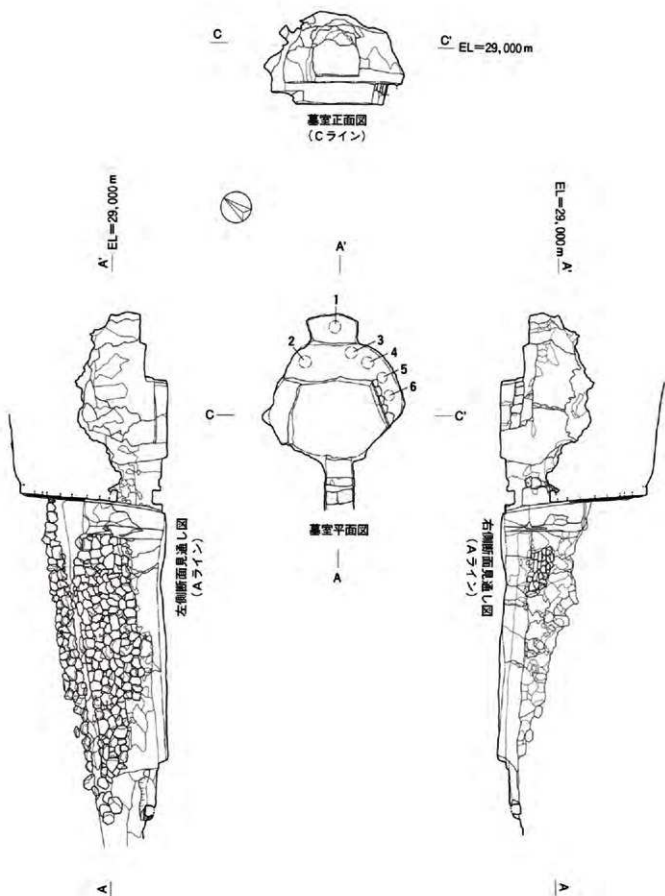
型枠ロイヤル



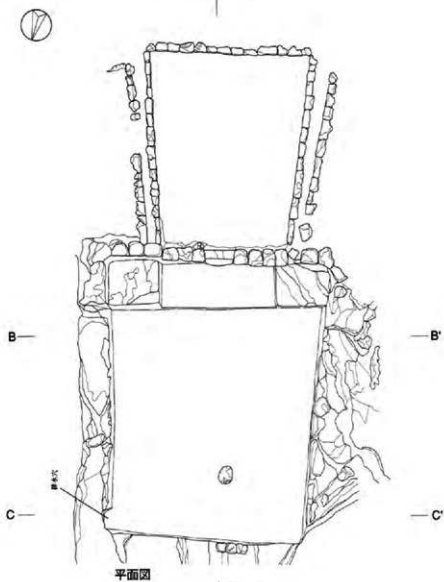
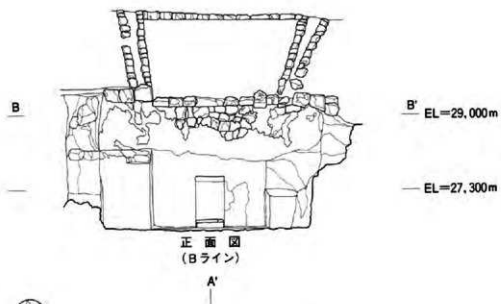
EL=29,000m



第14図 18号基実測図①



第15図 18号墓実測図② (1~6は蔵骨器の番号)

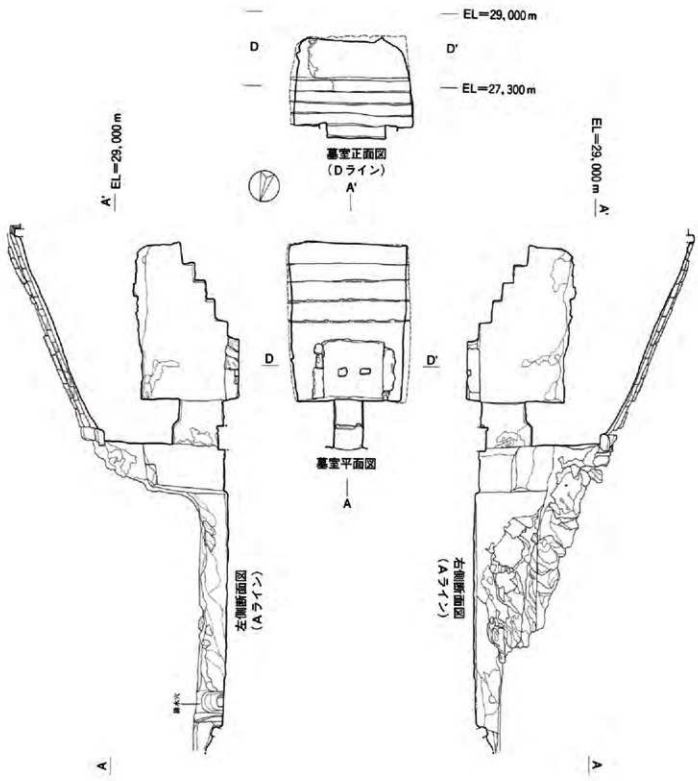


EL=27,300m

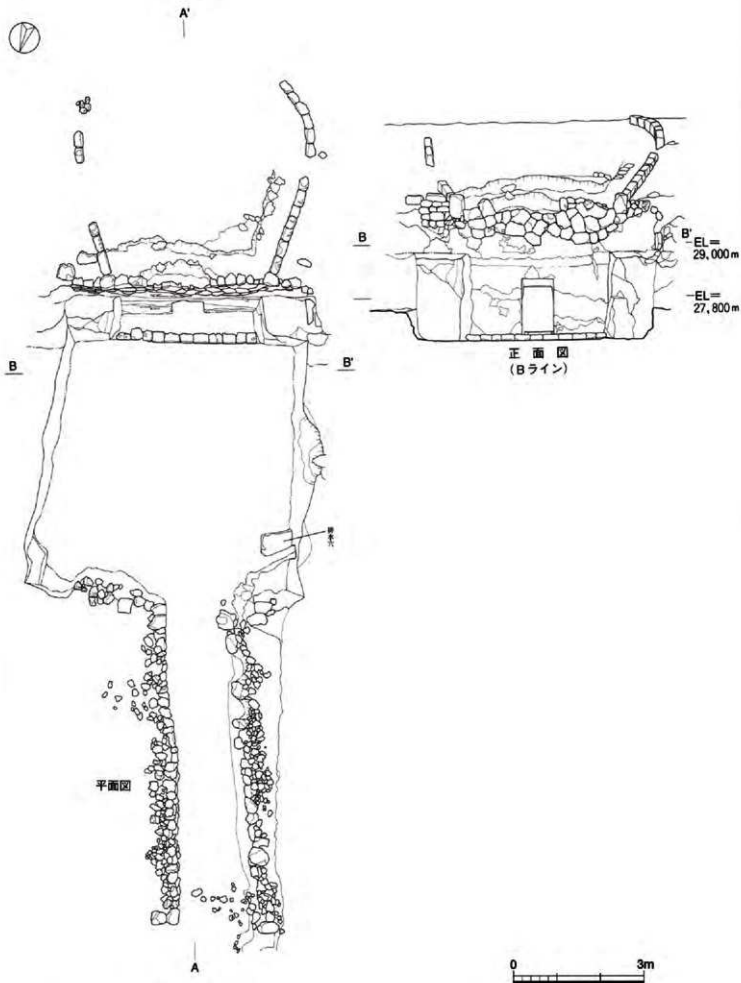
C'



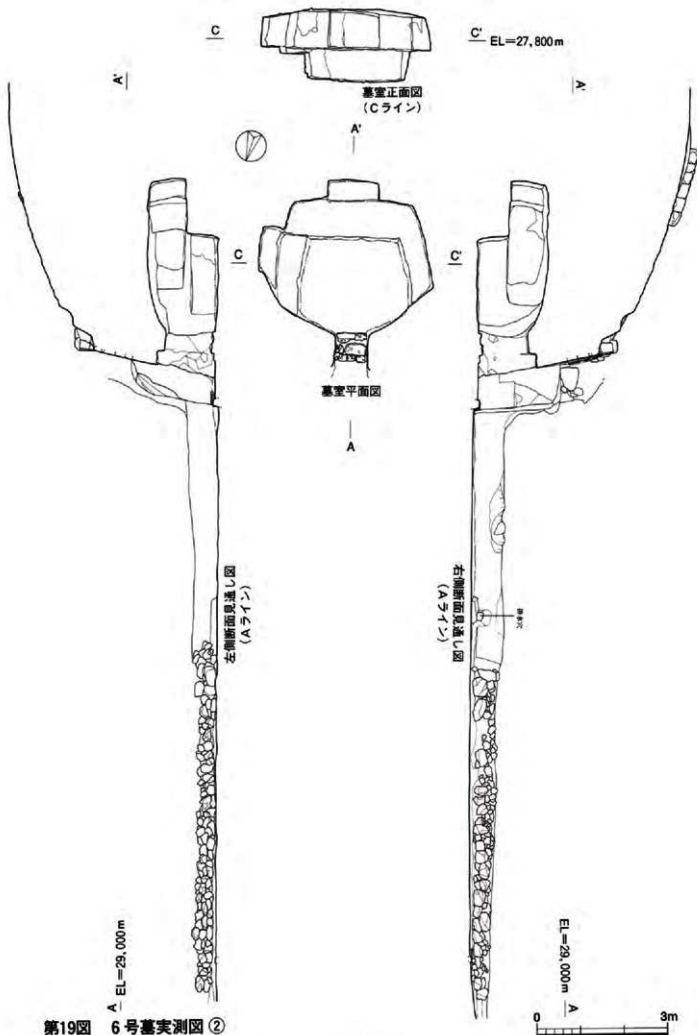
第16図 5号基実測図①



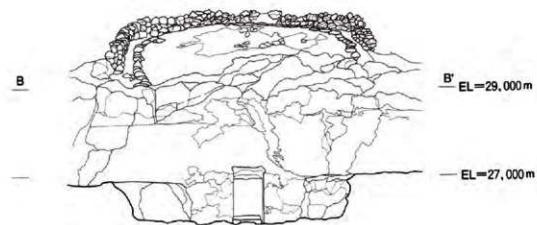
第17図 5号墓実測図②



第18図 6号墓実測図①



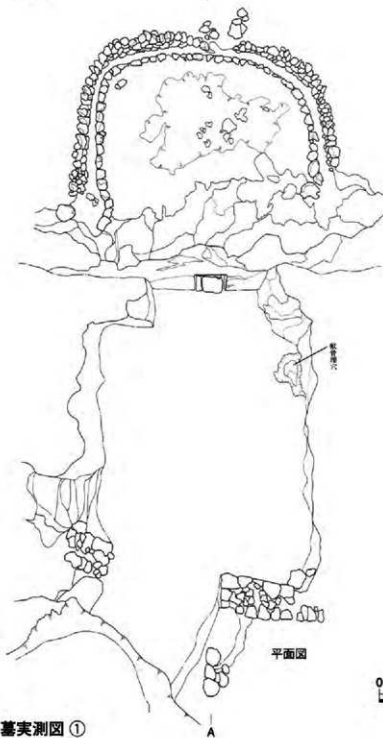
第19図 6号墓実測図②



正面図
(Bライン)



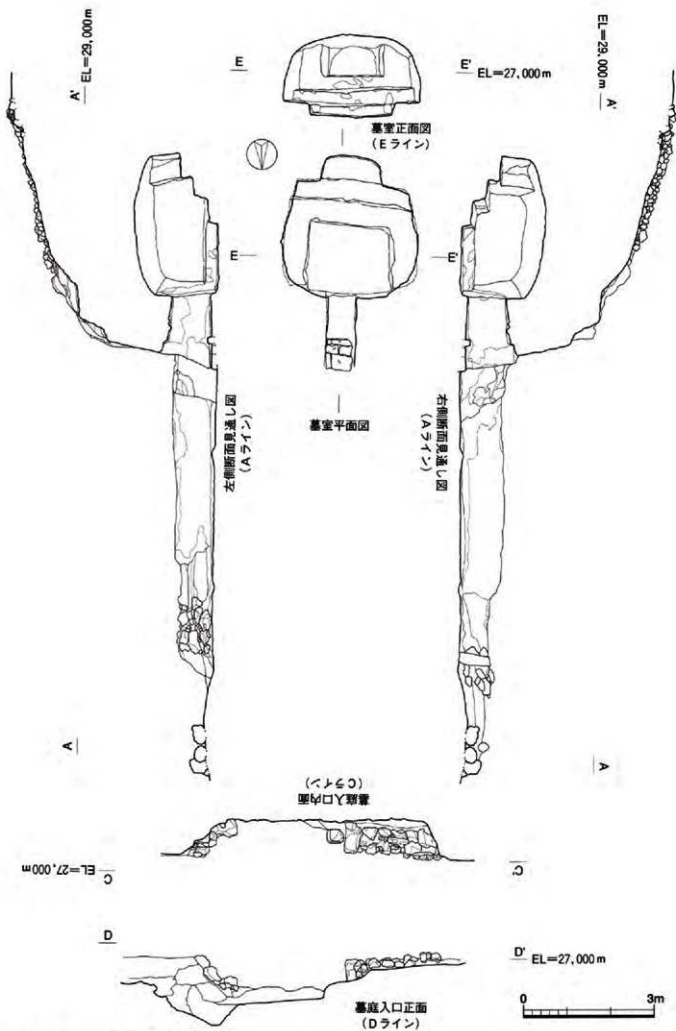
A'



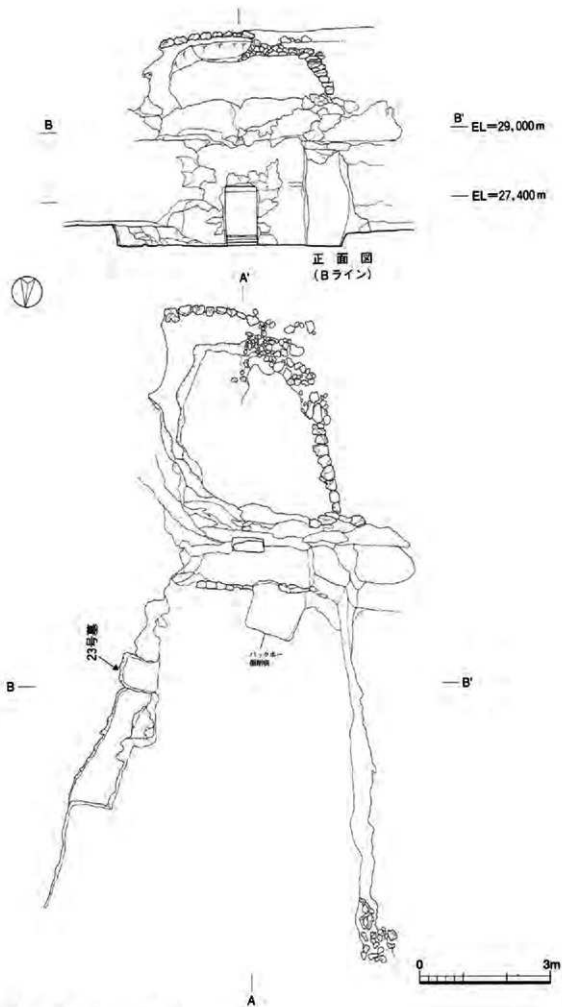
平面図



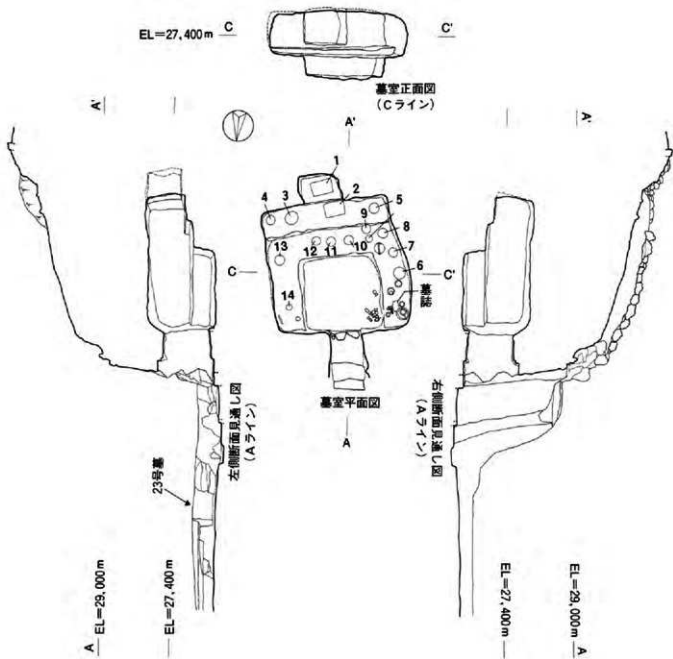
第20図 7号墓実測図①



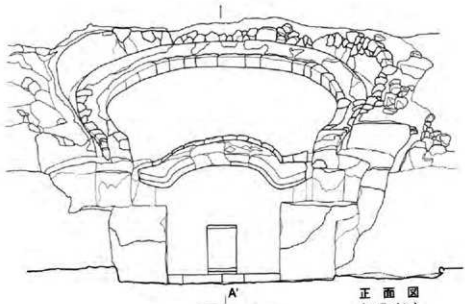
第21図 7号墓実測図②



第22図 8号墓、23号墓実測図①



第23図 8号墓、23号墓実測図② (1~14は随伴器の番号)



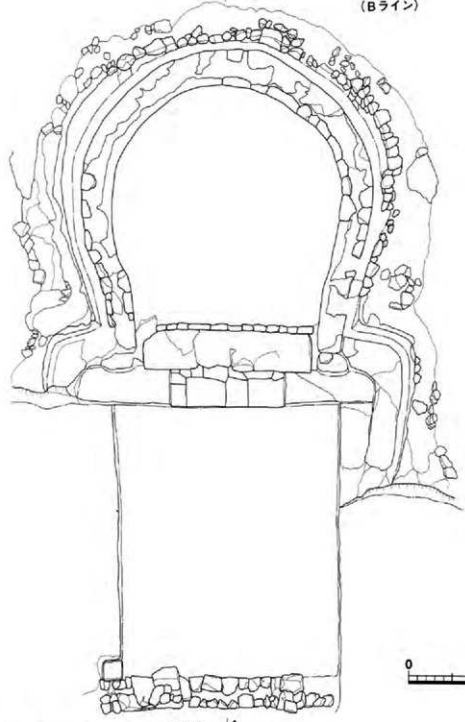
B

B' EL=29,000 m

— EL=27,500 m

A'

正面図
(Bライン)



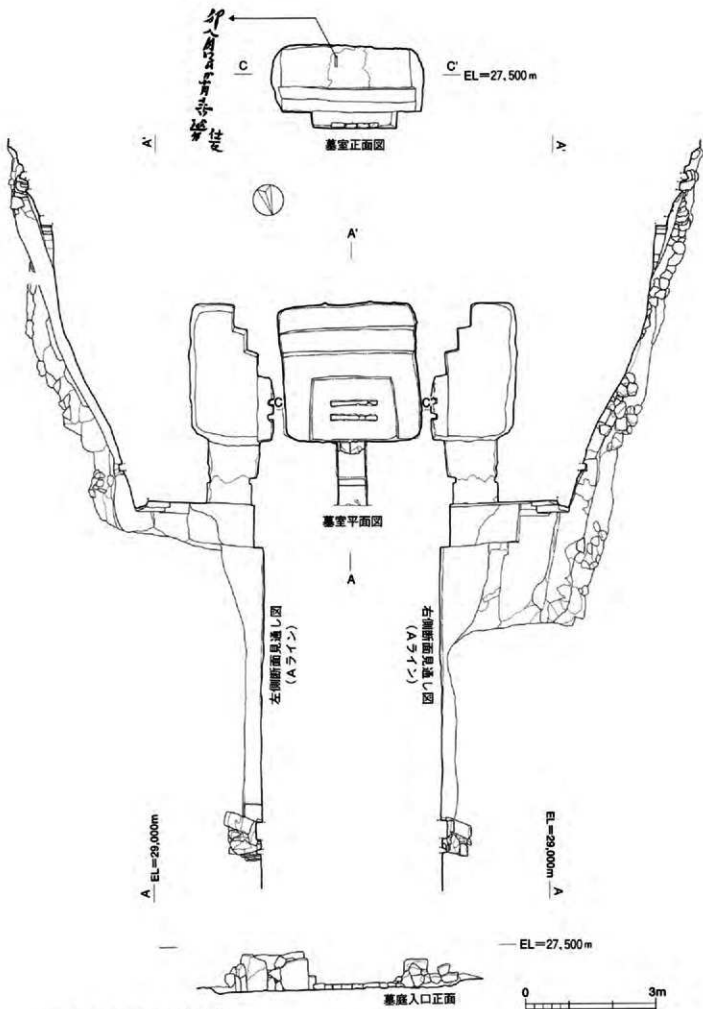
B

B'

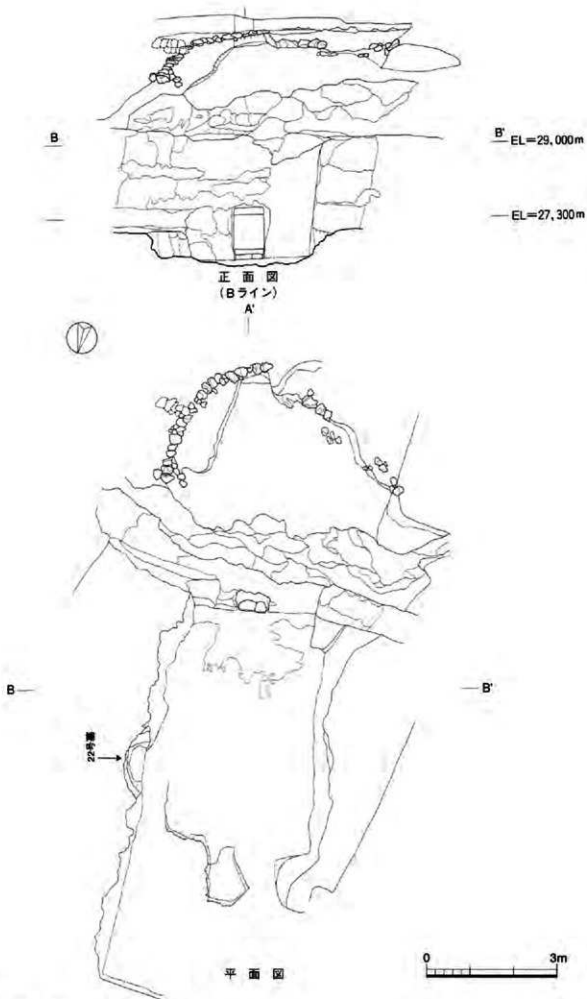
平面図 | A



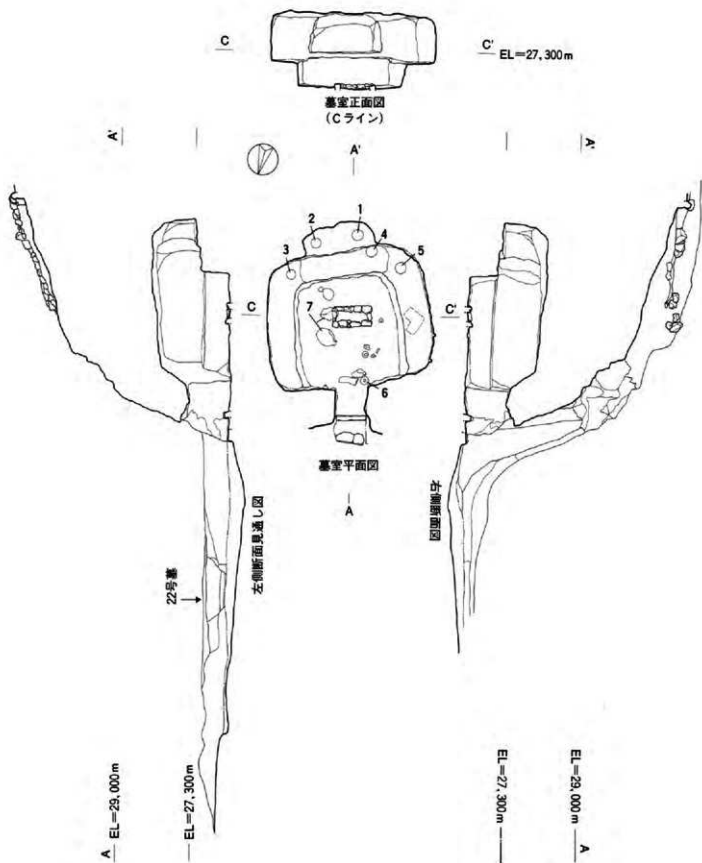
第24図 9号墓実測図①



第25図 9号墓実測図②

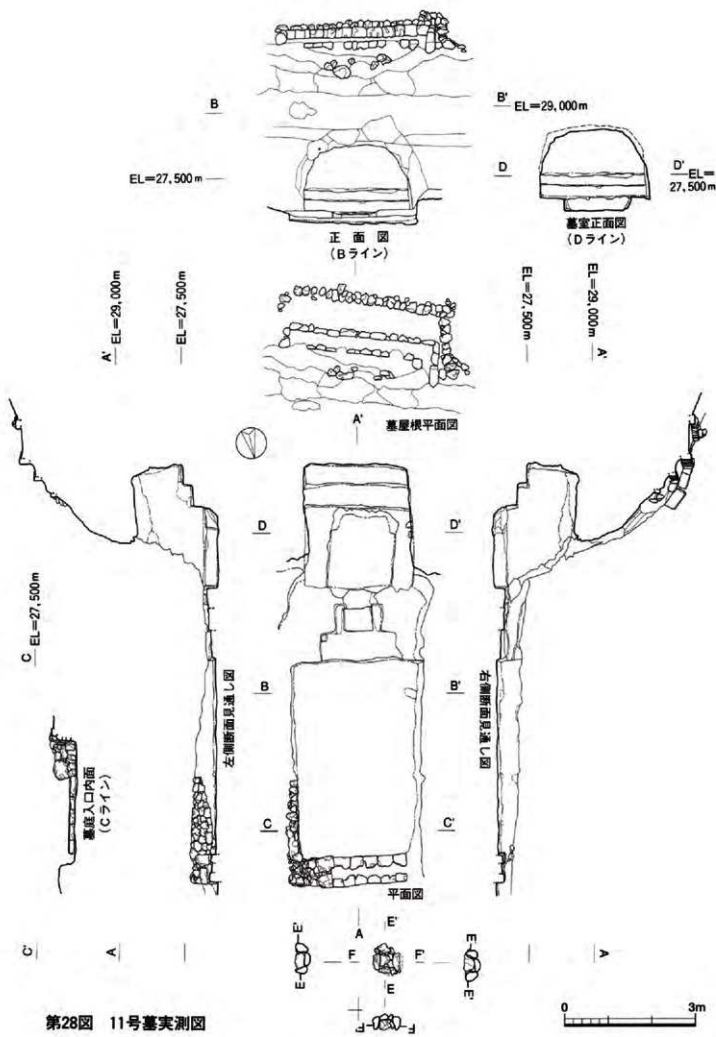


第26図 10号基、22号基実測図①

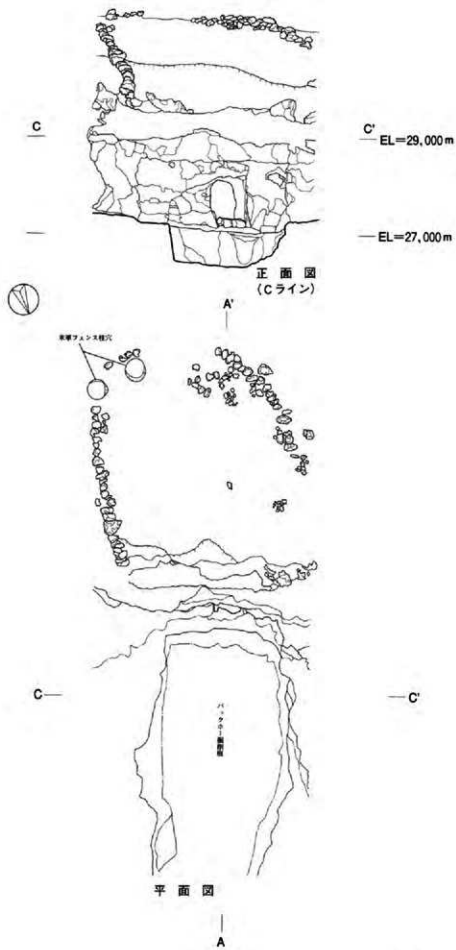


第27図 10号墓、22号墓実測図② (1~7は随葬品の番号)

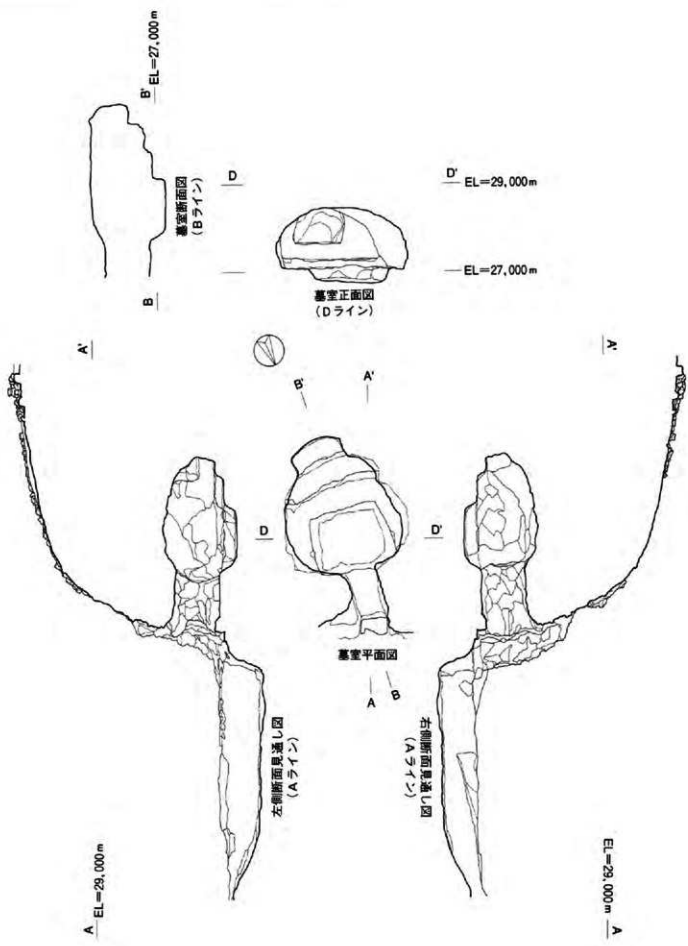




第28図 11号墓実測図



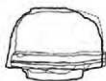
第29図 12号墓実測図①



第30図 12号基台測図②



C



墓室正面図
(Cライン)

B

C'
EL=28,000m



正面図
(Bライン)

B'

EL=29,000m

— EL=28,000m



A'



墓室平面図

A' EL=29,000m

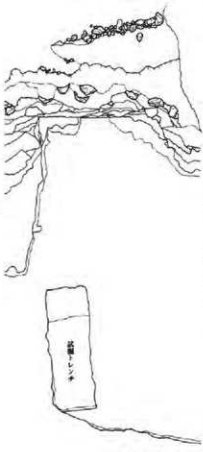
C

C

EL=29,000m A'



左側面図
(Aライン)



平面図

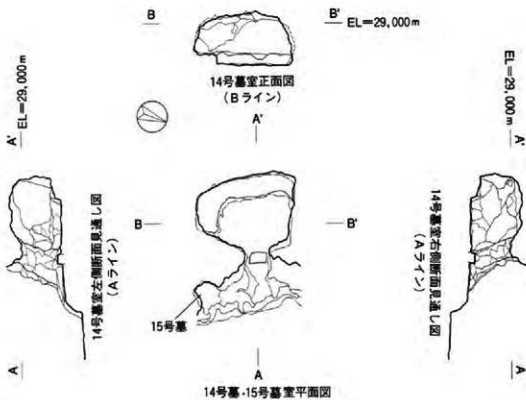
右側面図
(Aライン)



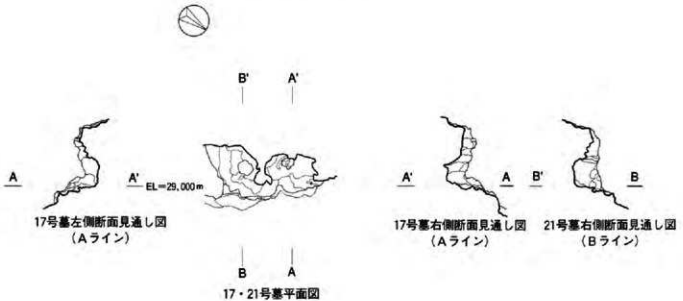
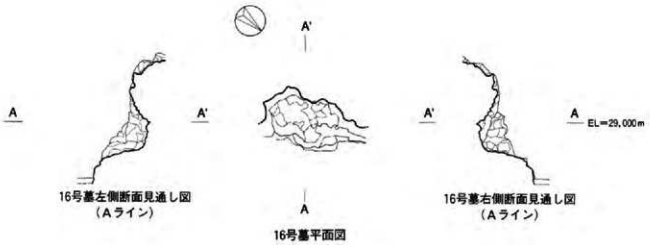
第31図 13号墓実測図



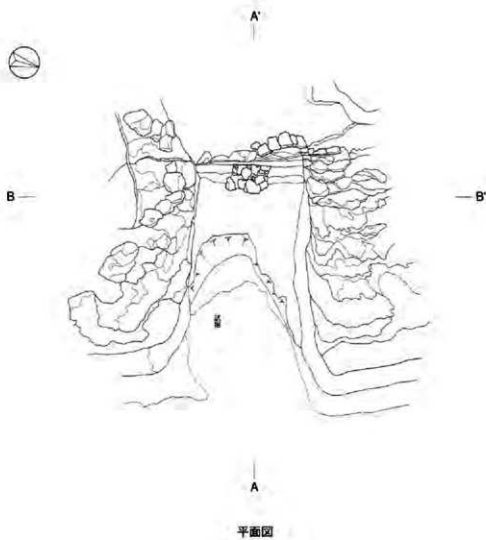
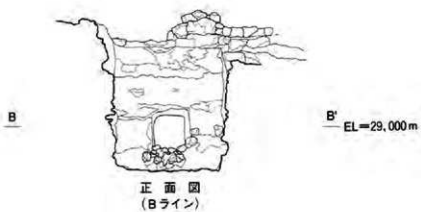
14号墓・15号墓正面図



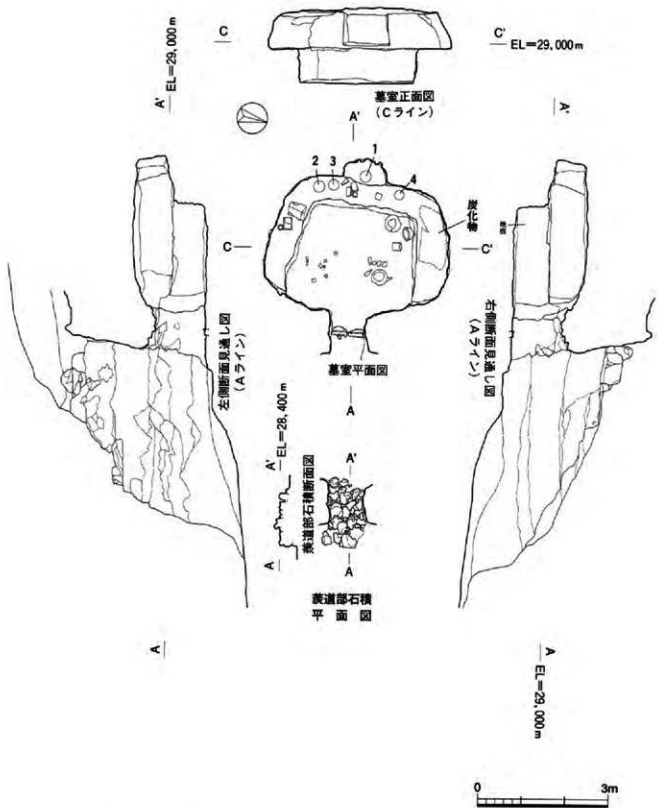
第32図 14、15号墓実測図



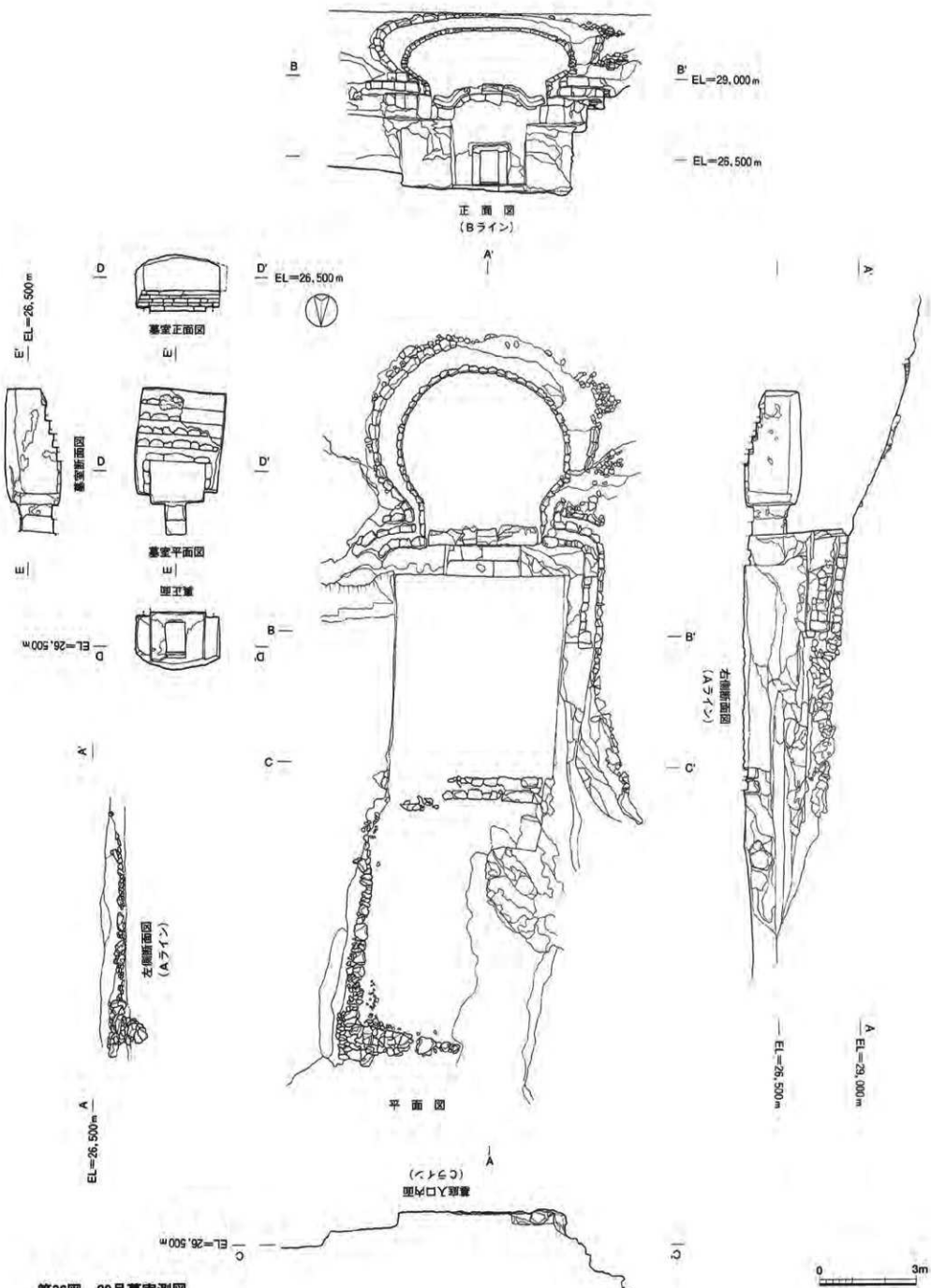
第33図 16、17、21号基実測図



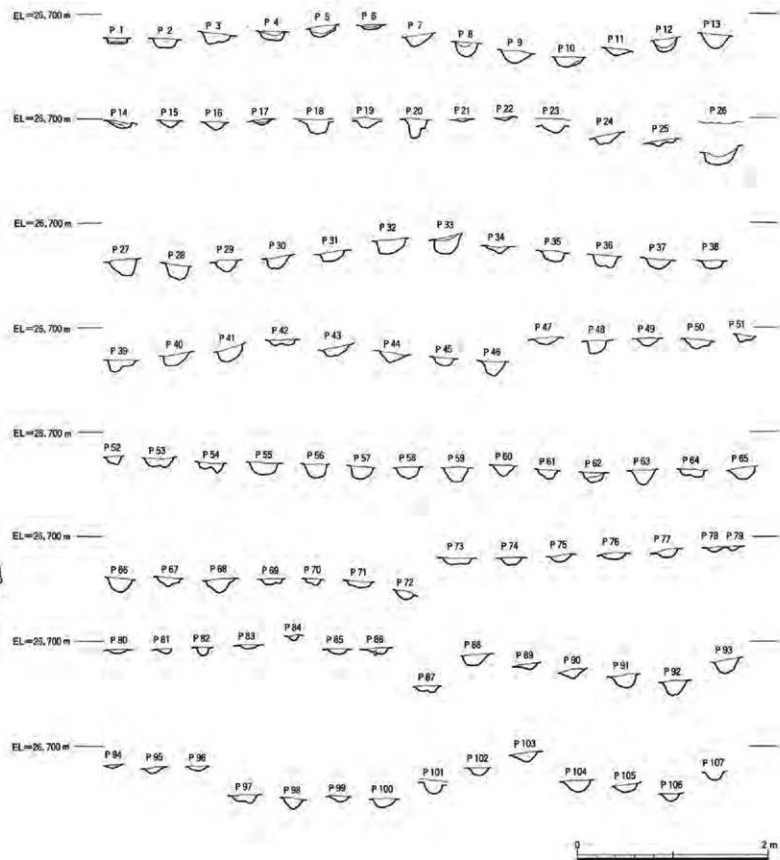
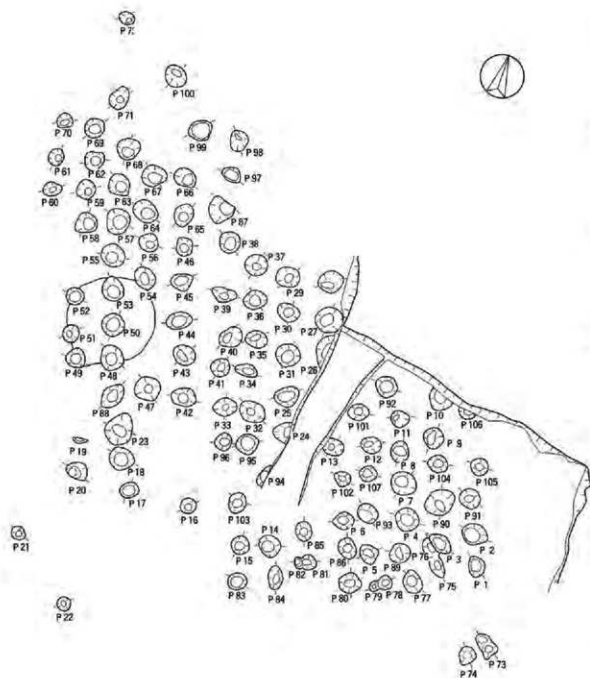
第34図 19号墓実測図①



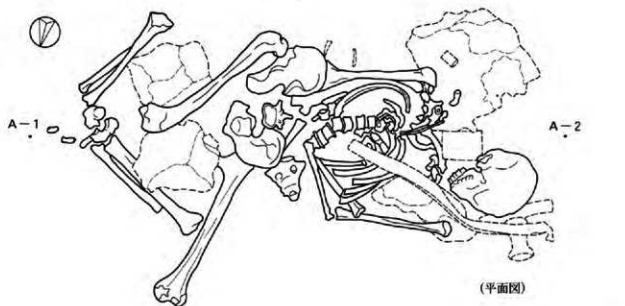
第35図 19号墓実測図② (1~4は葺骨器の番号)



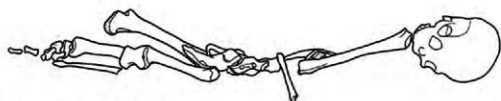
第36図 20号墓実測図



第37图 植栽痕 (丘陵北側)

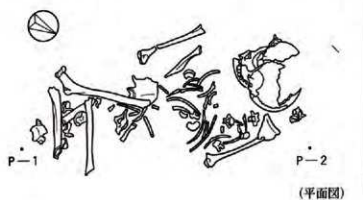


— EL=26,400m

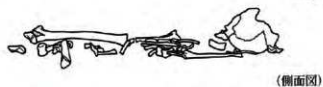


第38图 8号墓一次葬人骨

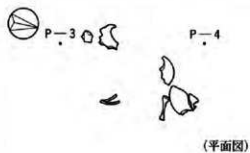
(侧面图)



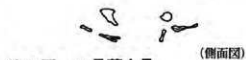
— EL=29,300m



第39图 17号墓一次葬人骨

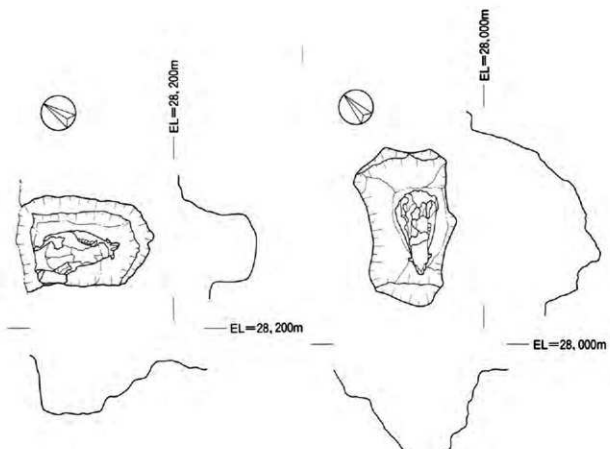


— EL=29,200m



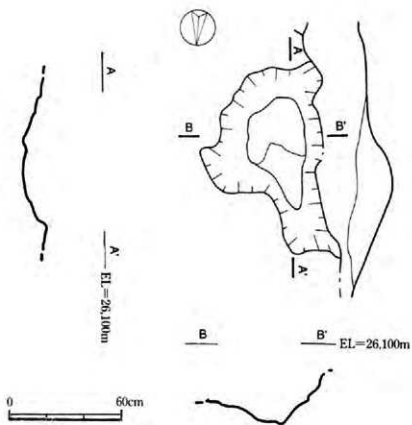
第40图 21号墓人骨

0 50cm

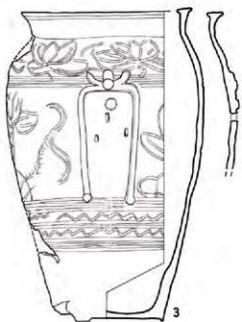
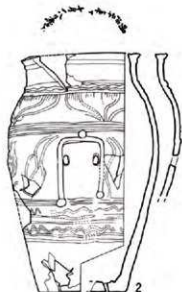
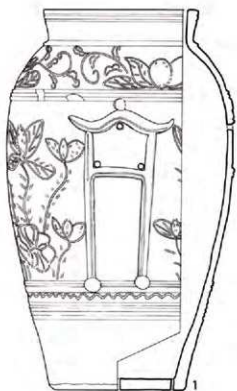


第41図 4号墓のブタ頭骨埋蔵穴

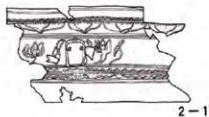
第43図 18号墓のブタ頭骨埋蔵穴



第42図 7号墓のブタ頭骨埋蔵穴



1-1



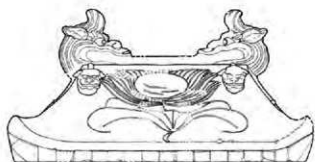
2-1



3-1

0 30cm

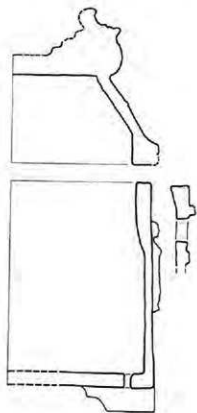
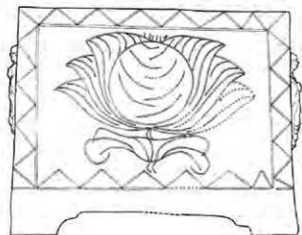
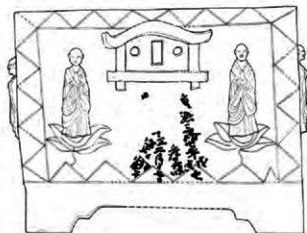
第44图 藏骨器 5号墓(1)、7号墓(2)、2号墓(3)



1

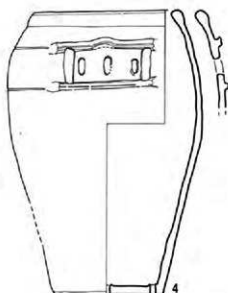
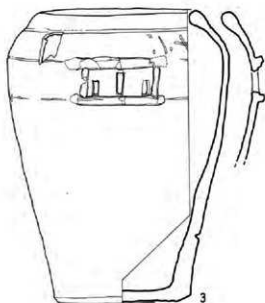
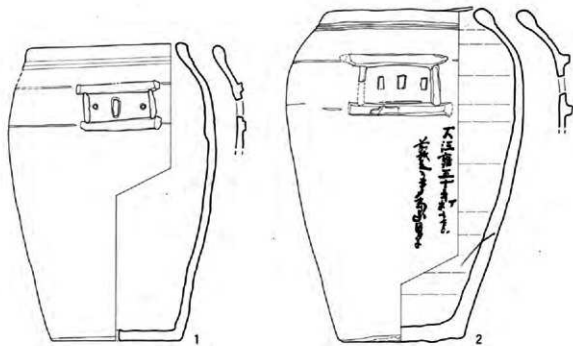


2



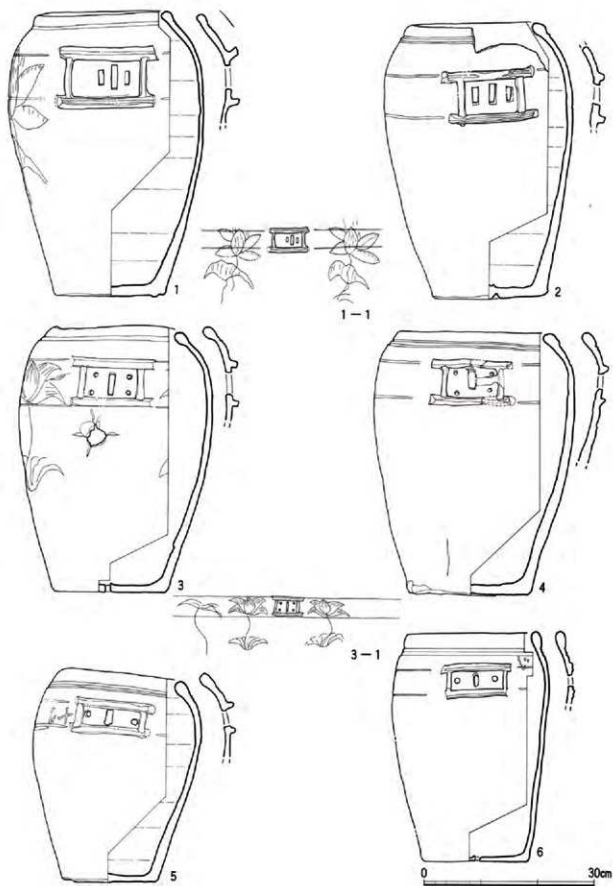
0 30cm

第45图 藏骨器 6号基 (1·2)

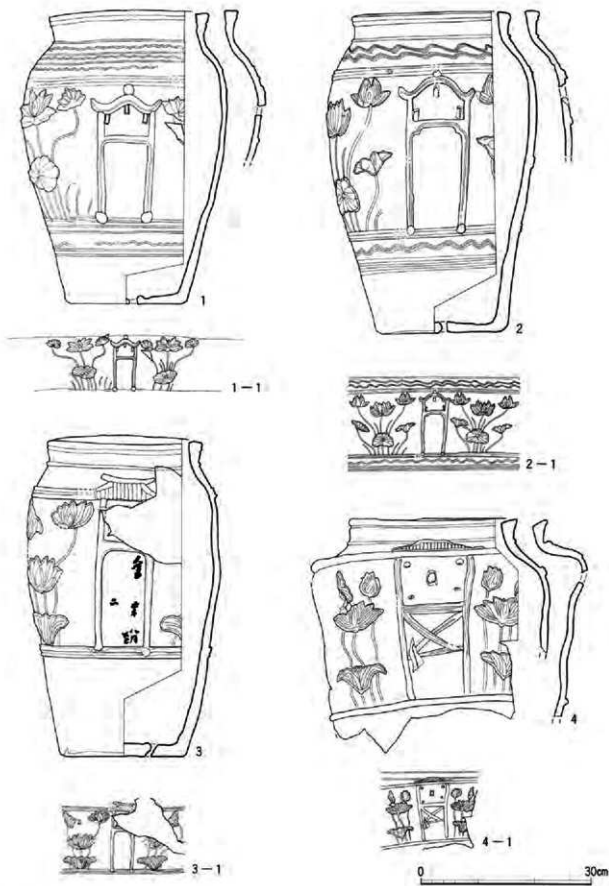


0 30cm

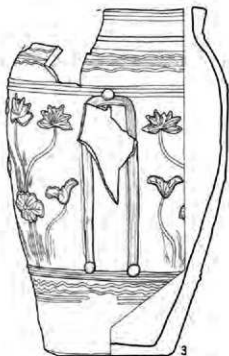
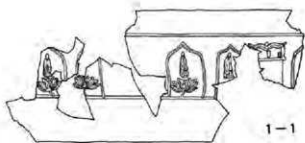
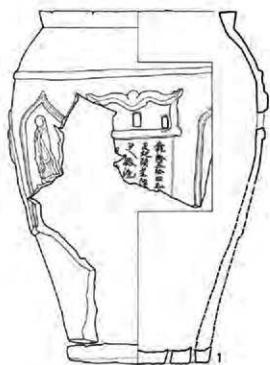
第46图 藏骨器 6号墓(1~4)



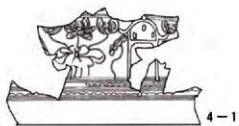
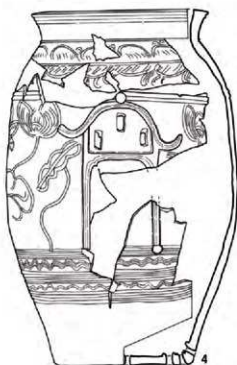
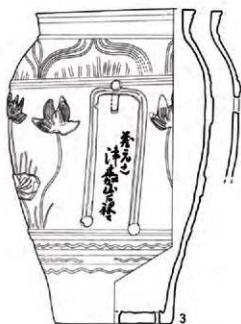
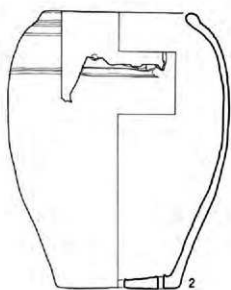
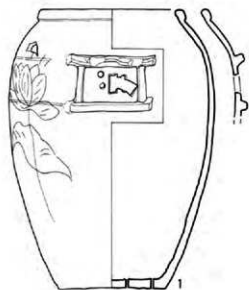
第47图 藏骨器 6号墓(1~6)



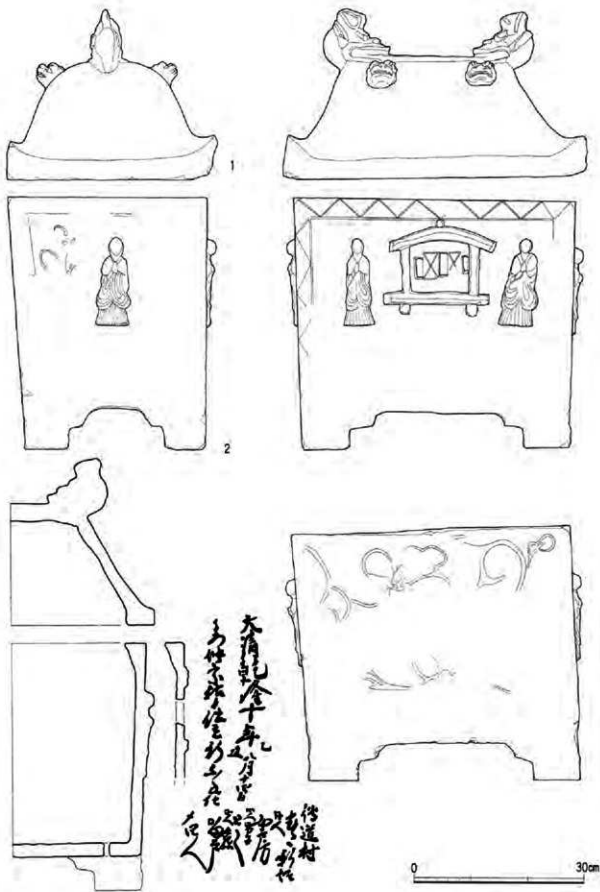
第48图 藏骨器 6号墓(1~4)



第49图 藏骨器 6号墓(1~3)

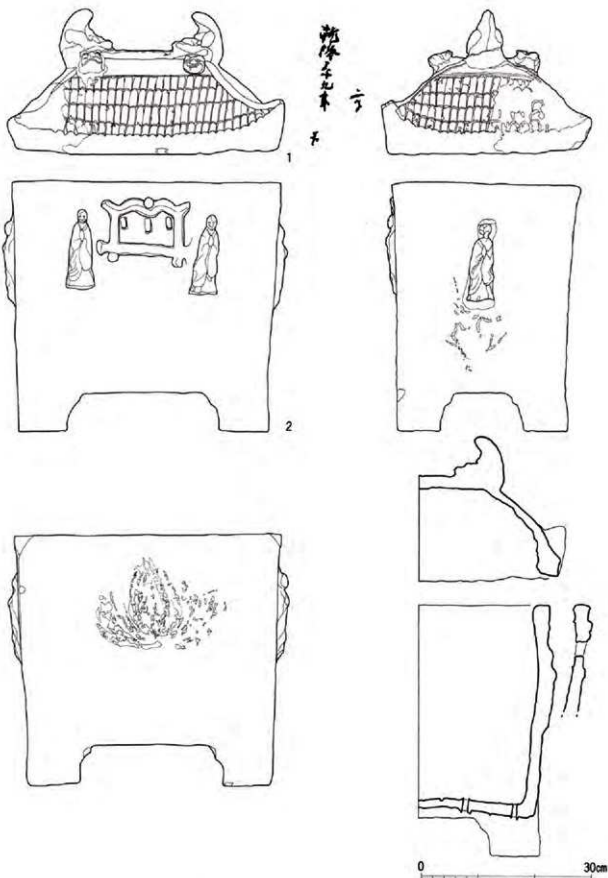


第50图 藏骨器 6号墓 (1~4)

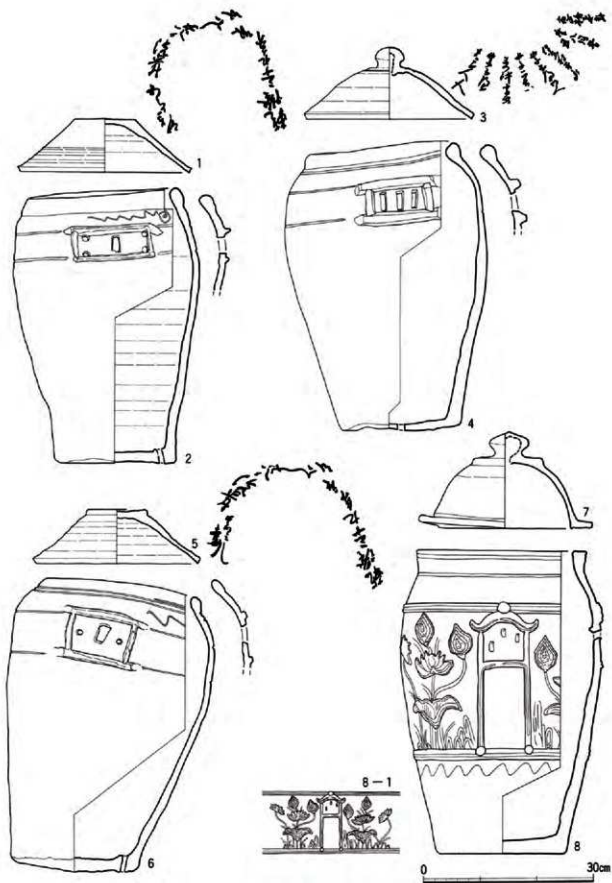


大正十一年
 五月廿五日
 三井物産株式會社
 伊豆
 伊豆村
 伊豆村
 伊豆村

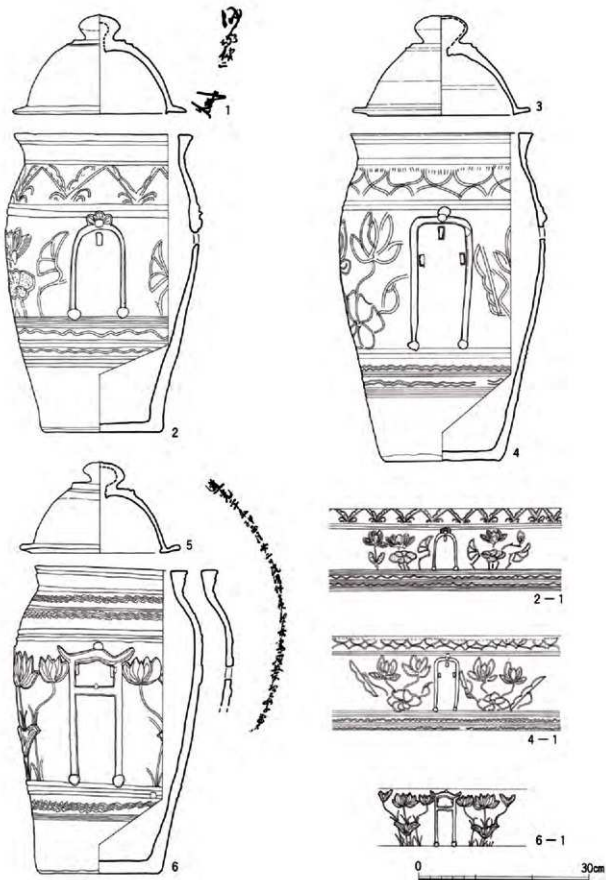
第51図 蔵骨器 8号墓 No.1 (No.○は墓室内の蔵骨器番号)



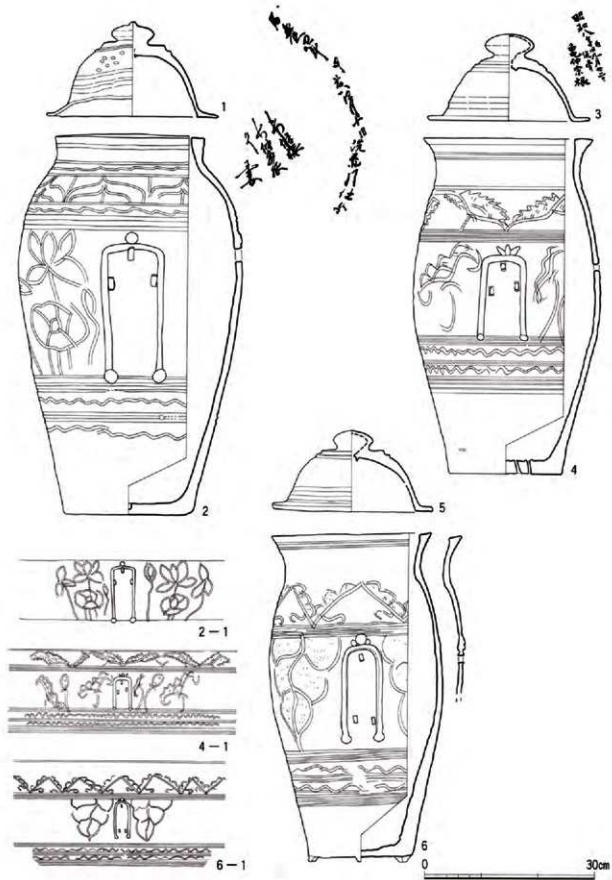
第52図 藏骨器 8号墓 No. 2 (No.○は墓室内の藏骨器番号)



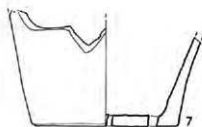
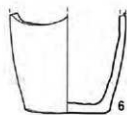
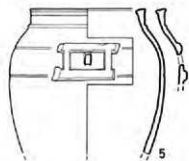
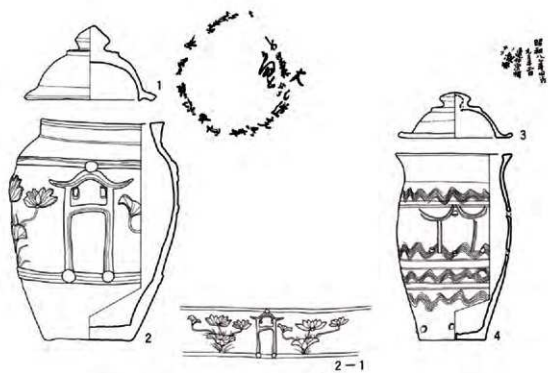
第53図 蔵骨器 8号墓 No. 3 (1・2)、No. 4 (3・4)、No. 5 (5・6)、
No. 6 (7・8) (No.○は墓室内の蔵骨器番号)



第54図 蔵骨器 8号墓 No. 7 (1・2)、No. 8 (3・4)、No. 9 (5・6)
 (No.○は墓室内の蔵骨器番号)

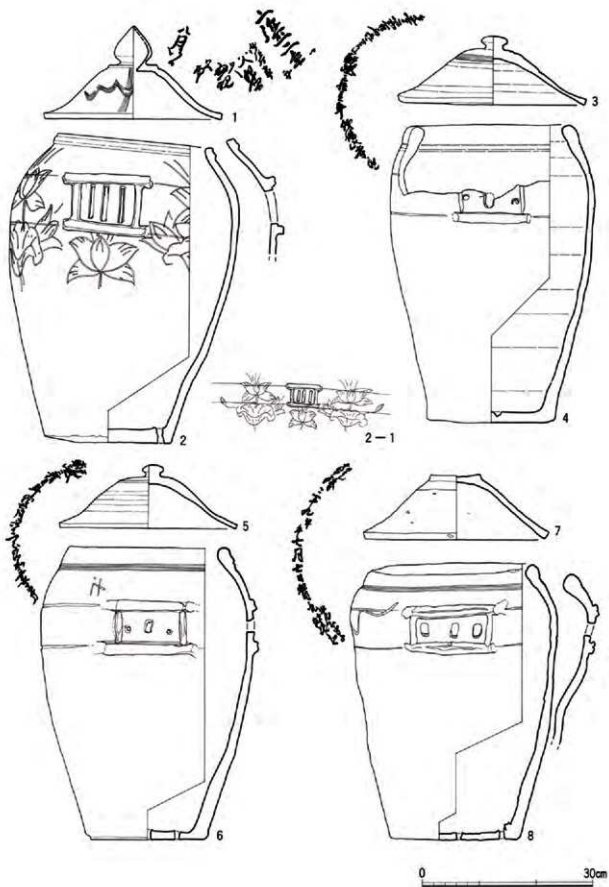


第55図 蔵骨器 8号墓 No.10 (1・2)、No.11 (3・4)、No.12 (5・6)
 (No.○は墓室内の蔵骨器番号)

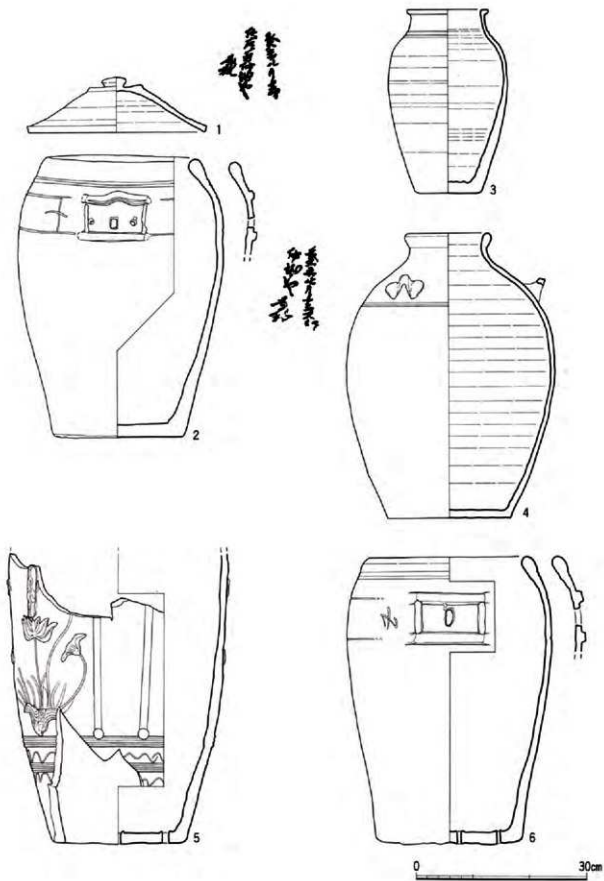


0 30cm

第56図 蔵骨器 8号墓 No.13 (1・2)、No.14 (3・4)、墓室外 (5~7)
 (No.○は墓室内の蔵骨器番号)

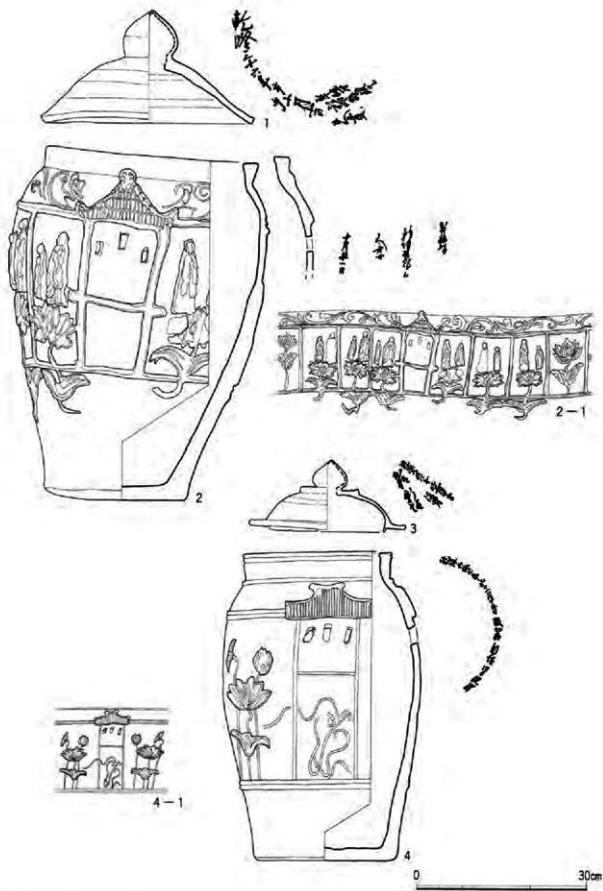


第57図 藏骨器 10号墓 No. 1 (1・2)、No. 2 (3・4)、No. 3 (5・6)、
No. 4 (7・8) (No.○は墓室内の藏骨器番号)



第58図 蔵骨器 10号墓 No. 5 (1・2)、No. 6 (3)、No. 7 (4)

12, 13号墓 (5) 17号墓 (6) (No.○は墓室内の蔵骨器番号)



第59図 蔵骨器 18号墓 No. 1 (1・2)、No. 2 (3・4)

(No.○は墓室内の蔵骨器番号)

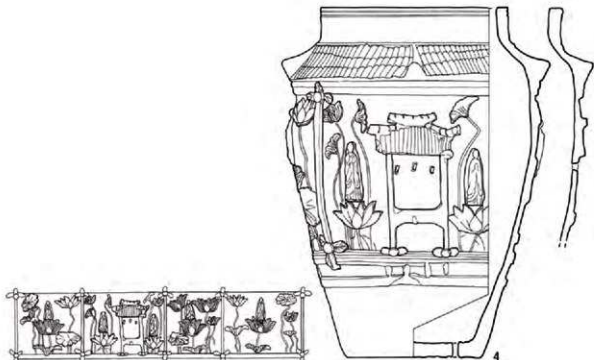


新島村
 野田遺跡
 18号墓 No.3
 昭和51年
 10月15日

新島村
 野田遺跡
 18号墓 No.3
 昭和51年
 10月15日



新島村
 野田遺跡
 18号墓 No.4
 昭和51年
 10月15日

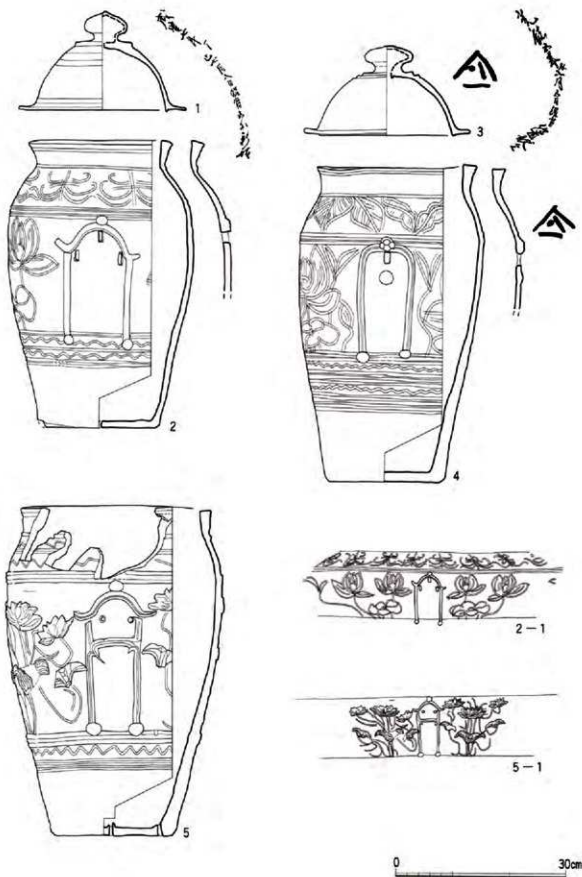


4-1

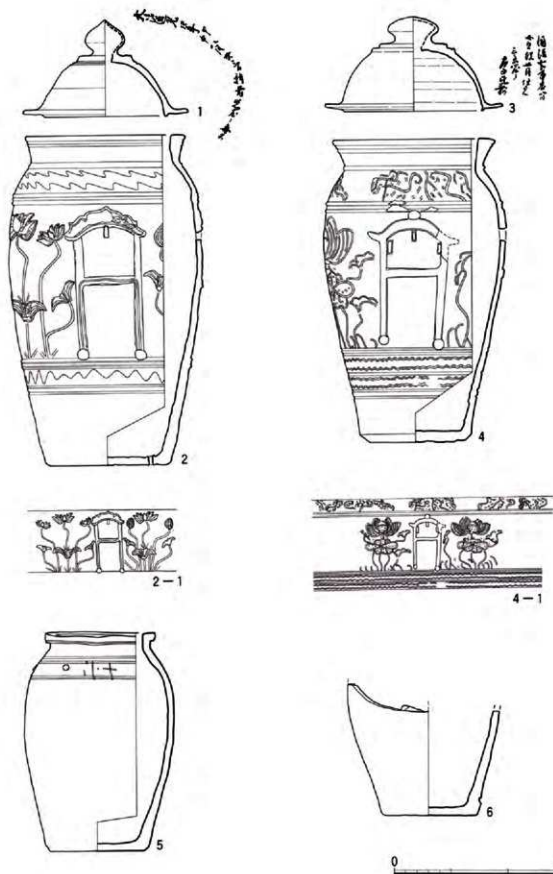
0 30cm

第60図 蔵骨器 18号墓 No.3 (1・2)、No.4 (3・4)

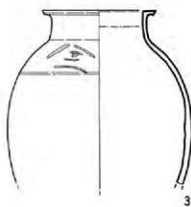
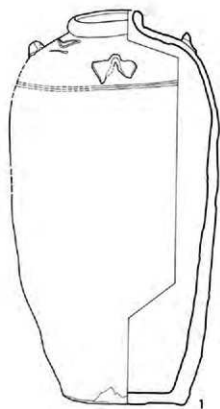
(No.○は墓室内の蔵骨器番号)



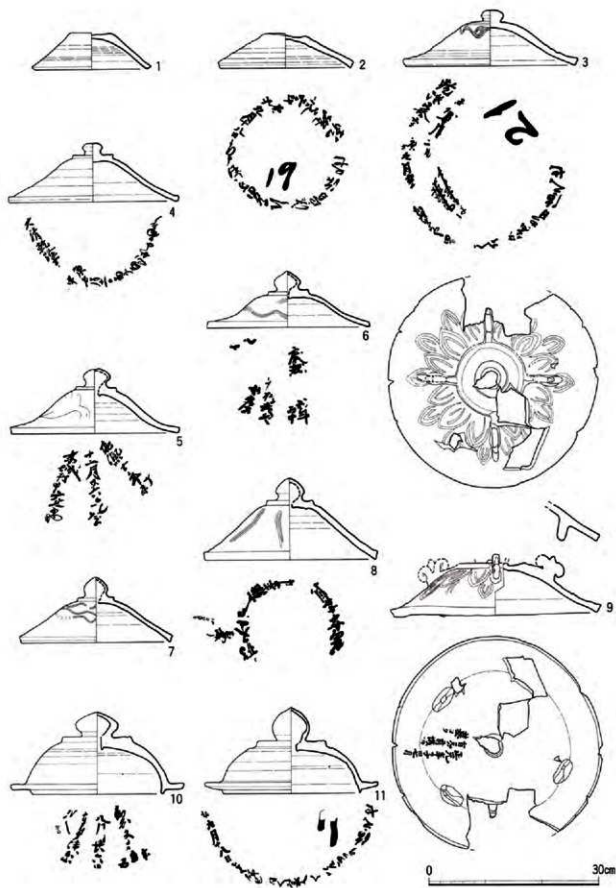
第61図 蔵骨器 18号墓 No. 5 (1・2)、No. 6 (3・4)、19号室 No. 1 (5)
 (No.○は墓室内の蔵骨器番号)



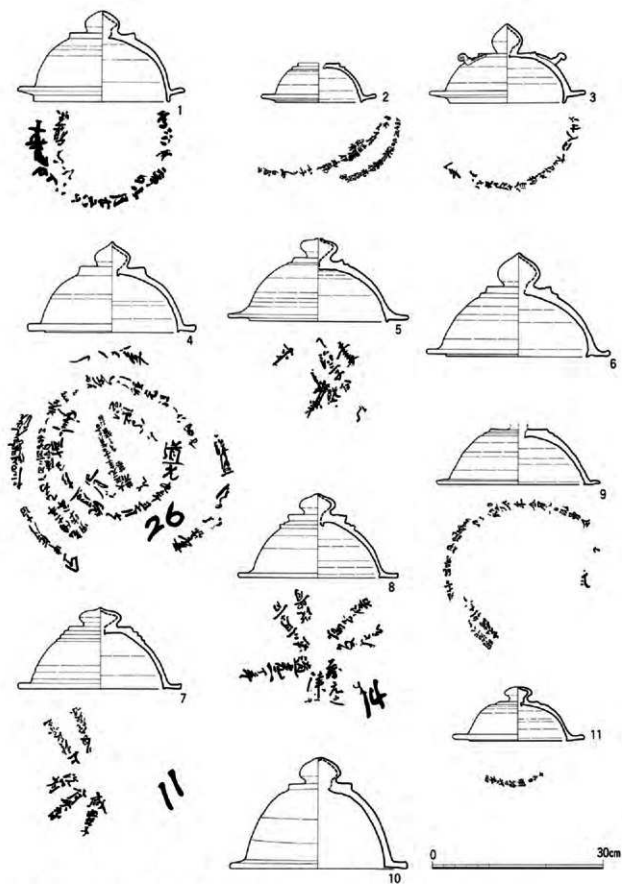
第62図 蔵骨器 19号墓 No. 2 (1・2)、No. 3 (3・4)、No. 4 (5)
 (No.○は墓室内の蔵骨器番号)



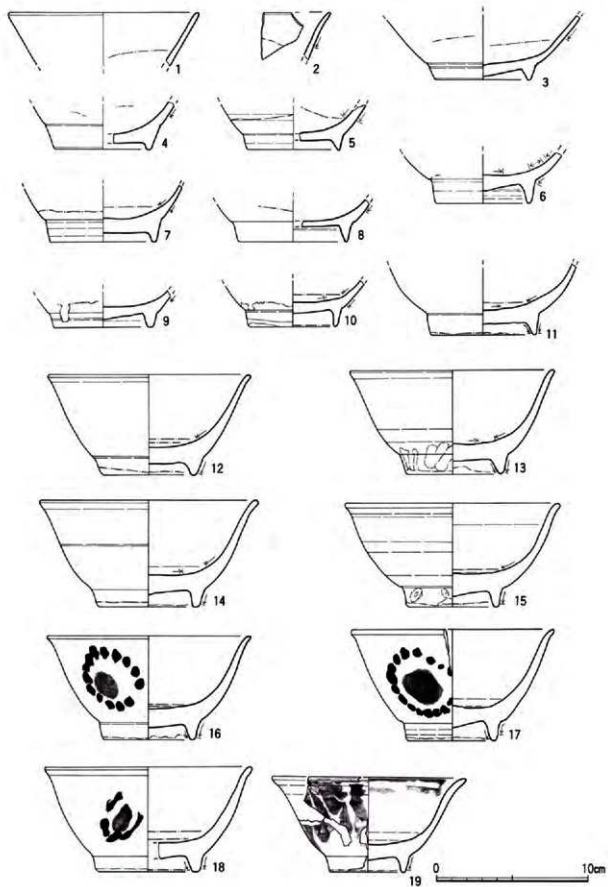
第63図 転用蔵骨器、沖縄無指陶器（3）、本土産陶器（2）



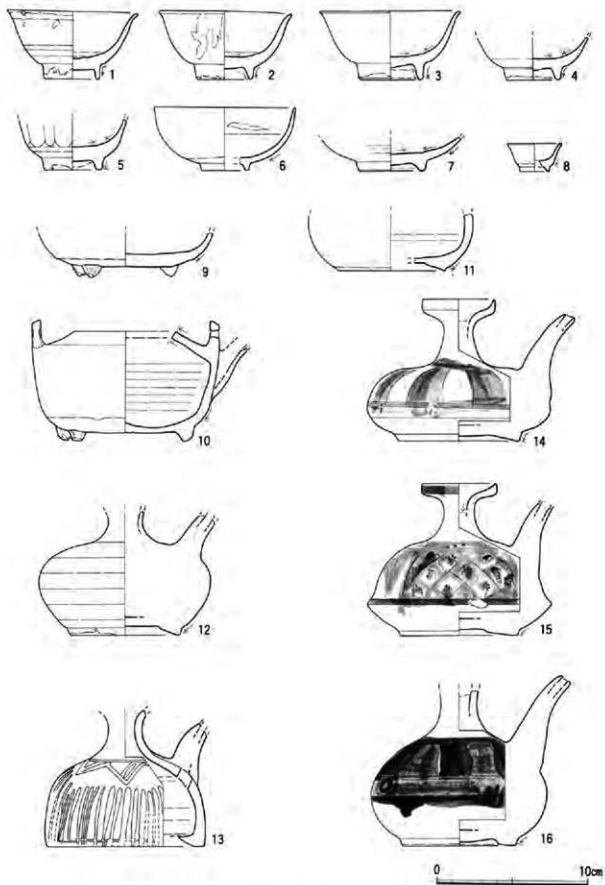
第64図 蔵骨器の蓋 8号墓(1)、6号墓(2~11)



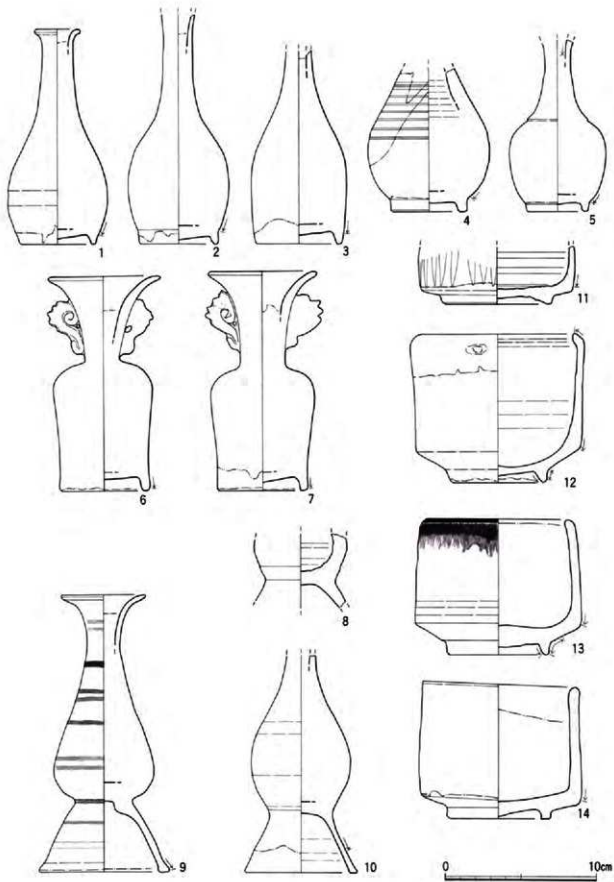
第65図 藏骨器の蓋 6号墓 (1・3~8)、7号墓 (2)、7・6号墓 (9)、
19号墓 (10)、13号墓 (11)



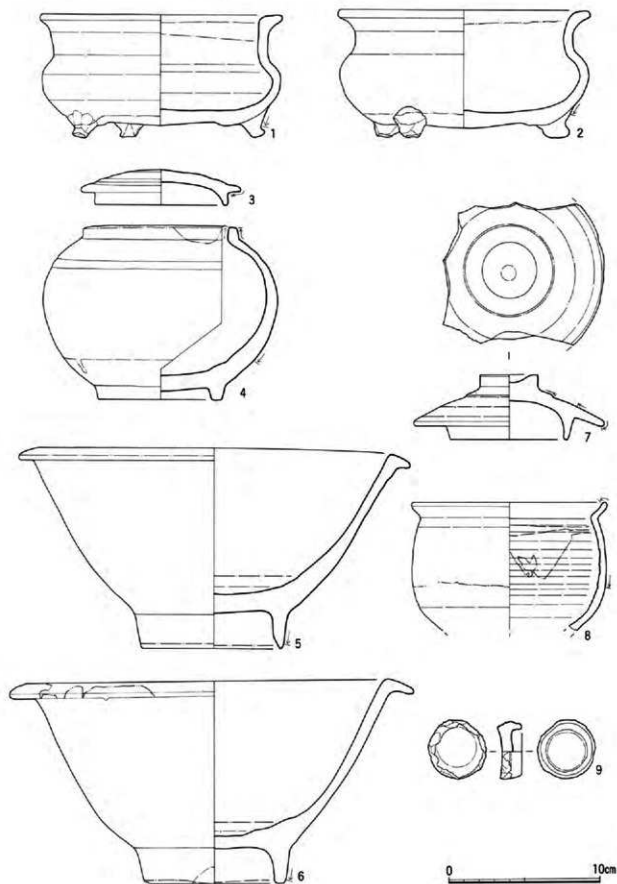
第66図 沖縄産施釉陶器：碗



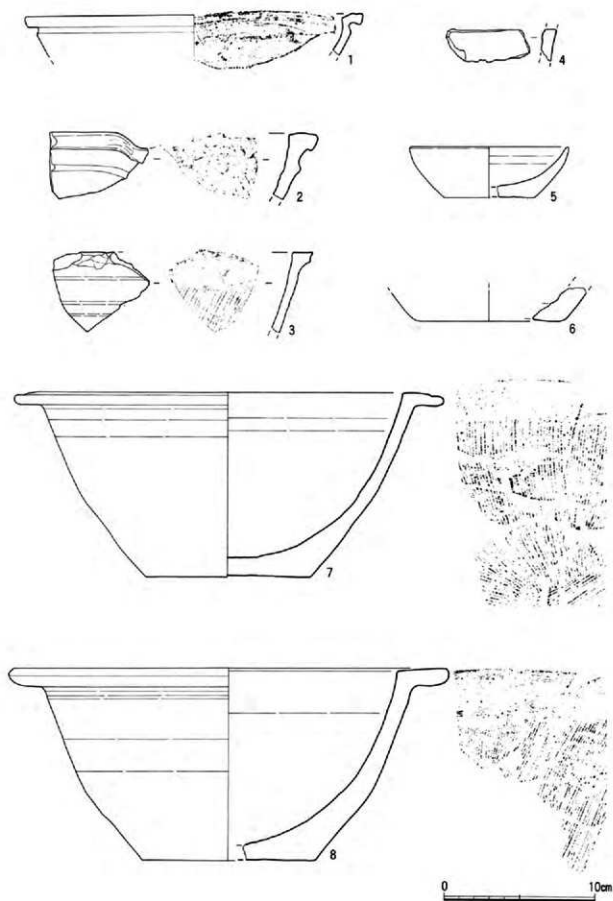
第67図 沖縄産施釉陶器：小碗（1～6）、皿（7）、猪口（8）、水注（9・10）、酒注（11～16）



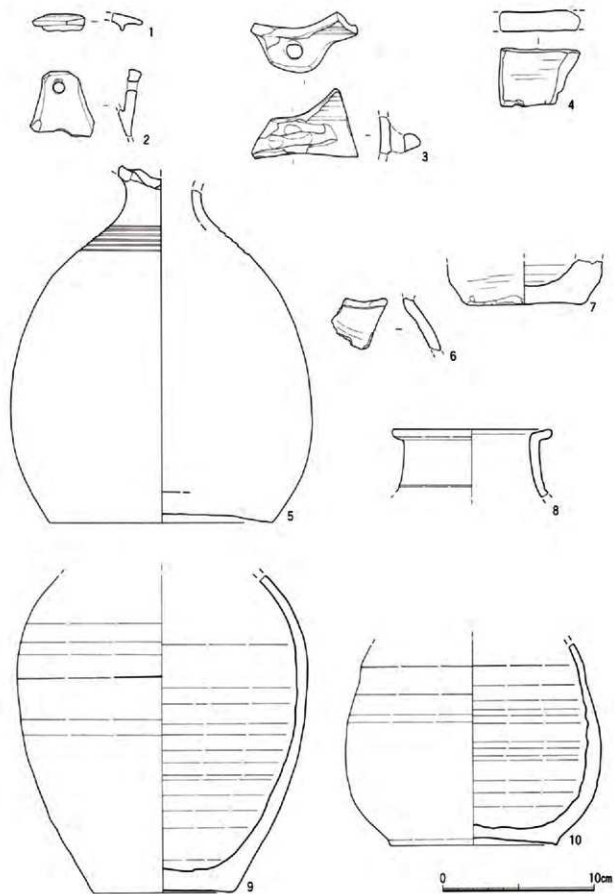
第68図 沖繩産施釉陶器：瓶（1～10）酒注（11）、火取（12～14）



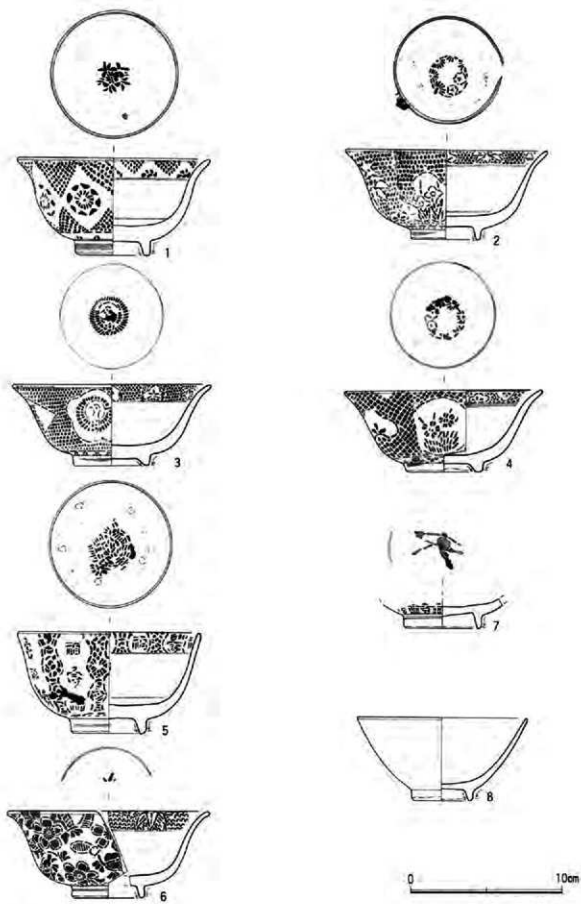
第69図 沖縄産施釉陶器：香炉(1・2)、壺(4)、鉢(5・6)、蓋(3・7)、
 甗(8)、円盤状製品(9)



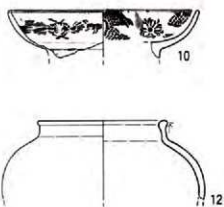
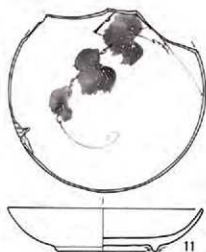
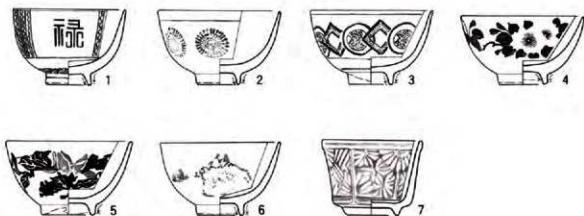
第70図 沖縄産陶器：播鉢(1~3・7・8)、不明(4)、皿(5)、不明底部(6)



第71圖 沖縄産無釉陶器：壺（5～10）、陶質土器（1～3）、灰色瓦（4）

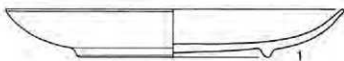


第72図 本土産磁器：碗

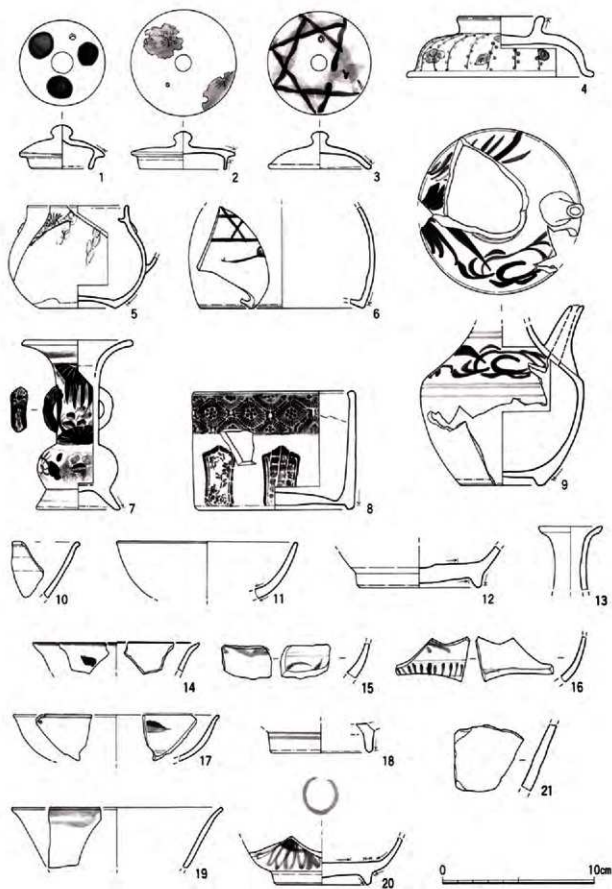


0 10cm

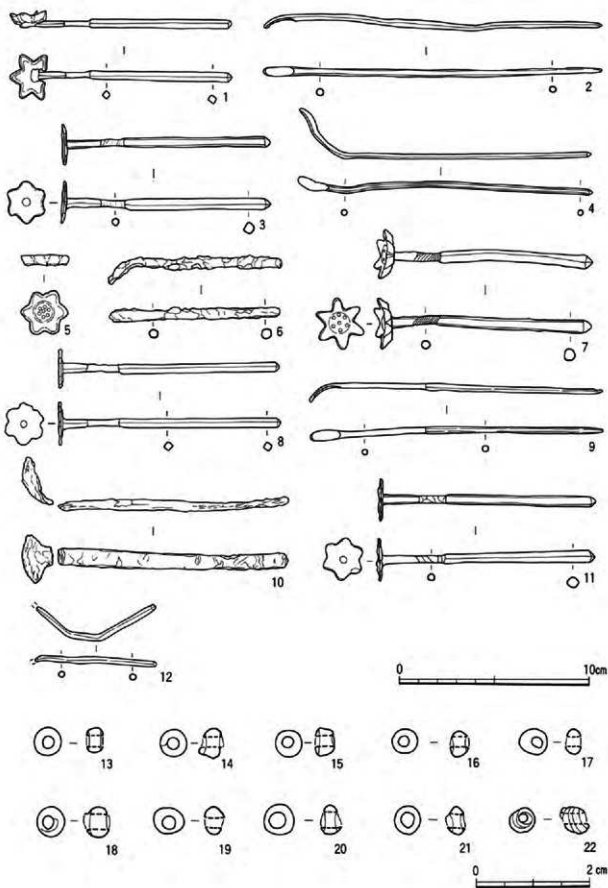
第73図 本土産磁器：小碗(1~7)、皿(8~10)、壺(11)



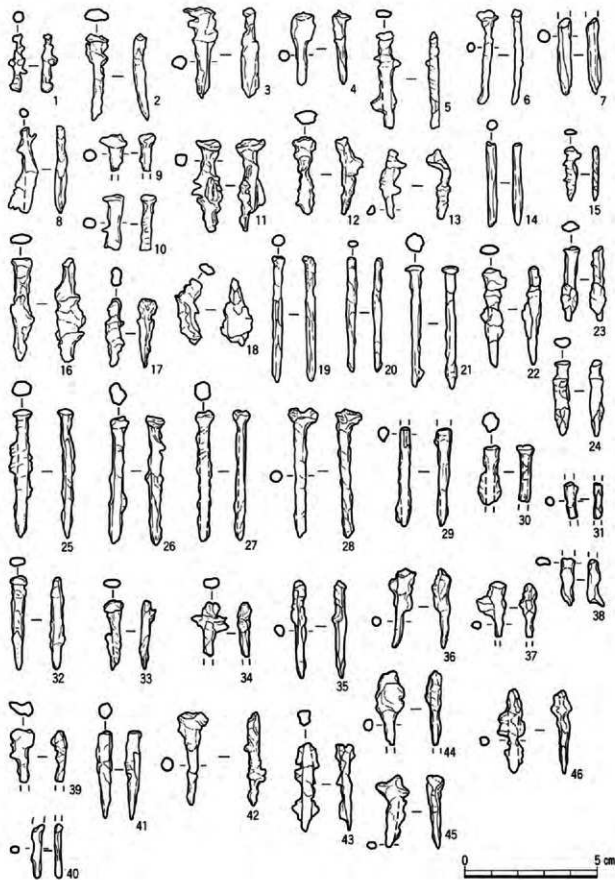
第74図 本土産磁器：皿



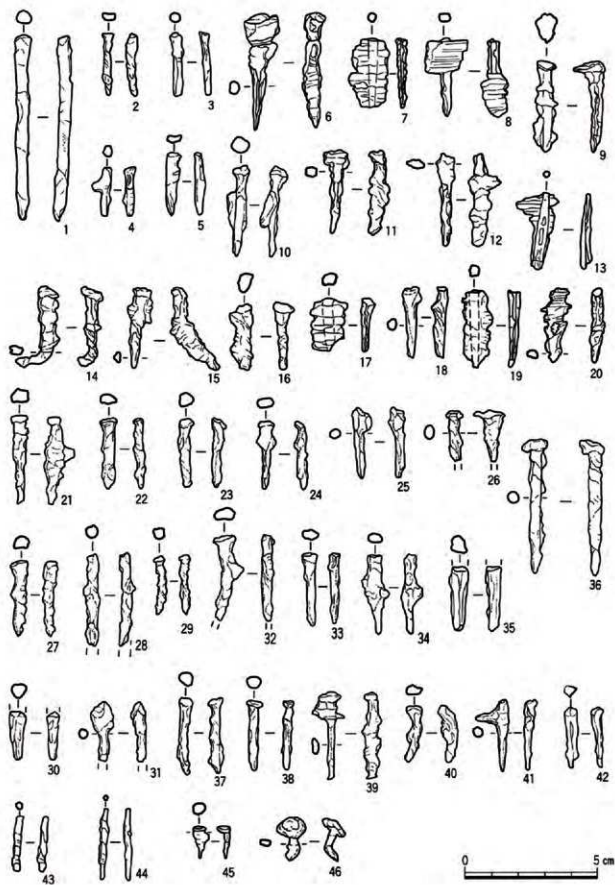
第75圖 本土産陶磁器：蓋・急須・壺・花瓶・火取・水注
 中国産陶磁器：白磁・染付・褐釉陶器



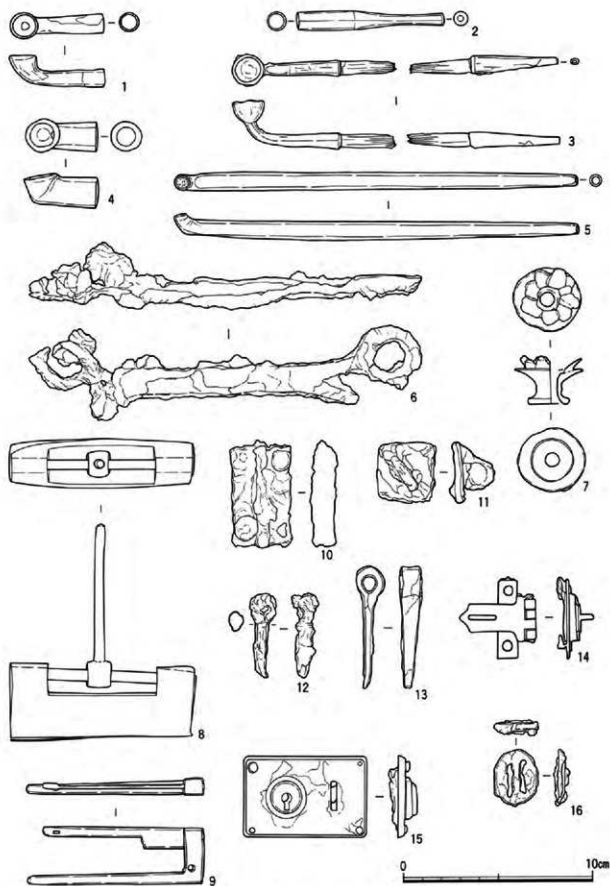
第76図 簪、ガラス小玉



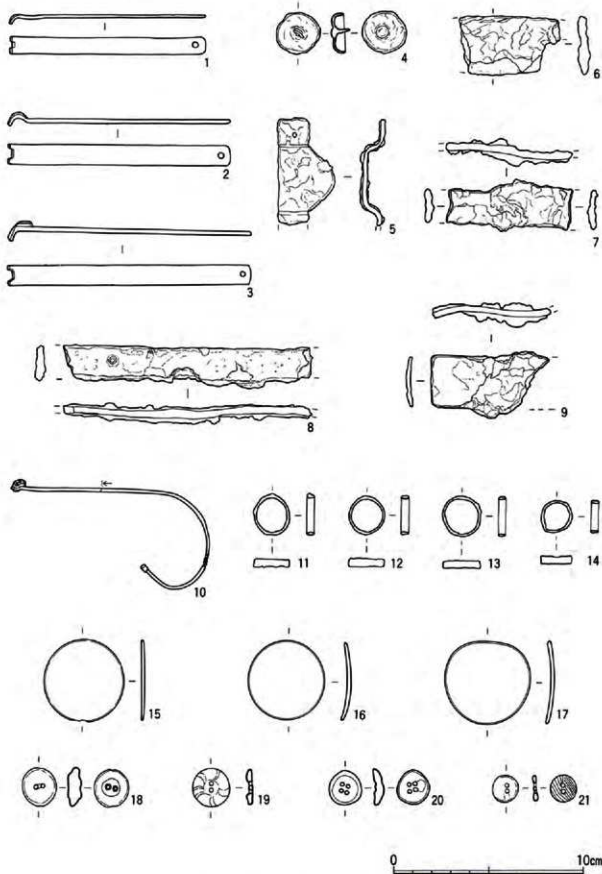
第77図 鉄釘 ①



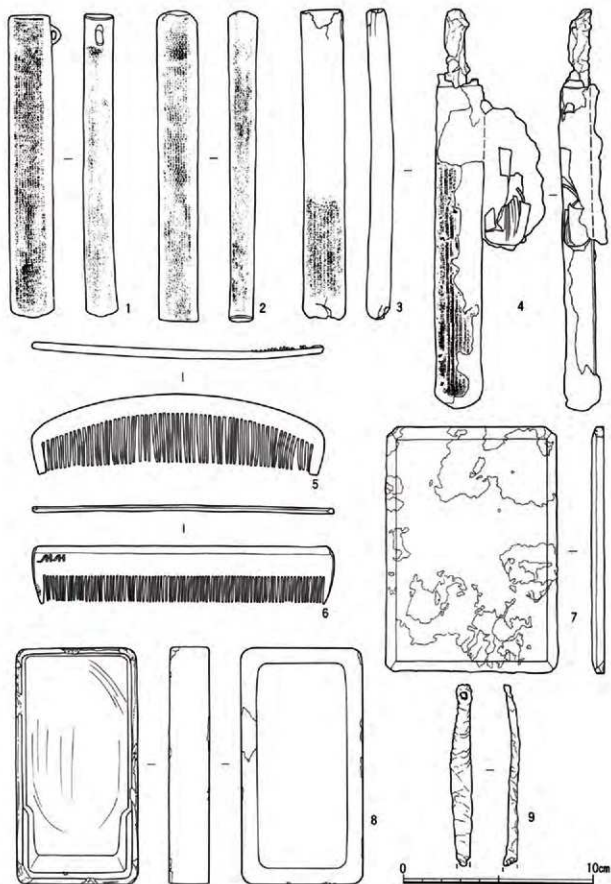
第78図 鉄釘②、鉄



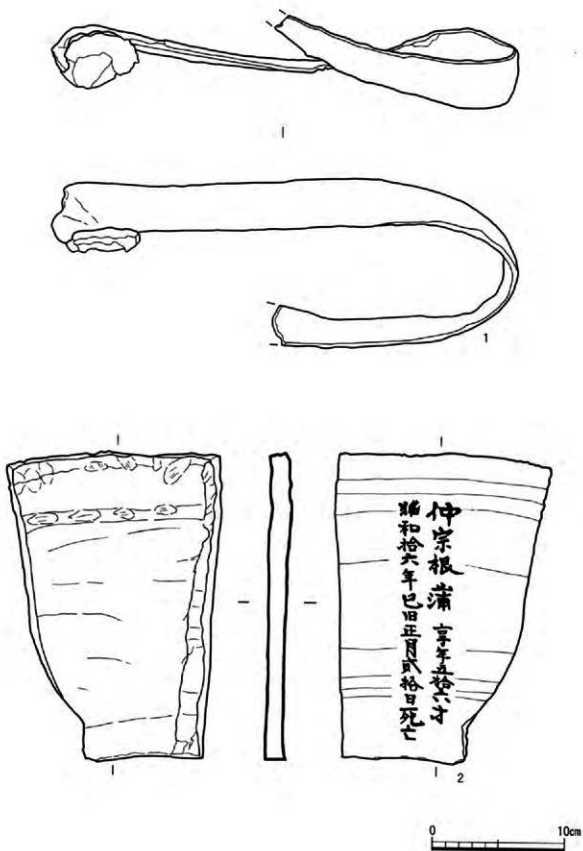
第79図 煙管(1~5)、鉞(6)、蠟燭立て(7)、錠前(8-9)、蝶番(10)、
鍵(11~15)、バックル(16)



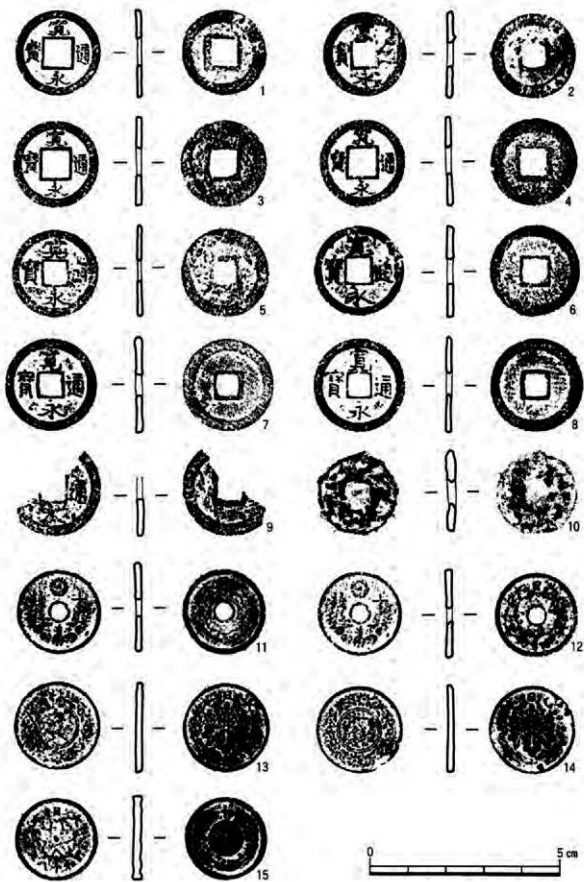
第80図 器種不明(1・3・5~9)、装飾金具(4)、眼鏡フレーム(10)、
指輪(11~14)、眼鏡レンズ(15~17)、ボタン(18~20)



第81図 煙管入れ (1~4)、櫛 (5・6)、鏡 (7)、硯 (8)、
骨製歯ブラシ (9)



第82図 ベルト(1)、墓誌(2)



第83圖 錢貨

写 真



図版1 上：遠景（南東から）
中：〃（北東から）
下：〃（北東から）



図版2 1段：11号墓

2段左：11号墓正面と石組み遺構

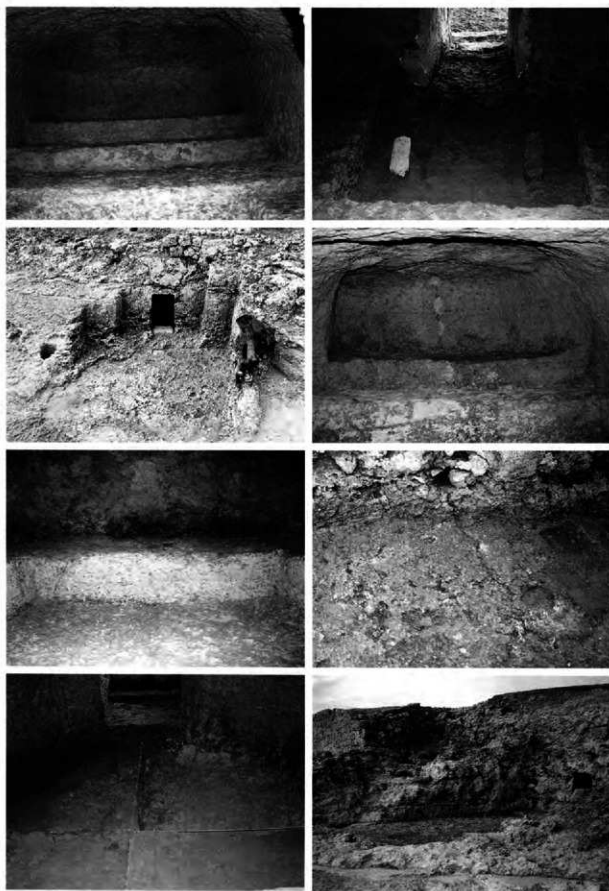
3段左：石組み遺構（墓庭は上方向）

2段右：石組遺構（墓室方向より）

3段右：11号と10号墓の石列合



図版3 1段：1・2・3号墓（右から） 2段右：1号墓室正面
 2段左：1号墓正面 3段右：1号墓室（墓口側）
 3段左：1号墓室内



図版 4 1段左：2号墓室正面 1段右：2号墓室内シルヒラシ
 2段左：3号墓 2段右：3号墓室正面
 3段左：4号墓室正面 3段右：4号墓庭、焼痕・ブタ頭骨埋穴・ピット
 4段左：18号墓室床面掘り下げ 4段右：18号墓屋根造成断面



図版 5 1段：18号墓（左）4号墓（右） 3段右：4号墓庭出土ブタ頭骨
 2段左：18号墓室内
 3段左：18号墓庭出土ブタ頭骨



図版 6 1段：5・6号墓（中央の右から） 2段右：5号墓室シルヒラシの台石
 2段左：6号墓室正面 3段右：5号から6号墓へ抜ける
 3段左：6号墓室左側 排水穴



図版7 1段：7号墓
2段：8号墓（右から7～9号墓）



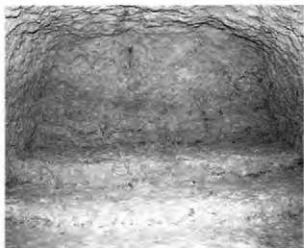
図版 8 上段：8号墓室内（検出後）
下段：8号墓出土人骨（一次葬）



図版9 1段左：7号墓室正面
 2段左：8号墓室左タナ
 3段左：23号墓室正面
 4段左：8号墓タナ奥の蔵骨器
 1段右：7号墓庭出土ブタ頭骨
 2段右：8号墓室内タナ（墓誌・鉄）
 3段右：8号墓室右タナ
 4段右：8号墓室シルヒラシ（花瓶・碗）



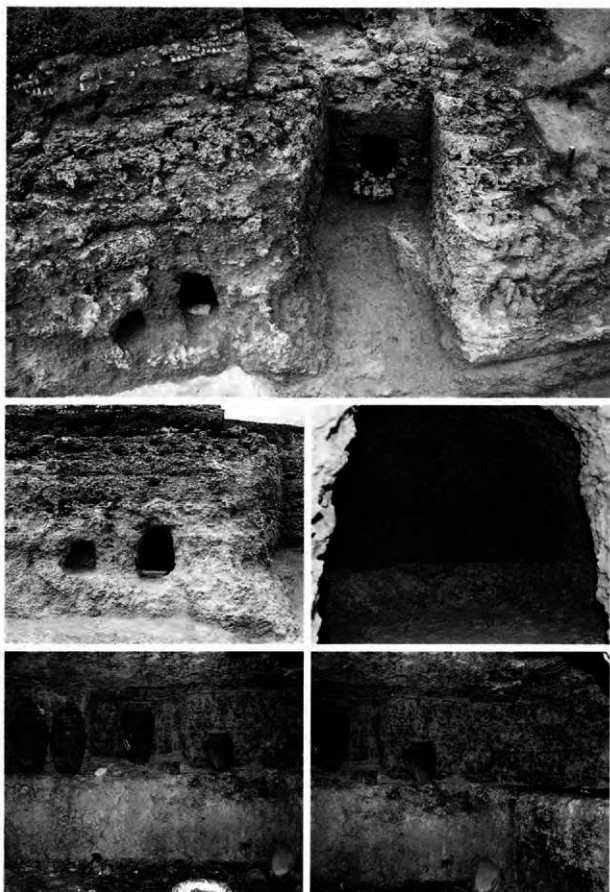
図版10 1段：9・10・11号墓（右から） 2段右：9号墓室正面奥壁の墨書
 2段左：9号墓室内シルヒラシの台石 3段右：10号墓室
 3段左：10号墓正面



図版11 1段：12・13号墓（右から） 2段右：12号墓室正面
 2段左：10号墓室内シルヒラシの台石 3段右：12・13号墓屋根の石列
 3段左：13号墓室正面



図版12 上段：16・17・21号墓（右から）
下段：17号墓出土人骨（一次葬）



図版13 1段：19・14・15号墓（右から） 2段右：14号墓室正面
 2段左：14・15号墓正面 3段右：19号墓室右タナ（焼痕）
 3段左：19号墓室内



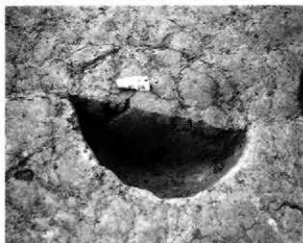
図版14 1段：20号墓

2段右：20号墓室（墓口側）

2段左：20号墓室正面

3段右：砲弾痕

3段左：20号墓セメント除去後



図版15 1段：植栽痕検出状況（墓側より） 2段右：セクション
 2段左：検出状況（西側より） 3段右：断面
 3段左：断面



图版16 (第44图) 藏骨器①



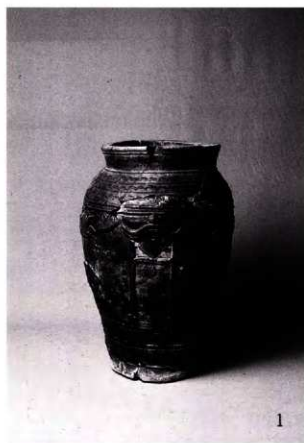
图版17 (第45图) 藏骨器②



图版18 (第46图) 藏骨器③



图版19 (第47图) 藏骨器④



图版20 (第48图) 藏骨器⑤



图版21 (第49图) 藏骨器⑥



图版22 (第50图) 藏骨器①



图版23 (第51图) 藏骨器③



图版24 (第52图) 藏骨器⑨



图版25 (第53图) 藏骨器⑩



图版26 (第54图) 藏骨器①



图版27 (第55图) 藏骨器⑫



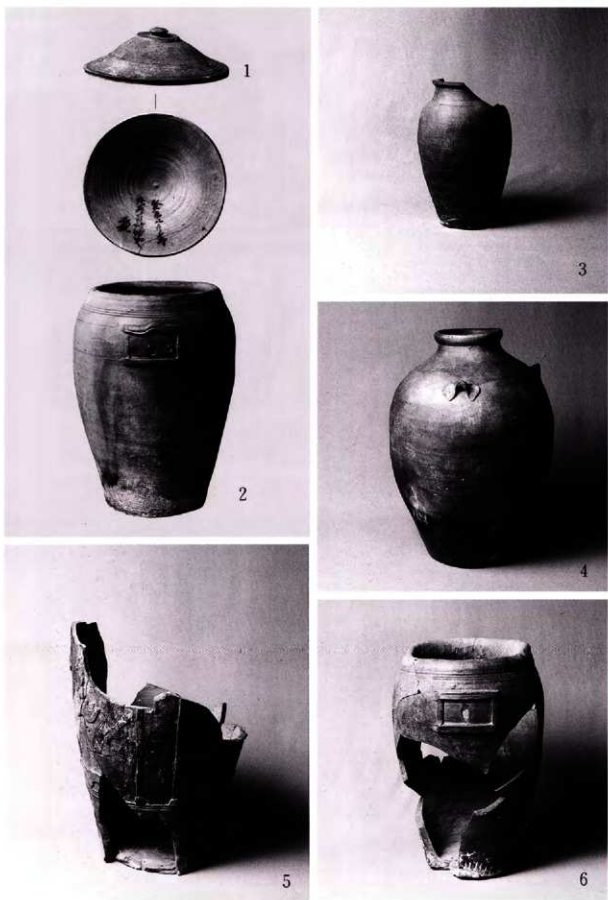
图版28 (第56图) 藏骨器⑬



图版29 (第57图) 藏骨器⑭



图版30 (第57图) 藏骨器⑬



図版31 (第58図) 蔵骨器⑯・沖縄産無釉陶器



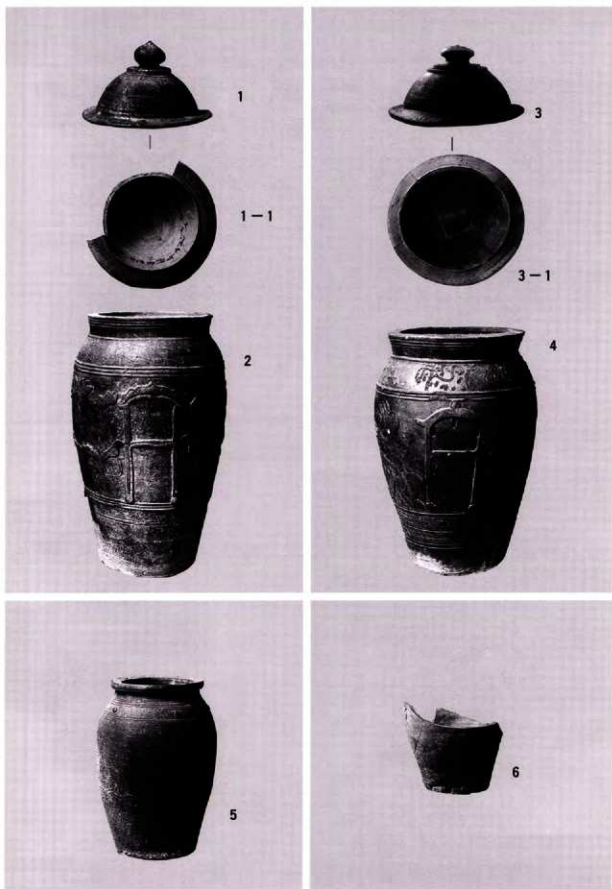
图版32 (第59图) 藏骨器⑰



图版33 (第60图) 藏骨器¹⁸



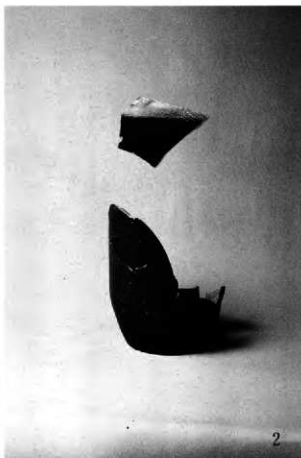
图版34 (第61图) 藏骨器^①



图版35 (第62图) 藏骨器②·転用藏骨器



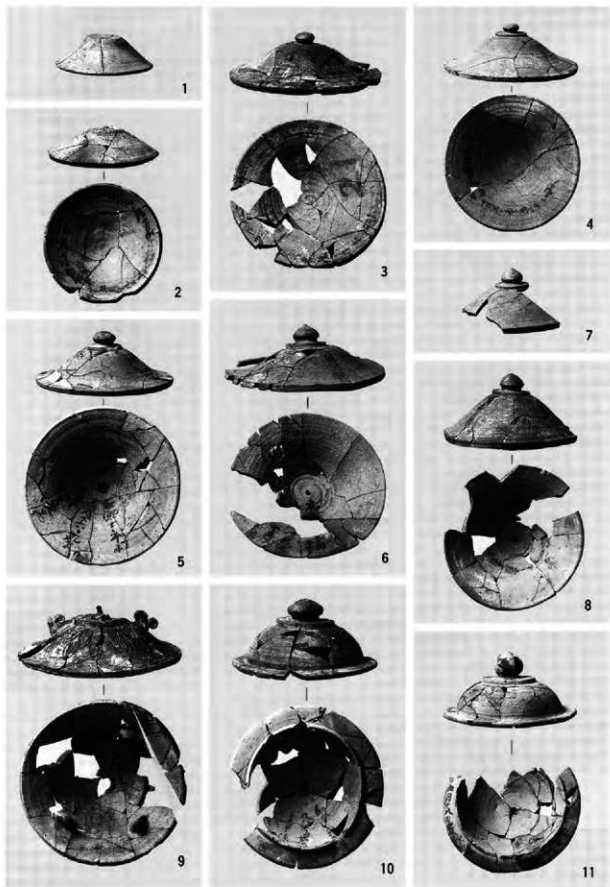
1



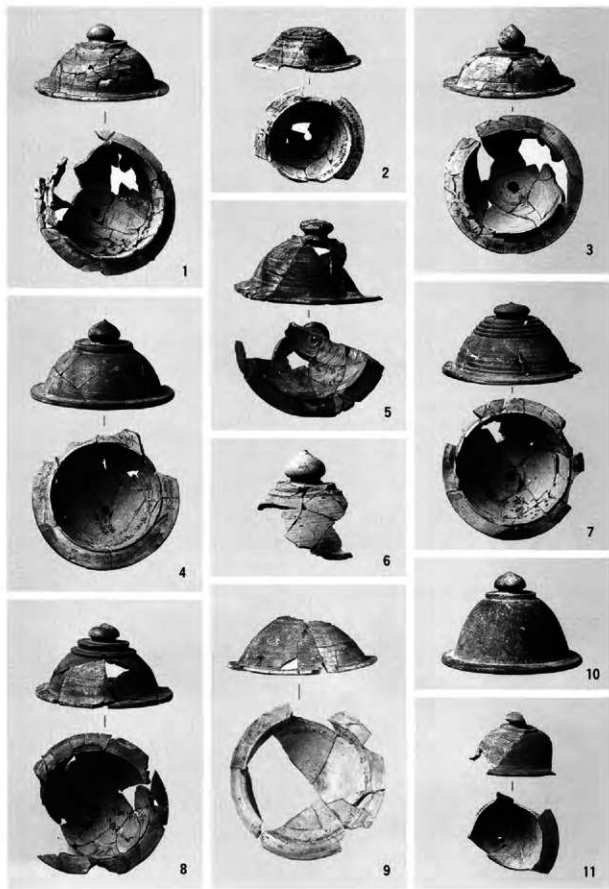
2



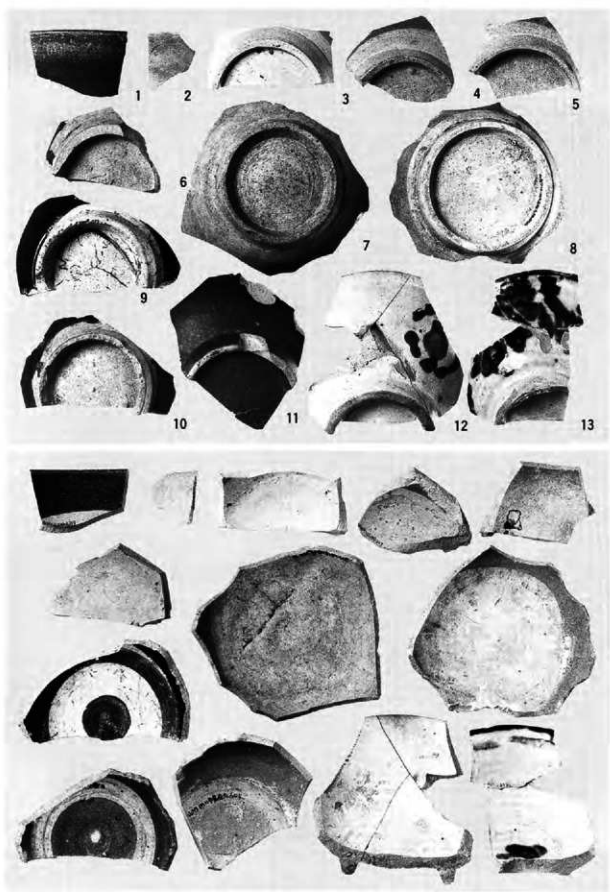
図版36 (第63図) 転用蔵骨器・沖縄産無釉陶器・本土産陶器



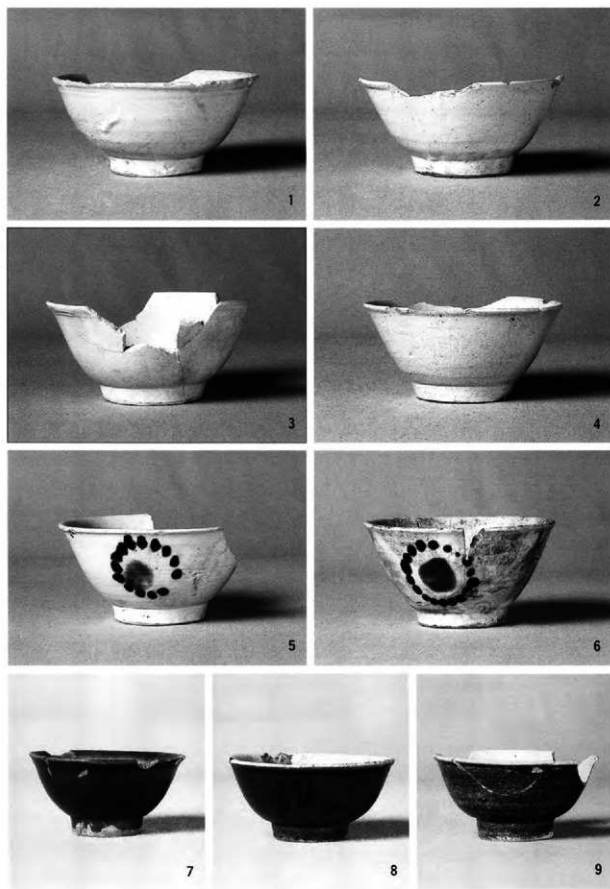
图版37 (第64图) 藏骨器②: 蒸



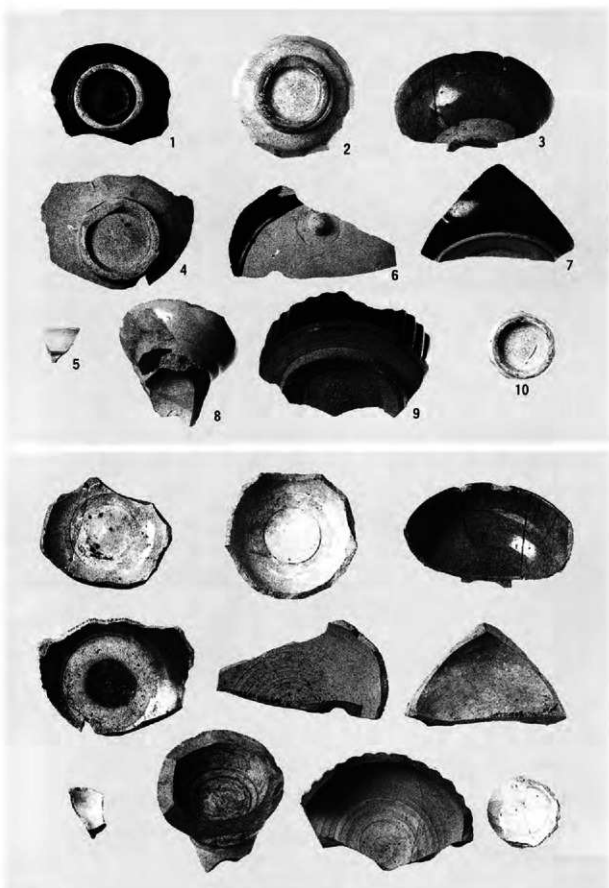
图版38 (第65图) 藏骨器②：盖



図版39 (第66図) 沖縄産施釉陶器：碗



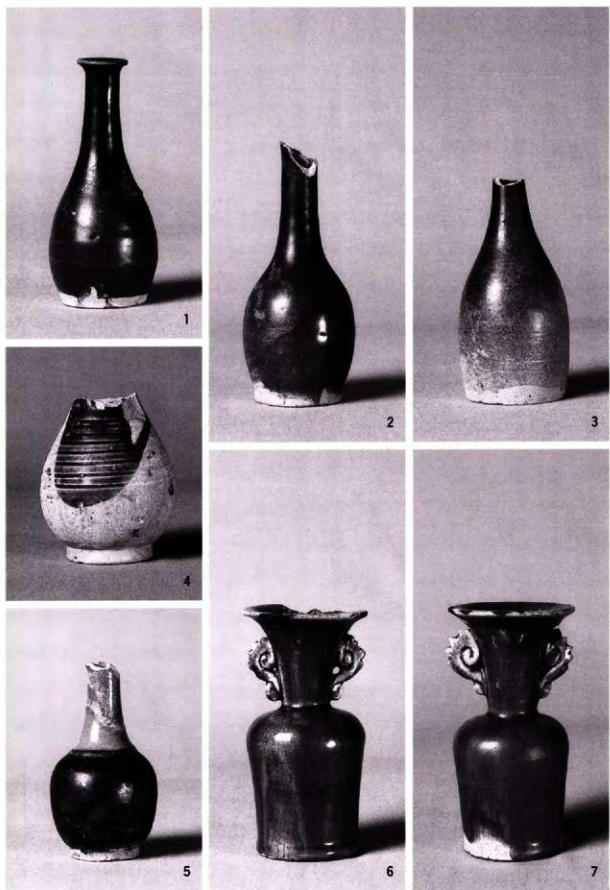
図版40 (第66・67図) 沖縄産施釉陶器：碗・小碗



図版41 (第67・69図) 沖縄産施釉陶器：小碗・皿・猪口・水注・瓶・酒注
円盤状製品



図版42 (第67図) 沖縄産施釉陶器：酒注



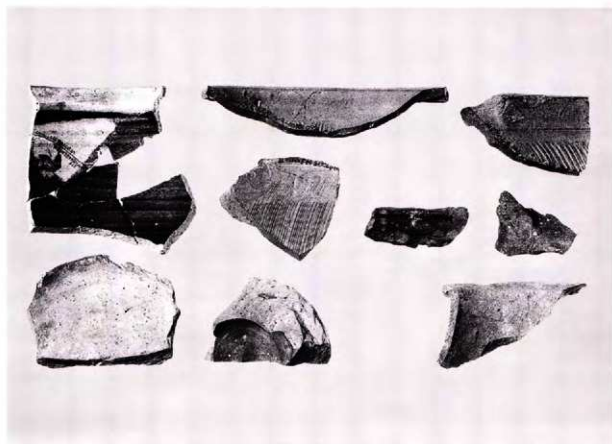
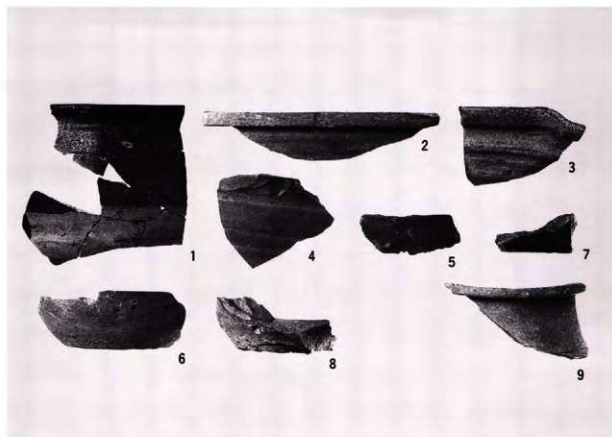
図版43 (第68図) 沖縄産施釉陶器：瓶



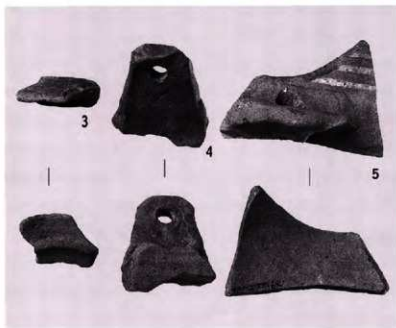
図版44 (第68図) 沖縄産施釉陶器：瓶 (1・2) 火取 (3~5)



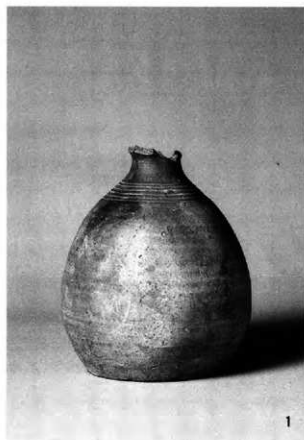
図版45 (第69図) 沖縄産施釉陶器：香炉・壺・鉢・蓋



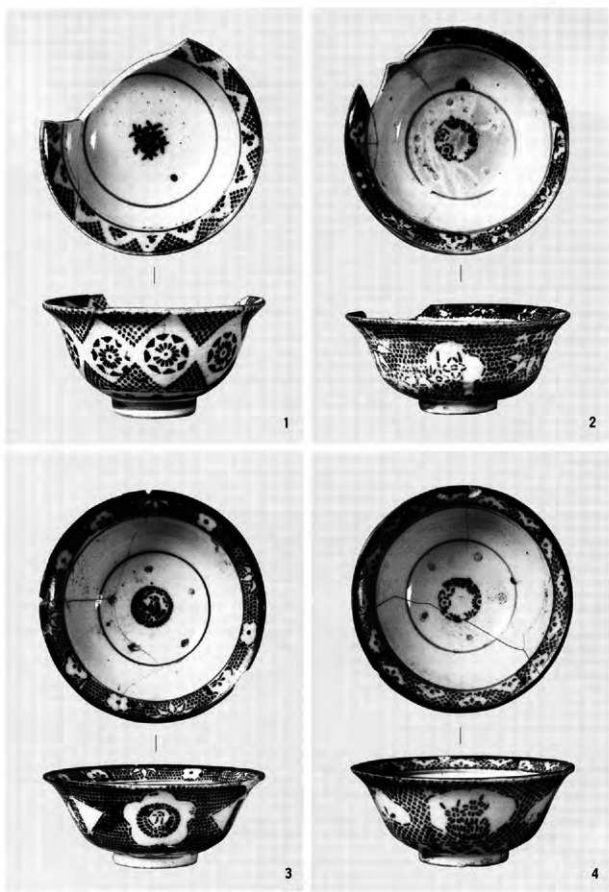
図版46 (第69・70図) 沖縄産施釉陶器：土鍋、沖縄産無釉陶器：擂鉢、器種不明



図版47 (第70・71図) 沖縄産無釉陶器：擂鉢、陶質土器：蓋・把手、灰色瓦



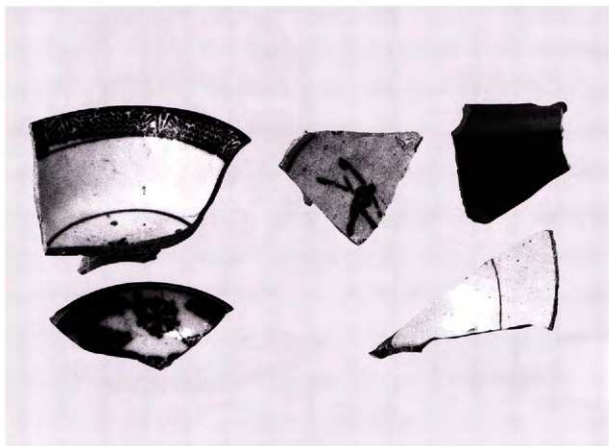
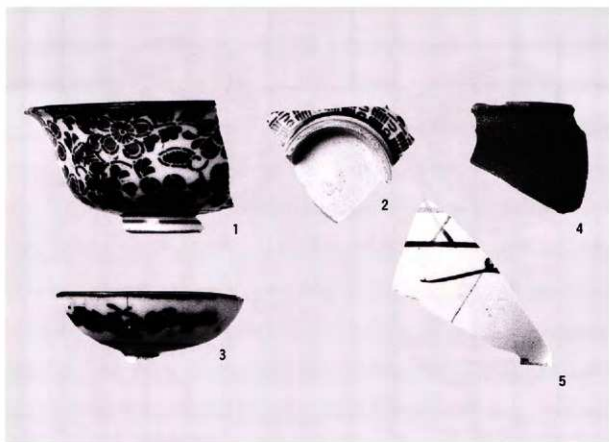
図版48 (第71図) 沖縄産無釉陶器：壺



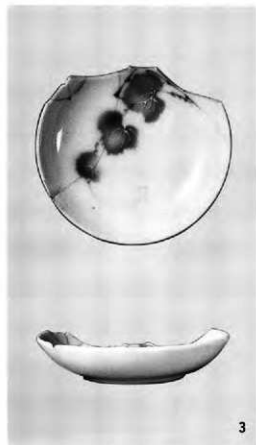
図版49 (第63図) 本土産陶磁器：碗



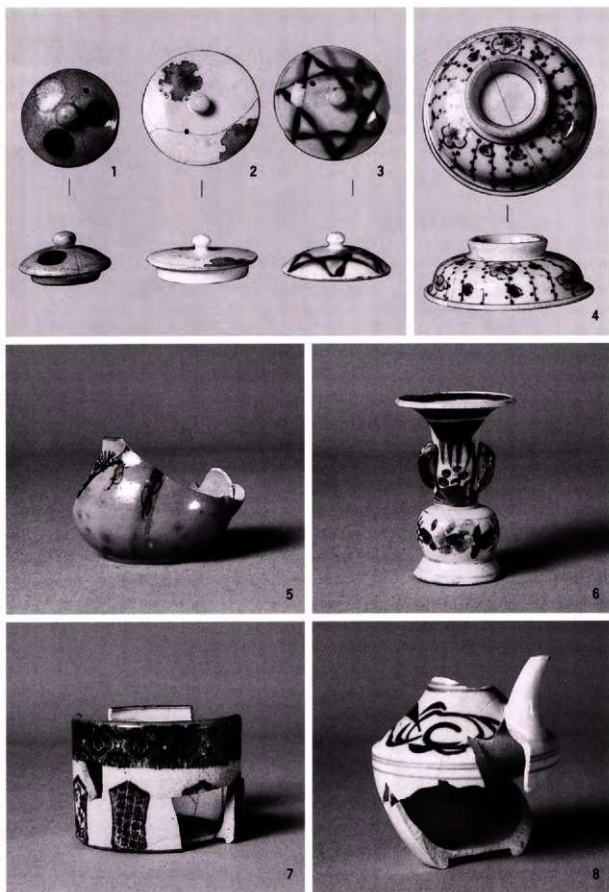
図版50 (第72・73図) 本土産陶磁器：碗・小碗



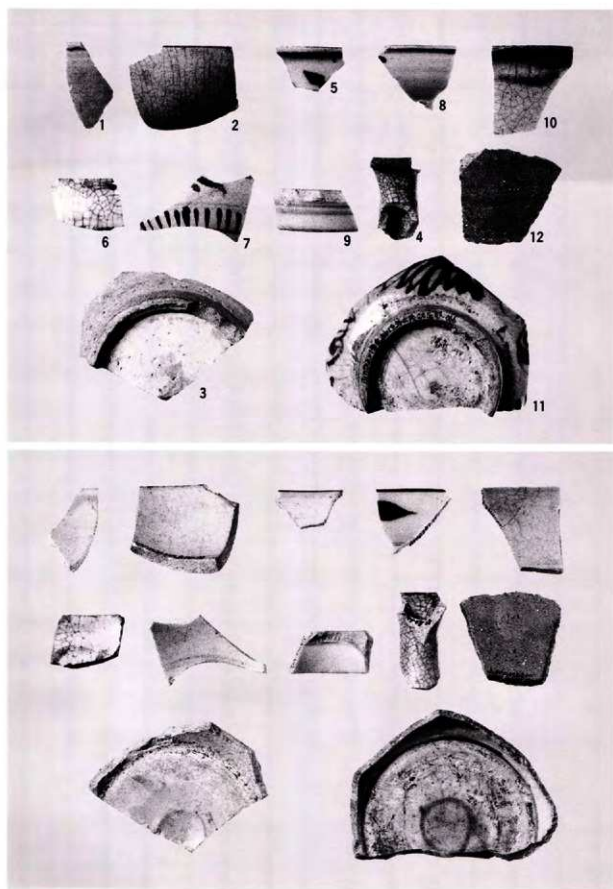
图版51 (第72·73·75图) 本土産磁器：碗・皿・壺・器種不明



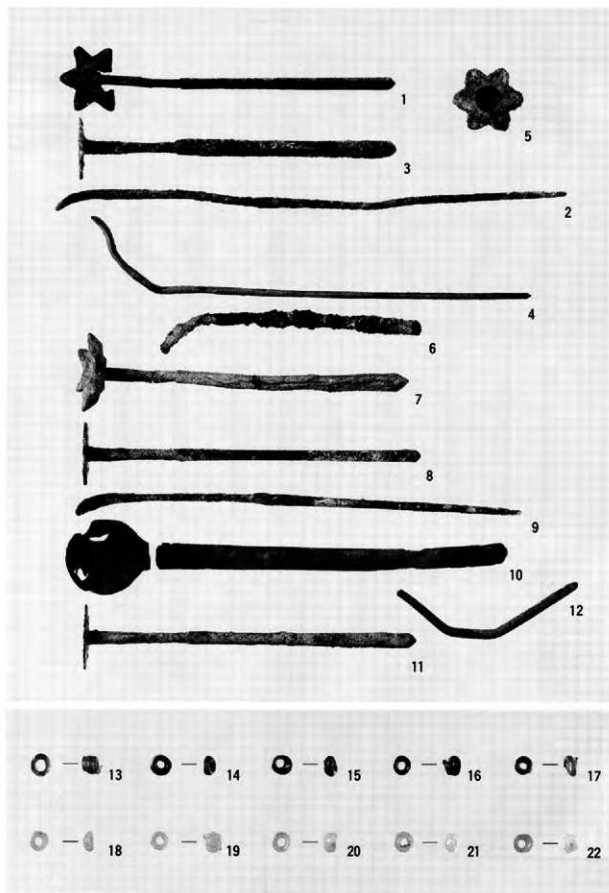
図版52 (第73・74図) 本土産磁器：皿



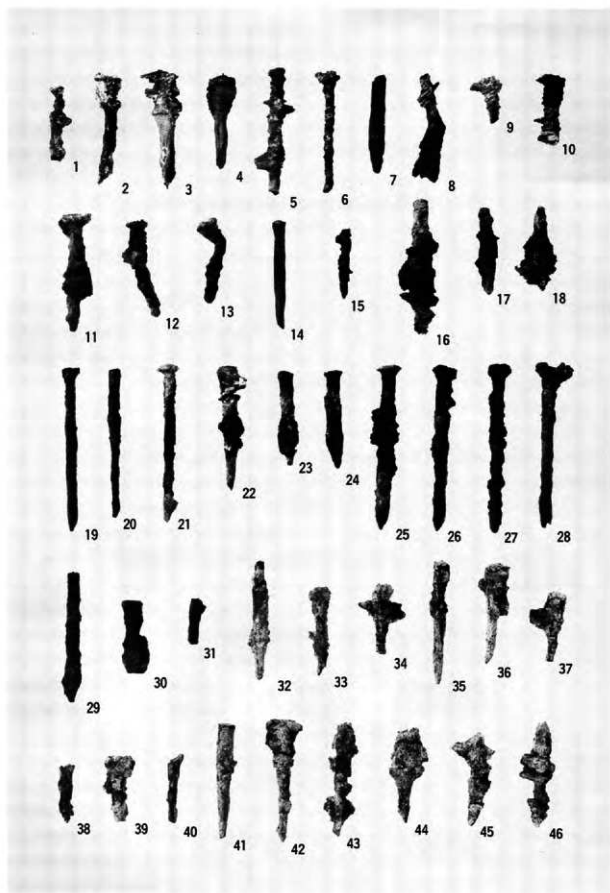
図版53 (第75図) 本土産磁器：蓋・急須・花瓶・火入・水注



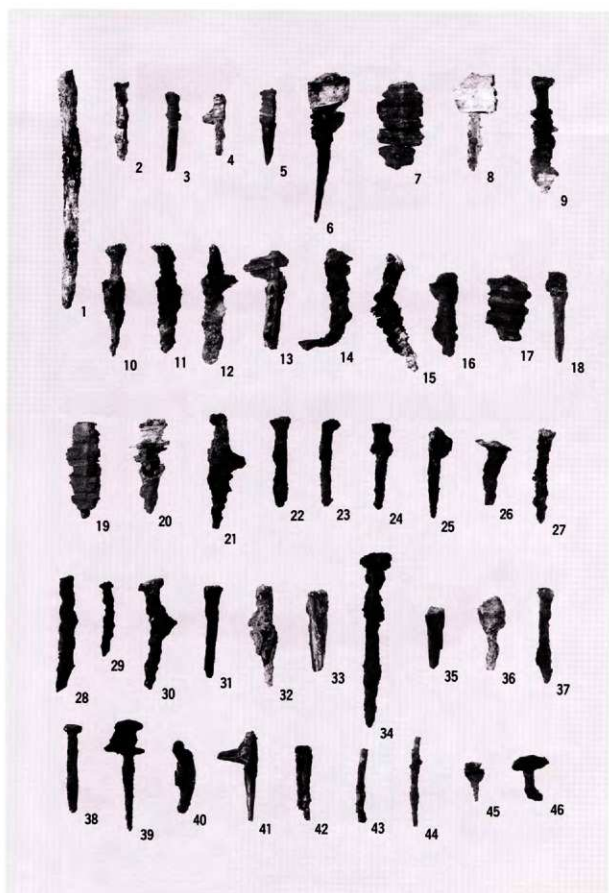
图版54 (第75图) 中国産陶磁器：白磁・染付・褐釉陶器



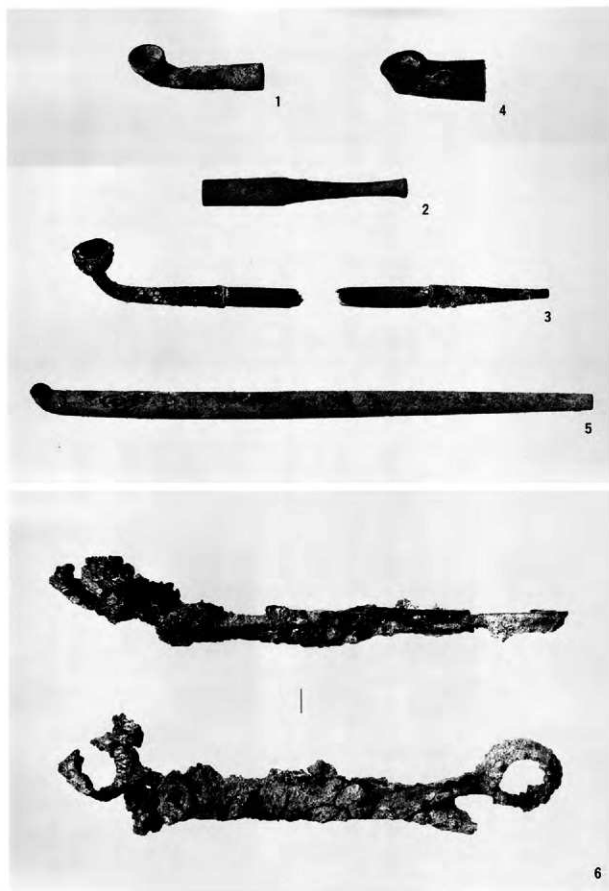
図版55 (第76図) ^{かんざし} 簪 : ガラス小玉



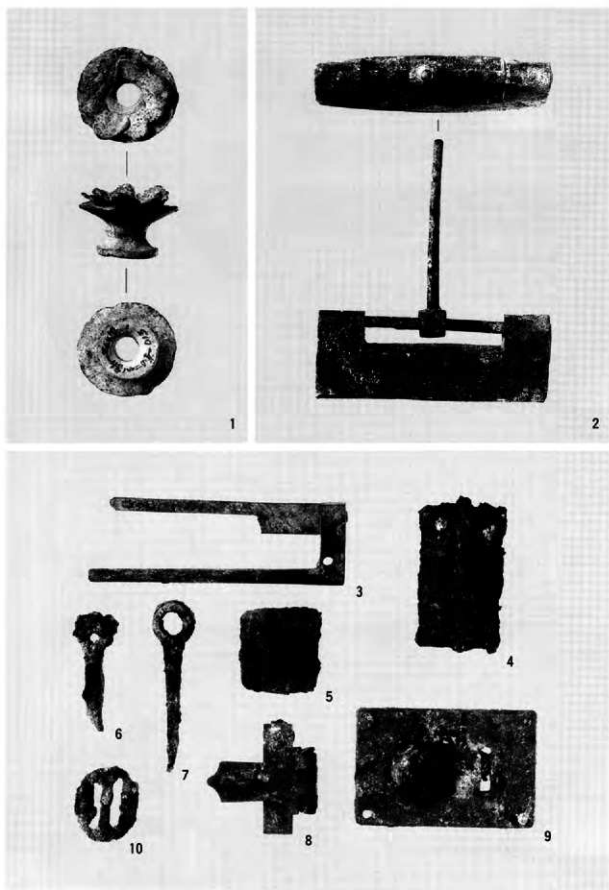
図版56 (第77図) 鉄製品：釘



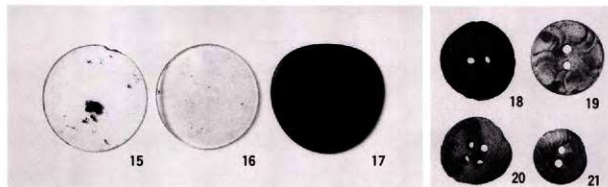
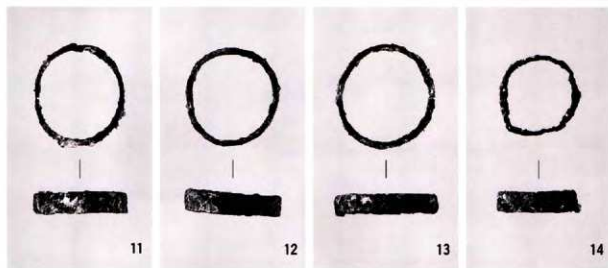
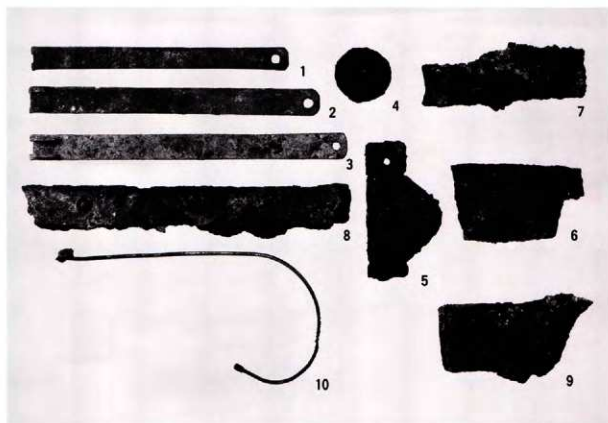
図版57 (第78図) 鉄製品：釘・釘・器種不明



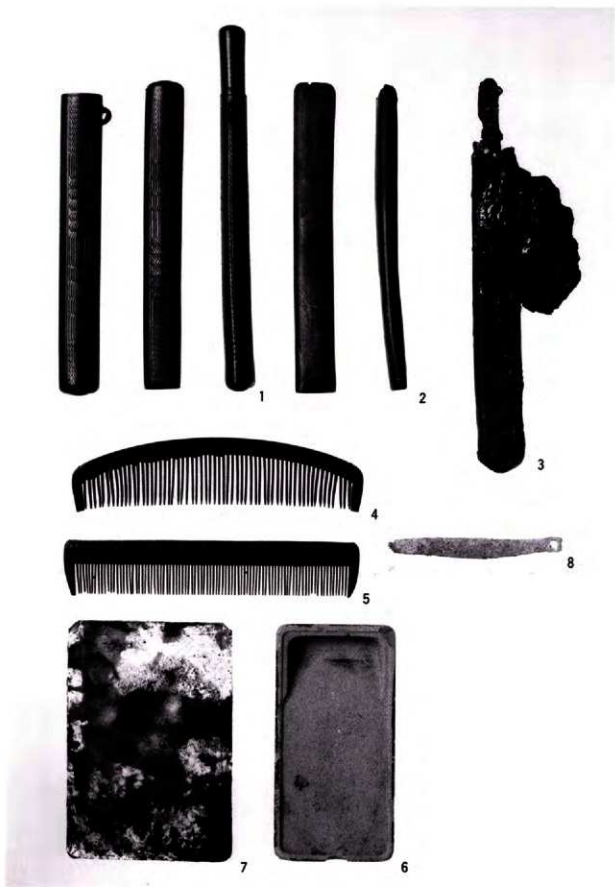
図版58 (第79図) キセル・ハサミ



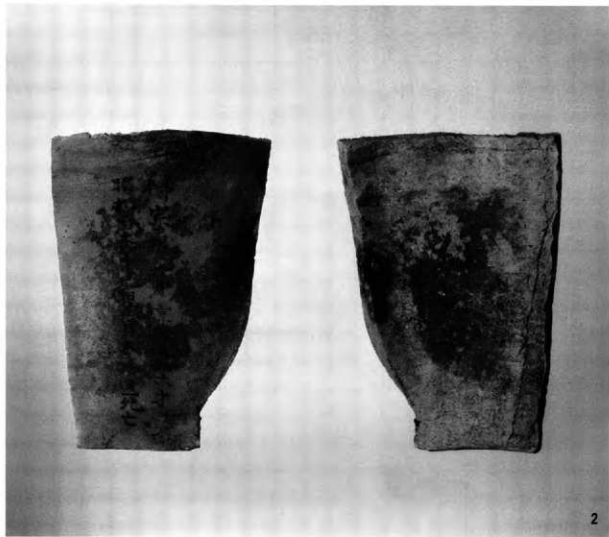
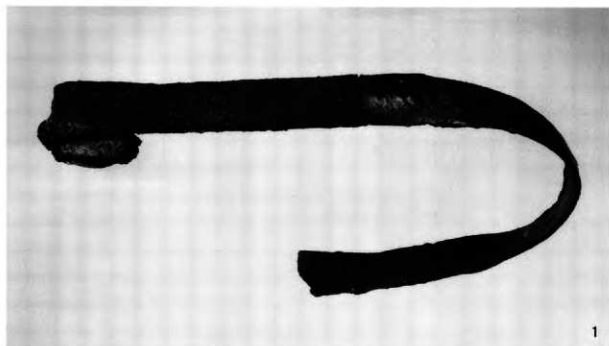
図版59 (第79図) 蝶燭立て・錠前・鍵ちよりのつがい・蝶番・バックル



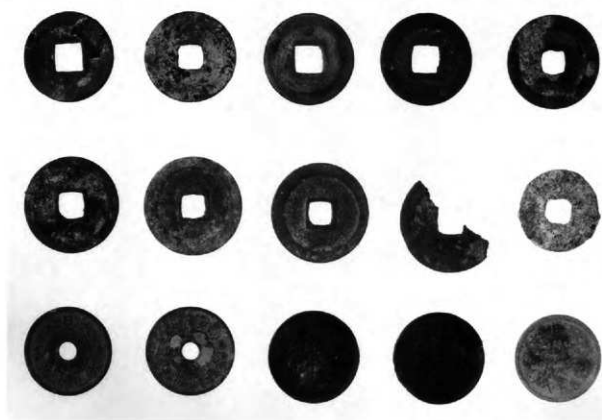
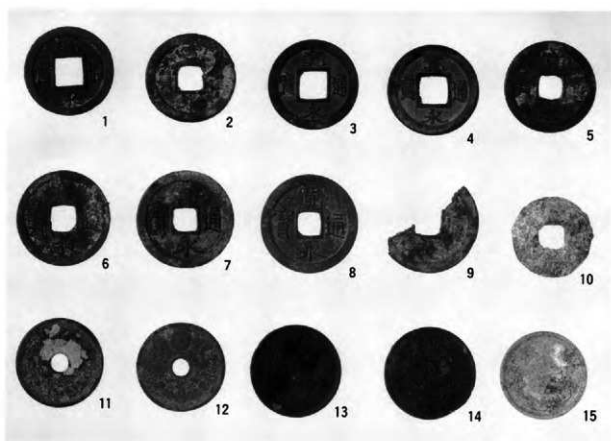
図版60 (第80図) 器種不明・裝飾金具・器種不明・眼鏡フレーム・指輪・眼鏡レンズ
サングラス・ボタン



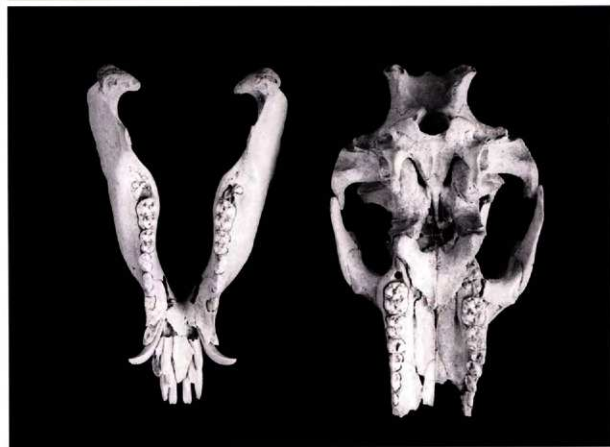
図版61 (第81図) キセル入れ・櫛・硯・鏡・骨製歯ブラシ



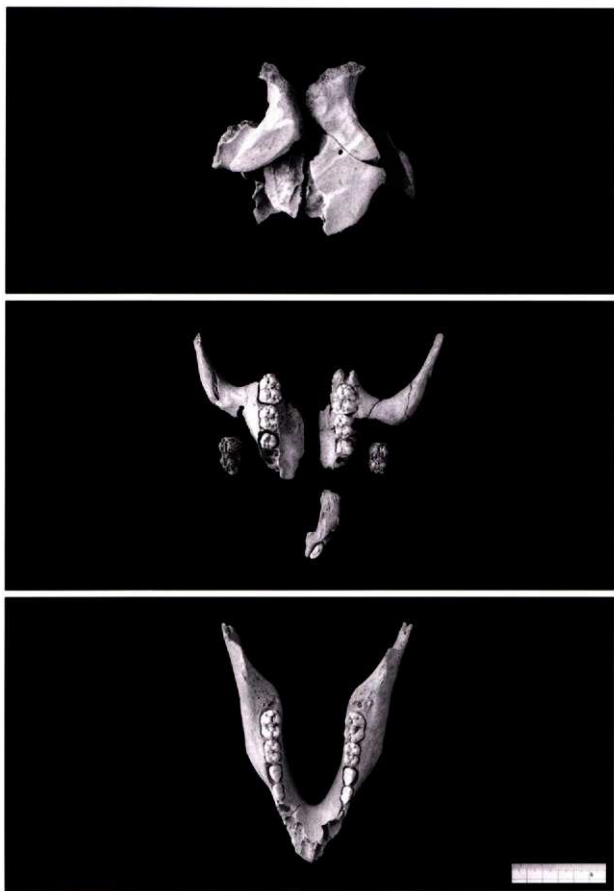
図版62 (第82図) ベルト・墓誌



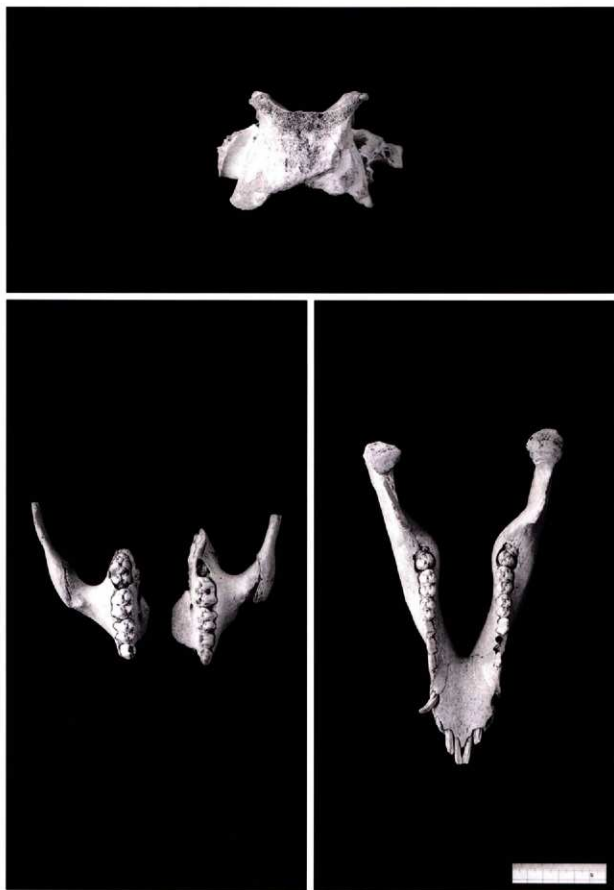
図版63 (第83図) 銭貨



図版64 ブタ頭骨（4号墓出土）



図版65 ブタ頭骨（7号墓出土）



図版66 プタ頭骨 (18号墓出土)

付 篇

沖縄県北谷町山川原古墓群出土の近世・近代人骨

松下 孝 幸*

【キーワード】：沖縄県、近世人骨、近代人骨、^{かのこうばか}亀甲墓、^{すしごの}厨子甕 短頭型

はじめに

沖縄県北谷町字大村山川原^{やまかわばら}に所在する山川原古墓群の発掘調査が、米軍施設建設工事に先立って1999年から2000年におこなわれた。この発掘調査で合計23基の古墓が確認されたが、人骨が残っていた墓は6基である。この古墓群は^{すしごの}厨子甕の銘によれば、最も古いものが1724年で、新しいものは明治12年までに洗骨された人骨のようであるが、昭和16年に死亡した人の遺体が埋葬されたこともわかっている(人骨番号：8-1)。

これまで、沖縄県内で、筆者が古人骨の調査に加わったり、報告したもののうち、近世人骨は、宜野座村のクジチ墓(松下・他、1988)、浦添市の城間古墓(松下・他、1990)、北谷町の上勢頭古墓群(松下、1996)や宜野湾市の奥間ノロ墓がある。クジチ墓からは合計48体、城間古墓からは合計136体分の人骨が検出されており、頭型や身長値が得られている。これらの近世人には短頭性や高身長といった予想もしなかった結果が得られ、沖縄県での形質の多様性がうかがえた。

沖縄県では沖縄独特の亀甲墓が営まれている。人が死ぬと、遺体はいったんこの亀甲墓のなかに納められ、肉が腐り骨になった頃に、再び墓を開け、骨を洗い、厨子甕に納められる。しかし、この亀甲墓のなかは高温多湿の状態になり、長い年月のあいだに人骨は崩壊してしまうことが多い。

今回の調査で検出された人骨も甕のなかには粉状になってしまった骨が多数見受けられた。現場で、甕のなかから人骨を取り出しながら、体数を確認した。観察や計測に耐えられる人骨については人類学的観察と計測をおこない、周辺地域の資料との検討をおこなってみた。その結果を報告しておきたい。

資 料

今回の発掘調査で出土した人骨は表1に示すとおり、合計52体である。このうちもっとも多く人骨が残っていたのは、8号墓でその数は24体であった。52体の人骨のうち成人骨は38体、幼小児骨は14体で、26.9%を占める。幼小児骨14体のうち幼児か小児かの区別がついたものが11体あったが、そのうち8体が幼児骨、残りの3体が小児骨であった。しかも幼児骨のうち4体は生後1年に満たない乳児骨であった。成人

* Takayuki MATSUSHITA
The Doigahama Site Anthropological Museum [土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム]

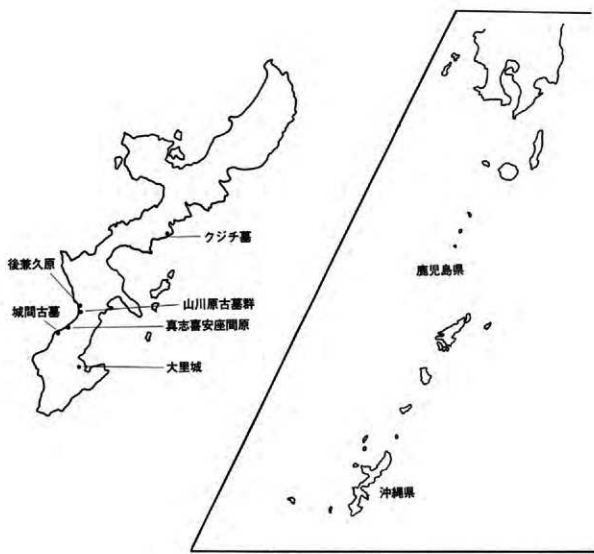


図1 遺跡の位置 (1/25,000) (Fig.1 Location of the Yamakawabaru Ancient Tumbs, Chatoon
Cho, Okinawa Prefecture)

骨のうち性別が判別できたのは36体であるが、24体が男性骨、残りの12体が女性骨であった。成人骨のうちで年齢を推定することができたのは19体で、そのうち熟年はわずかに3体で、残りの16体(84.2%)は壮年で、若年での死亡率が高いことがうかがえる。各人骨の性別・年齢などは表2に示した。また、年齢区分は表3のとおりである。

表1 資料数(Table 1. Number of materials)

	成人			幼小児	合計
	男性	女性	不明		
8号墓	10	5		9	24
10号墓	5	3		2	10
17号墓				1	1
18号墓	6	2	2	1	11
19号墓	2	2			4
21号墓	1			1	2
合計	24	12	2	14	52

各墓とも湿気と高温のために人骨の保存状態はあまりよくない。

今回検出された甕には銘が書いてあるものがあつた。甕に書かれた銘から死亡年が最も古いものは1724年で、新しいものは明治12年である。従つて、本人骨は近世から近代までの人骨である。ただし、1例だけは昭和16年頃に埋葬されたようである。

計測方法は、Martin-Saller(1957)によつたが、脛骨の横径はオリビエの方法で計測し、鼻根部については鈴木(1963)と松下ら(1983)の方法で計測した。

表3 年齢区分 (Table 3. Division of age)

	年齢区分	年 齢
未成人	乳児	1歳未満
	幼児	1歳～5歳 (第一大臼歯萌出直前まで)
	小児	6歳～15歳 (第一大臼歯萌出から第二大臼歯根完成まで)
	成年	16歳～20歳 (蝶後頭軟骨結合癒合まで)
成人	壮年	21歳～39歳 (40歳未満)
	熟年	40歳～59歳 (60歳未満)
	老年	60歳以上

注) 成年という用語については土井ヶ浜遺跡第14次発掘調査報告書(1996)を参照されたい。

比較資料としては、沖縄県の浦添市城間古墓(松下・他、1990b)と宜野座村クジチ墓(松下・他、1998a)から出土した近世人骨および与論島の近世・近代人骨(大山、1956、平田、1958、広沢、1959)を用いた。

表2 人骨一覽(Table 2 List of skeletons)

墓番号	壙番号	人骨番号	性別	年齢	備考
8号墓	—	8-1	男性	熟年	一次葬人骨(56歳)
	1号壙	8-1-1	男性	不明	
		8-1-2	—	子供	年齢不明
		8-1-3	—	子供	年齢不明
	2号壙	8-2-1	男性	不明	
		8-2-2	女性	不明	
	3号壙	8-3-1	男性	不明	
		8-3-2	—	幼児	2歳
		8-3-3	—	幼児	4~5歳
	4号壙	8-4-1	女性	不明	
		8-4-2	—	子供	年齢不明
	5号壙	8-5-1	女性	壮年	
		8-5-2	—	乳児	3ヶ月
		8-5-3	—	乳児	3ヶ月
6号壙	8-6-1	男性	不明		
7号壙	8-7-1	男性	壮年		
8号壙	8-8-1	男性	不明		
9号壙	8-9-1	男性	壮年		
10号壙	8-10-1	男性	不明		
11号壙	8-11-1	男性	壮年		
12号壙	8-12-1	女性	壮年		
13号壙	8-13-1	—	小児	7歳	
	8-13-2	—	乳児	3ヶ月	
14号壙	8-14-1	女性	壮年		
10号墓	1号壙	10-1-1	男性	熟年	
		10-1-2	男性	壮年	
		10-1-3	男性	壮年	
		10-1-4	—	小児	6~7歳
	2号壙	10-2-1	女性	不明	
		10-2-2	男性	不明	
3号壙	10-3-1	女性	不明		
4号壙	10-4-1	男性	不明		
5号壙	10-5-1	女性	壮年		
6号壙	10-6-1	—	幼児	2歳	
17号墓	17-1	—	小児	12歳	
18号墓	1号壙	18-1-1	不明	壮年	
		18-1-2	不明	不明	成人
		18-1-3	—	幼児	5歳
	2号壙	18-2-1	男性	不明	
		18-2-2	男性	不明	
		18-2-3	女性	不明	
	3号壙	18-3-1	男性	不明	
	4号壙	18-4-1	男性	壮年	
		18-4-2	女性	壮年	
	5号壙	18-5-1	男性	不明	
	6号壙	18-6-1	男性	不明	
19号墓	1号壙	19-1-1	女性	壮年	
		19-2-1	女性	壮年	
	3号壙	19-3-1	男性	壮年	
	4号壙	19-4-1	男性	壮年	
21号墓	1号壙	21-1-1	男性	熟年	
		—	21-1	—	乳児

所見

比較的保存状態がよかったものは残存部を図2で示した。また、各骨の計測値は文末に一括して掲げた。

保存状態が最もよかったのは、8号墓の1号人骨である。この人骨は昭和16年に埋葬された56歳の男性骨であることが、聞き取り調査や8号墓のなかから出土した墓誌から判明している。従って、この被葬者は1885年(明治18年)生まれであるから、人骨は近代人骨である。まず、この8号墓の1号人骨について所見を書き、この他に観察や計測が可能だった頭蓋について、所見を記載しておきたい。

8号墓1号人骨(男性・56歳)

1. 頭蓋

(1) 脳頭蓋

この8号墓1号人骨は近代人骨である。全身にコルタルがかかっているのを取り除くのに時間がかかってしまった。脳頭蓋は完全である。骨壁は厚く、堅牢である。外後頭隆起の発達はよくない。また、乳様突起は小さい。外耳道は両側とも観察できたが、骨腫は左右とも認められない。縫合は、三主縫合とも内外両板がまだ開離している。

脳頭蓋の計測値は、頭蓋最大長が170mm、頭蓋最大幅は146mm、バジオン・ブレグマ高は141mmである。頭蓋長幅示数は85.88、頭蓋長高示数は82.94、頭蓋幅高示数は96.58となり、頭型はhyperbrachykran(過短頭)、hypsikran(高頭型)、metriokran(中頭型)に属している。また、頭蓋水平周は508mm、横弧長は322mm、正中矢状弧長は364mmである。

(2) 顔面頭蓋

顔面頭蓋も完全に残っていた。眉上弓はわずかに隆起しているが、鼻根部を含めて顔は扁平である。鼻骨は広く、低い。

顔面の計測値は、頬骨弓幅が137mm、中顔幅は103mm、顔高は122mm、上顔高は63mmで、顔示数は89.05(K)、118.45(V)、上顔示数は45.99(K)、61.17(V)となり、本例は上顔高はかなり低い、顔高は高いので、顔示数はやや大きめに、上顔示数はかなり低めに出るが、顔高がやや高いことを考慮しても、低・広顔傾向である。

眼窩幅は42mm(右)、41mm(左)、眼窩高は33mm(右)、33mm(左)で、眼窩示数は78.57(右)、80.49(左)となり、両側ともmesokonch(中眼窩)に属している。

鼻幅は27mm、鼻高は52mmで、鼻示数は51.92となり、chamaerrhin(低鼻)に属している。

鼻根部の計測値は、前眼窩間幅が21mm、鼻根横弧長は24mm、鼻根彎曲示数は87.50となり、鼻根部は扁平である。両眼窩幅は101mmで、眼窩間示数は20.79となり、目と目の間隔が広い。鼻骨最小幅は13mmで、鼻骨が広く、前頭突起水平傾斜角は91度を示し、前頭突起の向きは矢状方向であるが、鼻根部は扁平である。鼻根角は155

度、鼻根陥凹示数は9.38で、鼻骨の隆起はきわめて弱く、鼻がかなり低い。

鼻頬骨角は118度で、前頭骨も扁平である。

側面角は、全側面角が81度、鼻側面角が85度、歯槽側面角は66度で、歯槽性突頭の傾向が認められる。

下顎骨は両側の下顎角が欠損していた。オトガイ部は高いが、歯槽部には歯周疾患がみられ、高径が低く、歯がかなり脱落している。下顎切痕は浅い。

2. 歯

上顎骨には6本、下顎骨には3本の歯が釘植していた。大白歯にはかなりひどい齶蝕がみられる。残存歯の歯式は省略する。

3. 四肢骨

(1) 上肢骨

上腕骨、橈骨、尺骨しか取り上げることができなかった。

①上腕骨

計測値は、最大長が(298)mm(左)で、長くない。骨体最小周は61mm(右)、61mm(左)、中央周は64mm(右)、63mm(左)で、長厚示数は(20.47)(左)となり、頑丈なものではない。また、中央最大径は21mm(右)、21mm(左)、中央最小径は16mm(右)、16mm(左)で、骨体断面示数は76.19(右)、76.19(左)となり、骨体の扁平性は弱い。

②橈骨

右側のみが完全に残存していた。長さは長い、骨体は細い。

③尺骨

尺骨も右側の骨体だけが残存していた。長さはやや長い、骨体はかなり細い。

(2) 下肢骨

寛骨、大腿骨、脛骨および腓骨が残存していた。

①寛骨

左側だけしか取り上げることができなかった。大坐骨切痕の角度は小さく、恥骨下角も小さい。

②大腿骨

右側は遠位端を、左側は両端を欠損している。長さはあまり長いものではなく、骨体は丸い。骨体上部は扁平である。

計測値は、骨体中央矢状径が25mm(右)、27mm(左)、横径は28mm(右)、28mm(左)で、骨体中央断面示数は89.29(右)、96.43(左)となり、骨体両側面の後方への発達はきわめて悪い。骨体中央周は83mm(右)、84mm(左)で、右側骨体は細い。また、上骨体断面示数は69.70(右)、71.88(左)となり、骨体上部は扁平である。

③脛骨

右側は内果を欠損していたが、左側は完全である。長さは長いものではなく、骨体も細い。ヒラメ筋線の発達はやや良好で、骨体の断面形は両側ともヘリチカのⅣ型を

呈している。

計測値は、中央最大径が29mm(右)、28mm(左)、中央横径は20mm(右)、19mm(左)で、中央断面示数は68.97(右)、67.86(左)となり、骨体はやや扁平である。骨体周は77mm(右)、75mm(左)、最小周は70mm(右)、69mm(左)で、骨体は細い。

④腓骨

両側とも骨体を取り上げることができた。骨体は細く、稜の発達が悪く、溝も浅い。

4. 推定身長値

右側上腕骨の推定最大長から、Pearson および藤井の公式を用いて推定身長値を算出すると、それぞれ(156.88)cm(Pearson 式)、(156.38)cm(藤井式)となり、低身長となった。また、右側橈骨最大長から計算すると、161.16cm(Pearson 式)、158.59cm(藤井式)となり、上腕骨で算出した値よりもやや高くなった。

5. 性別・年齢

性別は、大坐骨切痕の角度や恥骨下角が小さいことから、男性で、誌版と一致する。そうすれば年齢は56歳となるが、年齢の割には、三主縫合の内外両板はまだ開離していた。

8号墓12号甕人骨(女性・壮年)

前頭骨や後頭骨などが残っていた。外後頭隆起部は全体が突出しているが、隆起そのものは強くない。縫合は三主縫合ともまだ内外両板が開離していたようである。眉間の隆起はやや強いが、顔面のサイズは小さい。寛骨が残っており、大坐骨切痕の角度が大きいため、女性である。年齢は縫合が内外両板ともまだ開離しているので、壮年と推定した。

10号墓1号甕1号人骨(男性・熟年)

脳頭蓋の前半分が残っていた。骨壁は厚いが、脆弱化していた。眉上弓の隆起はかなり強く、男性的である。三主縫合のうち冠状縫合と矢状縫合が観察できたが、両者とも内板は癒合しており、外板は開離していた。性別は眉上弓の隆起がかなり強いことから、男性とし、年齢は、縫合が内板は癒合し、外板はまだ開離しているので、熟年と推定した。

考 察

頭蓋については、保存状態がよかった1体について、周辺地域の資料と比較し、四肢骨については、平均値を算出し、周辺地域の資料と検討してみた。

1. 頭蓋

(1) 脳頭蓋

表4は脳頭蓋の比較表である。山川原近代人の頭蓋長幅示数は85.88となり、この値は過短頭の下限に位置し、かなり短頭性が強い。沖縄県の近世人では宜野座村のクジチが短頭型であるが、浦添市の城間の1例はむしろ長頭型に近い中頭型である。沖縄本島にもっとも近い鹿児島県の与論島の近世・近代人の頭型は中頭型である。

沖縄県での頭型の時代変化をみてみると、北谷町のクマヤ縄文人と具志川島縄文人は短頭型で、真志喜安座間原の縄文人と弥生人も短頭型であり、木綿原弥生人に至っては過短頭型を示すことから、沖縄県では頭型に短頭基調が認められるようである。しかし、大里城から出土したグスク時代人は長頭型を示していた。筆者は風葬骨のなかになんか長頭性の強い例があるのを確かめているので、中世の長頭例が今後増えるものと予測している。しかし、琉球列島南部の石垣市の石垣貝塚から出土した2体の中世人の頭型は短頭型に近い中頭型と短頭型であった。これは日本本土や沖縄本土の中世化(長頭化)がここまで及ばなかったか、または時期的に遅れたのではないかと予想している。中世におきた長頭化は、城間が長頭に近い中頭型を示しているように、近世まで続いたようである。このように縄文・弥生時代の短頭性が中世になるに従って弱くなり、沖縄でも長頭化現象が起きたようにみえるが、これとは別にクジチ近世人にみられるように近世になってもなお強い短頭性を示す一群が存在する。

今回の山川原古墓群のなかで頭蓋長幅示数が算出できた成人骨は近代の男性1体であったが、その他に計測はできないが、観察によって頭型を推測することが可能なものが4体存在した。この4体のうち3体(8-7,10-1-1,10-1-2)は短頭型で、1体(19-1-1)は長頭型と思われる。短頭型はすべて男性で、長頭型は女性である。このように山川原近世人の頭型は全体としては短頭型に傾いていたと思われる。クジチ近世人や山川原近世人が短頭型であることを考えると、日本列島全体にみられる中世化とは別に、頭型については短頭性を弥生時代から維持し続ける一群があるのかもしれない。このように、頭型についてもまだ、沖縄を含む南西諸島での傾向を正確には把握することができないでいる。

また、12歳の小児(17-1)は長頭型であったが、同じ北谷町の上勢頭古墓群から出土した14~15歳の少年も長頭型に傾いていたことも指摘しておきたい。

表4 脳頭蓋計測値(男性, mm) (Table 4. Comparison of male calvarial measurements and indices)

	山川原		城間		クジチ		与論島		鹿児島	
	近代人		近世人		近世人		近世・近代人		近代人	
	沖縄県	沖縄県	沖縄県	沖縄県	沖縄県	鹿児島	鹿児島	鹿児島	鹿児島	
	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M
1.	1	170	1	187	3	174.00	46	184.11	37	185.33
8.	1	146	1	142	3	145.67	46	142.26	38	142.84
17.	1	141	—	—	1	140	34	137.32	33	136.48
8/1	1	85.88	1	75.94	3	83.90	45	77.32	37	77.31
17/1	1	82.94	—	—	1	80.00	34	74.25	33	73.75
17/8	1	96.58	—	—	1	95.24	34	96.47	33	95.99
1+8+17/3	1	152.33	—	—	1	154.00	34	154.87	—	—
23.	1	508	—	—	2	514.00	46	523.50	37	525.91
24.	1	322	—	—	3	322.00	39	315.87	33	317.66
25.	1	364	—	—	1	375	30	380.23	34	382.79

(2) 顔面頭蓋

表5は顔面頭蓋の比較表である。保存状態がもっともよかった近代人は、顔の幅径がやや広く、顔高は高いが、上顔高がかなり低いので、顔示数はやや大きく、上顔示数はかなり小さくなることを所見の項で指摘した。顔示数は、表5で示している与論島の近世・近代人の値と大差ないが、上顔示数はこれよりも小さい。しかも、上顔高や上顔示数がクジチや同じ山川原10-1-1号人骨よりも小さい。

この山川原10-1-1号人骨は、上顔高が与論島近世・近代人の平均値に近く、上顔示数(V)は表5では最大値となっている。要するに山川原近代人はやや低・広顔、山川原近世人はやや高上顔傾向を示しているようである。

また、歯槽側面角は、与論島近代人の平均値と一致し、山川原近代人には歯槽性突顎がみられる。

鼻根部の比較表は表6に示した。鼻根彎曲示数と前頭突起水平傾斜角が小さいので、一見鼻根部が陥凹しているようにみえるが、実際には鼻根彎曲示数の値以上に鼻根部は扁平である。眼窩間示数は表6では最大値となり、鼻根部の幅がかなり広いことを表している。また、鼻根角が表6で最大値を示しているように、鼻はかなり低い。このように、鼻根部の幅が狭く、鼻骨が低くて、鼻根部がかなり扁平なのが本近代人の特徴である。

表5 顔面頭蓋計測値(男性、mm、度) (Table 5. Comparison of male facial measurements and indices)

	山川原古墓群		クジチ		与論島		与論島		
	8-1	10-1-1	近世人	近世・近代人	近世・近代人	近代人	近代人	近代人	
	沖縄県		沖縄県		鹿児島県		鹿児島県		
			(松下・他)	(松下・他)	(松下・他)	(大山)			
			n	M	n	M	n	M	
40.	眼長	101	—	—	29	98.66	20	101.75	
45.	頬骨弓幅	137	—	1	139	41	135.00	37	138.84
46.	中顔幅	103	94	2	105.50	48	100.60	37	102.03
47.	顔高	122	—	—	—	1	125	6	122.67
48.	上顔高	63	(66)	3	70.00	42	66.10	25	70.04
47/45	顔示数(K)	69.05	—	—	—	1	69.00	6	67.30
46/45	上顔示数(K)	45.99	—	1	48.92	38	49.22	24	50.76
47/46	顔示数(V)	118.45	—	—	—	1	123.76	6	118.87
48/46	上顔示数(V)	61.17	(70.21)	2	66.37	41	65.73	25	68.80
40+45+47/3	顔面モジュール	120.00	—	—	—	1	118	—	—
50.	前眼窩間幅	21	—	3	17.00	48	17.29	37	18.00
44.	両眼窩幅	101	—	1	96	48	98.35	37	98.62
50/44	眼窩間示数	20.79	—	1	14.58	48	17.57	37	18.24
51.	眼窩幅(左)	41	—	2	44.50	49	42.98	37	42.57
52.	眼窩高(左)	33	—	3	35.33	49	33.41	37	33.95
52/51	眼窩示数(左)	80.49	—	2	79.91	49	77.77	37	79.79
54.	鼻幅	27	25	2	27.00	48	26.21	37	27.32
55.	鼻高	52	51	3	53.33	49	51.71	37	51.43
54/55	鼻示数	51.92	49.02	2	50.93	48	50.92	37	53.24
72.	全側面角	81	—	3	81.33	14	82.79	28	83.46
73.	鼻側面角	85	—	3	84.67	17	86.29	35	88.00
74.	歯槽側面角	66	—	3	68.67	14	73.93	27	66.00

表6 鼻根部計測値(男性、mm、度) (Table 6. Comparison of male nasal root measurements and indices)

	山川原古墓群		クジチ		与論島		与論島	
	近代人		近世人		近世・近代人		近代人	
	沖縄県		沖縄県		鹿児島県		鹿児島県	
			(松下・他)		(松下・他)		(大山)	
	n	M	n	M	n	M	n	M
50. 前眼窩間幅	1	21	3	17.00	48	17.29	37	18.00
50A. 鼻根横弧長	1	24	3	18.67	19	19.32		—
50/50A 鼻根彎曲示数	1	87.50	3	90.74	19	89.39		—
57. 鼻骨最小幅	1	13	3	6.00		—	36	8.11
44. 両眼窩幅	1	101	1	98	48	98.35	37	98.62
50/44 眼窩間示数	1	20.79	1	14.58	48	17.57	37	18.24
a. 前頭突起上幅(右)	1	12	3	12.33		—		—
(左)	1	11	4	10.50		—		—
b. 前頭突起水平傾斜角	1	91	2	83.50		—		—
c. G-N 投影距離	1	1	2	1.50		—		—
d. 鼻根角	1	155	1	143	14	135.00		—
e. G-R 距離	1	32	1	33	14	29.71		—
f. 垂線高	1	3	1	4	14	5.71		—
f/e 鼻根陥凹示数	1	9.38	1	12.12	14	19.47		—
77. 鼻根骨角	1	118		—		—		—
Fa fmo間距離	1	100		—		—		—
Fh 垂線高	1	11		—		—		—
Fh/Fa 顔面扁平示数	1	11.00		—		—		—

2. 四肢骨

(1) 上腕骨

表7は男性上腕骨の比較表である。最大長は与論島近代人よりも大きく、クジチ近世人よりは小さく、城間近世人にもっとも近い。中央周も最小周も表7では最小値となり、骨体が細いことがわかる。骨体断面示数は表7では最大値となり、骨体の扁平性は弱い。

表8は、女性上腕骨の比較表である。中央周は表8では最小値となり、最小周はクジチ近世人よりは大きく、他の資料と大差ない。骨体断面示数は与論島近代人よりは小さいが、クジチ近世人よりも大きく、城間近世人と大差ない。

表7 上腕骨計測値(男性、右、mm) (Table 7. Comparison of measurements and indices of male right humeri)

	山川原古墓群		城間		クジチ		与論島	
	近世・近代人		近世人		近世人		近代人	
	沖縄県		沖縄県		沖縄県		鹿児島県	
			(松下・他)		(松下・他)		(広沢)	
	n	M	n	M	n	M	n	M
1. 上腕骨最大長	1	(298) (E)	3	298.33 (E)	2	307.50	15	295.03
2. 上腕骨全長		—	3	294.67 (E)	2	306.00	15	290.70
5. 中央最大径	3	20.00 (E)	15	23.53 (E)	6	22.83	15	23.47
6. 中央最小径	3	15.33 (E)	16	17.25 (E)	6	17.17	15	17.60
7. 骨体最小周	3	57.33 (E)	15	61.80 (E)	7	61.86	15	63.53
7(a). 中央周	3	59.33 (E)	16	66.44 (E)	6	66.83	15	67.33
6/5 骨体断面示数	3	76.80 (E)	14	73.93 (E)	6	75.50	15	75.07
7/1 長厚示数	1	(20.47) (E)	3	20.86 (E)	2	20.01	15	21.52

(E): 推定値

表8 上腕骨計測値 (女性、右、mm) (Table 8. Comparison of measurements and indices of female right humeri)

	山川原古墳群		城間		クジチ		与論島	
	近世・近代人		近世人		近世人		近代人	
	沖縄県		沖縄県		沖縄県		鹿児島県	
	(松下)		(松下・他)		(松下・他)		(広沢)	
	n	M	n	M	n	M	n	M
5. 中央最大径	3	18.67	13	20.00	4	20.25	17	20.06
6. 中央最小径	3	13.67	13	14.69	4	14.00	17	15.18
7. 骨体最小周	2	54.50	20	55.35	3	52.00	17	54.41
7(a). 中央周	3	54.33	13	57.69	4	57.50	17	57.71
6/5 骨体断面示数	3	73.30	13	73.58	4	69.20	17	75.85

(2) 大腿骨

表9は男性大腿骨の比較表である。骨体中央周で骨体の大きさをみてみると、本例は表9では最小値となり、骨体はかなり細い。骨体中央断面示数は100.00を下回り、この値も表9では最小値となり、骨体両側面の後方への発達が悪く、骨体は丸い。一方、上骨体断面示数は城間近世人について小さな値を示し、骨体上部は扁平である。

表10は女性の大腿骨の比較表である。骨体中央周は表10では最大値となり、男性の場合とは異なり、女性の大腿骨体は大きい。骨体中央断面示数は表10では最小値となり、男性と同様に骨体の形態は丸い。一方、上骨体断面示数は表10では最小値となり、骨体上部は男性同様に扁平である。

表9 大腿骨計測値 (男性、右、mm) (Table 9. Comparison of measurements and indices of male right femora)

	山川原古墳群		クジチ		城間		与論島	
	近世・近代人		近世人		近世人		近代人	
	沖縄県		沖縄県		沖縄県		鹿児島県	
	(松下)		(松下・他)		(松下・他)		(平田)	
	n	M	n	M	n	M	n	M
6. 骨体中央矢状径	2	24.50	6	27.67(註)	13	26.00(註)	23	26.87
7. 骨体中央横径	2	26.00	6	27.00(註)	13	26.54(註)	23	25.83
8. 骨体中央周	2	80.00	6	86.17(註)	13	82.92(註)	23	83.96
9. 骨体上横径	2	30.50	5	30.80(註)	11	30.82(註)	23	29.61
10. 骨体上矢状径	2	23.00	5	24.40(註)	11	22.91(註)	23	24.35
6/7 骨体中央断面示数	2	94.65	6	102.52(註)	13	98.31(註)	23	104.23
10/9 上骨体断面示数	2	75.92	5	79.27(註)	11	74.41(註)	23	82.71

表10 大腿骨計測値 (女性、右、mm) (Table 10. Comparison of measurements and indices of female right femora)

	山川原古墳群		城間		クジチ		与論島	
	近世・近代人		近世人		近世人		近代人	
	沖縄県		沖縄県		沖縄県		鹿児島県	
	(松下)		(松下・他)		(松下・他)		(平田)	
	n	M	n	M	n	M	n	M
6. 骨体中央矢状径	2	24.00	16	23.25	4	24.50	12	24.00
7. 骨体中央横径	2	25.50	17	22.94	4	24.75	12	23.50
8. 骨体中央周	2	79.50	15	73.07	4	77.75	12	76.03
9. 骨体上横径	2	29.00(註)	14	26.43	3	27.67	12	26.58
10. 骨体上矢状径	2	21.00(註)	14	20.00	3	22.67	12	22.33
6/7 骨体中央断面示数	2	95.03	16	101.61	4	99.00	12	103.24
10/9 上骨体断面示数	2	72.84(註)	14	75.70	3	81.92	12	82.57

(3) 脛骨

表11は男性脛骨の比較表である。最大長は与論島近代人よりは長く、ほぼ城間近世人に近似する。骨体周と最小周はともに表11では最小値となり、脛骨体も大腿骨と同じように細い。中央断面示数はクジチ近世人、与論島近代人よりは小さく、城間近世人と大差なく、骨体には扁平性はみられない。

表12は女性脛骨の比較表である。骨体周は表12では最大値となり、骨体は太い。中央断面示数は城間近世人よりは大きい、与論島近代人よりはわずかに小さく、クジチ近世人と大差なく、やはり男性と同様に骨体には扁平性はみられない。

表11 脛骨計測値 (男性、右、mm) (Table 11. Comparison of measurements and indices of male right tibiae)

	山根直古遺跡		城間		クジチ		与論島	
	近世・近代人		近世人		近世人		近代人	
	沖縄県		沖縄県 (松下・他)		沖縄県 (松下・他)		鹿児島県 (平田)	
	n	M	n	M	n	M	n	M
1. 脛骨全長	—	—	2	332.00	—	—	20	327.60
1a. 脛骨最大長	1	341(±)	2	341.50	—	—	23	333.90
8. 中央最大径	3	27.00	5	28.80	3	28.67(±)	24	28.63
8a. 栄養孔位最大径	2	29.00	4	32.57	2	34.50(±)	24	33.83
9. 中央横径	3	19.00	4	20.29	3	21.33(±)	24	21.09
9a. 栄養孔位横径	2	20.50	3	21.77	2	23.00(±)	24	24.39
10. 骨体周	3	72.33	4	78.64	3	79.67(±)	24	78.83
10a. 栄養孔位周	2	78.50	3	87.23	2	91.50(±)	24	90.12
10b. 最小周	3	66.67	0	72.90	2	74.00(±)	24	72.05
9/8 中央断面示数	3	70.55	4	70.17	3	74.87(±)	24	73.95
9a/8a 栄養孔位断面示数	2	70.91	3	66.90	2	66.68(±)	24	72.03
10b/1 長厚示数	—	—	2	20.79	—	—	20	21.65

表12 脛骨計測値 (女性、右、mm) (Table 12. Comparison of measurements and indices of female right tibiae)

	山根直古遺跡		城間		クジチ		与論島	
	近世・近代人		近世人		近世人		近代人	
	沖縄県		沖縄県 (松下・他)		沖縄県 (松下・他)		鹿児島県 (平田)	
	n	M	n	M	n	M	n	M
8. 中央最大径	1	29(±)	16	26.13(±)	7	25.29	13	25.23
8a. 栄養孔位最大径	1	33(±)	10	29.20(±)	4	29.25	12	29.67
9. 中央横径	1	22(±)	14	18.86(±)	7	19.14	13	19.07
9a. 栄養孔位横径	1	23(±)	9	20.44(±)	4	20.75	12	21.83
10. 骨体周	1	82(±)	14	71.71(±)	7	70.29	13	70.38
10a. 栄養孔位周	1	89(±)	9	80.22(±)	4	79.75	13	81.69
10b. 最小周	—	—	10	65.40(±)	3	65.33	13	66.67
9/8 中央断面示数	1	75.86(±)	14	71.13(±)	7	75.98	13	76.19
9a/8a 栄養孔位断面示数	1	69.70(±)	9	69.29(±)	4	71.15	12	73.74

3. 推定身長値

表13は男性の推定身長値の比較表である。上腕骨からの推定値はクジチ近世人よりは低く、城間近世人にほぼ一致する。また、橈骨からの推定値もクジチ近世人よりは低く、城間近世人に近い。本例は大腿骨からの推定身長値は得られなかったが、表13の比較表から城間近世人に近い身長値だったと考えてもよさそうで、身長値は近代人

としてもそれほど低い身長ではない。

表13 推定身長値 (男性、右、cm) (Table 13. Comparison of estimated male statures)

	山形県 近代人 沖縄県	城 間		クジチ		世 論 島		
		近代人 沖縄県	n	M	近代人 沖縄県	n	M	近代・近代人 鹿児島県 (松下・他)
Pearsonの式	8-1	(156.88)	3	156.98(±)	2	159.63	—	
上腕骨	161.16	3	162.25	1	163.45(±)	—	—	
横骨	—	1	160.08	—	—	8	158.25	
大腿骨	—	2	159.81	—	—	—	—	
脛骨	—	3	157.34(±)	2	159.04	—	—	
藤井の式	(156.38)	3	157.34(±)	2	159.04	—	—	
上腕骨	158.59	3	159.66	1	161.61(±)	—	—	
横骨	—	1	158.39	—	—	8	155.99	
大腿骨	—	2	158.35	—	—	—	—	
脛骨	158.02(±)	2	158.35	—	—	—	—	

要 約

沖縄県北谷町字大村山川原にある山川原古墓群の発掘調査がおこなわれ、合計23基の古墓が確認された。このうちの6基には人骨が残っていた。人骨が残存していた古墓について人類学的調査をおこない、人骨の体数や性別および人骨形質について調査をおこなった。その結果は次のように要約することができる。

1. 今回の発掘調査で出土した人骨は合計52体である。もっとも多く人骨が残っていたのは、8号墓で人骨の数は24体であった。52体の人骨のうち成人骨は38体、幼小児骨は14体で、26.9%を占める。また、幼児骨のうち4体は生後1年に満たない乳児骨であった。成人骨のうち性別が判別できたのは36体で、男性骨は24体、女性骨は12体であった。また、成人骨のうちで年齢を推定することができたのは19体で、熟年はわずかに3体、残りの16体(84.2%)は壮年で、若年での死亡率が高かった。
2. 頭蓋長幅示数を算出できたのはわずか1体の男性の近代人骨のみで、頭蓋長幅示数は85.88となり、頭型は過短頭型であった。また、近代人骨は観察によって頭型を知ることができた成人骨が4体あり、3体が短頭型に1体が長頭型に傾いており、全体としては近代人も短頭性が強い。また、頭蓋壁が著しく厚いものやサイズが大きいものもみられた。
3. 顔面頭蓋の計測が可能だったのも近代人骨で、頬骨弓幅は137mm、中顔幅は103mm、顔高は122mm、上顔高は63mmで、顔示数は89.05(K)、118.45(V)、上顔示数は45.99(K)、61.17(V)となり、本例は低・広顔傾向である。眼窩示数は78.57(右)、80.49(左)となり、両側とも中眼窩に属しており、鼻示数は51.92となり、低鼻に属している。鼻根部は幅広く、扁平で、鼻骨の隆起も弱く、鼻は低かった。また、歯槽性突顎がみられた。
4. 近代・近代人上腕骨は男女とも骨体が細く、扁平性は弱い。大腿骨は、男性の骨体は細いが、女性は太い。男女とも骨体断面の形状は丸く、骨体上部は扁平である。また、脛骨も男性骨体は細いが、女性は太く、男女ともに脛骨体には扁平性は

認められない。

5. 四肢骨については、計測できなくても観察所見が得られたものも含めて検討すると、四肢骨が太い一群が存在したこともふれておきたい。この太い一群はいずれも計測できなかったため、平均値にはその結果が反映されていない。四肢骨が太い一群は18号墓に集中してみられ、逆に細い一群は8号墓に集中している。また、頭蓋壁が厚いものが8号墓に集中してみられ、頭蓋のサイズが大きいものが10号墓にみられた。10号墓1号甕から出土した頭蓋はよく似ているなど、ある特徴が一つの墓に集中してみられることは、亀甲墓が家族墓、同族墓であることを強く物語っている。
6. 近代人男性の推定身長は上腕骨からは(156.88)cm(Pearson式)、橈骨からは161.16cm(Pearson式)となり、上腕骨からは低身長値、橈骨からは160cm以上の高身長値が得られたが、大腿骨からの推定値はおそらく160cmをやや下回る程度で、著しい低身長とは考えられない。
7. 今回の山川原古墓群から検出された人骨は52体であったが、高温・多湿のために人骨の保存状態はけっして良好なものではなかった。しかし、性別や年齢を推定することができたものは多く、6歳未満の幼児や1歳未満の乳児も埋葬されていたことが明らかになった。また、近代人については頭型や顔面の形態も明らかにすることができ、四肢骨の特徴も明確になった。同時に近世人についても多くの所見が得られ、頭型は短頭型に傾いており、四肢骨は細い一群と太い一群とが存在し、また、頭蓋壁が厚いものや頭蓋のサイズが著しく大きなものも存在することがわかった。

沖縄県での古人骨の調査も進み、人類学的研究もおこなわれてきたが、それでもまだ、沖縄県での形質の変化を詳細に説明するところまでは研究が進展していない。資料が増加するに従ってこれまで不明だった部分が次第に明らかになり、それに伴って、沖縄での形質の多様性が見え始めてきている。今回の資料はこうした沖縄での形質変化を解明するための貴重な資料となるものである。

謝辞

拙筆するにあたり、本研究と発表の機会を与えていただいた沖縄県北谷町教育委員会の諸先生方に感謝致します。

《参考文献》

1. 平田和生、1958：鹿児島県大島郡与論島民の下肢骨の研究。人類学研究、5：263-315。
2. 広沢正彦、1959：奄美群島与論島住民上肢骨の人類学的研究。人類学研究、6：241-278。
3. MARTIN-SALLER, 1957: Lehrbuch der Anthropologie. Bd. 1. Gustav Fischer Verlag, Stuttgart: 429-597.
4. 松下孝幸・他、1983：山口県豊浦郡豊北町土井ヶ浜遺跡出土の人骨。土井ヶ浜遺跡第7次調査報告

- 概報(豊北町埋蔵文化財調査報告2)：19-30.
5. 松下孝幸・他1988a：沖縄県宜野座村クジチ墓出土の近世人骨。宜野座村乃文化財第6集(クジチ墓・クジチ原遺跡発掘調査報告書)：107-140.
 6. 松下孝幸・他、1988b：与論島における形質人類学的研究。奄美諸島における日本基層文化とその変容に関する総合的研究〔昭和60年-62年度文部省科学究費補助金(総合研究A)研究成果報告書〕：6-26.
 7. 松下孝幸・他、1989a：沖縄県宜野湾市真志喜安座間原第1遺跡出土の縄文・弥生相当期の人骨(予報)(会)。人類学雑誌、97：265.
 8. 松下孝幸・他、1989b：沖縄県北谷町クマヤ洞穴出土の古人骨(縄文時代晩期相当期人骨)(会)。解剖学雑誌、64：362.
 9. 松下孝幸・他、1990a：沖縄県読谷村木綿原遺跡出土の弥生時代人骨(会)。解剖学雑誌、65：244.
 10. 松下孝幸・他、1990b：沖縄県浦添市城間古墓群出土の近世人骨。城間古墓群-牧港補給地区開発工事に伴う緊急発掘調査-：75-112.
 11. 松下孝幸・他、1993a：具志川島遺跡群出土の古人骨。具志川島遺跡群(伊是名村文化財調査報告書第9集)：215-244.
 12. 松下孝幸、1993b：沖縄県石垣市石垣貝塚出土の人骨。石垣貝塚(石垣市文化財調査報告書第17)：31-50.
 13. 松下孝幸、1993c：沖縄県石垣市平川貝塚出土の人骨。平川貝塚(石垣市文化財調査報告書第18号)：87-91.
 14. 松下孝幸、1996：沖縄県北谷町上勢頭古墓群出土の近世人骨。上勢頭古墓群(北谷町文化財調査報告書第16集)：105-115.
 15. 松下孝幸、2001a：沖縄県北谷町後兼久原遺跡出土のグスク時代人骨。(印刷中)
 16. 松下孝幸、2001b：沖縄県大里村大里城出土のグスク時代人骨。(印刷中)
 17. 大山秀高、1956：鹿児島県大島郡与論島島民頭骨の研究。人類学研究、3：396-434.
 18. 佐野一、1978：木綿原遺跡出土の人骨について。木綿原遺跡(読谷村文化財調査報告書第5集)：112-114.
 19. 鈴木尚、1963：日本人の骨。岩波書店。

表14 脳頭蓋(mm)(Calvaria)(山川原古基群)

		8-1	10-1-1	平均値		17-1
		男性	男性	n	M	12歳
1.	頭蓋最大長	170	-	1	170	178
8.	頭蓋最大幅	146	-	1	146	131
17.	パシオン・プレグマ溝	141	-	1	141	-
8/1	頭蓋長幅示数	85.88	-	1	85.88	73.60
17/1	頭蓋長高示数	82.94	-	1	82.94	-
17/8	頭蓋幅高示数	96.58	-	1	96.58	-
1+8+17/3	頭蓋モズルス	152.33	-	1	152.33	-
5.	頭蓋底長	100	-	1	100	-
9.	最小前頭幅	94	-	1	94	93
10.	最大前頭幅	120	-	1	120	-
11.	両耳幅	127	-	1	127	114
12.	最大後頭幅	115	-	1	115	101
13.	乳突幅	102	-	1	102	-
7.	大後頭孔長	30	-	1	30	-
16.	大後頭孔幅	29	-	1	29	-
16/7	大後頭示数	96.67	-	1	96.67	-
23.	頭蓋水平層	508	-	1	508	495
24.	横竇長	322	-	1	322	-
25.	正中矢状弧長	364	-	1	364	-
26.	正中矢状前頭弧長	131	135	2	133.00	-
27.	正中矢状頭頂弧長	-	-	-	-	-
28.	正中矢状後頭弧長	-	-	-	-	-
29.	正中矢状前頭弧長	117	117	2	117.00	-
30.	正中矢状頭頂弧長	-	-	-	-	-
31.	正中矢状後頭弧長	-	-	-	-	-
29/26	矢状前頭示数	89.31	86.67	2	87.99	-
30/27	矢状頭頂示数	-	-	-	-	-
31/28	矢状後頭示数	-	-	-	-	-

表15 顔面頭蓋(mm)(Facial skeleton)(山川原古基群)

		8-1	10-1-1	平均値		8-12-1	17-1
		男性	男性	n	M	女性	12歳
40.	顔長	101	-	1	101	-	-
41.	側顔長	73	-	1	73	-	-
42.	下顔長	106	-	1	106	-	-
43.	上顔幅	108	-	1	108	103	96
45.	頬骨弓幅	137	-	1	137	-	-
46.	中顔幅	103	94	2	98.50	-	-
47.	顔高	122	-	1	122	-	-
48.	上顔高	63	(66)	1	63	-	-
47/45	顔示数(K)	89.05	-	1	89.05	-	-
48/45	上顔示数(K)	45.99	-	1	45.99	-	-
47/46	顔示数(V)	118.45	-	1	118.45	-	-
48/46	上顔示数(V)	61.17	(70.21)	1	61.17	-	-
40+45+47/3	顔面モズルス	120.00	-	1	120.00	-	-
50.	前眼窩間幅	21	-	1	21	-	-
44.	両眼窩幅	101	-	1	101	-	-
50/44	眼窩間示数	20.79	-	1	20.79	-	-
51.	眼窩幅(右)	42	42	2	42.00	43	-
	(左)	41	-	1	41	-	-
52.	眼窩高(右)	33	33	2	33.00	33	-
	(左)	33	-	1	33	-	-
52/51	眼窩示数(右)	78.57	78.57	2	78.57	76.74	-
	(左)	80.49	-	1	80.49	-	-
54.	鼻幅	27	25	2	26.00	-	22
55.	鼻高	52	51	2	51.50	-	-
54/55	鼻示数	51.92	49.02	2	50.47	-	-
55.(1)	梨状口高	30	-	1	30	-	-
56.	鼻骨長	22	-	1	22	-	-
57.	鼻骨最小幅	13	7	2	10.00	-	-
57(1).	鼻骨最大幅	18	-	1	18	-	-
60.	上顎歯槽長	54	-	1	54	-	-
61.	上顎歯槽幅	69	-	1	69	-	59
62.	口蓋長	45	-	1	45	-	-
63.	口蓋幅	-	-	-	-	-	35
64.	口蓋高	-	-	-	-	-	7
61/60	上顎歯槽示数	127.78	-	1	127.78	-	-
63/62	口蓋示数	-	-	-	-	-	-
64/63	口蓋高示数	-	-	-	-	-	20.00
72.	全側面角	81	-	1	81	-	-
73.	鼻側面角	85	-	1	85	-	-
74.	齒槽側面角	66	-	1	66	-	-

表16 鼻根部(mm)(Nasal root)(山川原古墓群)

		8-1
		男性
50.	前眼窩間幅	21
50A.	鼻根横長	24
50/50A	鼻根彎曲示數	87.50
57.	鼻骨最小幅	13
44.	两眼窩間幅	101
50/44	眼窩間示數	20.79
a.	前頭突起上幅(右)	12
	(左)	11
b.	前頭突起水平傾斜角	91
c.	G-N投影距離	1
d.	鼻根角	155
e.	G-R距離	32
f.	垂線高	3
f/e	鼻根陷凹示數	9.38
77.	鼻頰骨角	118
Fa	fmo間距離	100
Fh	垂線高	11
Fh/Fa	顏面扁平示數	11.00

表17 下顎骨(mm)(Mandibula)(山川原古墓群)

	8-1			平均値		Min.	-	Max.	19-2-1		
	8-1	8-9-1	8-11-1	n	M				女性	17-1	
	男性	男性	男性							12歲	
65.	下顎關節突起幅	127	-	-	1	127					
65(1).	下顎筋突起幅	95	-	-	1	95					
66.	下顎角幅	-	-	-	-	-					
67.	前下顎幅	49	46	43	3	46.00	43	-	49	41	39
68.	下顎長	-	-	-	-	-					
68(1).	下顎長	112	-	-	1	112					
69.	オトガイ高	-	31	-	1	31					30
69(1).	下顎体高(右)	-	30	-	1	30					25
	(左)	-	31	28	2	29.50	28	-	31		26
69(2).	下顎体高(右)	-	26	-	1	26					20
	(左)	-	24	-	1	24					19
70.	枝高(右)	-	-	-	-	-					
	(左)	-	-	-	-	-					
70(1).	前枝高(右)	50	-	-	1	50					
	(左)	54	-	-	1	54					
70(2).	最小枝高(右)	49	-	-	1	49				41	
	(左)	48	-	-	1	48					
70(3).	下顎切歯高(右)	11	-	-	1	11					
	(左)	12	-	-	1	12					
71(1).	下顎切歯幅(右)	40	-	-	1	40					
	(左)	41	-	-	1	41					
71.	枝幅(右)	35	-	32	2	33.50	32	-	35	33	
	(左)	34	-	33	2	33.50	33	-	34		
71a.	最小枝幅(右)	35	-	32	2	33.50	32	-	35		
	(左)	34	-	33	2	33.50	33	-	34		
79.	下顎枝角(右)	136	-	-	1	136					
	(左)	142	-	-	1	142					
66/65	下顎幅示數	-	-	-	-	-					
68/65	幅長示數	-	-	-	-	-					
68(1)/65	幅長示數	88.19	-	-	1	88.19					
69(2)/69	下顎高示數(右)	-	83.87	-	1	83.87					66.67
	(左)	-	77.42	-	1	77.42					63.33
71/70	下顎枝示數(右)	-	-	-	-	-					
	(左)	-	-	-	-	-					
71a/70(2)	下顎枝示數(右)	71.43	-	-	1	71.43					
	(左)	70.83	-	-	1	70.83					
70(3)/71(1)	下顎切歯示數(右)	27.50	-	-	1	27.50					
	(左)	29.27	-	-	1	29.27					

表18 肩甲骨(mm)(Scapula)(山川原古墓群)

	8-12-1	
	女性	
12. 關節窩長(右)	-	-
(左)	32	-
13. 關節窩幅(右)	-	-
(左)	24	-
14. 關節窩深(右)	-	-
(左)	4	-
13/12 關節窩長幅示数(右)	-	-
(左)	75.00	-
14/12 關節窩彎曲示数(右)	-	-
(左)	12.50	-

表19 鎖骨(mm)(Clavicula)(山川原古墓群)

	8-1		8-9-1		8-12-1	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
1. 鎖骨最大長(右)	-	-	-	-	-	-
(左)	-	-	-	-	-	-
2a. 骨体彎曲高(右)	-	-	-	-	-	-
(左)	-	-	-	-	-	-
2(1). 肩峰端彎曲高(右)	-	-	-	-	-	-
(左)	-	-	-	-	-	-
4. 中央垂直径(右)	9	-	-	-	10	-
(左)	-	9	-	-	9	-
5. 中央矢状径(右)	10	-	-	-	12	-
(左)	-	11	-	-	11	-
6. 中央周(右)	34	-	-	-	36	-
(左)	-	34	-	-	32	-
6/1 長厚示数(右)	-	-	-	-	-	-
(左)	-	-	-	-	-	-
2a/1 彎曲示数(右)	-	-	-	-	-	-
(左)	-	-	-	-	-	-
4/5 鎖骨断面示数(右)	90.00	-	-	-	83.33	-
(左)	-	81.82	-	-	81.82	-
2(1)/1 肩峰端彎曲示数(右)	-	-	-	-	-	-
(左)	-	-	-	-	-	-

表20 上腕骨(mm)(Humerus)(山川原古墓群)

	8-1		8-8-1		8-9-1		8-11-1		平均値			
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	n	M	Min.	Max.
1. 上腕骨最大長(右)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(左)	(298)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	(1 298)
2. 上腕骨全長(右)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(左)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3. 上端幅(右)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(左)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3(1). 横上径(右)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(左)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4. 下端幅(右)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(左)	58	-	-	-	-	-	-	-	1	58	-	-
5. 中央最大径(右)	21	-	-	-	20	-	-	-	2	20.50	20	- 21
(左)	21	19	20	-	-	-	-	-	3	20.00	19	- 20
6. 中央最小径(右)	16	-	-	-	16	-	-	-	2	16.00	16	- 16
(左)	16	15	14	-	-	-	-	-	3	15.33	14	- 16
7. 骨体最小周(右)	61	-	-	-	59	-	-	-	2	60.00	59	- 60
(左)	61	57	54	-	-	-	-	-	3	57.33	54	- 61
7(a). 中央周(右)	64	-	-	-	59	-	-	-	2	62.50	59	- 64
(左)	63	59	56	-	-	-	-	-	3	59.33	56	- 63
8. 頭周(右)	-	-	-	-	61	-	-	-	1	61	-	-
(左)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
9. 頭最大横径(右)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(左)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
10. 頭最大矢状径(右)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(左)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
11. 滑車幅(右)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(左)	20	-	-	-	-	-	-	-	1	20	-	-
12. 小頭幅(右)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(左)	16	-	-	-	-	-	-	-	1	16	-	-
12(a). 滑車幅および小頭幅(右)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(左)	41	-	-	-	-	-	-	-	1	41	-	-
13. 滑車深(右)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(左)	26	-	-	-	-	-	-	-	1	26	-	-
14. 肘頭窩幅(右)	27	-	-	-	-	-	-	-	1	27	-	-
(左)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
15. 肘頭窩深(右)	11	-	-	-	-	-	-	-	1	11	-	-
(左)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/5 骨体断面示数(右)	76.19	-	-	-	80.00	-	-	-	1	80.00	-	-
(左)	76.19	84.21	70.00	-	-	-	-	-	3	76.80	70.00	- 84.21
7/1 長厚示数(右)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(左)	(20.47)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	(1 20.47)

表21 上腕骨(mm)(Humerus)(山川原古墓群)

		8-4-1 8-12-1 10-2-1 19-2-1				平均値		Min.	-	Max.
		女性	女性	女性	女性	n	M			
1.	上腕骨最大長(右)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	(左)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.	上腕骨全長(右)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	(左)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.	上端幅(右)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	(左)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3(1).	横上径(右)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	(左)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4.	下端幅(右)	-	54	-	-	1	54	-	-	-
	(左)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5.	中央最大径(右)	17	20	-	19	3	18.67	17	-	20
	(左)	-	-	18	-	1	18	-	-	-
6.	中央最小径(右)	13	15	-	13	3	13.67	13	-	15
	(左)	-	-	14	-	1	14	-	-	-
7.	骨体最小周(右)	-	58	-	51	2	54.50	51	-	58
	(左)	-	-	50	49	2	49.50	49	-	50
7(a).	中央周(右)	52	58	-	53	3	54.33	52	-	58
	(左)	-	-	55	-	1	55	56	-	63
8.	頭周(右)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	(左)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
9.	頭最大横径(右)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	(左)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
10.	頭最大矢状径(右)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	(左)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
11.	滑車幅(右)	-	18	-	-	1	18	-	-	-
	(左)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
12.	小頭幅(右)	-	15	-	-	1	15	-	-	-
	(左)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
12(a).	滑車幅および小頭幅(右)	-	38	-	-	1	38	-	-	-
	(左)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
13.	滑車深(右)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	(左)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
14.	肘頭窩幅(右)	-	22	-	-	1	22	-	-	-
	(左)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
15.	肘頭窩深(右)	-	13	-	-	1	13	-	-	-
	(左)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/5	骨体断面指数(右)	76.47	75.00	-	68.42	3	73.30	68.42	-	76.47
	(左)	-	-	77.78	-	1	77.78	-	-	-
7/1	長厚指数(右)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	(左)	-	-	-	-	-	-	-	-	-

表22 桡骨(mm)(Radius)(山川原古墓群)

	8-1 男性	8-9-1 男性	8-11-1 男性	平均值		8-12-1 女性	19-2-1 女性
				n	M		
1. 最大長(右)	230	-	-	1	230	-	-
(左)	-	-	-	-	-	-	-
1b. 平行長(右)	229	-	-	1	229	-	-
(左)	-	-	-	-	-	-	-
2. 機能長(右)	215	-	-	1	215	-	-
(左)	-	-	-	-	-	-	-
3. 最小周(右)	42	-	-	1	42	-	-
(左)	-	37	-	1	37	-	34
4. 骨体横径(右)	16	-	14	2	15.00	-	-
(左)	-	15	-	1	15	-	14
4a. 骨体中央横径(右)	16	-	13	2	14.50	15	-
(左)	-	13	-	1	13	-	14
4(1). 小頭横径(右)	22	-	-	1	22	-	-
(左)	-	-	-	-	-	-	-
4(2). 頸横径(右)	13	-	-	1	13	-	-
(左)	-	-	14	1	14	-	-
5. 骨体矢状径(右)	13	-	11	2	12.00	-	-
(左)	-	11	-	1	11	-	9
5a. 骨体中央矢状径(右)	13	-	11	2	12.00	11	-
(左)	-	11	-	1	11	-	9
5(1). 小頭矢状径(右)	23	-	-	1	23	-	-
(左)	-	-	-	-	-	-	-
5(2). 頸矢状径(右)	14	-	-	1	14	-	-
(左)	-	-	14	1	14	-	-
5(3). 小頭周(右)	73	-	-	1	73	-	-
(左)	-	-	-	-	-	-	-
5(4). 頸周(右)	42	-	45	2	43.50	-	-
(左)	-	-	-	-	-	-	-
5(5). 骨体中央周(右)	44	-	39	2	41.50	42	-
(左)	-	39	-	1	39	-	36
5(6). 骨下端幅(右)	31	-	-	1	31	-	-
(左)	-	-	-	-	-	-	-
3/2 長厚示数(右)	19.53	-	-	1	19.53	-	-
(左)	-	-	-	-	-	-	-
5/4 骨体断面示数(右)	81.25	-	78.57	2	79.91	-	-
(左)	-	73.33	-	1	73.33	-	64.29
5a/4a 中央断面示数(右)	81.25	-	84.62	2	82.94	43.33	-
(左)	-	84.62	-	1	84.62	-	64.29

表24 大腿骨(mm)(Femur)(山川原古墓群)

	8-1	8-9	10-1	平均値		8-12-1	10-2-1	19-1-1	平均値	
	男性	男性	男性	n	M	女性	女性	女性	n	M
1. 最大長(右)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(左)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2. 自然位全長(右)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(左)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3. 最大転子長(右)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(左)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4. 自然位転子長(右)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(左)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6. 骨体中央矢状径(右)	25	24	-	2	24.50	24	-	24	2	24.00
(左)	27	24	-	2	25.50	26	-	-	1	26
7. 骨体中央横径(右)	28	24	-	2	26.00	28	-	23	2	25.50
(左)	28	25	-	2	26.50	29	-	-	1	29
8. 骨体中央周(右)	83	77	-	2	80.00	84	-	75	2	79.50
(左)	84	77	-	2	80.50	87	-	-	1	87
9. 骨体上横径(右)	33	28	-	2	30.50	31	-	-	1	31
(左)	32	27	-	2	29.50	32	26	-	2	29.00
10. 骨体上矢状径(右)	23	23	-	2	23.00	21	-	-	1	21
(左)	23	21	-	2	22.00	22	20	-	2	21.00
15. 頸垂直径(右)	33	-	30	2	31.50	-	-	-	-	-
(左)	33	-	-	1	33	-	-	-	-	-
16. 頸矢状径(右)	25	-	26	2	25.50	-	-	-	-	-
(左)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
17. 頸周(右)	99	-	92	2	95.50	-	-	-	-	-
(左)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
18. 頭垂直径(右)	44	-	43	2	43.50	-	-	-	-	-
(左)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
19. 頭横径(右)	44	-	43	2	43.50	-	-	-	-	-
(左)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20. 頭周(右)	143	-	135	2	139.00	-	-	-	-	-
(左)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
21. 上顆幅(右)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(左)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
8/2 長厚示数(右)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(左)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/7 骨体中央断面示数(右)	89.29	100.00	-	2	94.65	85.71	-	104.35	2	95.03
(左)	96.43	96.00	-	2	96.22	89.66	-	-	1	89.66
10/9 上骨体断面示数(右)	69.70	82.14	-	2	75.92	67.74	-	-	1	67.74
(左)	71.88	77.78	-	2	74.83	68.75	76.92	-	2	72.84

表25 脛骨(mm) (Tibia) (山川原古墓群)

		8-1	8-9-1	19-4-1	平均値		Min.	- Max.	8-12-1
		男性	男性	男性	n	M			女性
1.	脛骨全長(右)	-	-	-	-	-	-	-	-
	(左)	-	-	-	-	-	-	-	-
1a.	脛骨最大長(右)	-	-	-	-	-	-	-	-
	(左)	341	-	-	1	341	-	-	-
1b.	脛骨長(右)	-	-	-	-	-	-	-	-
	(左)	-	-	-	-	-	-	-	-
2.	顆距間距離(右)	-	-	-	-	-	-	-	-
	(左)	-	-	-	-	-	-	-	-
3.	最大上端幅(右)	-	-	-	-	-	-	-	-
	(左)	-	-	-	-	-	-	-	-
3a.	上内關節面幅(右)	-	-	-	-	-	-	-	-
	(左)	-	-	-	-	-	-	-	-
3b.	上外關節面幅(右)	-	-	-	-	-	-	-	-
	(左)	-	-	-	-	-	-	-	-
4a.	上内關節面深(右)	-	-	-	-	-	-	-	-
	(左)	-	-	-	-	-	-	-	-
4b.	上外關節面深(右)	-	-	-	-	-	-	-	-
	(左)	-	-	-	-	-	-	-	-
6.	最大下端幅(右)	-	-	-	-	-	-	-	-
	(左)	-	-	-	-	-	-	-	-
7.	下端矢狀徑(右)	48	-	-	1	48	-	-	-
	(左)	35	-	-	1	35	-	-	-
8.	中央最大徑(右)	29	27	25	3	27.00	25	- 29	-
	(左)	28	26	-	2	27.00	26	- 28	29
8a.	栄養孔位最大徑(右)	31	-	27	2	29.00	27	- 31	-
	(左)	30	-	-	1	30	-	-	33
9.	中央橫徑(右)	20	18	19	3	19.00	18	- 20	-
	(左)	19	18	-	2	18.50	18	- 19	22
9a.	栄養孔位橫徑(右)	21	-	20	2	20.50	20	- 21	-
	(左)	19	-	-	1	19	-	-	23
10.	骨体周(右)	77	71	69	3	72.33	69	- 77	-
	(左)	75	70	-	2	72.50	70	- 75	82
10a.	栄養孔位周(右)	82	-	75	2	78.50	75	- 82	-
	(左)	82	-	-	1	82	-	-	89
10b.	最小周(右)	70	65	65	3	66.67	65	- 70	-
	(左)	69	-	-	1	69	-	-	-
9/8	中央断面示数(右)	66.97	66.67	76.00	3	70.55	66.67	- 76.00	-
	(左)	67.86	69.23	-	2	68.55	67.86	- 69.23	75.86
9a/8a	栄養孔位断面示数(右)	67.74	-	74.07	2	70.91	67.74	- 74.07	-
	(左)	63.33	-	-	1	63.33	-	-	69.70
10b/1	長厚示数(右)	-	-	-	-	-	-	-	-
	(左)	-	-	-	-	-	-	-	-

表26 腓骨(mm) (Fibula) (山川原古墓群)

		8-1	8-11-1	平均値	
		男性	男性	n	M
1.	最大長(右)	-	-	-	-
	(左)	-	-	-	-
2.	中央最大徑(右)	14	-	1	14
	(左)	13	14	2	13.50
3.	中央最小徑(右)	10	-	1	10
	(左)	10	10	2	10.00
4.	中央周(右)	39	-	1	39
	(左)	38	39	2	38.50
4a.	最小周(右)	-	-	-	-
	(左)	-	37	1	37
4b.	頸橫徑(右)	-	-	-	-
	(左)	-	11	1	11
4c.	頸矢狀徑(右)	-	-	-	-
	(左)	-	12	1	12
4(1).	上端幅(右)	-	-	-	-
	(左)	-	-	-	-
4(1a).	上端矢狀幅(右)	-	-	-	-
	(左)	-	-	-	-
4(2).	下端幅(右)	-	-	-	-
	(左)	-	-	-	-
4(2a).	下端矢狀幅(右)	-	-	-	-
	(左)	-	-	-	-
3/2	中央断面示数(右)	71.43	71.43	2	71.43
	(左)	76.92	-	1	76.92
4a/1	長厚示数(右)	-	-	-	-
	(左)	-	-	-	-

表27 膝蓋骨(mm)(Patella)(山川原古墓群)

	10号墓				10号墓				10号墓				σ	Min.	-	Max.
	8-11-1 1号変膝蓋骨1		平均値		8-12-1 1号変膝蓋骨2		平均値		10-2-1		平均値					
	男性	男性	n	M	女性	女性	n	M	女性	女性	n	M				
1. 最大高(右)	-	38	1	38	-	-	-	-	37	1	37	-	-	-	-	-
(左)	-	39	1	39	37	36	-	33	-	3	35.33	8.26	35	-	37	
2. 最大幅(右)	-	42	1	42	-	-	-	-	40	1	40	-	-	-	-	-
(左)	39	42	2	40.50	41	36	-	35	38	4	37.50	-	35	-	38	
3. 最大厚(右)	15	18	2	16.50	20	-	-	-	18	2	19.00	-	18	-	20	
(左)	17	19	2	18.00	20	17	-	17	17	3	17.75	-	17	-	20	
4. 関節面高(右)	-	30	1	30	-	-	-	-	27	1	27	-	-	-	-	-
(左)	29	30	2	29.50	-	28	-	26	-	2	27.00	-	26	-	28	
5. 内関節面幅(右)	-	19	1	19	-	-	-	-	20	1	20	-	-	-	-	-
(左)	19	19	2	19.00	22	15	-	17	-	3	18.00	-	15	-	17	
6. 外関節面幅(右)	-	27	1	27	-	-	-	-	22	1	22	-	-	-	-	-
(左)	24	28	2	26.00	25	23	-	24	-	3	24.00	-	23	-	24	
1/2 膝蓋骨高幅示数(右)	-	90.48	1	90.48	-	-	-	-	92.50	1	92.50	-	-	-	-	-
(左)	-	90.24	1	90.24	90.24	100.00	-	94.29	-	3	94.84	-	90.24	-	100.00	

表28 推定身長値(cm)(Stature)(山川原古墓群)

	8-1	
	男性	平均値
Pearsonの式 上腕骨(右)	(156.88)	-
(左)	-	-
橈骨(右)	161.16	-
(左)	-	-
大腿骨(右)	-	-
(左)	-	-
脛骨(右)	-	-
(左)	-	-
藤井の式 上腕骨(右)	(156.38)	-
(左)	-	-
橈骨(右)	158.59	-
(左)	-	-
大腿骨(右)	-	-
(左)	-	-
脛骨(右)	-	-
(左)	158.02	-

表29 中央周の比(山川原古墓群)

	8-1			8-9-1		8-11-1		平均値		8-12-1	
	男性	男性	男性	n	M	女性	女性	女性	女性		
橈骨/尺骨(右)	100.00	-	88.64	2	94.32	91.30	-	-	-	-	
(左)	-	90.90	-	1	90.90	-	90.00	-	-	-	
橈骨/上腕骨(右)	88.75	-	-	1	88.75	72.41	-	-	-	-	
(左)	-	69.64	-	1	69.64	-	-	-	-	-	
鎖骨/上腕骨(右)	-	-	-	-	-	62.07	-	-	-	-	
(左)	-	60.71	-	1	60.71	-	-	-	-	-	
上腕骨/大腿骨(右)	77.11	-	-	1	77.11	69.05	-	-	-	-	
(左)	75.00	72.73	-	2	73.87	-	-	-	-	-	
上腕骨/脛骨(右)	83.12	-	-	1	83.12	-	-	-	-	-	
(左)	84.00	80.00	-	2	82.00	-	-	-	-	-	
脛骨/大腿骨(右)	92.77	92.21	-	2	92.49	-	-	-	-	-	
(左)	89.29	90.91	-	2	90.10	94.25	-	-	-	-	
腓骨/脛骨(右)	50.65	-	-	1	50.65	-	-	-	-	-	
(左)	50.67	-	-	1	50.67	-	-	-	-	-	

表30 形態小変異(Non-metric crania variants)(山川原古墓群)

	8-1		8-7-1		8-9-1		8-11-1		19-4-1		8-12-1		19-1		19-2-1	
	男性		男性		男性		男性		男性		女性		女性		女性	
	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左
1. Medial palatine canal	-	-	/	/	/	/	/	/	/	/	-	/	/	/	/	/
2. Pterygospinous foramen	-	-	/	/	/	/	/	/	/	/	-	/	/	/	/	/
3. Hypoglossal canal bridging	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	-	/	/	/	/	/
4. Clinoid bridging	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
5. Condylar canal absent	-	-	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
6. Tympanic dehiscence(>1mm)	-	-	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
7. Jugular foramen bridging	-	-	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
8. Precondylar tubercle	-	-	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
9. Supra-orbital foramen	+	+	/	/	/	/	/	/	/	+	+	/	/	/	/	/
10. Accessory infraorbital foramen	+	+	/	/	/	/	/	/	/	+	-	/	/	/	/	/
11. Zygo-facial foramen absent	-	-	/	/	/	/	/	/	/	-	-	/	/	/	/	/
12. Aural exostosis	-	-	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
13. Metopium	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
14. Os incae	/	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
15. Ossicle at the lambda	+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
16. Parietal notch bone	-	-	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
17. Transverse zygomatic suture(>5mm)	+	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
18. Asterionic ossicle	+	-	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
19. Occipitomastoid ossicle	-	-	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
20. Epipteric ossicle	-	-	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
21. Frontotemporal articulation	-	-	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
22. Biasterionic suture(>10mm)	-	-	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
23. Mylohyoid bridging	+	-	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
24. Accessory mental foramen	-	-	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
25. Mandibular torus	-	-	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
26. 溝車上孔	-	-	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/

[present: +, absent: -, unobservale: /]

表31 鎖骨(mm)(Clavicula)(山川原古墓群)

	8-3-2	8-3-3	8-13-1	17-1
	2歳	4~5歳	7歳	12歳
1. 最大長(右)	-	-	-	-
(左)	66	85	-	-
2. 中央垂直径(右)	-	-	5	6
(左)	4	6	-	-
3. 中央矢状径(右)	-	-	7	8
(左)	6	7	-	-
4. 中央周(右)	-	-	19	24
(左)	17	21	-	-
4/1 長厚示数(右)	-	-	-	-
(左)	25.76	21.71	-	-
2/3 鎖骨断面示数(右)	-	-	71.43	75.00
(左)	66.67	85.71	-	-

表32 上腕骨(mm)(Humerus)(山川原古墓群)

	8-3-2	8-13-1	21-1	17-1
	2歳	7歳	3~8ヶ月	12歳
1. 骨体最大長(右)	(103)	172	-	-
(左)	-	-	-	-
2. 骨体中央最大径(右)	11	13	-	13
(左)	-	12	7	13
3. 骨体中央最小径(右)	9	10	-	10
(左)	-	10	6	10
4. 骨体中央周(右)	31	39	-	39
(左)	-	37	23	39
5. 骨体上端径(右)	-	25	-	-
(左)	-	-	-	-
6. 骨体下端径(右)	-	-	19	-
(左)	-	-	-	-
7. 骨体最小周(右)	-	36	-	36
(左)	-	36	22	37
3/2 骨体中央断面示数(右)	81.82	76.92	-	76.92
(左)	-	83.33	85.71	76.92
7/1 長厚示数(右)	-	22.09	-	-
(左)	-	-	-	-

表33 橈骨(mm)(Radius)(山川原古墓群)

	8-3-2		8-13-1		17-1	
	2歳		7歳		12歳	
1. 骨体最大長(右)	-	-	-	-	-	161
(左)	-	-	-	-	-	-
2. 骨体中央横径(右)	-	7	9	9	9	-
(左)	-	-	9	9	9	-
3. 骨体中央矢状径(右)	6	8	7	7	8	-
(左)	-	7	8	8	-	-
4. 骨体中央周(右)	22	27	27	27	27	-
(左)	-	26	27	27	-	-
5. 骨体最小周(右)	-	-	-	27	27	-
(左)	-	-	-	27	-	-
6. 骨体横径(右)	-	-	-	9	9	-
(左)	-	-	-	9	-	-
7. 骨体矢状径(右)	-	-	-	7	7	-
(左)	-	-	-	8	-	-
8. 頸横径(右)	-	-	-	9	9	-
(左)	-	-	-	-	-	-
9. 頸矢状径(右)	-	-	-	11	11	-
(左)	-	-	-	-	-	-
10. 頸周(右)	-	-	-	-	-	-
(左)	-	-	-	-	-	-
11. 骨上端幅(右)	-	-	-	-	13	-
(左)	-	-	-	-	-	-
12. 骨下端幅(右)	-	-	-	-	-	-
(左)	-	-	-	-	-	-
5/1 長厚示数(右)	-	-	-	-	-	-
(左)	-	-	-	-	-	-
7/6 骨体断面示数(右)	-	-	-	-	77.78	-
(左)	-	-	-	-	88.89	-
3/2 骨体中央断面示数(右)	85.71	88.89	77.78	77.78	77.78	-
(左)	-	77.78	88.89	88.89	-	-

表34 尺骨(mm)(Ulna)(山川原古墓群)

	8-3-2		8-13-1		17-1	
	2歳		7歳		12歳	
1. 骨体最大長(右)	-	-	-	-	-	178
(左)	-	-	-	-	-	-
2. 骨体中央最小径(右)	6	8	8	8	8	-
(左)	6	7	7	7	-	-
3. 骨体中央最大径(右)	7	9	11	11	11	-
(左)	7	9	10	10	-	-
4. 骨体中央周(右)	21	27	32	32	32	-
(左)	22	27	28	28	-	-
5. 最小周(右)	-	20	24	24	-	-
(左)	-	20	-	-	-	-
6. 骨体矢状径(右)	-	-	8	8	-	-
(左)	-	-	7	7	-	-
7. 骨体横径(右)	-	-	11	11	-	-
(左)	-	-	10	10	-	-
8. 上端幅(右)	-	-	14	14	-	-
(左)	-	-	-	-	-	-
9. 下端幅(右)	-	-	11	11	-	-
(左)	-	-	-	-	-	-
5/1 長厚示数(右)	-	-	-	-	-	-
(左)	-	-	-	-	-	-
8/7 骨体断面示数(右)	-	-	-	72.73	72.73	-
(左)	-	-	-	70.00	70.00	-
3/2 骨体中央断面示数(右)	85.71	88.89	77.78	77.78	77.78	-
(左)	85.71	77.78	70.00	70.00	-	-

表35 大指骨(mm)(Femur)(山川原古墓群)

	8-3-2		8-13-1		17-1	
	2歳		7歳		12歳	
1. 骨体最大長(右)	138	-	-	-	-	-
(左)	137	-	-	-	-	-
2. 骨体中央横径(右)	12	-	-	18	18	-
(左)	12	-	-	17	17	-
3. 骨体中央矢状径(右)	10	-	-	15	15	-
(左)	10	-	-	15	15	-
4. 骨体中央周(右)	37	-	-	53	53	-
(左)	37	-	-	53	53	-
5. 骨体上横径(右)	13	-	-	21	21	-
(左)	14	19	-	20	20	-
6. 骨体上矢状径(右)	12	-	-	15	15	-
(左)	12	15	-	14	14	-
7. 上端幅(右)	34	46	-	61	61	-
(左)	29	-	-	-	-	-
8. 下端幅(右)	31	42	-	-	-	-
(左)	31	-	-	-	-	-
9. 頸垂直径(右)	-	-	-	-	23	-
(左)	-	-	-	-	-	-
10. 頸矢状径(右)	-	-	-	-	18	-
(左)	-	-	-	-	-	-
11. 頸周(右)	-	-	-	-	68	-
(左)	-	-	-	-	-	-
4/1 長厚示数(右)	26.81	-	-	-	-	-
(左)	27.01	-	-	-	-	-
3/2 骨体中央断面示数(右)	83.33	-	-	-	83.33	-
(左)	83.33	-	-	-	88.24	-
6/5 上骨体断面示数(右)	92.31	-	-	-	71.43	-
(左)	85.71	78.95	70.00	70.00	-	-

表36 脛骨(mm)(Tibia)(山川原古墓群)

	8-3-2		8-13-1		17-1	
	2歳		7歳		12歳	
1. 骨体最大長(右)	-	-	184	231	-	-
(左)	-	-	-	-	-	-
2. 骨体中央横径(右)	-	13	15	15	-	-
(左)	11	-	15	15	-	-
3. 骨体中央最大径(右)	-	16	18	18	-	-
(左)	11	-	19	19	-	-
4. 骨体周(右)	-	47	52	52	-	-
(左)	35	-	54	54	-	-
5. 上端幅(右)	-	-	46	46	-	-
(左)	24	-	-	-	-	-
6. 下端幅(右)	-	21	29	29	-	-
(左)	-	-	-	-	-	-
7. 骨体最小周(右)	-	44	50	50	-	-
(左)	-	-	52	52	-	-
8. 栄養孔位最大径(右)	-	-	20	20	-	-
(左)	-	-	21	21	-	-
9. 栄養孔位横径(右)	-	-	16	16	-	-
(左)	-	-	18	18	-	-
10. 栄養孔位周(右)	-	-	57	57	-	-
(左)	-	-	62	62	-	-
7/1 長厚示数(右)	-	23.91	-	-	-	-
(左)	-	-	-	-	-	-
3/2 骨体中央断面示数(右)	-	-	81.25	83.33	-	-
(左)	100.00	-	78.95	78.95	-	-
9/8 栄養孔位断面示数(右)	-	-	-	80.00	-	-
(左)	-	-	-	85.71	-	-

表37 腓骨(mm)(Fibula)(山川原古墓群)

		8-3-2		8-13-1		17-1	
		2歳		7歳		12歳	
1.	骨体最大長(右)	-	-	-	-	-	-
	(左)	-	185	-	-	-	-
2.	骨体中央最大径(右)	5	-	10	-	-	-
	(左)	-	9	-	-	-	-
3.	骨体中央最小径(右)	4	-	7	-	-	-
	(左)	-	7	-	-	-	-
4.	骨体中央周(右)	16	-	29	-	-	-
	(左)	-	28	-	-	-	-
5.	骨体最小周(右)	-	-	-	-	-	-
	(左)	-	20	-	-	-	-
5/1	長厚示数(右)	-	-	-	-	-	-
	(左)	-	10.81	-	-	-	-
3/2	骨体中央断面示数(右)	80.00	-	70.00	-	-	-
	(左)	-	77.78	-	-	-	-

表38 膝蓋骨(mm)(Patella)(山川原古墓群)

		17-1	
		12歳	
1.	最大高(右)	33	-
	(左)	34	-
2.	最大幅(右)	30	-
	(左)	31	-
3.	最大厚(右)	13	-
	(左)	14	-
4.	関節面高(右)	25	-
	(左)	24	-
5.	内関節面幅(右)	16	-
	(左)	19	-
6.	外関節面幅(右)	18	-
	(左)	15	-
1/2	膝蓋骨高幅示数(右)	110.00	-
	(左)	109.68	-

表39 最大長の比(山川原古墓群)

		8-13-1	
		7歳	
	橈骨/大腿骨(右)	-	-
	(左)	-	-
	橈骨/脛骨(右)	-	-
	(左)	-	-
	上腕骨/大腿骨(右)	(74.84)	-
	(左)	-	-
	上腕骨/脛骨(右)	-	-
	(左)	-	-
	脛骨/大腿骨(右)	-	-
	(左)	-	-
	腓骨/脛骨(右)	-	-
	(左)	-	-
	鎖骨/上腕骨(右)	-	-
	(左)	-	-
	上肢骨/下肢骨(右)	-	-
	(左)	-	-

表40 中央周の比(山川原古墓群)

		8-3-2		8-13-1		17-1	
		2歳		7歳		12歳	
	橈骨/尺骨(右)	104.76	100.00	84.38	-	-	-
	(左)	-	96.30	96.43	-	-	-
	橈骨/上腕骨(右)	-	69.23	69.23	-	-	-
	(左)	70.97	70.27	69.23	-	-	-
	鎖骨/上腕骨(右)	-	48.72	61.54	-	-	-
	(左)	-	-	-	-	-	-
	上腕骨/大腿骨(右)	83.78	-	73.58	-	-	-
	(左)	-	-	-	-	-	-
	上腕骨/脛骨(右)	-	82.98	75.00	-	-	-
	(左)	-	-	72.22	-	-	-
	脛骨/大腿骨(右)	-	-	98.11	-	-	-
	(左)	94.59	-	-	-	-	-
	腓骨/脛骨(右)	-	-	55.77	-	-	-
	(左)	-	-	-	-	-	-

表41 形態小変異(Non-metric crania variants)(山川原古墓群)

		8-3-2				17-1	
		2歳		7歳		12歳	
		右	左	右	左	右	左
1.	Medial palatine canal	/	/	/	/	-	-
2.	Pterygospinous foramen	/	/	/	/	/	/
3.	Hypoglossal canal bridging	/	/	/	/	/	/
4.	Clinoid bridging	/	/	/	/	/	/
5.	Condylar canal absent	/	/	/	/	-	-
6.	Tympanic dehiscence(>1mm)	/	/	/	/	+	+
7.	Jugular foramen bridging	/	/	/	/	/	/
8.	Precondylar tubercle	/	/	/	/	/	/
9.	Supra-orbital foramen	/	/	/	/	-	-
10.	Accessory infraorbital foramen	/	/	/	/	/	-
11.	Zygo-facial foramen absent	/	/	/	/	-	-
12.	Aural exostosis	/	/	/	/	-	-
13.	Metopism	/	/	/	/	-	-
14.	Os inciae	/	/	/	/	-	-
15.	Ossicle at the lambda	/	/	/	/	-	-
16.	Parietal notch bone	/	/	/	/	-	-
17.	Transverse zygomatic suture(>5mm)	/	/	/	/	-	-
18.	Asterionic ossicle	/	/	/	/	-	-
19.	Occipitomastoid ossicle	/	/	/	/	-	-
20.	Epipteric ossicle	/	/	/	/	-	-
21.	Frontotemporal articulation	/	/	/	/	-	-
22.	Biasterionic suture(>10mm)	/	/	/	/	-	-
23.	Mylohyoid bridging	/	/	/	/	-	-
24.	Accessory mental foramen	/	/	/	/	-	-
25.	Mandibular torus	/	/	/	/	-	-
26.	滑車上孔	-	+	-	-	-	-

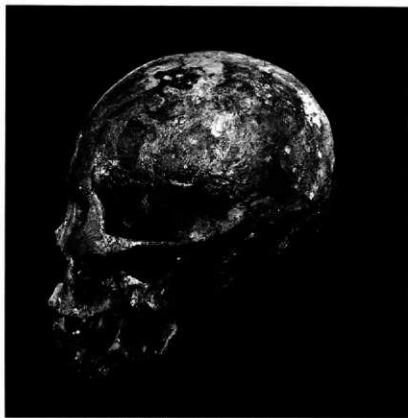
[present: +, absent: -, unobservale: /]



頭蓋上面 (Superior view of the skull)



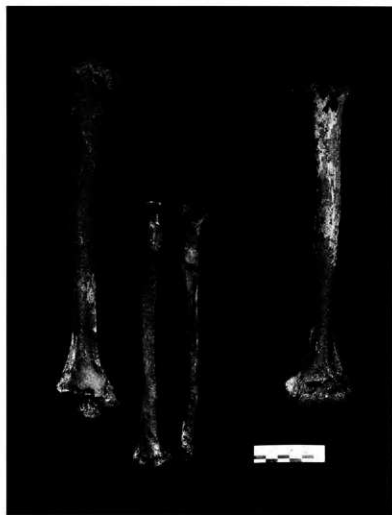
頭蓋正面 (Frontal view of the skull)



頭蓋側面 (Lateral view of the skull)
山川原 8-1 人骨(男性・熟年)
(The Yamakawabaru 8-1, mature male)

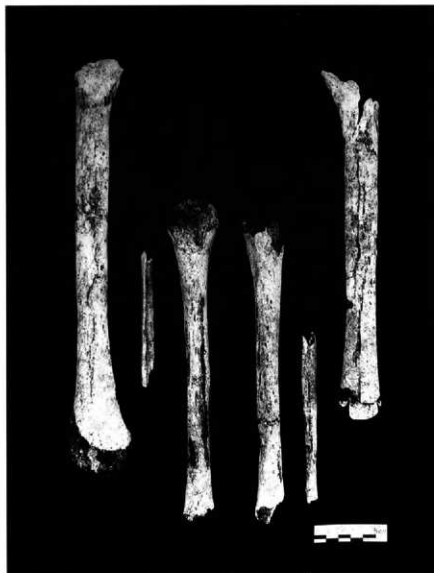


下肢骨 (Bones of the lower limb)



上肢骨 (Bones of the upper limb)

山川原 8-1 人骨 (男性・熟年)
(The Yamakawabaru 8-1, mature male)



下肢骨 (Bones of the lower limb)



上肢骨 (Bones of the upper limb)

山川原 8—9—1 人骨 (男性・壮年)
(The Yamakawabaru 8-9-1, young adult male)



下肢骨 (Bones of the lower limb)



上肢骨 (Bones of the upper limb)

山川原 8—12—1 人骨 (女性・壮年)
(The Yamakawabaru 8-12-1, young adult female)

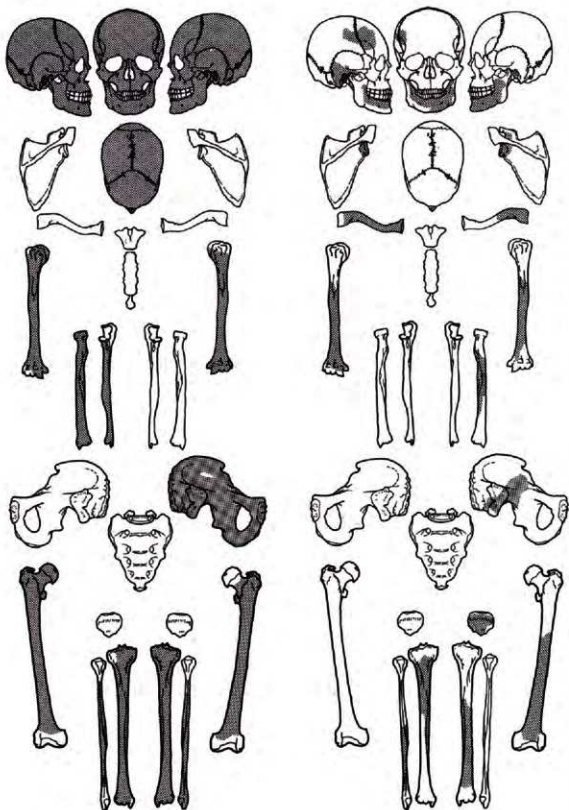


下肢骨 (Bones of the lower limb)



上肢骨 (Bones of the upper limb)

山川原 17—1 人骨 (小児)
(The Yamakawabaru 17-1, child)

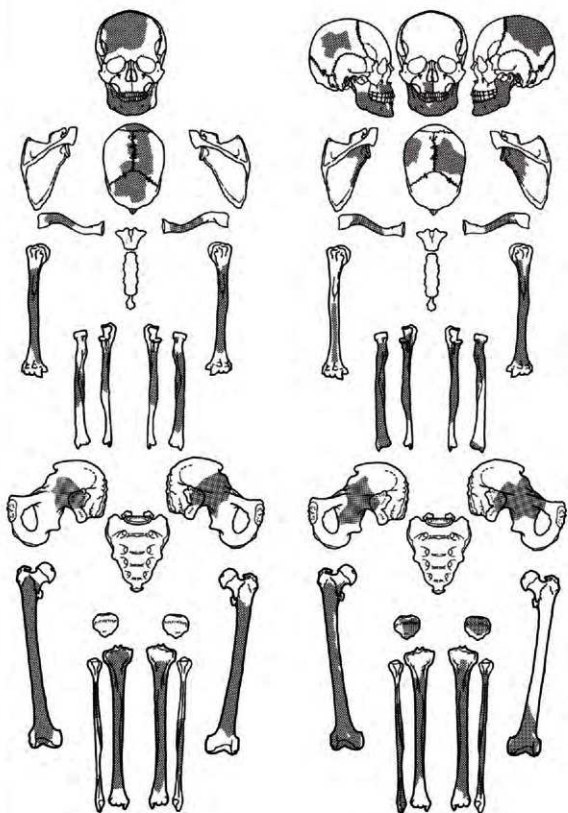


8-1 人骨 (男性・熟年)

8-8 人骨 (男性)

図 2-1. 人骨の残存部、アミかけ部分

(Fig. 2. Regions of preservation of the skeleton. Shaded areas are preserved.)

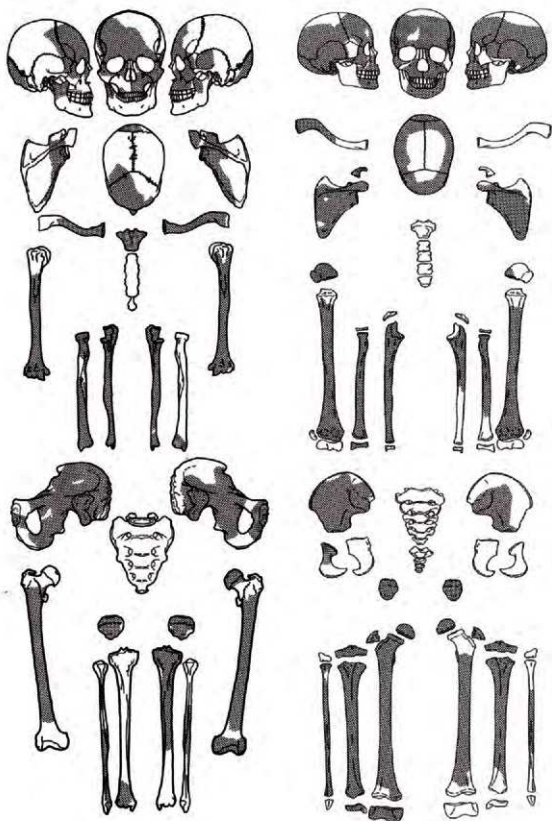


8-9人骨 (男性・壮年)

8-11人骨 (男性・壮年)

図2-2. 人骨の残存部、アミかけ部分

(Fig. 2. Regions of preservation of the skeleton. Shaded areas are preserved.)



8-12人骨 (女性・壮年)

17-1人骨 (12歳)

図2-3. 人骨の残存部、アミかけ部分

(Fig. 2. Regions of preservation of the skelton. Shaded areas are preserved.)

20232

北谷町文化財調査報告書 第20集

山川原古墓群(2)

—環状土坑墓の倉庫建設に係る文化財発掘調査報告書—

編集 北谷町教育委員会
発行

2001年(平成13年)3月
北谷町字桑江226番地
電話(098)936-1234

印刷 南風原印刷
製本

(有)サン印刷
南風原町字兼城577
電話(098)889-3679(代)
